

文京区男女平等参画に関する区民調査結果について

1 調査の概要

男女平等参画に関する区民の意識や実態を総合的に把握し、今後行う「文京区男女平等参画推進計画」の見直しや、区の男女平等参画施策の推進に向けた基礎資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査地域：文京区全域
- (2) 調査対象：満18歳以上の区内在住者3,000人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法：【配布】郵送 【回収】郵送又は回答用ウェブサイト
- (5) 調査期間：令和7年9月5日（金）～9月25日（木）

3 調査内容

- (1) 家庭生活について
- (2) 保育・教育について
- (3) 男女平等への関心と意識について
- (4) 就労・職場について
- (5) 女性の活躍について
- (6) 家庭生活と社会生活の両立について
- (7) 地域活動、社会活動への参画について
- (8) 政策決定過程への女性の参画について
- (9) 健康について
- (10) 人権問題について
- (11) 性の多様性について
- (12) 暴力の防止について
- (13) 生活の困りごとや悩みごとの相談窓口やサービスについて
- (14) 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて
- (15) 回答者自身について

4 回収結果

配布数（票）	有効回収数（票）	回収率（％）
(A)	(B)	(B/A)
3,000	886	29.5

5 調査結果の概要

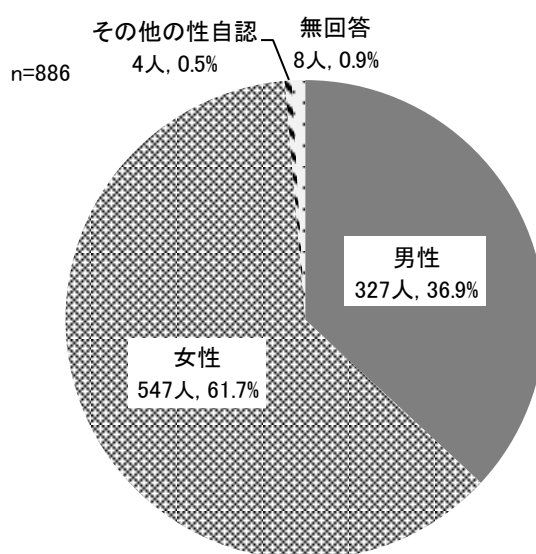
別紙のとおり

文京区男女平等参画に関する区民調査 調査結果の概要

I. 回答者の属性

1. 性別

図 I - 1 性別



2. 年齢・職業

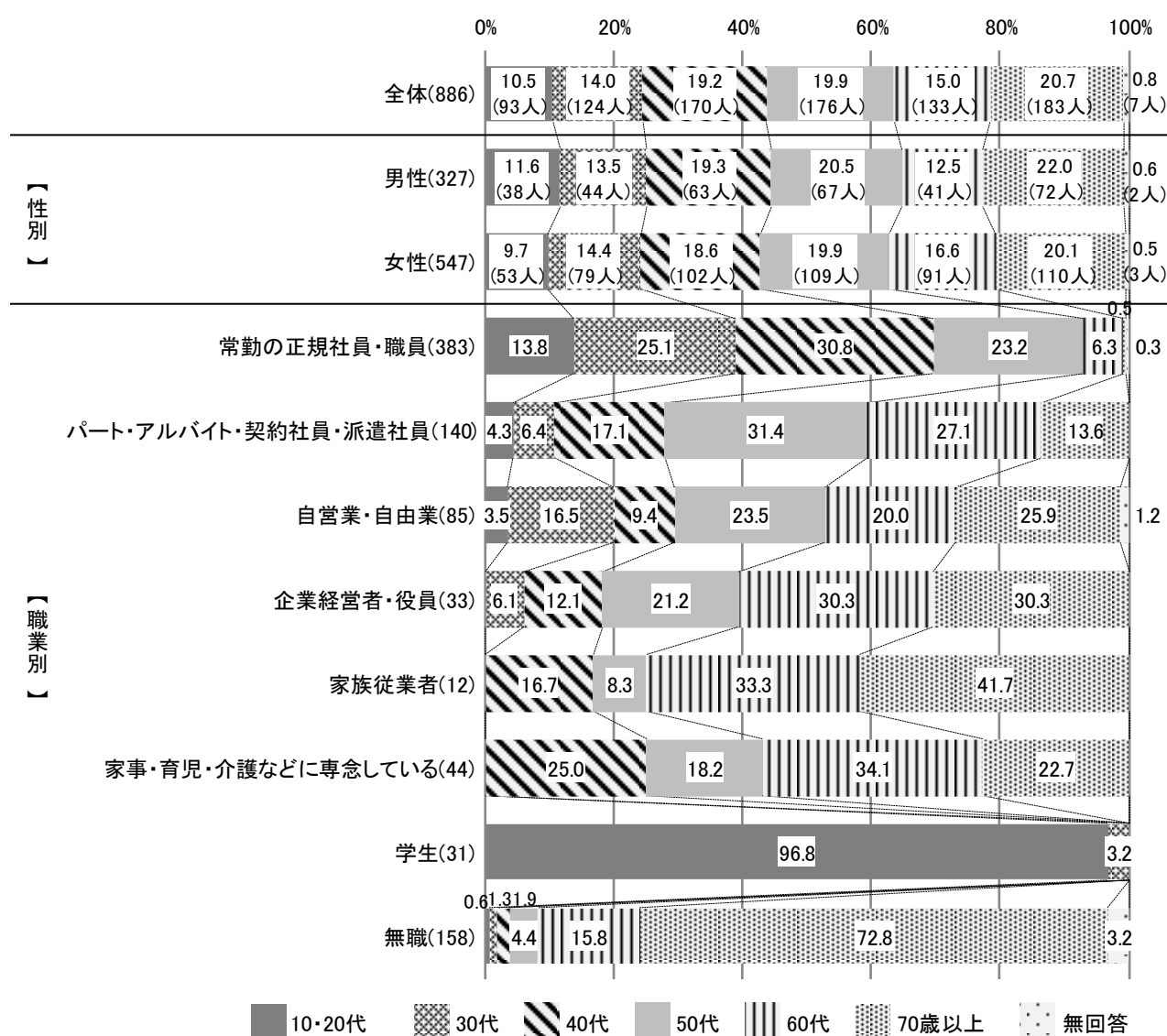
全体でみると、70歳以上が20.7%と最も多く、次いで50代が19.9%となっている。

職業別では、常勤の正規社員・職員は、40代(30.8%)及び30代(25.1%)が多く、パート・アルバイト・契約社員・派遣社員は、50代(31.4%)及び60代(27.1%)が多くなっている。また、自営業・自由業は70歳以上(25.9%)が、企業経営者・役員は60代(30.3%)と70歳以上(30.3%)が多い。

家事・育児・介護などに専念している人は、60代が34.1%で最も多く、次いで40代(25.0%)となっており、40歳未満の回答者はいなかった。

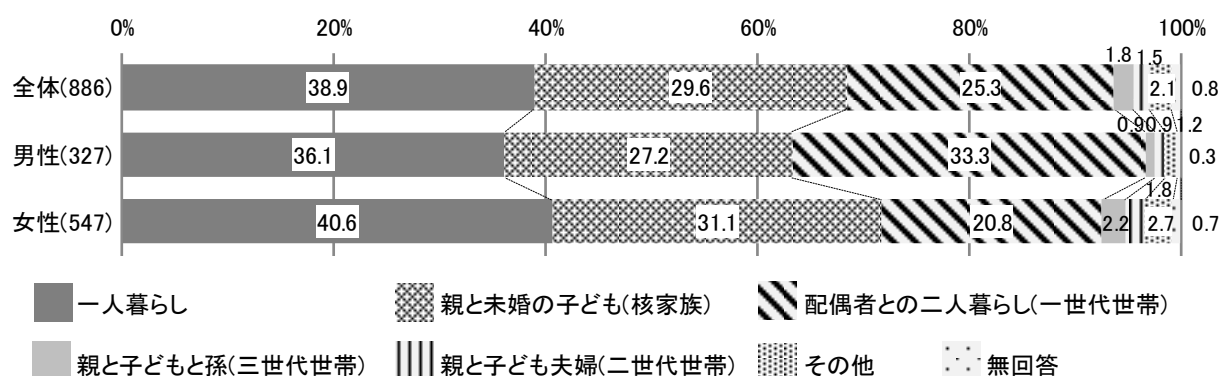
無職は70歳以上が7割(72.8%)を占める。

図 I - 2 年齢（性別、職業別）



3. 世帯構成

図 I - 3 世帯構成（性別）



4. 婚姻状況（事実婚を含む）、共働きの状況

図 I - 4 婚姻状況（事実婚を含む）（性別）

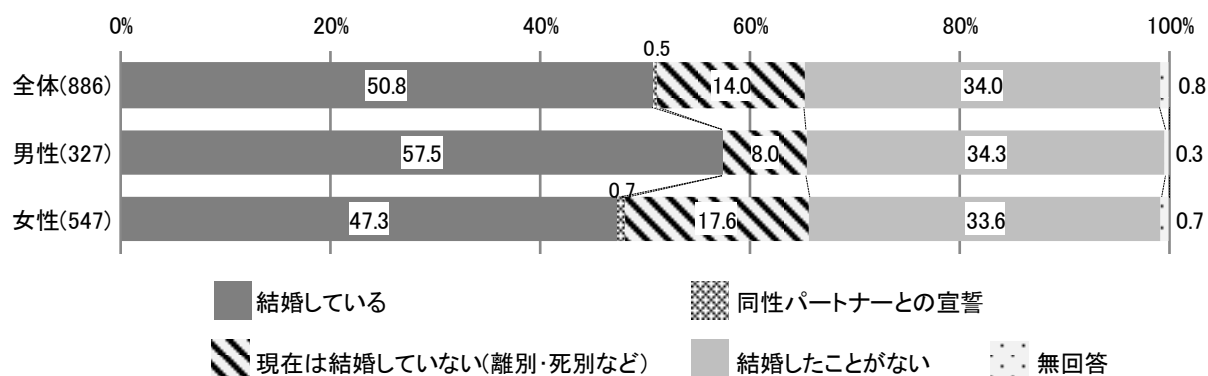
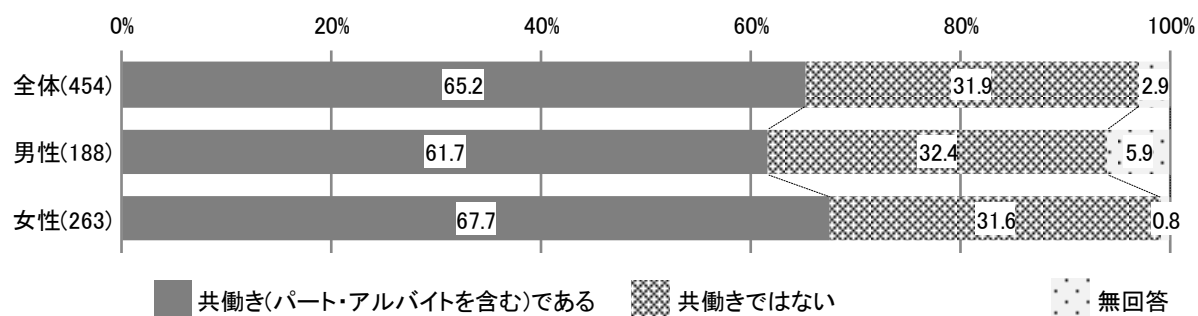


図 I - 5 共働きの状況（性別）



5. 子育ての有無、子の状況

図 I - 6 子育ての有無（性別）

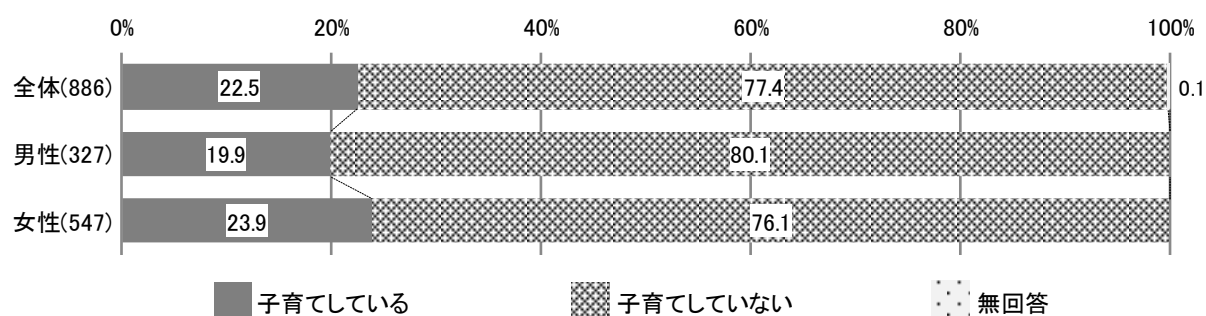
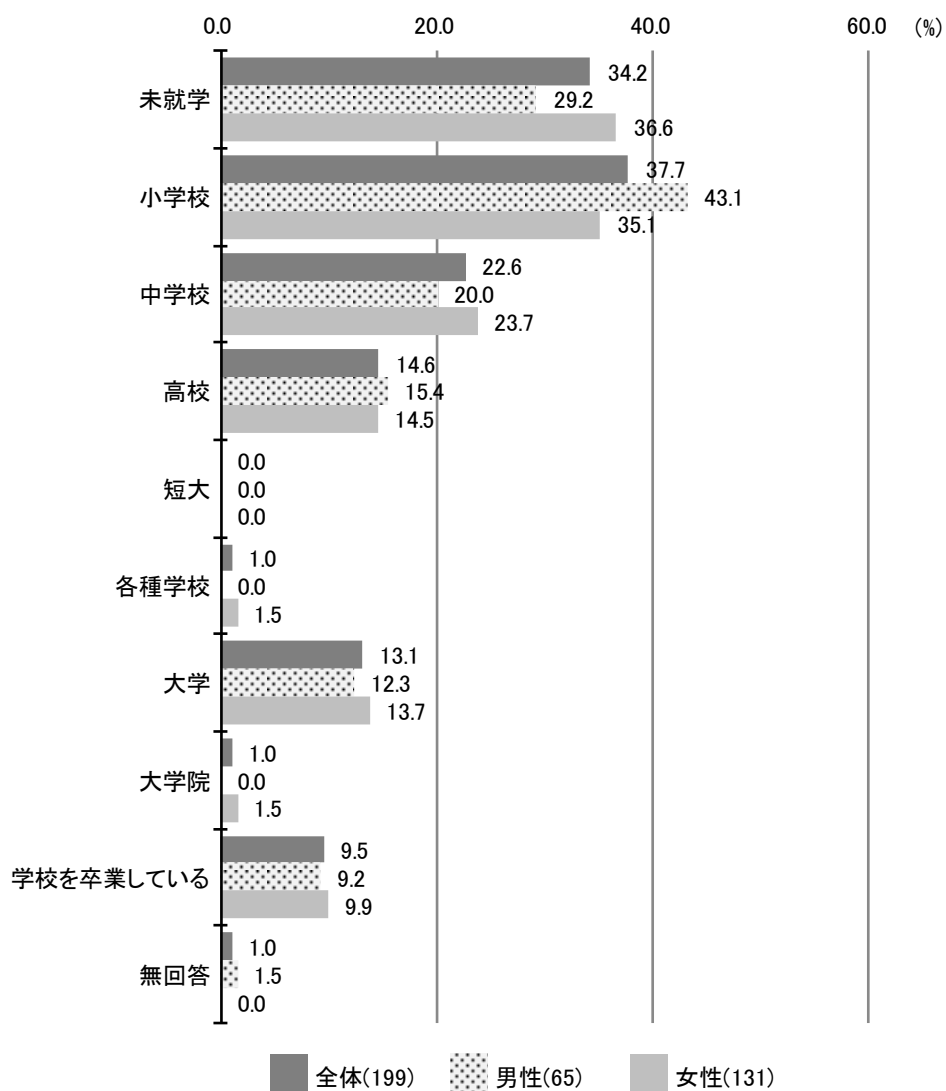


図 I - 7 子の状況（性別）



6. 介護の有無、介護が行われている場所

図 I - 8 介護の有無（性別）

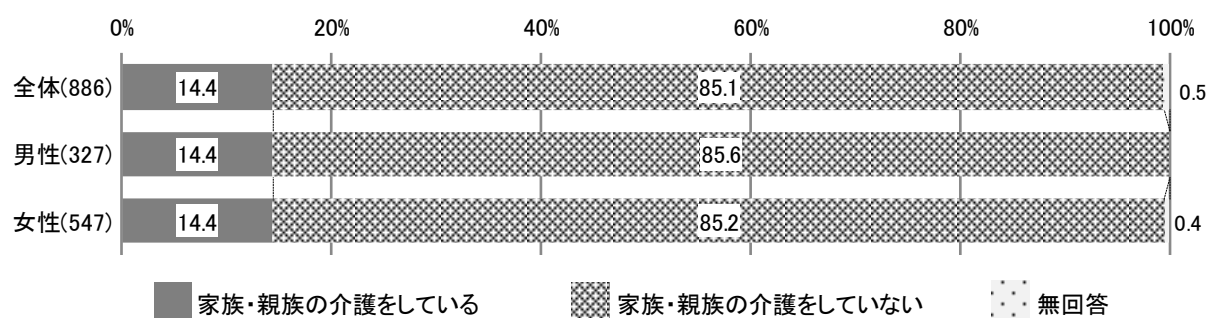
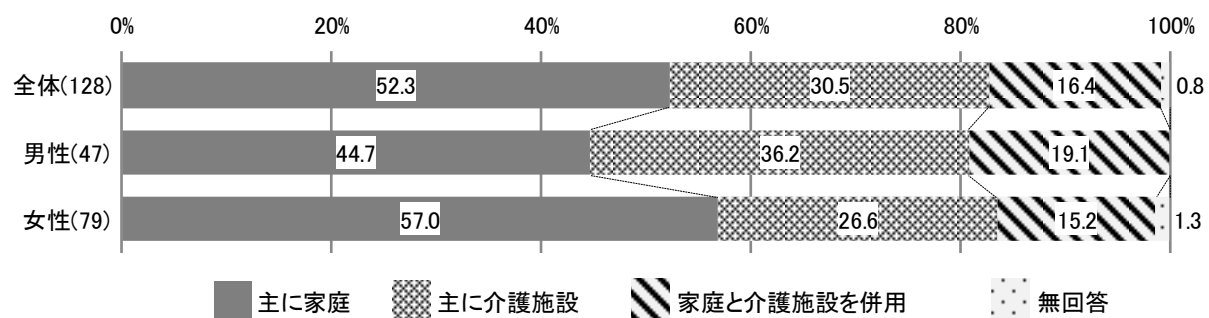
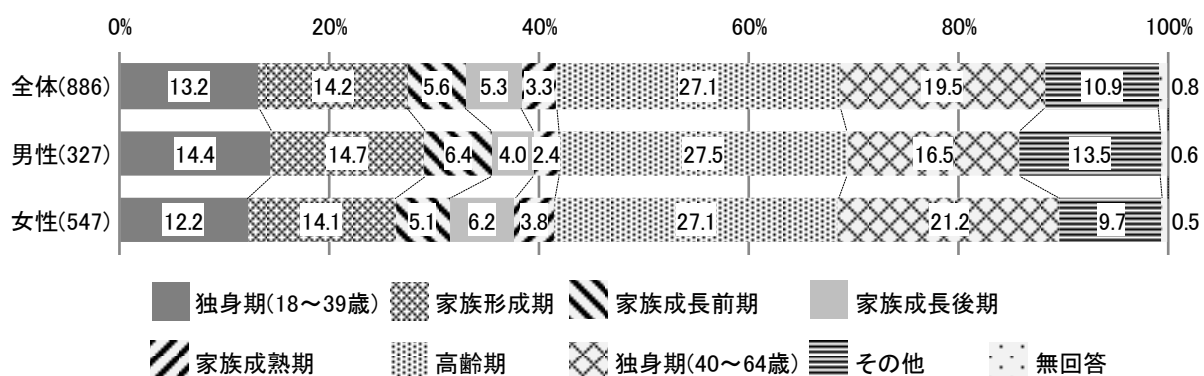


図 I - 9 介護が行われている場所（性別）



7. ライスステージ区分

図 I -10 ライスステージ区分（性別）



【ライフステージ区分】

独身期(18～39 歳)	18～39 歳で単身者
家族形成期	18～39 歳で配偶者がいて子どもがいない または、18～64 歳で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	18～64 歳で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	18～64 歳で一番下の子どもが中学生・高校生
家族成熟期	18～64 歳で一番下の子どもが高校を卒業している
高齢期	65 歳以上
独身期(40～64 歳)	40～64 歳で単身者
その他	40～64 歳で配偶者がいて子育て中でない

Ⅱ. 家庭生活について

問1 家庭における役割分担

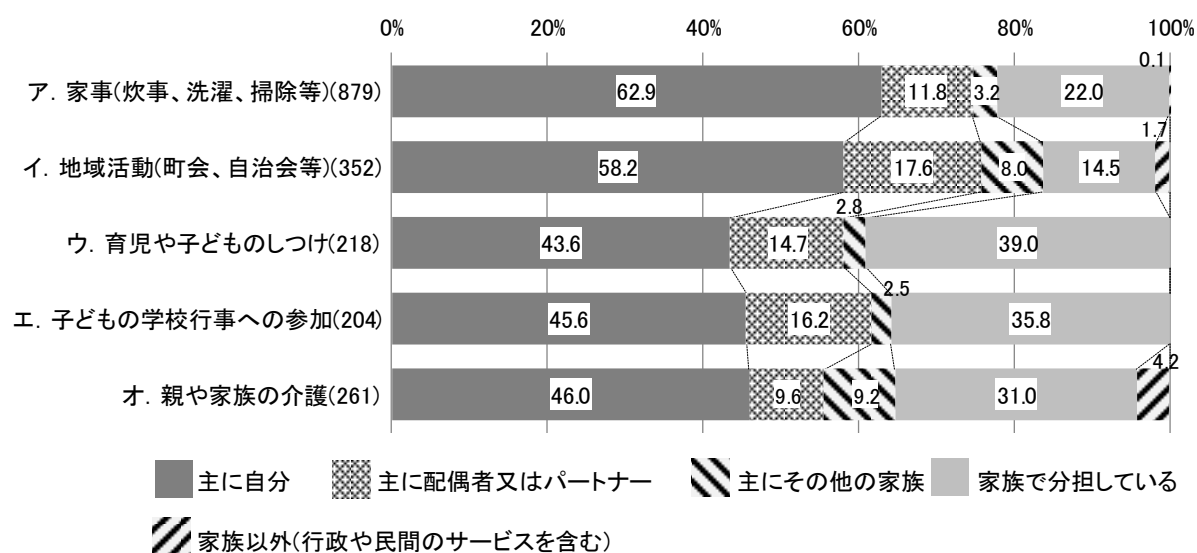
現在、あなたの家庭では次のことがらを主にどなたが行っていますか。ア～オのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

○ 全体の傾向

家事(炊事、洗濯、掃除等)及び地域活動(町会、自治会等)は、「主に自分」が行っていると回答した人が6割となっている。

育児や子どものしつけ、子どもの学校行事への参加、親や家族の介護は、「主に自分」が行っていると回答した人は半数弱の45%前後となっており、また、3～4割の人が「家族で分担している」と回答している。

図Ⅱ－1 家庭における役割分担（「行っていない」及び無回答を除く）

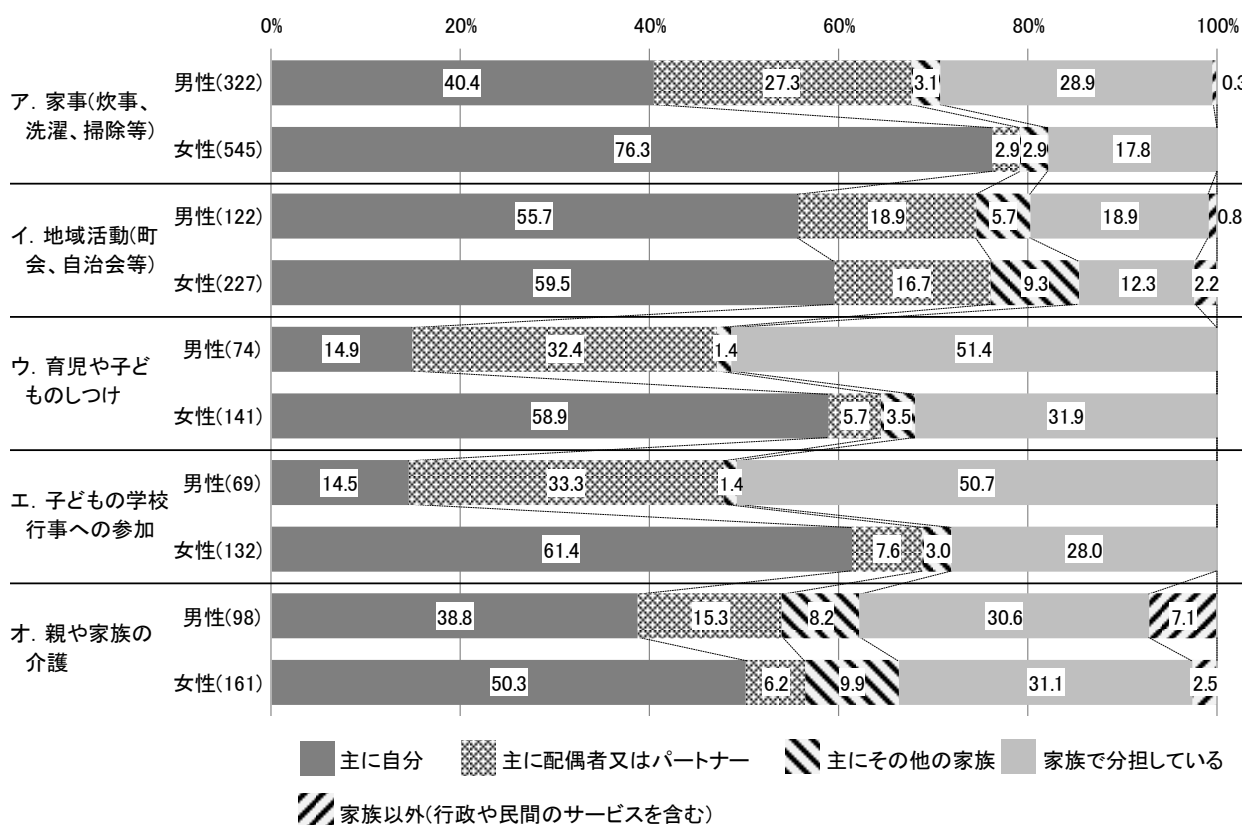


○ 性別の傾向

家事(炊事、洗濯、掃除等)を「主に自分」が行っていると回答した割合は、男性が40.4%と4割であるのに対し、女性は76.3%と7割を超えており、また、「主に配偶者又はパートナー」が行っているという人は男性では27.3%となっているが、女性では2.9%にとどまる。

そのほか、育児や子どものしつけ、子どもの学校行事への参加についても「主に自分」と回答した人は女性では6割となっており、男性を40ポイント以上上回っている。一方、男性では「家族で分担している」が半数となっており、女性を20ポイント程度上回っている。

図Ⅱ－２ 家庭における役割分担（性別、「行っていない」及び無回答を除く）



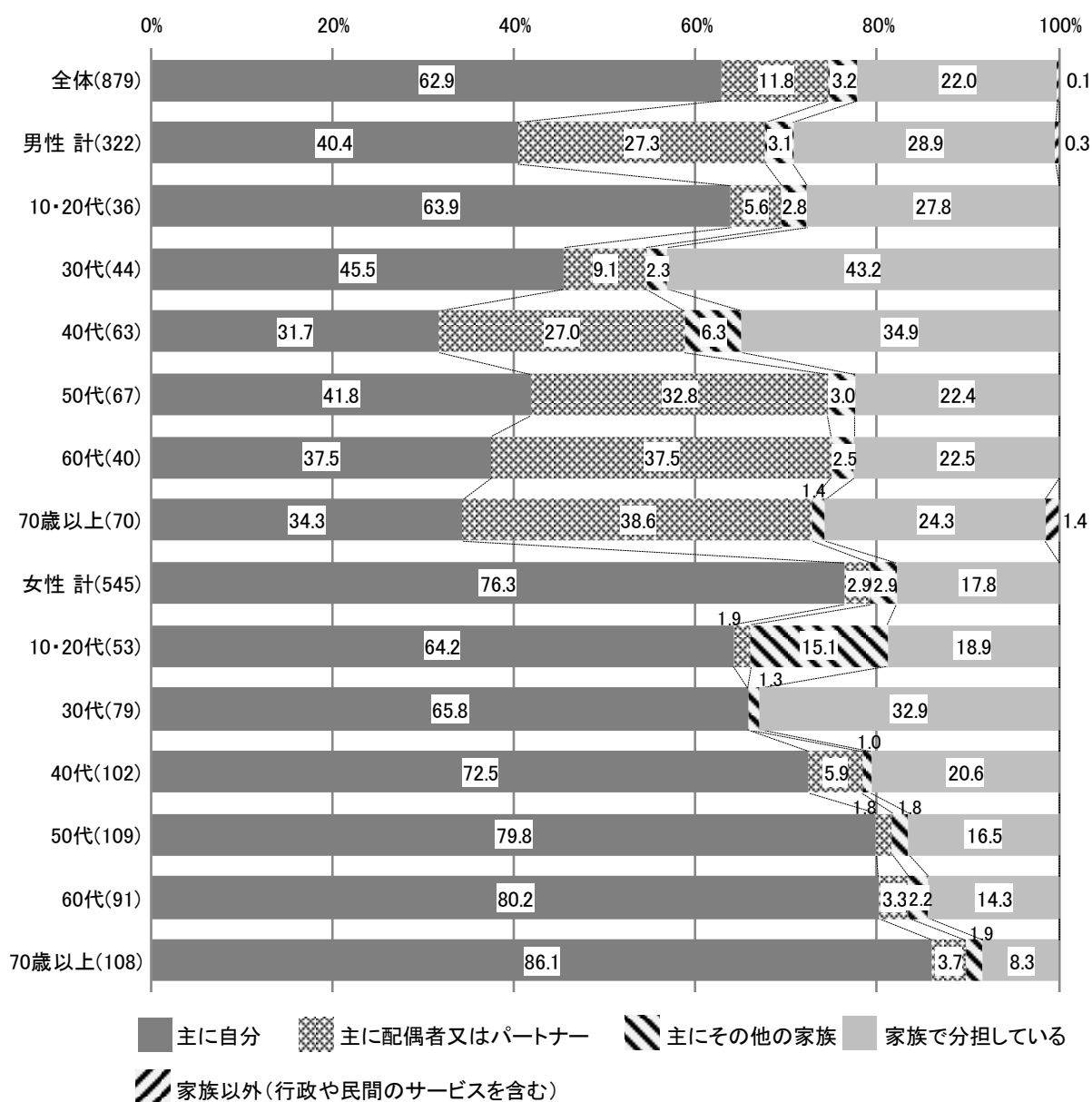
ア. 家事（炊事、洗濯、掃除等）

○ 性・年齢別の傾向

「主に自分」と回答した人の割合は、10・20代では男女共に約64%であるが、男性では年齢が上がるにつれ割合が低くなっている。一方、女性では、年齢が上がるにつれて高くなっており、50～60代で8割、70歳以上で86.1%を占めている。

また、男性では、「主に配偶者又はパートナー」の割合が、年齢が上がるにつれて増加しており、50歳以上で3割を上回り、70歳以上では38.6%となっている。

図Ⅱ－3 家庭における役割分担『家事（炊事、洗濯、掃除等）』（性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く）

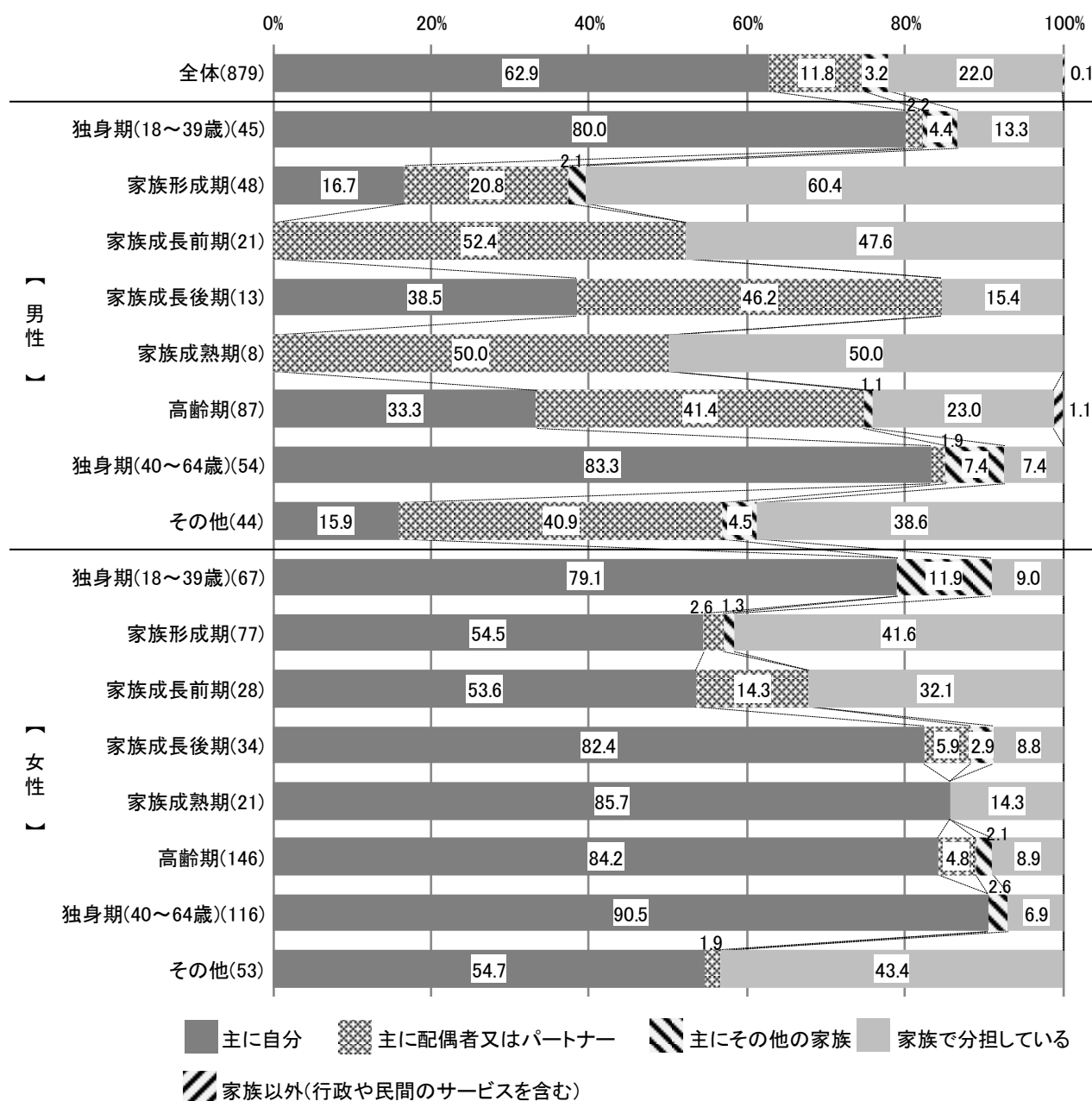


○ 性・ライフステージ区分別の傾向

男性は、「主に自分」が独身期では8割を占めるが、それ以外では4割未満となっている。家族形成期では「家族で分担している」人が6割と多く、家族成長前期では「主に配偶者又はパートナー」と「家族で分担している」が半々となっており、また、高齢期では「主に配偶者又はパートナー」が4割と多くなっている。

女性は、家族形成期、家族成長前期とその他を除き、「主に自分」が8～9割を占めている。家族形成期、家族成長前期とその他では、「主に自分」は5割強であり、「家族で分担している」が3～4割程度となっている。

図Ⅱ－４ 家庭における役割分担『家事（炊事、洗濯、掃除等）』
（性・ライフステージ区分別、「行っていない」及び無回答を除く）

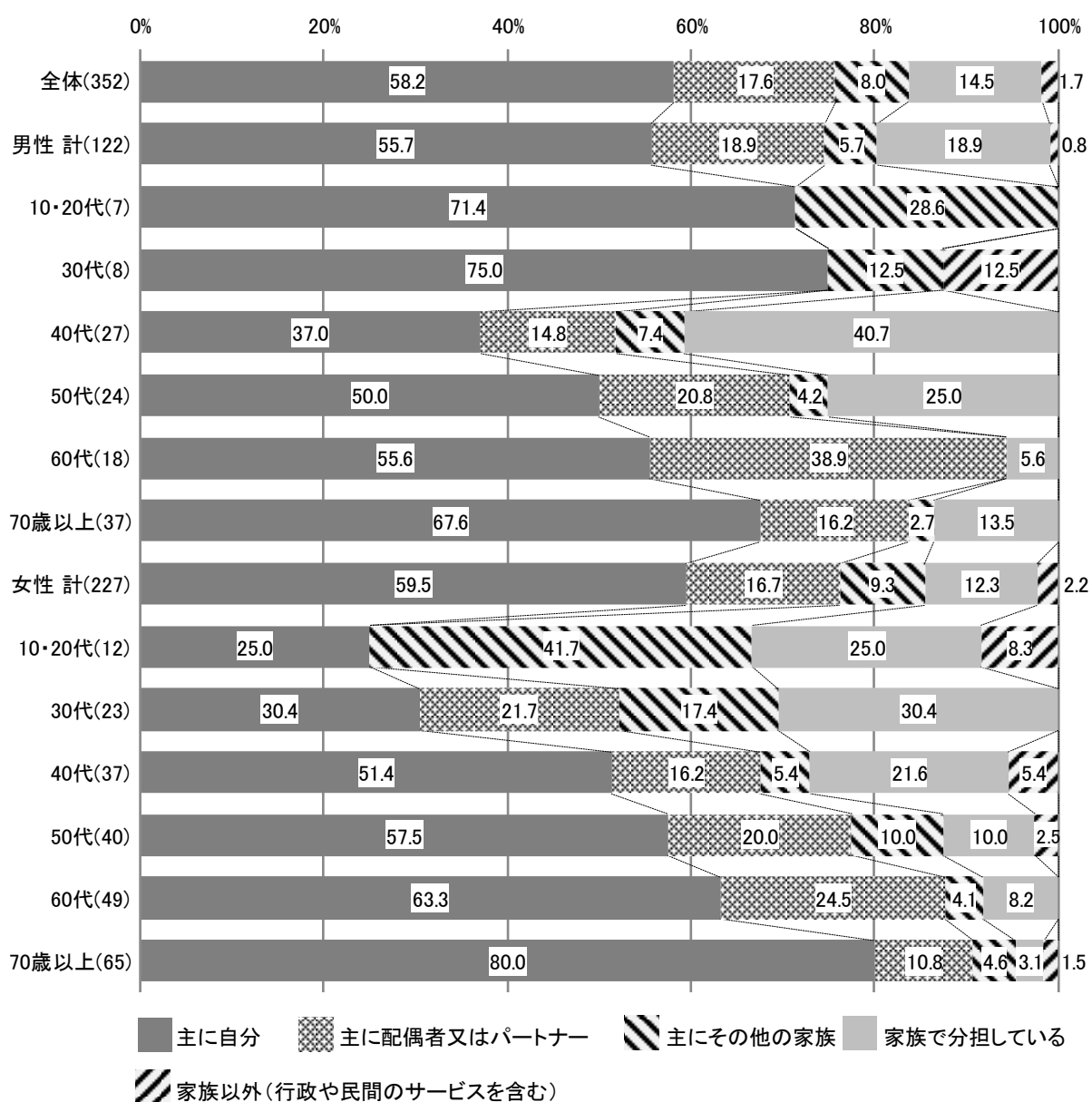


イ. 地域活動（町会、自治会等）

○ 性・年齢別の傾向

回答者数が10人未満の男性の10～30代を除くと、「主に自分」は、男女共に年齢が上がるにつれて高くなっており、男性の50代、女性の40代で5割、70歳以上では男性で約7割（67.6%）、女性で8割を占める。

図Ⅱ－5 家庭における役割分担『地域活動（町会、自治会等）』
（性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く）

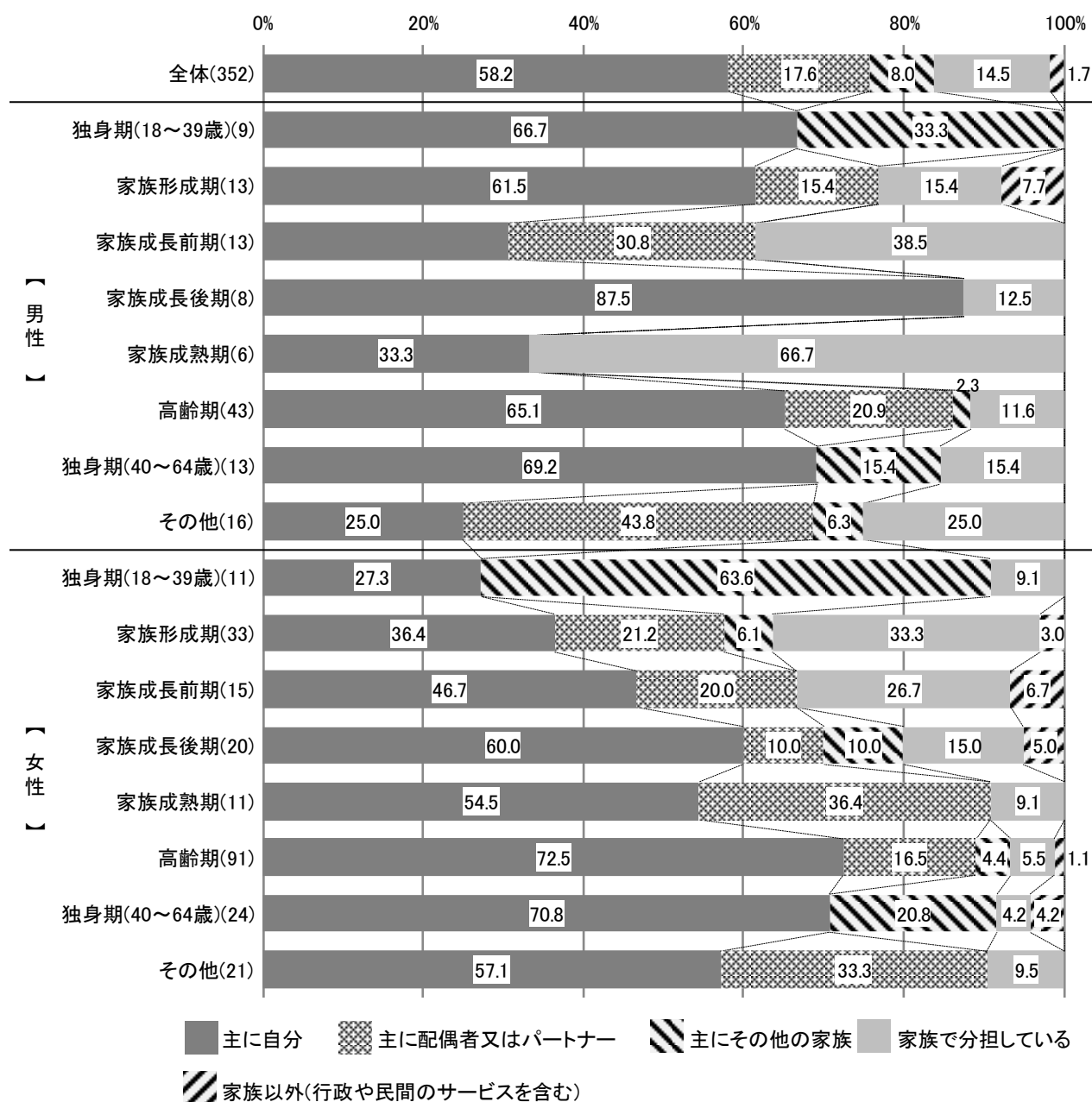


○ 性・ライフステージ区分別の傾向

女性の場合は、独身期(18～39歳)から高齢期へ移行するにつれて「主に自分」が高くなる傾向にある。

図Ⅱ－6 家庭における役割分担『地域活動（町会、自治会等）』

（性・ライフステージ区分別、「行っていない」及び無回答を除く）



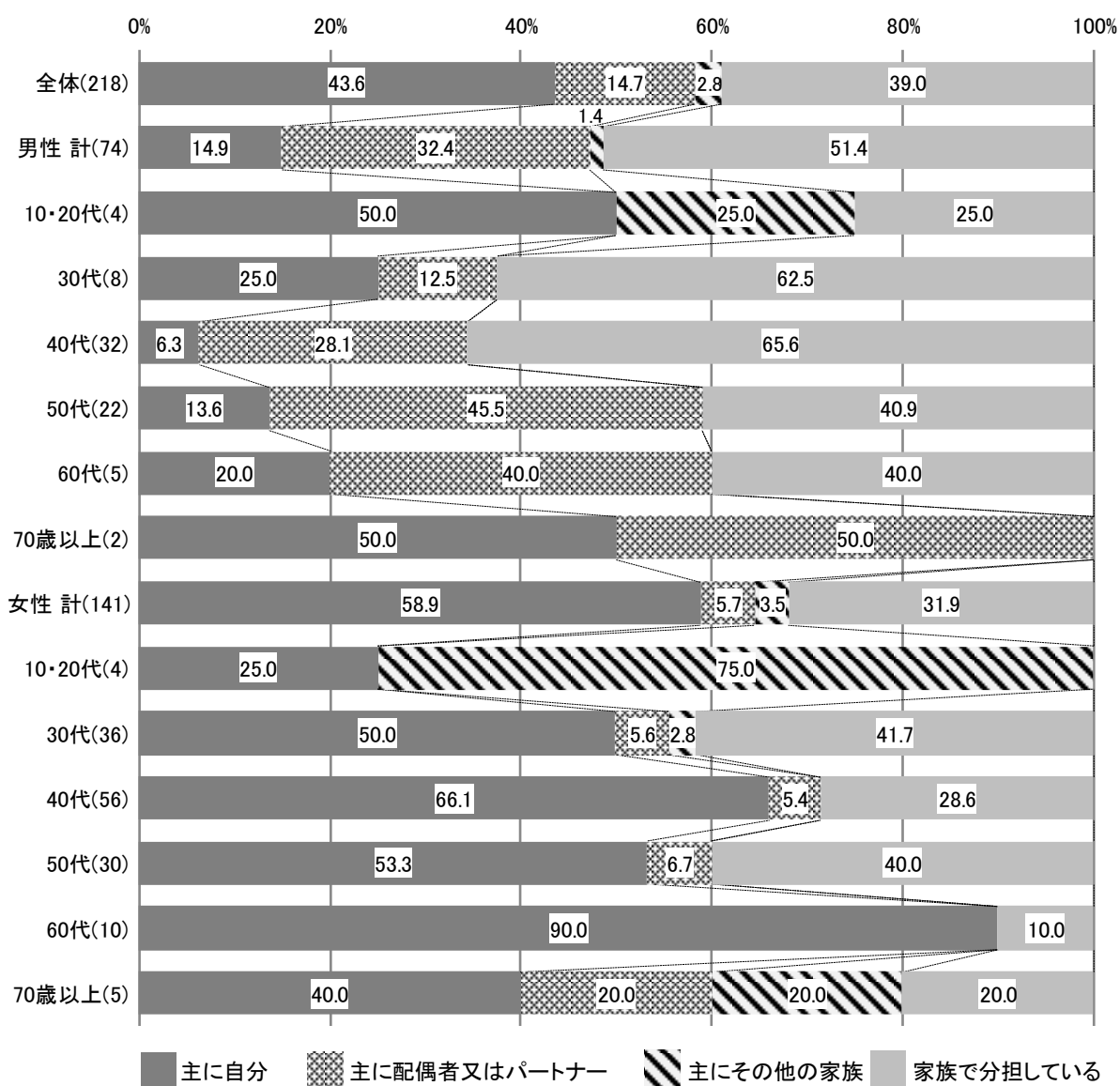
ウ. 育児や子どものしつけ

○ 性・年齢別の傾向

子育て世代の男性 40～50 代、女性 30～50 代について見ると、男性の場合は、40 代では「家族で分担している」が 65.6%を占め、次いで、「主に配偶者又はパートナー」が 28.1%となっている。50 代では「主に配偶者又はパートナー」(45.5%)と「家族で分担している」(40.9%)がそれぞれ4割以上となっている。

女性の場合は 30～50 代のいずれの世代も「主に自分」が5割以上を占め、次いで「家族で分担している」が多くなっており、「主に配偶者又はパートナー」は1割未満となっている。

図Ⅱ－7 家庭における役割分担『育児や子どものしつけ』
(性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く)



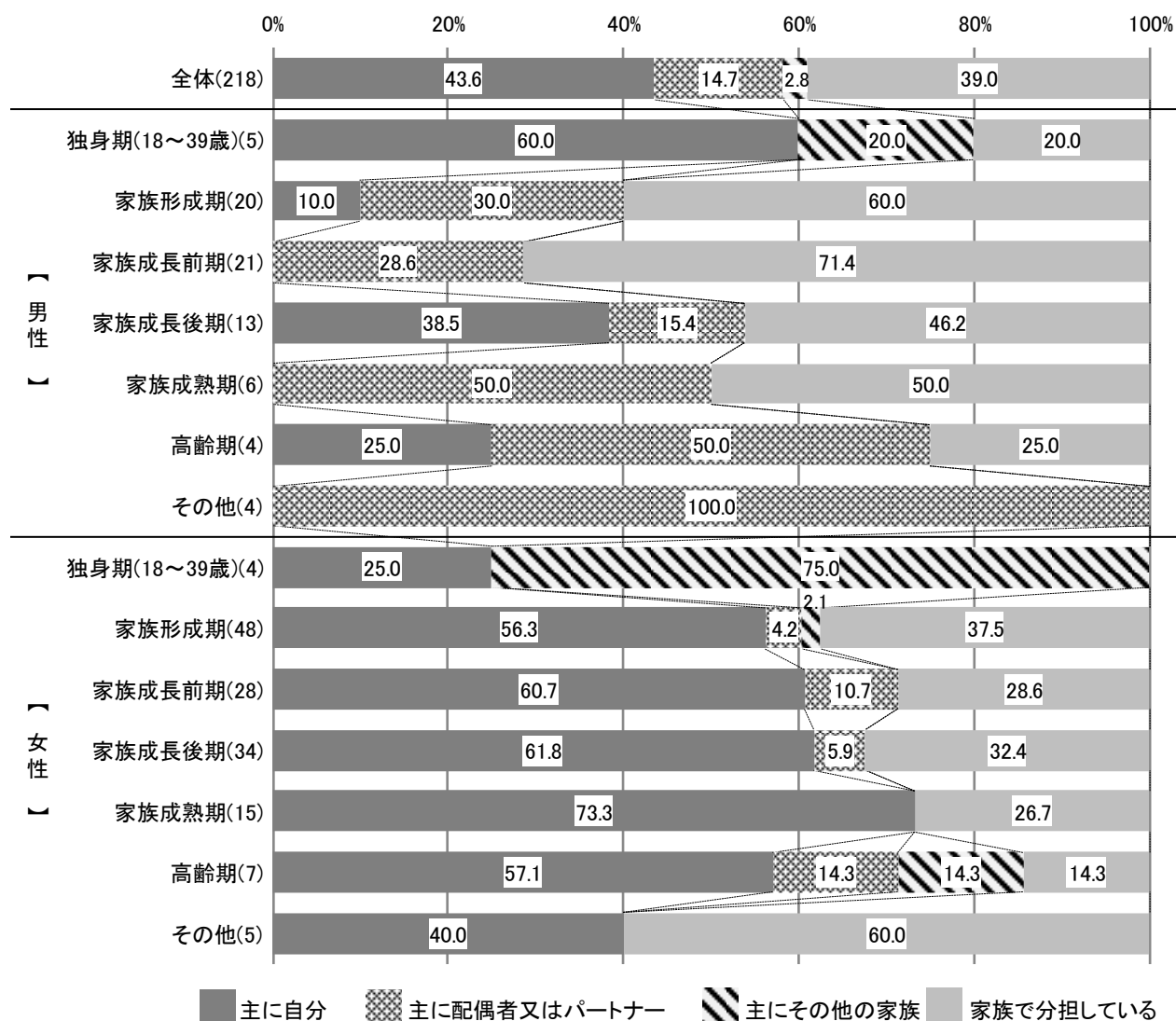
○ 性・ライフステージ区分別の傾向

家族形成期から家族成長後期を見ると、男性の場合は「家族で分担している」が多く、家族形成期で6割、家族成長前期で7割となっている。また、「主に配偶者又はパートナー」は、家族形成期、家族成長前期で3割であり、「主に自分」は家族形成期で1割、家族成長前期ではいなかった。

女性の場合は、「主に自分」が6割程度、「家族で分担している」が3～4割程度となっている。

図Ⅱ－8 家庭における役割分担『育児や子どものしつけ』

(性・ライフステージ区分別、「行っていない」及び無回答を除く)



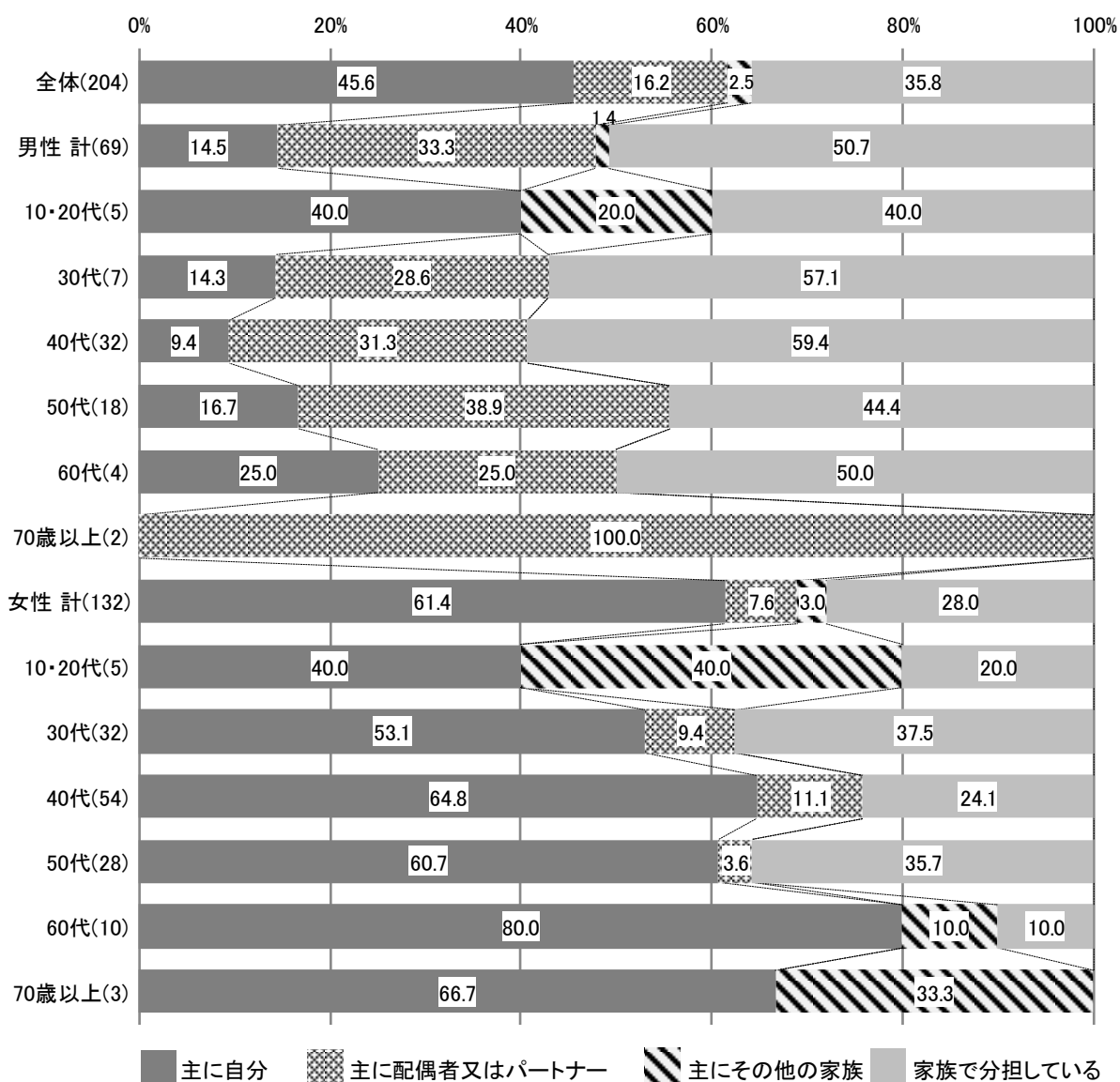
工. 子どもの学校行事への参加

○ 性・年齢別の傾向

子育て世代の男性 40～50 代、女性 30～50 代について見ると、男性の場合は、「家族で分担している」が最も多く、次いで、「主に配偶者又はパートナー」の順となっており、特に 40 代では「家族で分担している」が6割(59.4%)を占めている。「主に自分」は 40 代で 9.4%、50 代で 16.7%にとどまる。

女性の場合は 30～50 代のいずれの世代も「主に自分」が過半数を占め、次いで「家族で分担している」が多くなっており、「主に配偶者又はパートナー」は 30～40 代で1割、50 代で 3.6%のみとなっている。

図Ⅱ－９ 家庭における役割分担『子どもの学校行事への参加』
(性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く)



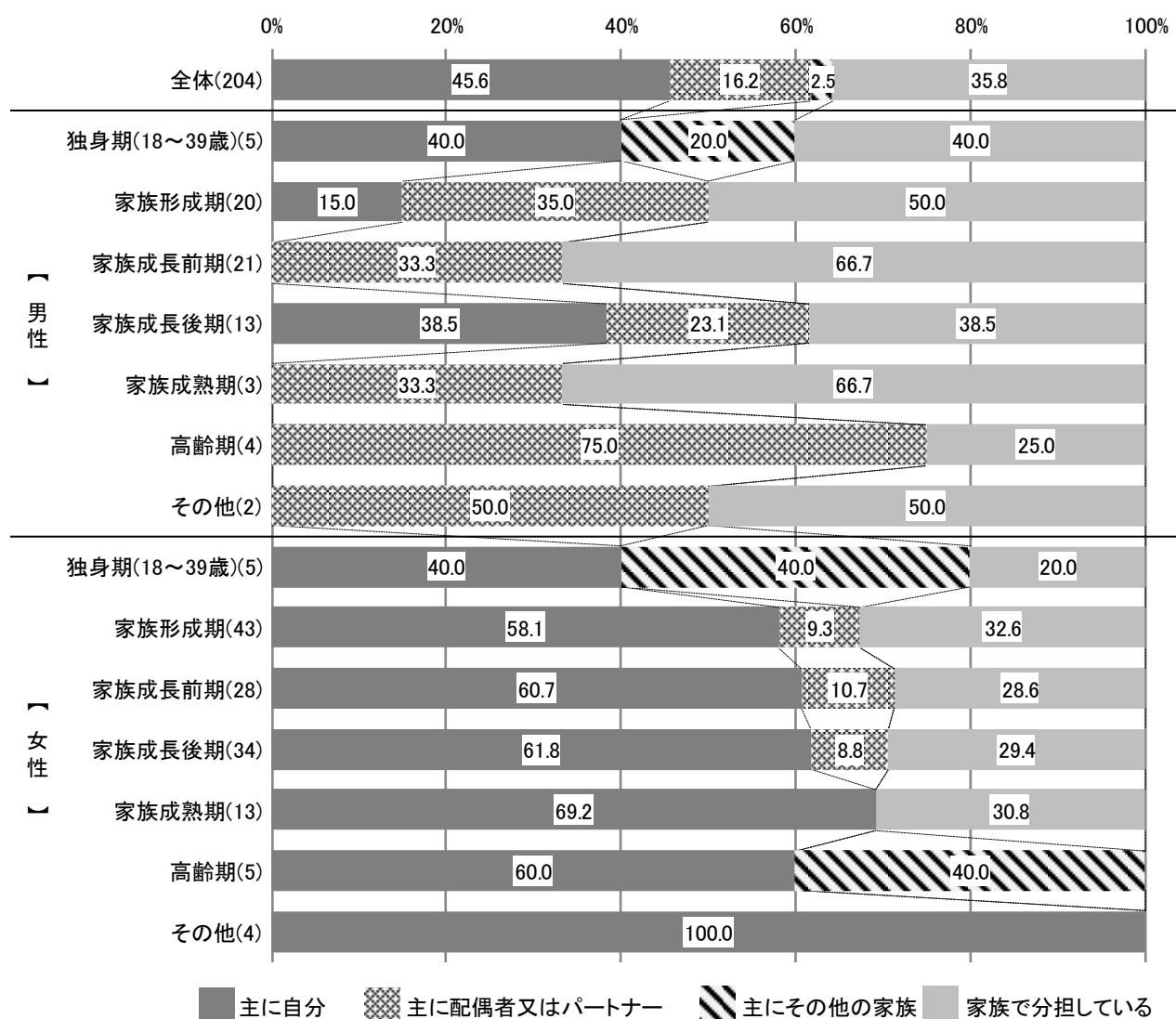
○ 性・ライフステージ区分別の傾向

家族形成期から家族成長後期を見ると、男性の場合は「家族で分担している」が多く、家族形成期で5割、家族成長前期では3分の2となっている。また、「主に配偶者又はパートナー」は、家族形成期、家族成長前期で3分の1であり、「主に自分」は家族形成期で15.0%、家族成長前期ではいなかった。

女性の場合は、「主に自分」が6割、「家族で分担している」が3割となっている。

子どもの学校行事への参加に関する家庭での役割分担の性・ライフステージ区分別の傾向は、育児や子どものしつけの場合とほぼ同様となっていることが分かる。

図Ⅱ－10 家庭における役割分担『子どもの学校行事への参加』
(性・ライフステージ区分別、「行っていない」及び無回答を除く)



オ. 親や家族の介護

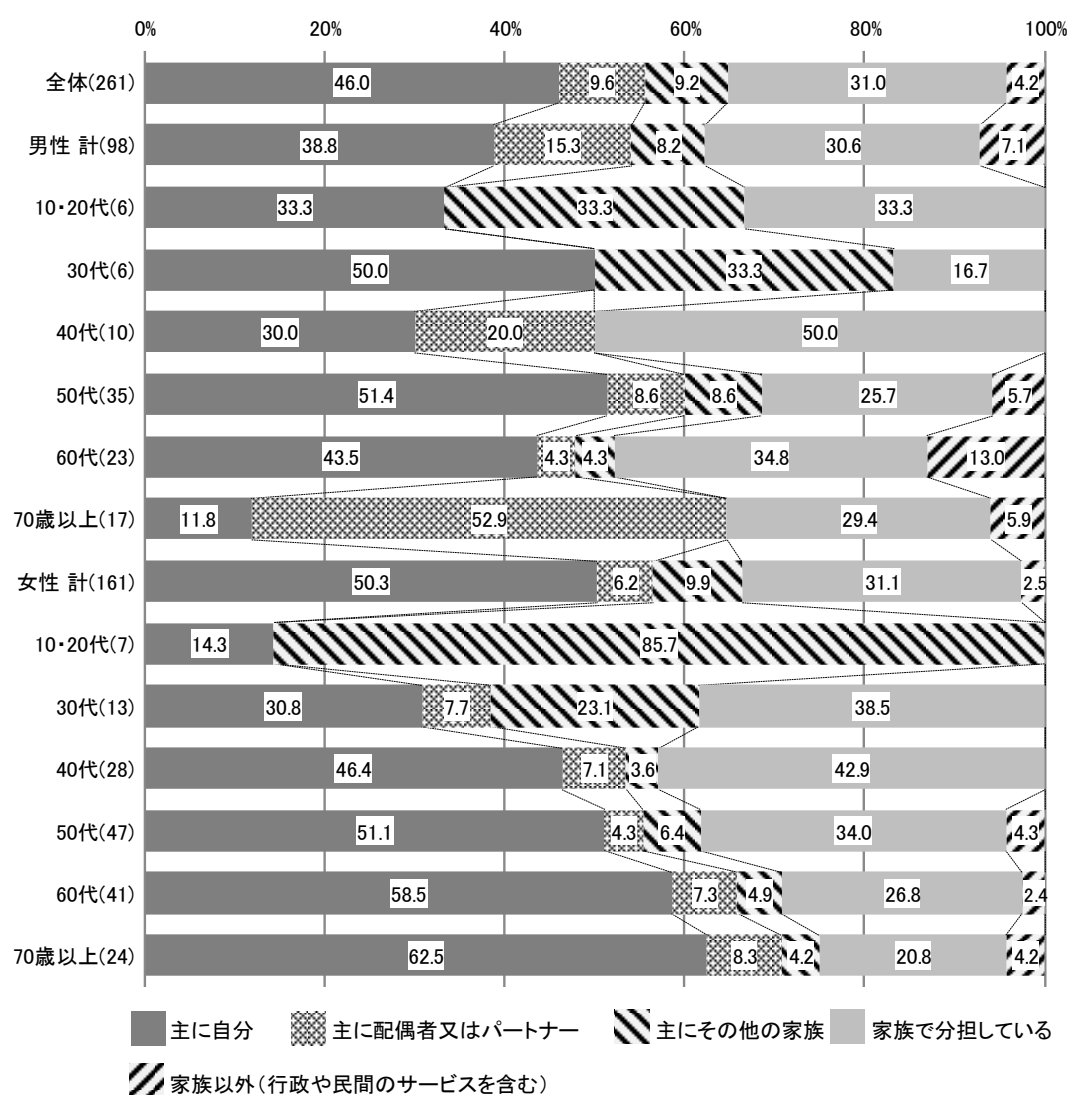
○ 性・年齢別の傾向

回答者が11人以上の男性50歳以上、女性30歳以上について見ると、男性の場合、50～60代では「主に自分」と回答した人の割合が最も高く、次いで、「家族で分担している」となっている。また、60代では、「家族以外(行政や民間のサービスを含む)」が13.0%と他の世代と比べて高くなっている。70歳以上では、「主に配偶者又はパートナー」が52.9%(17人中9人)、「家族で分担している」が29.4%(17人中5人)となっている。

女性の場合は40歳以上ではいずれの世代も「主に自分」が最も高く、次いで、「家族で分担している」となっている。また、年齢が上がるにつれ「主に自分」の割合が増え、「家族で分担している」の割合が減る傾向にある。

30代では、「家族で分担している」が38.5%(13人中5人)、「主に自分」が30.8%(13人中4人)となっている。

図Ⅱ-11 家庭における役割分担『親や家族の介護』
(性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く)



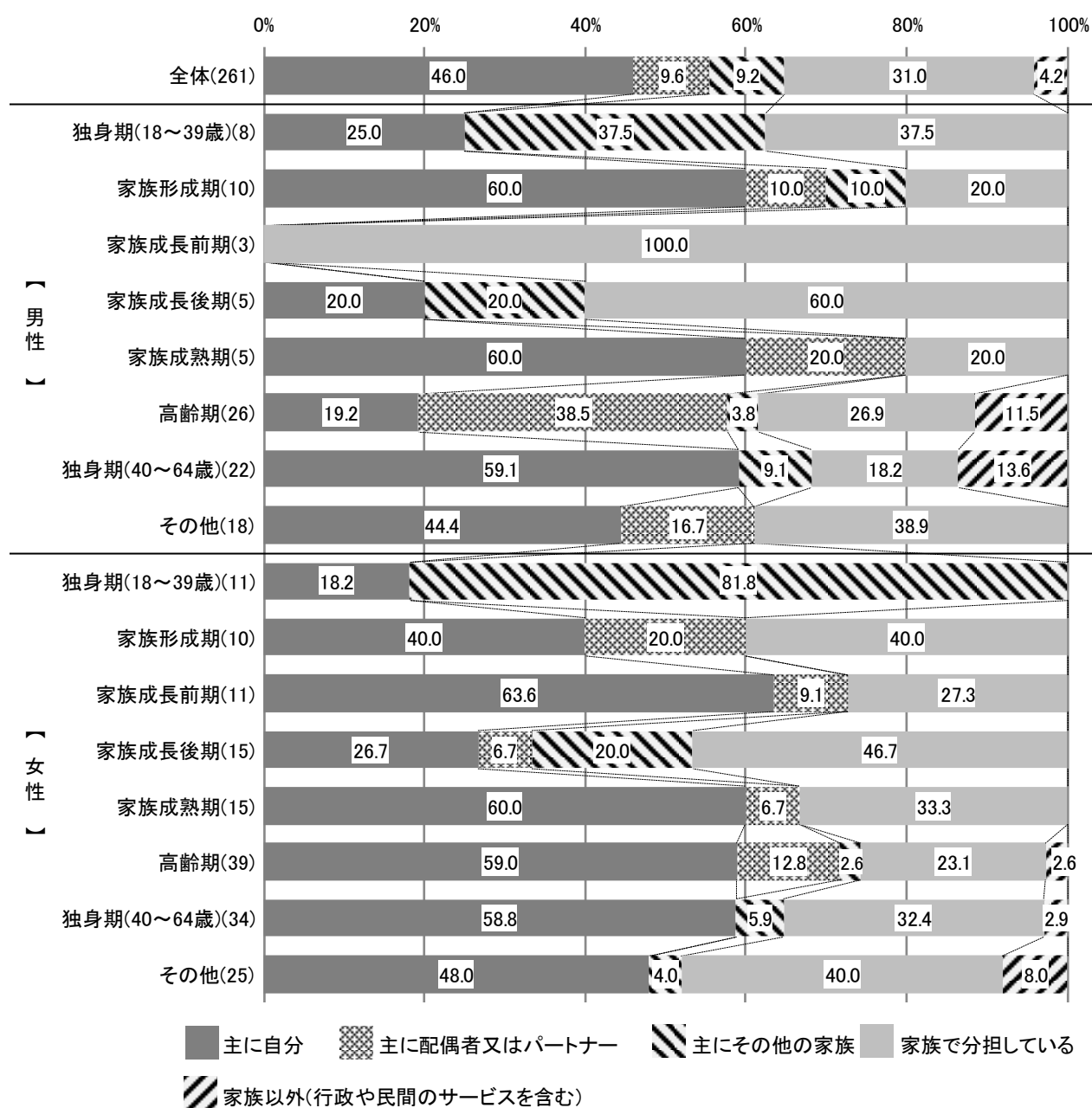
○ 性・ライフステージ区分別の傾向

高齢期を見ると、男性は、「主に配偶者又はパートナー」が4割(38.5%)と多く、その他、「家族で分担している」が4分の1(26.9%)、「主に自分」が2割(19.2%)となっている。また「家族以外(行政や民間のサービスを含む)」という人も1割(11.5%)となっている。

女性は、「主に自分」が6割(59.0%)と多く、「家族で分担している」が4分の1(23.1%)となっている。また、「家族以外(行政や民間のサービスを含む)」は2.6%にとどまる。

図Ⅱ-12 家庭における役割分担『親や家族の介護』

(性・ライフステージ区分別、「行っていない」及び無回答を除く)



問2 1日あたりの家事・育児・介護時間

あなたは、1日あたりどのくらいの時間を家事・育児・介護に携わっていますか。料理、洗濯、子どもの入浴や寝かしつけ、子どもと遊んでいる時間、親や病人を介護する時間等の合計時間をお答えください。

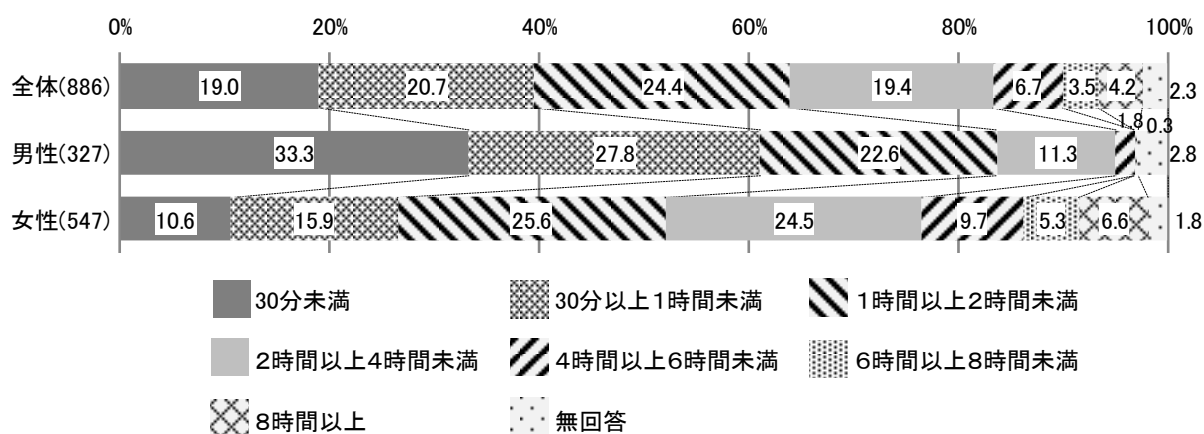
① 平日【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

平日の家事・育児・介護時間については、1時間以上2時間未満という人が24.4%で最も多い。

性別で見ると、女性では、1時間以上4時間未満という人が半数(50.1%)となっている。対して男性は、1時間未満が6割(61.1%)を占めている。

図Ⅱ-13 平日1日あたりの家事・育児・介護時間（性別）

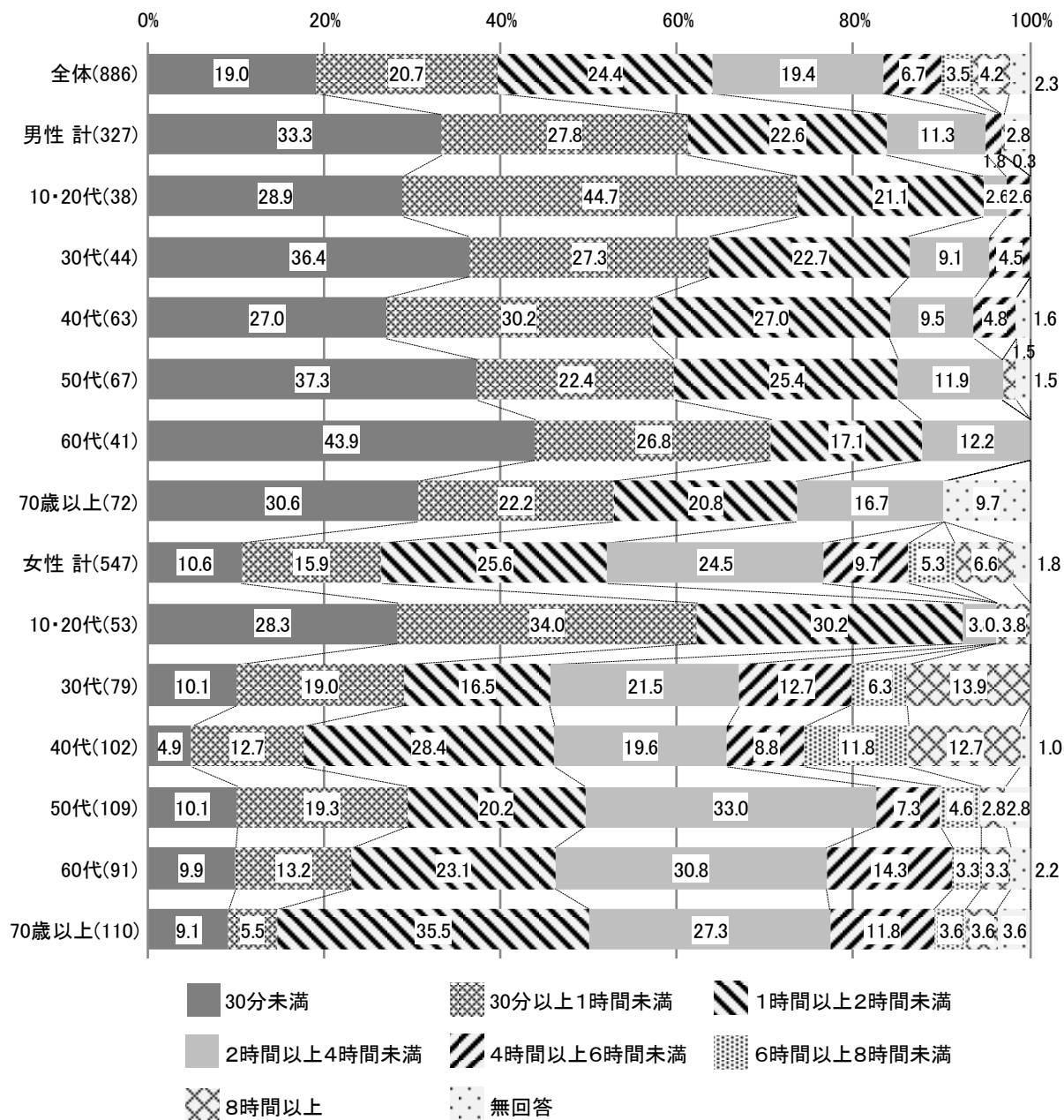


○ 性・年齢別の傾向

男性は、1時間未満が10・20代(73.6%)と60代(70.7%)で7割を超え高くなっている。

女性は、10・20代では1時間未満が6割(62.3%)を占めている。また、30代(32.9%)と40代(33.3%)では4時間以上という人が3人に1人となっている。

図Ⅱ-14 平日1日あたりの家事・育児・介護時間（性・年齢別）

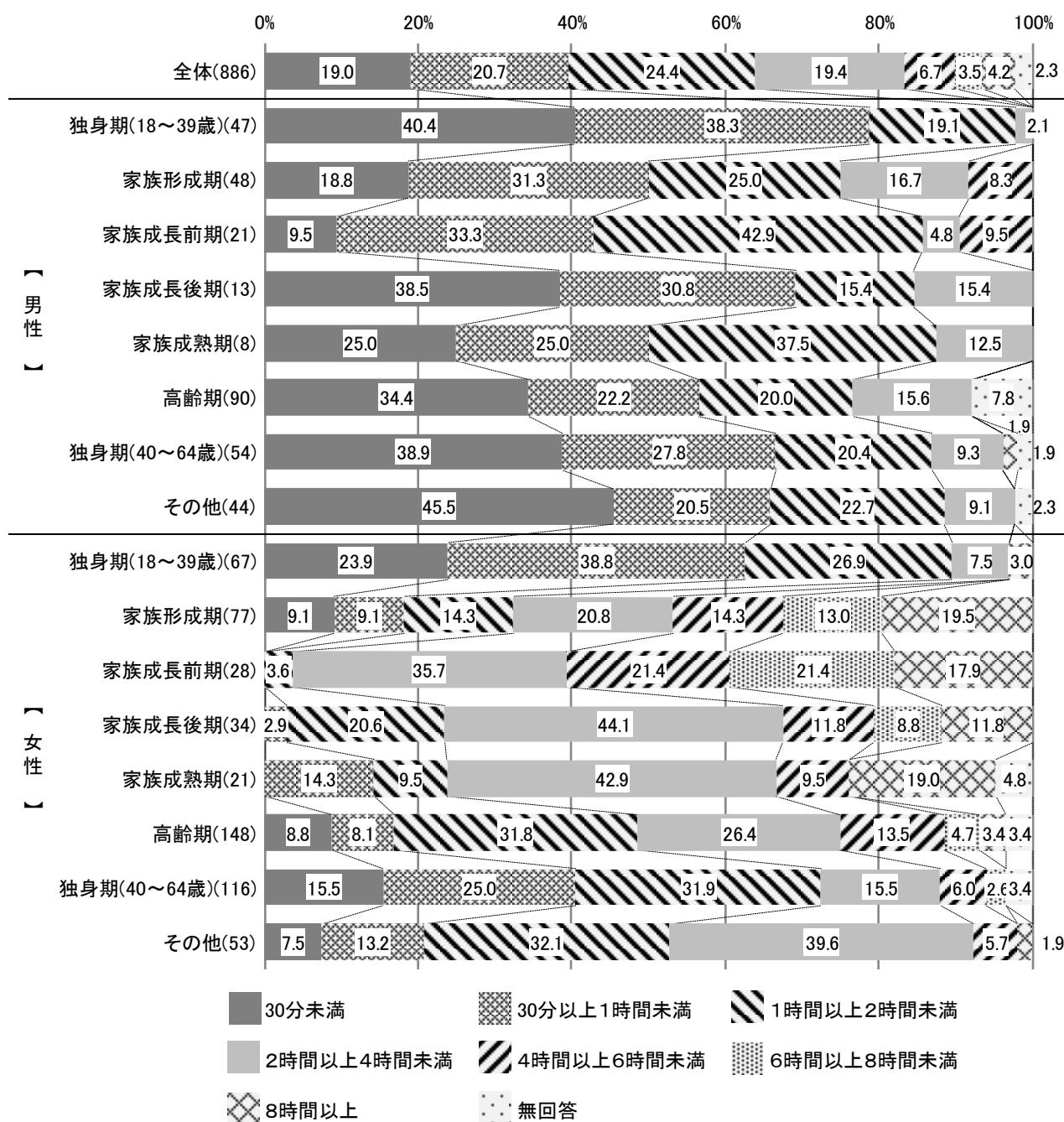


○ 性・ライフステージ区分別の傾向

男性は、家族成長前期を除きどのライフステージでも1時間未満が過半数となっており、特に、独身期(18～39歳)では8割(78.7%)を占めている。家族成長前期では、1時間以上2時間未満(42.9%)、1時間未満(42.8%)がそれぞれ4割となっている。

女性は、独身期(18～39歳)では男性と同様に1時間未満が62.7%と高くなっている。家族成長前期では1時間未満という人はおらず、4時間以上が6割(60.7%)を占めている。家族成長後期と家族成熟期では2時間以上4時間未満が4割強と高く、また高齢期と独身期(40～64歳)では1時間以上2時間未満が3割と高くなっている。

図Ⅱ-15 平日1日あたりの家事・育児・介護時間（性・ライフステージ区分別）



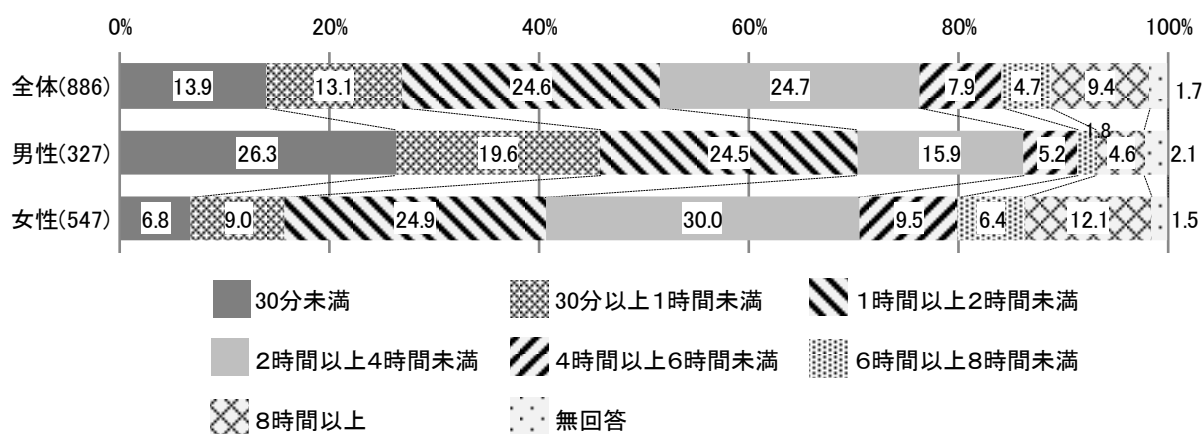
② 休日【1つだけ〇】

○ 全体・性別の傾向

休日の家事・育児・介護時間については、2時間以上4時間未満(24.7%)、1時間以上2時間未満(24.6%)という人が多くなっている。

性別で見ると、女性では、1時間以上4時間未満という人が過半数の 54.9%である。対して男性は、1時間未満が 45.9%と半数近くを占める。

図Ⅱ－16 休日1日あたりの家事・育児・介護時間（性別）

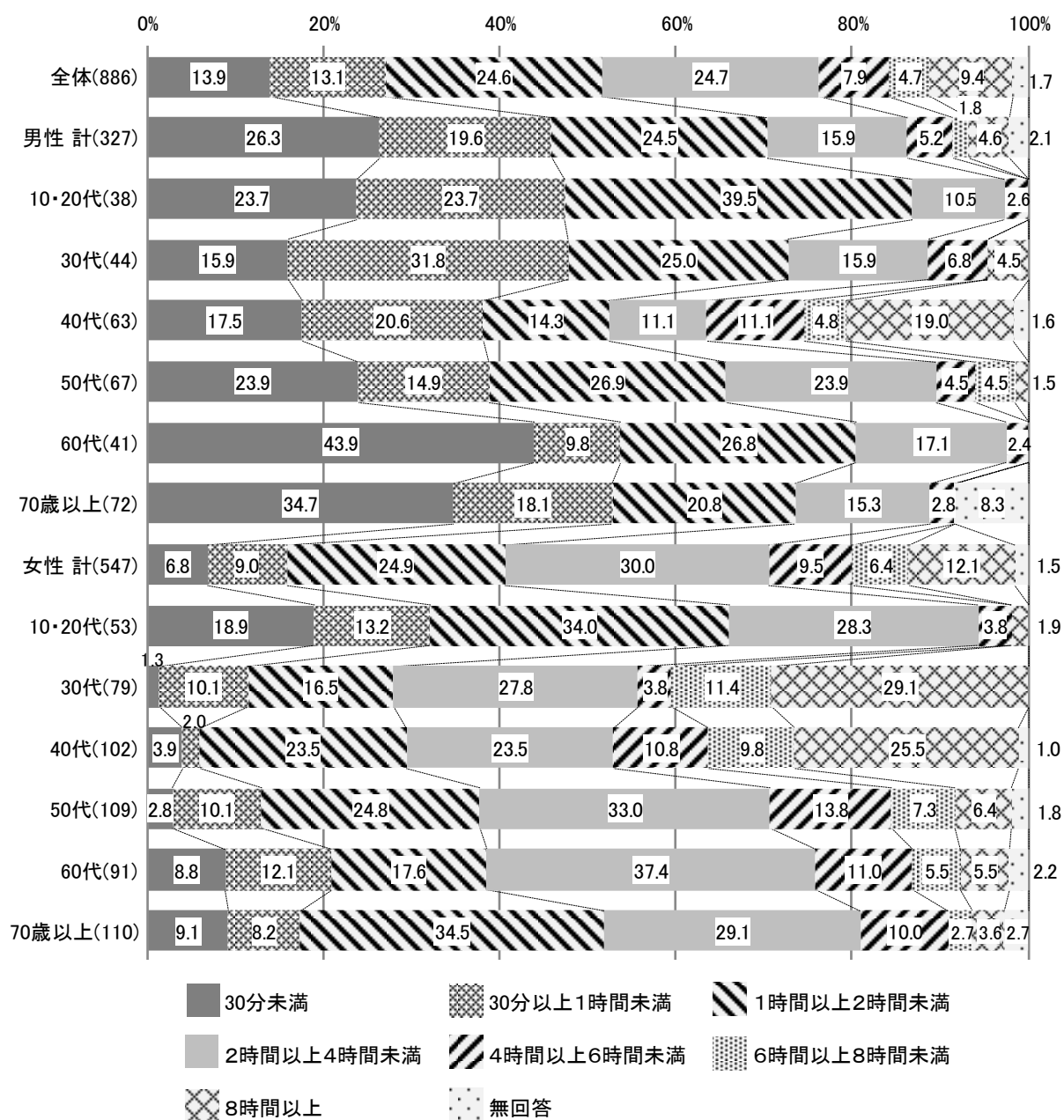


○ 性・年齢別の傾向

男性は、60代(53.7%)と70歳以上(52.8%)で1時間未満という人が5割以上となっている。また、40代では4時間以上という人が3人に1人(34.9%)となっている。

女性は、10・20代で、1時間未満(32.1%)、1時間以上2時間未満(34.0%)がそれぞれ3分の1ずつとなっている。また、30代(44.3%)と40代(46.1%)では4時間以上という人が半数弱となっている。

図Ⅱ-17 休日1日あたりの家事・育児・介護時間（性・年齢別）

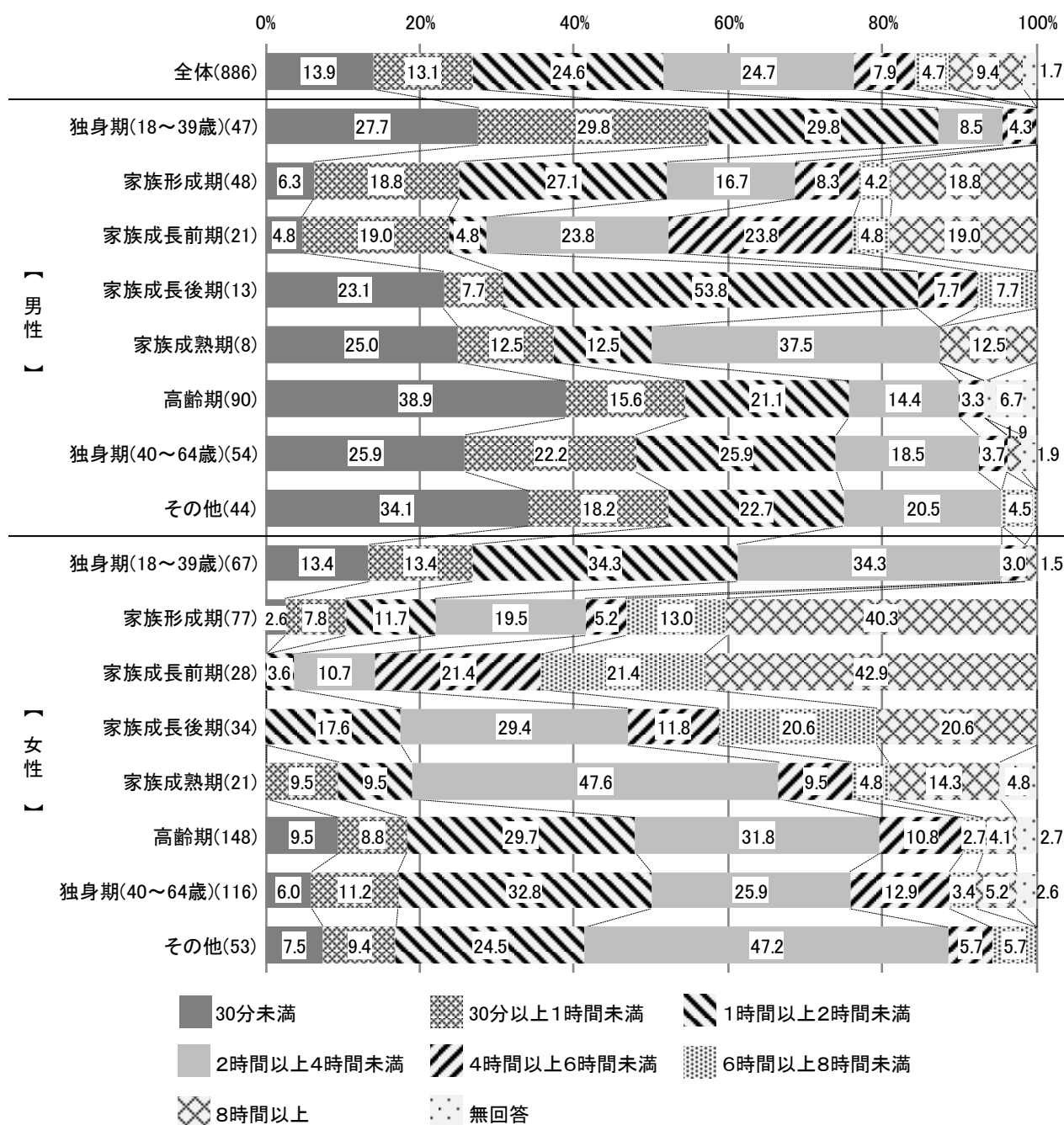


○ 性・ライフステージ区分別の傾向

男性は、1時間未満という人が独身期(18～39 歳)(57.5%)、高齢期(54.5%)、独身期(40～64 歳)(48.1%)では5～6割程度を占めているが、家族形成期(25.1%)と家族成長前期(23.8%)では3割未満となっている。また、家族成長前期では4時間以上が 47.6%となっている。

女性は、独身期(18～39 歳)では1時間以上2時間未満と2時間以上4時間未満が3分の1ずつとなっている。家族形成期から家族成長後期までは4時間以上が過半数となっており、特に家族成長前期では 85.7%を占めている。家族成熟期では2時間以上4時間未満が 47.6%と高く、また、高齢期では1時間以上2時間未満と2時間以上4時間未満が3割ずつとなっている。

図Ⅱ－18 休日1日あたりの家事・育児・介護時間（性・ライフステージ区分別）



問3 結婚や出産、男女の役割に関する考え方

結婚や出産、男女の役割に関する次にあげる考え方についてあなたはどのように思いますか。ア～ケのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

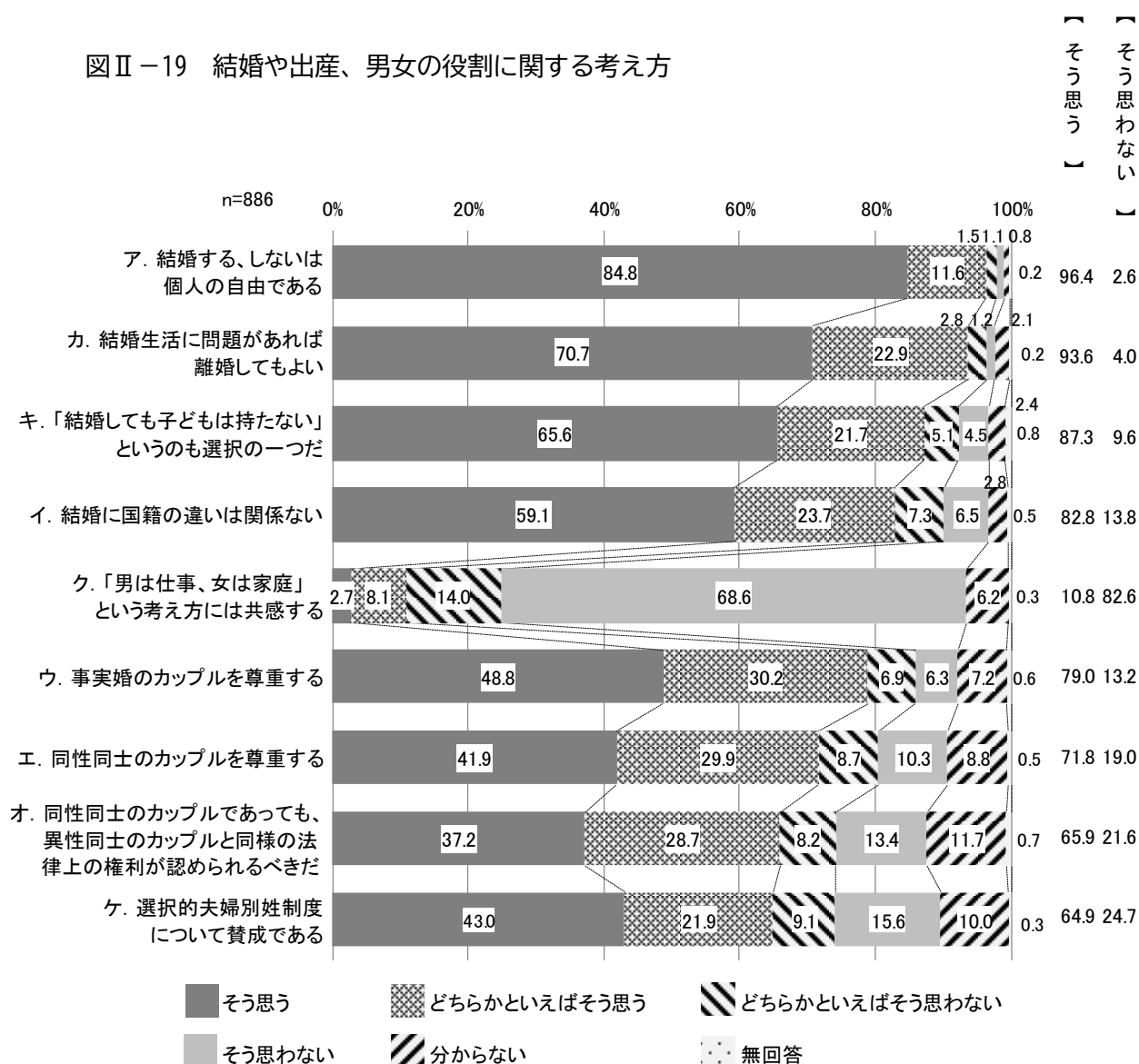
○ 全体の傾向

「ア. 結婚する、しないは個人の自由である」(96.4%)、「カ. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい」(93.6%)については「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計(以下、『そう思う』)が9割以上である。

「キ. 「結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ」(87.3%)、「イ. 結婚に国籍の違いは関係ない」(82.8%)については『そう思う』が、「ク. 「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する」については「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計(82.6%)が8割以上となっている。

「ケ. 選択的夫婦別姓制度について賛成である」(64.9%)、「オ. 同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ」(65.9%)については、『そう思う』が6割以上となっている。

図Ⅱ-19 結婚や出産、男女の役割に関する考え方

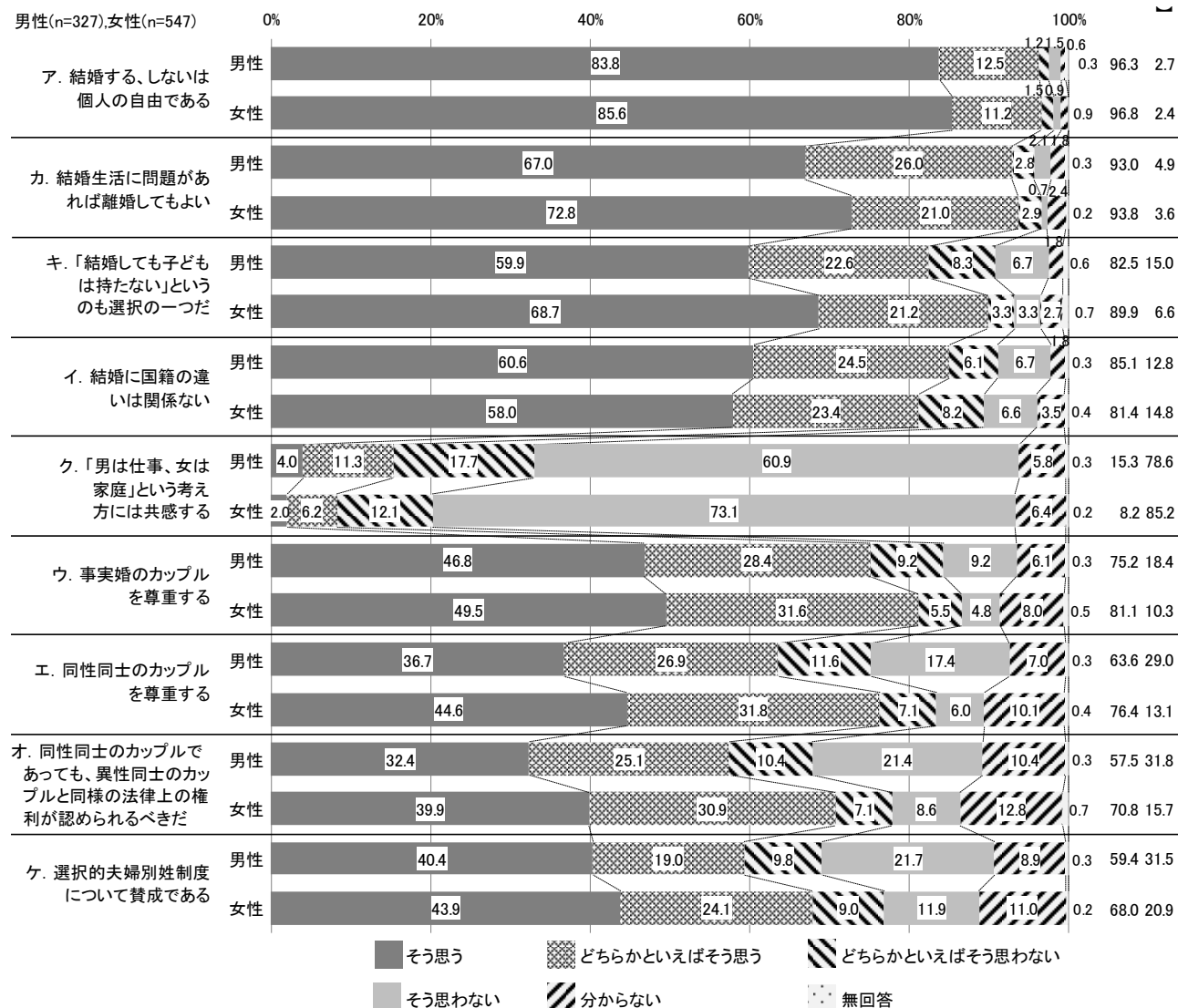


○ 性別の傾向

性別で見ると「オ. 同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ」、「エ. 同性同士のカップルを尊重する」について『そう思う』割合は女性が男性を 10 ポイント以上上回っている。

図Ⅱ－20 結婚や出産、男女の役割に関する考え方（性別）

「
そう
思う
」
「
そう
思わ
ない
」



【参考】

表Ⅱ－１ 結婚や出産、男女の役割に関する考え方（その他の性自認）

ア．結婚する、しないは個人の自由である

全 体	そう 思う	ばど そう どちら かとい え	ばど そう どちら かとい え	そう 思わ ない	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -

カ．結婚生活に問題があれば離婚してもよい

全 体	そう 思う	ばど そう どちら かとい え	ばど そう どちら かとい え	そう 思わ ない	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -

キ．「結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ

全 体	そう 思う	ばど そう どちら かとい え	ばど そう どちら かとい え	そう 思わ ない	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -

ク．結婚に国籍の違いは関係ない

全 体	そう 思う	ばど そう どちら かとい え	ばど そう どちら かとい え	そう 思わ ない	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -

ク。「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する

全 体	そう 思う	ば ど そ う 思 う か と い え	ば ど そ う 思 わ な い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	- -	- -	- -	3 75.0	1 25.0

ウ。事実婚のカップルを尊重する

全 体	そう 思う	ば ど そ う 思 う か と い え	ば ど そ う 思 わ な い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -

エ。同性同士のカップルを尊重する

全 体	そう 思う	ば ど そ う 思 う か と い え	ば ど そ う 思 わ な い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -

オ。同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ

全 体	そう 思う	ば ど そ う 思 う か と い え	ば ど そ う 思 わ な い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -

ケ。選択的夫婦別姓制度について賛成である

全 体	そう 思う	ば ど そ う 思 う か と い え	ば ど そ う 思 わ な い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	3 75.0	- -	- -	1 25.0	- -

Ⅲ. 保育・教育について

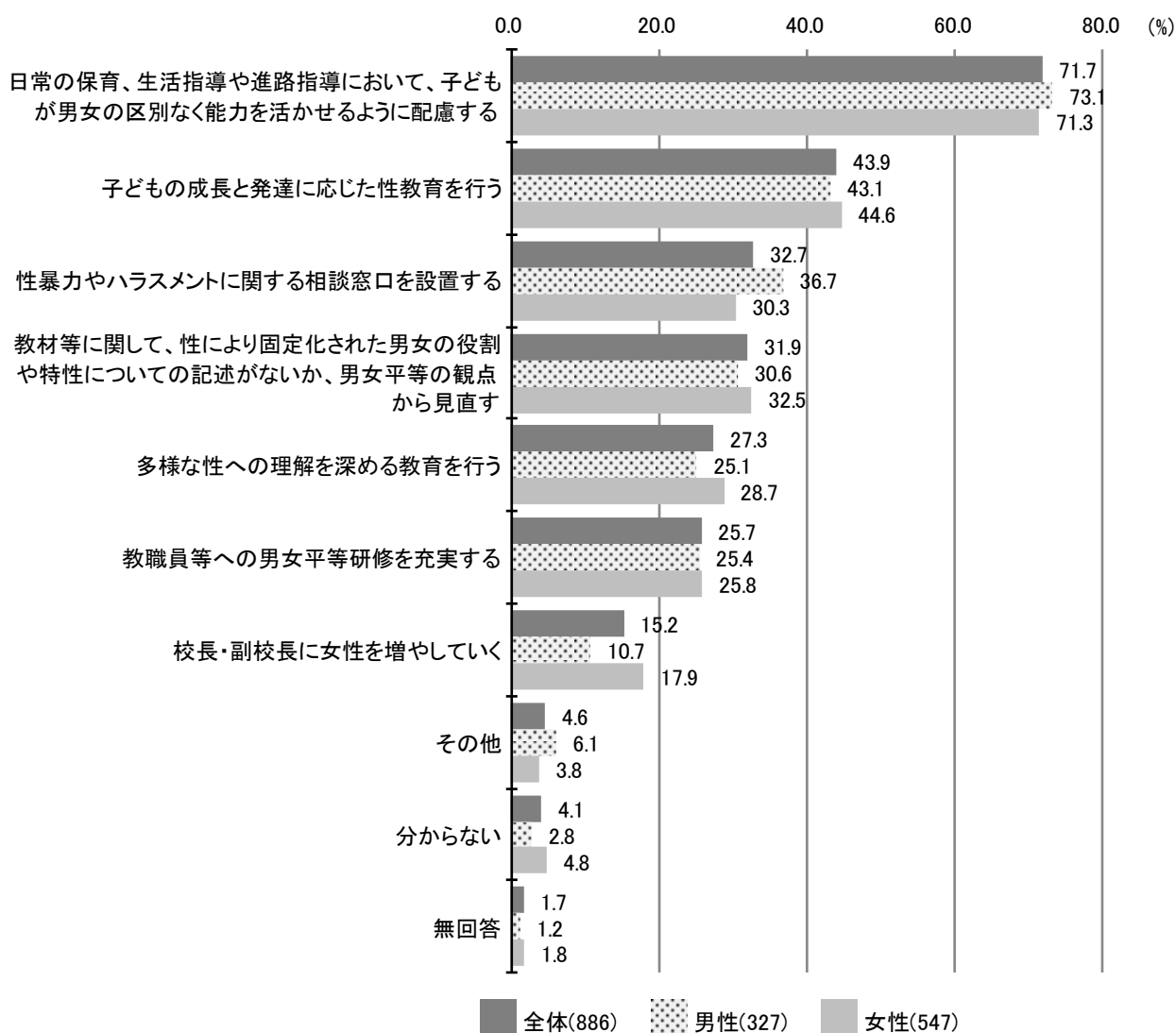
問4 保育や教育の現場で力をいれればよいと思うこと

区立の保育園・幼稚園・小学校・中学校の保育や教育の現場において、男女平等参画を推進するためにはどのようなことに力を入れればよいと思いますか。【3つまで○】

○ 全体の傾向

「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」が71.7%と最も多く、次いで、「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」が43.9%となっている。

図Ⅲ－1 保育や教育の現場で力をいれればよいと思うこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」は、男性の40代と60歳以上、女性の30代と60代で75～80%と高くなっている。

「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」は女性の30代で過半数の55.7%となっている。

「性暴力やハラスメントに関する相談窓口を設置する」は男性の10・20代で47.4%と高くなっている。

「教材等に関して、性により固定化された男女の役割や特性についての記述がないか、男女平等の観点から見直す」は男女共10・20代で4割以上と高くなっている。

表Ⅲ－１ 保育や教育の現場で力をいれればよいと思うこと（性・年齢別）

		全 体	うの に配 慮す る	指 導に おいて 、子 どもが 男女 の区 別なく 能力を 活か せるよ うに	日常の 保育、 生活指 導や進 路	性 教育を 行う	子 ども の成 長と 発達 に応 じた	性 暴力 やハ ラス メ ン トに 関 する 相 談窓 口を 設 置す る	女 平 等 の観 点か ら見 直す	定 化さ れた 男女 の役 割や 、特 性 に よ り 固 定 さ れ た 記 述 が な い か	教 材等 に関 して 、性 に よ り 固 定 さ れ た 記 述 が な い か	多 様 な 性 へ の 理 解 を 深 め る 教 育を 行 う	充 実 す る	教 職 員 等 へ の 男 女 平 等 研 修 を	て い く 校 長・ 副 校 長 に 女 性 を 増 や し	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	635 71.7	389 43.9	290 32.7	283 31.9	242 27.3	228 25.7	135 15.2	41 4.6	36 4.1	15 1.7						
男 性	合 計	327 100.0	239 73.1	141 43.1	120 36.7	100 30.6	82 25.1	83 25.4	35 10.7	20 6.1	9 2.8	4 1.2						
	10・20代	38 100.0	24 63.2	18 47.4	18 47.4	16 42.1	4 10.5	7 18.4	4 10.5	3 7.9	－ －	－ －						
	30代	44 100.0	28 63.6	15 34.1	16 36.4	13 29.5	14 31.8	9 20.5	1 2.3	6 13.6	2 4.5	1 2.3						
	40代	63 100.0	50 79.4	29 46.0	20 31.7	20 31.7	17 27.0	12 19.0	11 17.5	2 3.2	3 4.8	－ －						
	50代	67 100.0	46 68.7	29 43.3	25 37.3	20 29.9	21 31.3	17 25.4	9 13.4	5 7.5	1 1.5	－ －						
	60代	41 100.0	32 78.0	13 31.7	15 36.6	10 24.4	11 26.8	13 31.7	3 7.3	－ －	3 7.3	1 2.4						
	70歳以上	72 100.0	57 79.2	36 50.0	24 33.3	21 29.2	15 20.8	25 34.7	7 9.7	4 5.6	－ －	2 2.8						
	合 計	547 100.0	390 71.3	244 44.6	166 30.3	178 32.5	157 28.7	141 25.8	98 17.9	21 3.8	26 4.8	10 1.8						
女 性	10・20代	53 100.0	34 64.2	27 50.9	15 28.3	23 43.4	16 30.2	17 32.1	13 24.5	2 3.8	－ －	1 1.9						
	30代	79 100.0	61 77.2	44 55.7	20 25.3	30 38.0	24 30.4	18 22.8	12 15.2	3 3.8	2 2.5	1 1.3						
	40代	102 100.0	64 62.7	47 46.1	29 28.4	34 33.3	28 27.5	12 11.8	23 22.5	8 7.8	5 4.9	3 2.9						
	50代	109 100.0	79 72.5	39 35.8	34 31.2	35 32.1	38 34.9	32 29.4	23 21.1	2 1.8	8 7.3	1 0.9						
	60代	91 100.0	70 76.9	39 42.9	31 34.1	22 24.2	27 29.7	24 26.4	11 12.1	5 5.5	6 6.6	－ －						
	70歳以上	110 100.0	79 71.8	47 42.7	36 32.7	33 30.0	24 21.8	37 33.6	15 13.6	1 0.9	5 4.5	4 3.6						

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」は、男女共に家族成長前期で6割と高くなっている。

「性暴力やハラスメントに関する相談窓口を設置する」は、男性の独身期(18～39 歳)では半数を占め高くなっている。

「教材等に関して、性により固定化された男女の役割や特性についての記述がないか、男女平等の観点から見直す」は、男性の家族形成期、女性の独身期(18～39 歳)と家族形成期では4割以上と高い。

表Ⅲ－２ 保育や教育の現場で力をいれればよいと思うこと（性・ライフステージ区分別）

		全 体	うの指日 に区導常 配別にお 慮する能 力を活 かせるよ	性 教 育 を 行 う	子 ど も の 成 長 と 発 達 に 応 じ た	る 相 談 窓 口 を 設 置 す る	性 暴 力 や ハ ラ ス メ ン ト に 関 す	女 平 等 の 観 点 か ら 見 直 す	に 定 化 さ れ た 男 女 の 役 割 や 特 性 の 記 述 が あ い な い か 、 男 女 平 等 の 観 点 か ら 見 直 す	教材 等 に 関 し て 、 性 に よ り 固 定 化 さ れ た 男 女 の 役 割 や 特 性 の 記 述 が あ い な い か 、 男 女 平 等 の 観 点 か ら 見 直 す	多 様 な 性 へ の 理 解 を 深 め る 教 育 を 行 う	充 職 員 等 へ の 男 女 平 等 研 修 を	て 校 長 ・ 副 校 長 に 女 性 を 増 や し	そ 他	分 か ら な い	無 回 答
全体		886 100.0	635 71.7	389 43.9	290 32.7	283 31.9	242 27.3	228 25.7	135 15.2	41 4.6	36 4.1	15 1.7				
男性	合 計	327 100.0	239 73.1	141 43.1	120 36.7	100 30.6	82 25.1	83 25.4	35 10.7	20 6.1	9 2.8	4 1.2				
	独身期(18～39歳)	47 100.0	27 57.4	18 38.3	24 51.1	14 29.8	13 27.7	9 19.1	5 10.6	3 6.4	2 4.3	1 2.1				
	家族形成期	48 100.0	38 79.2	21 43.8	12 25.0	22 45.8	8 16.7	11 22.9	1 2.1	6 12.5	－ －	－ －				
	家族成長前期	21 100.0	16 76.2	13 61.9	4 19.0	8 38.1	6 28.6	3 14.3	4 19.0	2 9.5	－ －	－ －				
	家族成長後期	13 100.0	11 84.6	6 46.2	5 38.5	5 38.5	3 23.1	3 23.1	3 23.1	－ －	－ －	－ －				
	家族成熟期	8 100.0	5 62.5	1 12.5	5 62.5	3 37.5	1 12.5	4 50.0	2 25.0	－ －	－ －	－ －				
	高齢期	90 100.0	72 80.0	44 48.9	29 32.2	24 26.7	22 24.4	32 35.6	8 8.9	4 4.4	1 1.1	2 2.2				
	独身期(40～64歳)	54 100.0	36 66.7	22 40.7	22 40.7	17 31.5	14 25.9	14 25.9	7 13.0	1 1.9	3 5.6	－ －				
	その他	44 100.0	32 72.7	15 34.1	17 38.6	7 15.9	15 34.1	7 15.9	5 11.4	4 9.1	3 6.8	1 2.3				
	女性	合 計	547 100.0	390 71.3	244 44.6	166 30.3	178 32.5	157 28.7	141 25.8	98 17.9	21 3.8	26 4.8	10 1.8			
独身期(18～39歳)		67 100.0	43 64.2	34 50.7	20 29.9	27 40.3	23 34.3	19 28.4	17 25.4	2 3.0	－ －	1 1.5				
家族形成期		77 100.0	59 76.6	40 51.9	18 23.4	33 42.9	22 28.6	15 19.5	11 14.3	3 3.9	3 3.9	2 2.6				
家族成長前期		28 100.0	19 67.9	17 60.7	6 21.4	6 21.4	9 32.1	6 21.4	9 32.1	2 7.1	－ －	－ －				
家族成長後期		34 100.0	23 67.6	12 35.3	9 26.5	10 29.4	13 38.2	9 26.5	5 14.7	5 14.7	2 5.9	1 2.9				
家族成熟期		21 100.0	17 81.0	11 52.4	4 19.0	8 38.1	3 14.3	8 38.1	4 19.0	－ －	－ －	－ －				
高齢期		148 100.0	110 74.3	63 42.6	50 33.8	42 28.4	36 24.3	47 31.8	19 12.8	3 2.0	8 5.4	4 2.7				
独身期(40～64歳)		116 100.0	79 68.1	42 36.2	41 35.3	34 29.3	38 32.8	22 19.0	22 19.0	3 2.6	9 7.8	2 1.7				
その他		53 100.0	37 69.8	24 45.3	17 32.1	17 32.1	13 24.5	14 26.4	10 18.9	3 5.7	4 7.5	－ －				

IV. 男女平等への関心と意識について

問5 男女平等参画に関する用語の認知度

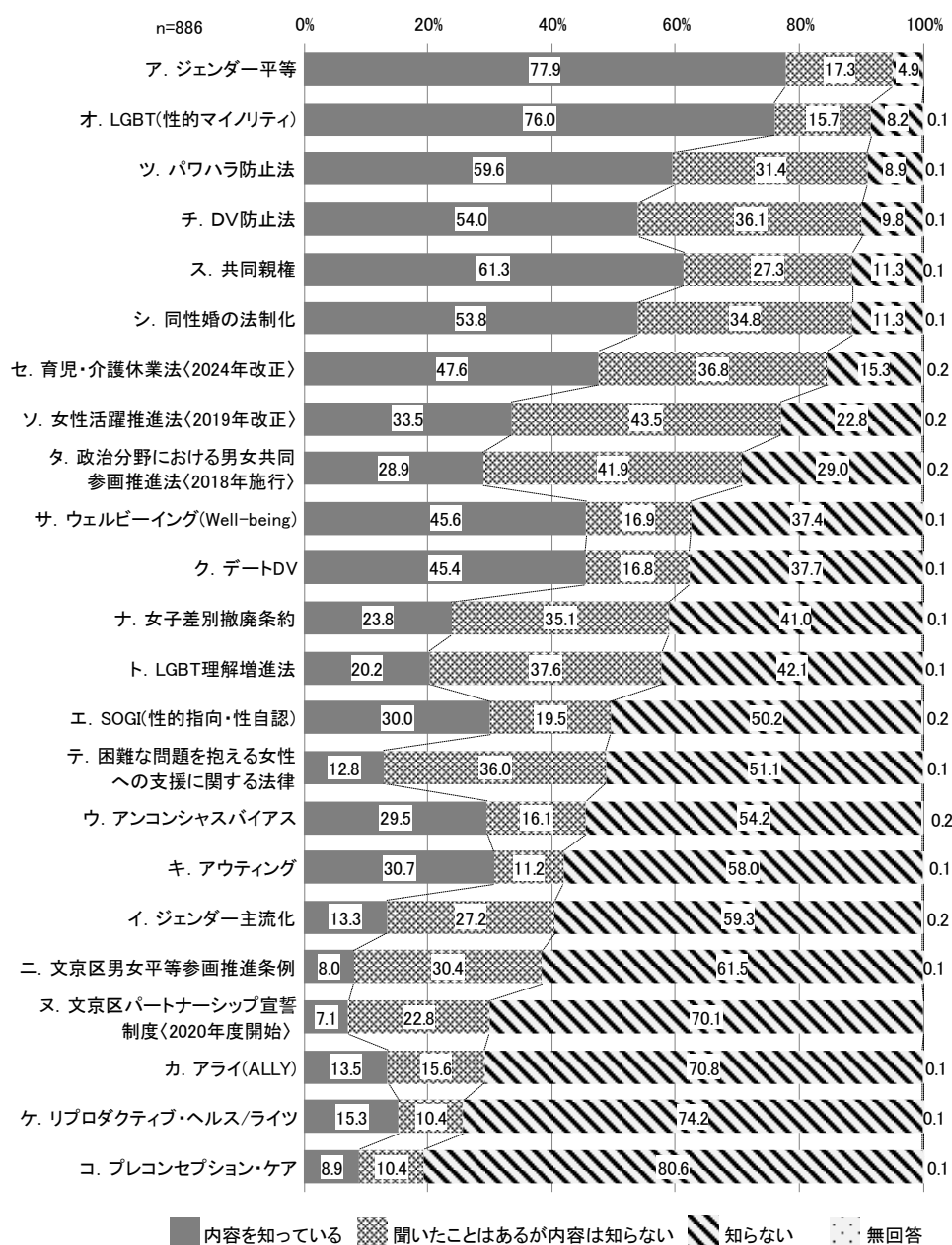
あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。ア～ヌのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

○ 全体の傾向

「内容を知っている」割合は、「ジェンダー平等」が77.9%で最も高く、次いで「LGBT(性的マイノリティ)」が76.0%、「共同親権」が61.3%、「パワハラ防止法」が59.6%となっている。

一方、「知らない」割合は、「プレコンセプション・ケア」が80.6%で最も高く、また、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(74.2%)、「アライ(ALLY)」(70.8%)、「文京区パートナーシップ宣誓制度(2020年度開始)」(70.1%)が7割以上となっている。

図IV-1 男女平等参画に関する用語の認知度

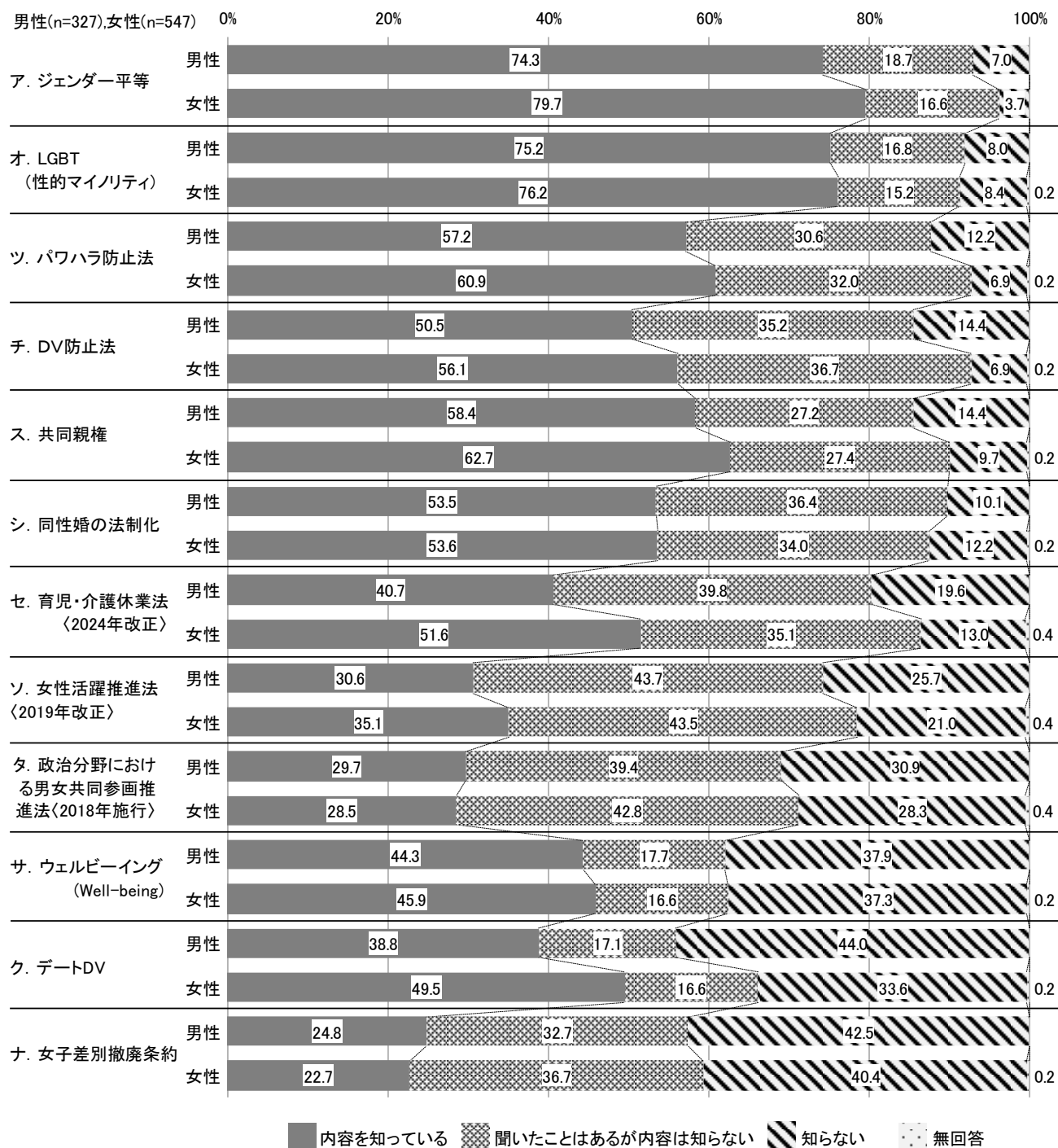


○ 性別の傾向

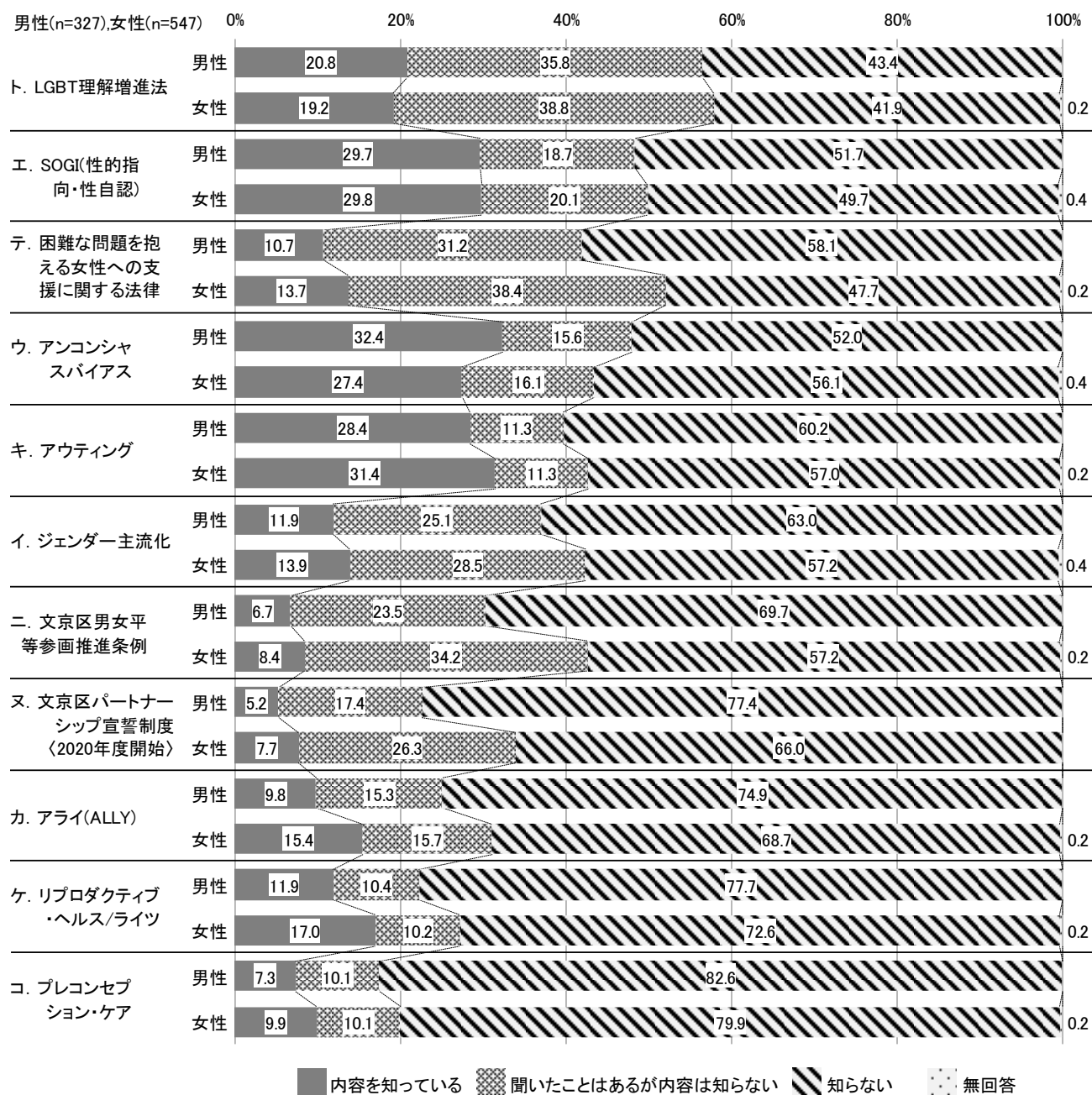
「育児・介護休業法〈2024年改正〉」又は「デートDV」について「内容を知っている」という人は、女性が男性を約10ポイント上回っている。

「デートDV」、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」、「文京区男女平等参画推進条例」、「文京区パートナーシップ宣誓制度〈2020年度開始〉」については、男性で「知らない」という人の割合が女性を約10ポイント上回っている。

図Ⅳ－２ 男女平等参画に関する用語の認知度（性別）①



図Ⅳ－２ 男女平等参画に関する用語の認知度（性別）②



問6 各場面における男女の地位の平等感

あなたは、以下の面で女性と男性が平等になっていると思いますか。ア～クのそれぞれにつき、あなたの感じ方に最も近いもの一つずつに「○」をしてください。

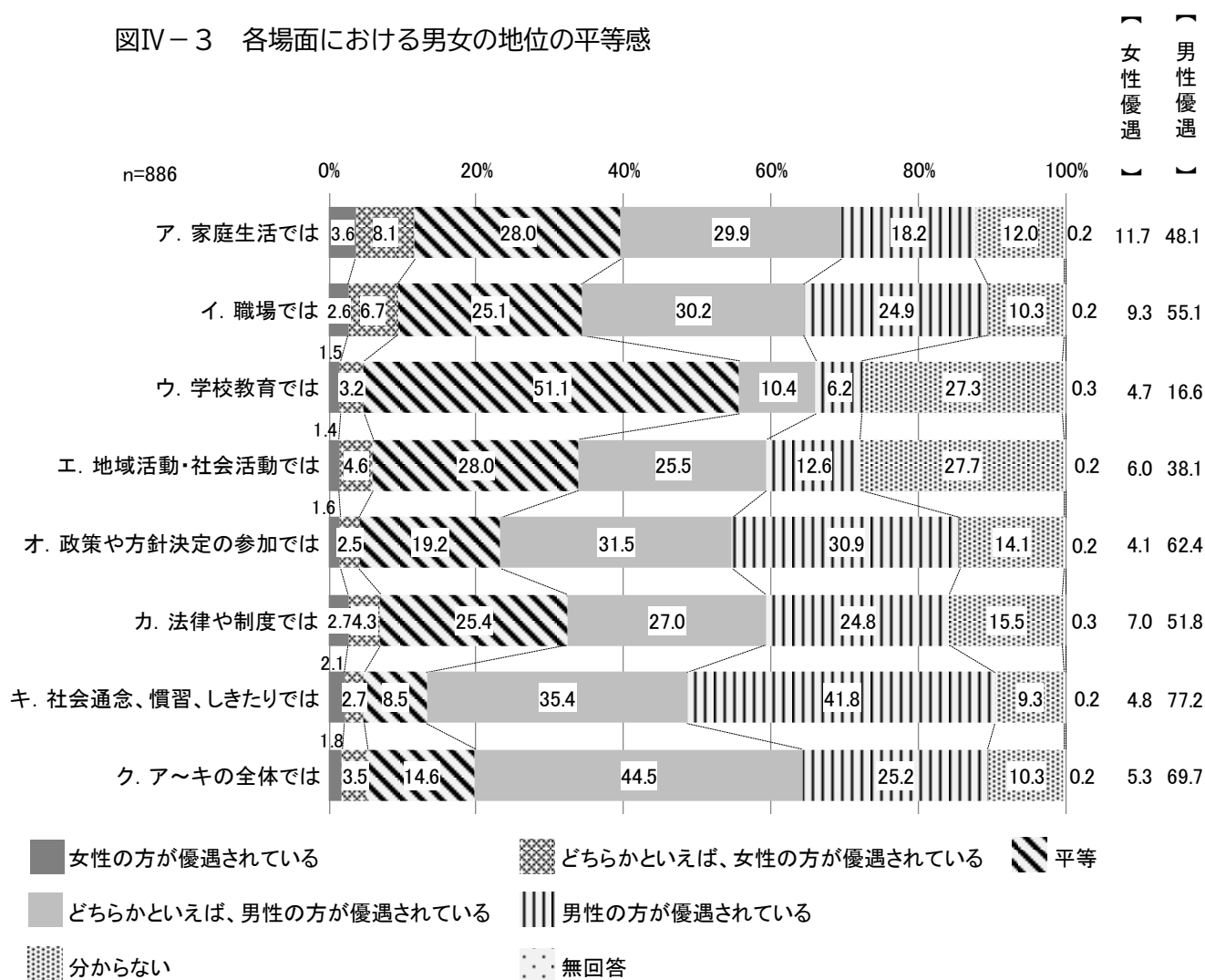
○ 全体の傾向

全体では「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計(以下、『男性優遇』)が69.7%で、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」の合計(以下、『女性優遇』)は5.3%にとどまる。

学校教育では「平等」が半数(51.1%)を占め、『男性優遇』と『女性優遇』の差も11.9ポイントと小さくなっている。

その他の場面では、『男性優遇』が『女性優遇』を30ポイント以上上回っており、特に、社会通念、慣習、しきたりについては『男性優遇』が77.2%、政策や方針決定の参加については62.4%となっている。

図IV-3 各場面における男女の地位の平等感



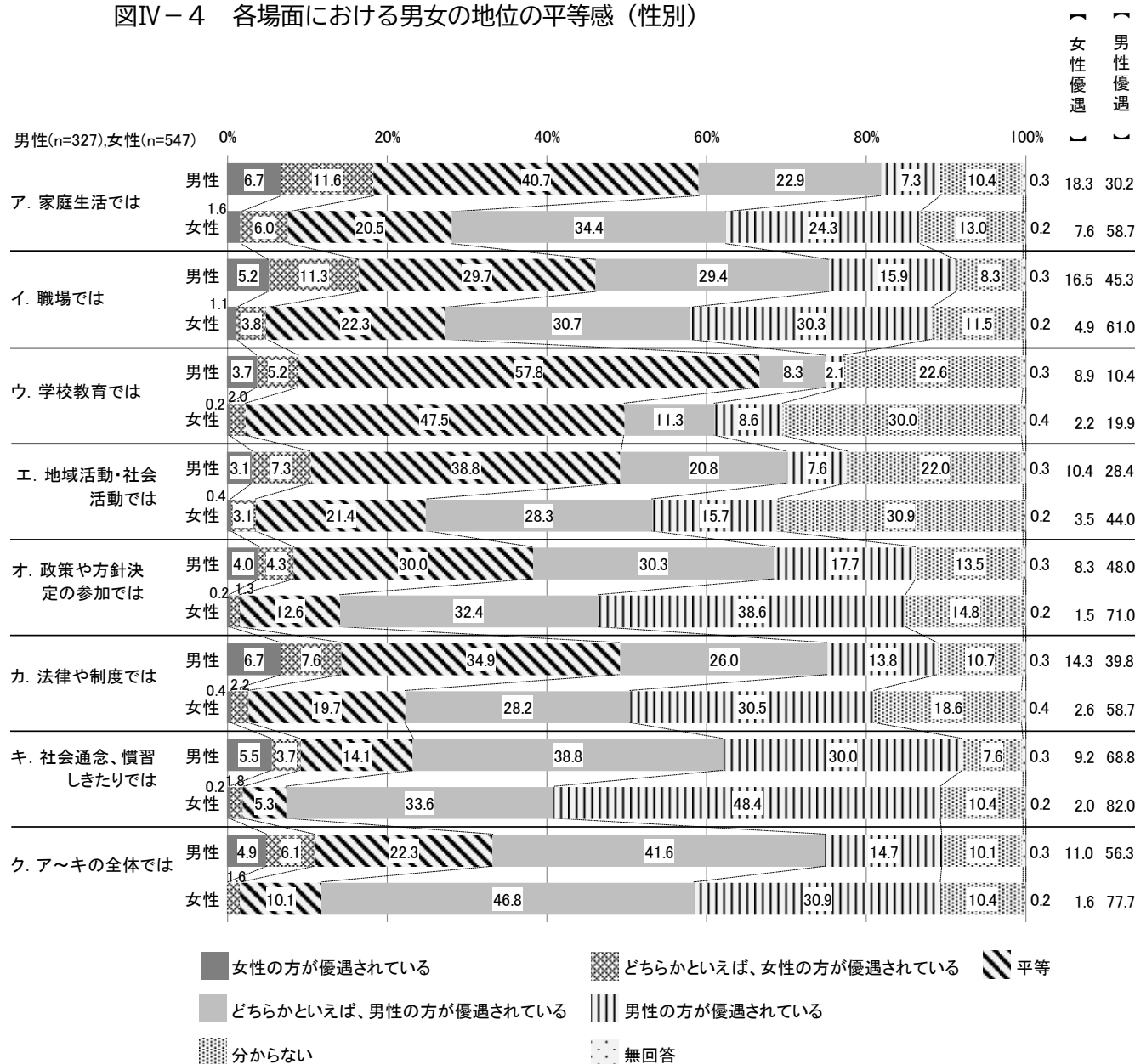
○ 性別の傾向

全体では、『男性優遇』と考える人は、男性で 56.3%、女性では 77.7%であり、21.4 ポイントの開きが見られる。

家庭生活において性別による意識の乖離が大きくなっており、『男性優遇』と考える人は男性で 30.2%、女性で 58.7%であり 28.5 ポイントの差が見られる。

そのほか、政策や方針決定の参加についても『男性優遇』と考える人は男性で 48.0%、女性で 71.0%となっており、その差は 23.0 ポイントと家庭生活に次いで乖離が大きくなっている。

図Ⅳ－４ 各場面における男女の地位の平等感（性別）



V. 就労・職場について

問7 職業

あなたは、現在、主にどのような職業等に就いていますか。【1つだけ○】

○ 全体、性・ライフステージ区別の傾向

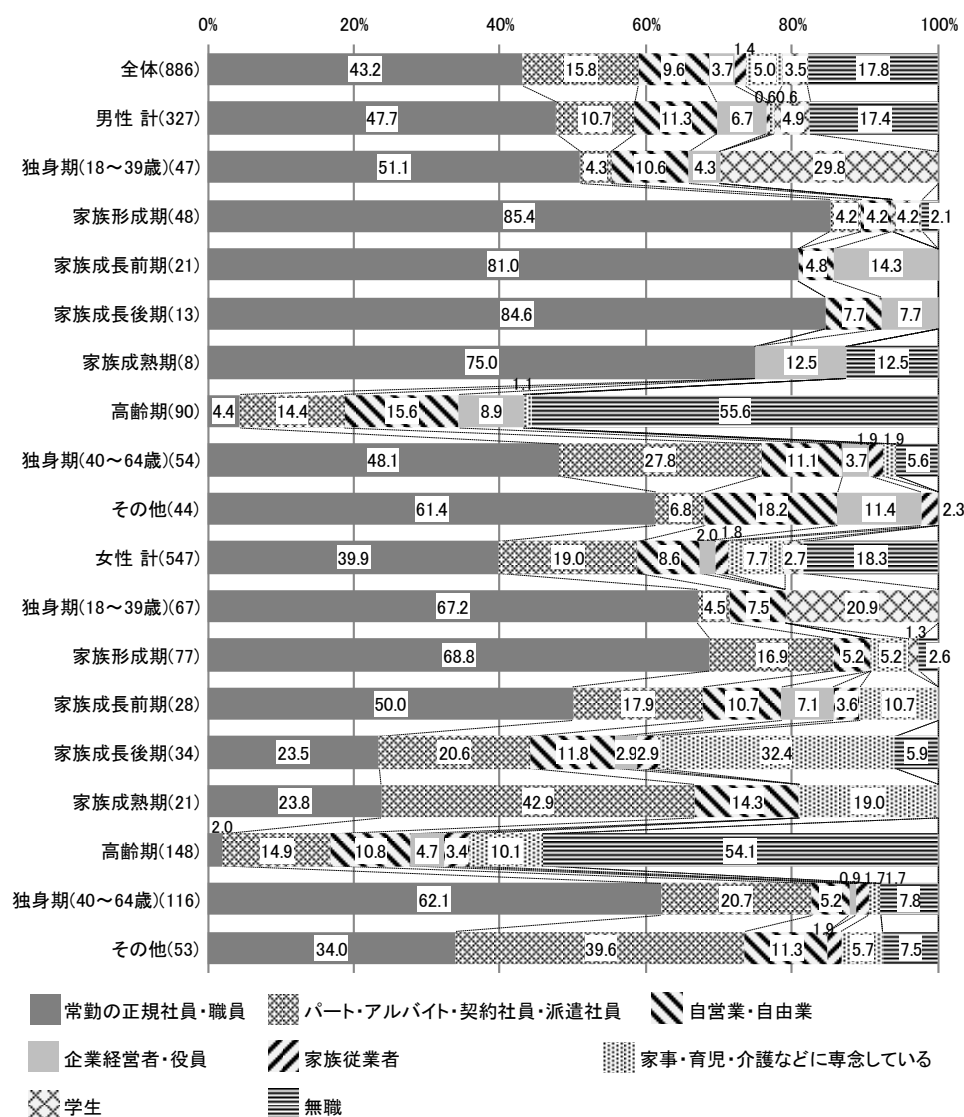
全体でみると、「常勤の正規社員・職員」が43.2%と最も多く、次いで「無職」が17.8%となっている。

性別でみると、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」は女性(19.0%)が男性(10.7%)を8.3ポイント上回っている。

性・ライフステージ区別では、男性は家族形成期から家族成熟期にかけて「常勤の正規社員・職員」が7割以上を占めている。

女性は、独身期(18～39歳)と家族成長期では「常勤の正規社員・職員」が7割を占めるが、家族成長前期以降その割合が減り、家族成長後期では「家事・育児・介護などに専念している」(32.4%)が、家族成熟期では「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」(42.9%)が最も多くなっている。

図V-1 職業（性・ライフステージ区別）



問7-1 職場における性別による待遇の格差等

【現在就業している(問7で「1」～「5」のいずれかに「○」をした)方にお聞きます。】

あなたの職場では性別により次のような待遇の格差等がありますか。

【○はいくつでも】

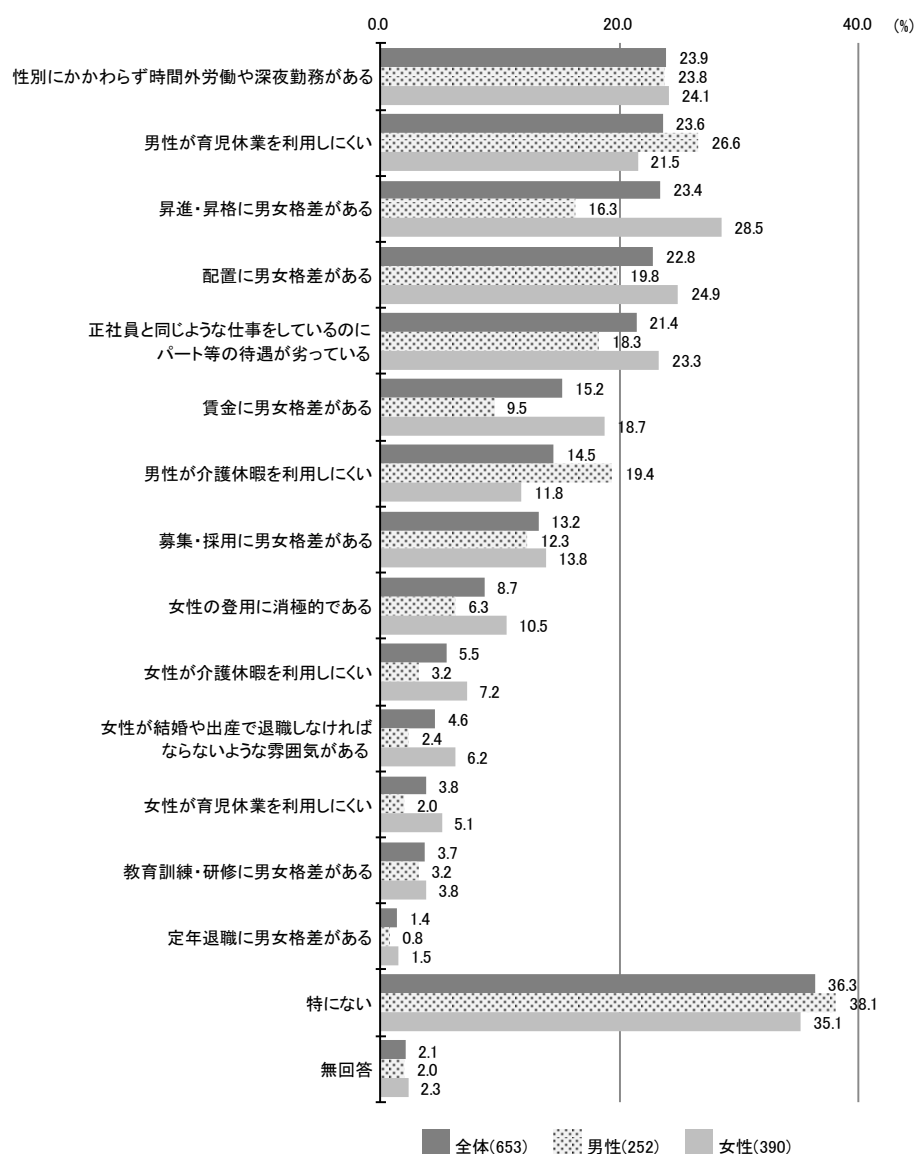
○ 全体・性別の傾向

「特にない」が36.3%で最も多い。

待遇の格差等があると感じる場合は、「性別にかかわらず時間外労働や深夜勤務がある」が23.9%で最も多い。また、「男性が育児休業を利用しにくい」(23.6%)、「昇進・昇格に男女格差がある」(23.4%)、「配置に男女格差がある」(22.8%)、「正社員と同じような仕事をしているのに、パート等の待遇が劣っている」(21.4%)が2割以上となっている。

性別で見ると、女性では「昇進・昇格に男女格差がある」が28.5%で最も多い。また、「賃金に男女格差がある」は女性で18.7%であり、男性を9.2ポイント上回る。

図V-2 職場における性別による待遇の格差等（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「特にない」は、概ね年齢が低いほど割合が低くなる傾向にあり、男性の30代、女性の10～30代では3割未満となっている。比較的若い層を中心に何らかの格差等を感じている人が多いことが分かる。

「性別にかかわらず時間外労働や深夜勤務がある」は男性の30代(38.1%)と女性の10・20代(40.5%)で4割と高くなっている。

「男性が育児休業を利用しにくい」は男性の50歳未満と女性の40歳未満で高く、特に男女共に30代で最も高くなっている。(男性38.1%、女性32.1%)

「昇進・昇格に男女格差がある」と「配置に男女格差がある」は女性の50歳未満で3割を超えている。

「正社員と同じような仕事をしているのに、パート等の待遇が劣っている」は男性の70歳以上と女性の50～60代で3割と高くなっている。

表V-1 職場における性別による待遇の格差等(性・年齢別)

		全 体	労働 別 に 深 夜 勤 務 が あ る 間 外	性 別 に か か わ ら ず 時 間 外	男 性 が 育 児 休 業 を 利 用 し て い る に よ る 差	昇 進 ・ 昇 格 に 男 女 格 差 が あ る	配 置 に 男 女 格 差 が あ る	正 社 員 と 同 じ よ う な 仕 事 を し て い る の に 、 パ ー ト 等 の 待 遇 が 劣 つ て い る	賃 金 に 男 女 格 差 が あ る	男 性 が 介 護 休 暇 を 利 用 し て い る に よ る 差	募 集 ・ 採 用 に 男 女 格 差 が あ る	女 性 の 登 用 に 消 極 的 で あ る	女 性 が 介 護 休 暇 を 利 用 し て い る に よ る 差	女 性 が 結 婚 や 出 産 で 退 職 し な け れ ば な ら な い よ う な 雰 囲 気 が あ る	女 性 が 育 児 休 業 を 利 用 し て い る に よ る 差	教 育 訓 練 ・ 研 修 に 男 女 格 差 が あ る	定 年 退 職 に 男 女 格 差 が あ る	特 に な い	無 回 答	
全 体		653 100.0	156 23.9	154 23.6	153 23.4	149 22.8	140 21.4	99 15.2	95 14.5	86 13.2	57 8.7	36 5.5	30 4.6	25 3.8	24 3.7	9 1.4	237 36.3	14 2.1		
男性	合 計	252 100.0	60 23.8	67 26.6	41 16.3	50 19.8	46 18.3	24 9.5	49 19.4	31 12.3	16 6.3	8 3.2	6 2.4	5 2.0	8 3.2	2 0.8	96 38.1	5 2.0		
	10・20代	23 100.0	7 30.4	7 30.4	2 8.7	6 26.1	5 21.7	1 4.3	5 21.7	3 13.0	2 8.7	2 8.7	1 4.3	1 4.3	2 8.7	1 4.3	8 34.8	—		
	30代	42 100.0	16 38.1	16 38.1	5 11.9	7 16.7	6 14.3	3 7.1	10 23.8	4 9.5	3 7.1	2 4.8	1 2.4	1 2.4	—	—	12 28.6	—		
	40代	62 100.0	15 24.2	18 29.0	15 24.2	13 21.0	10 16.1	4 6.5	16 25.8	7 11.3	6 9.7	1 1.6	—	1 1.6	3 4.8	—	22 35.5	1 1.6		
	50代	64 100.0	9 14.1	13 20.3	12 18.8	13 20.3	12 18.8	9 14.1	11 17.2	8 12.5	3 4.7	2 3.1	2 3.1	1 1.6	1 1.6	—	26 40.6	1 1.6		
	60代	34 100.0	9 26.5	5 14.7	2 5.9	7 20.6	5 14.7	1 2.9	2 5.9	4 11.8	1 2.9	—	—	—	—	—	17 50.0	1 2.9		
	70歳以上	27 100.0	4 14.8	8 29.6	5 18.5	4 14.8	8 29.6	6 22.2	5 18.5	5 18.5	1 3.7	1 3.7	2 7.4	1 3.7	2 7.4	1 3.7	11 40.7	2 7.4		
	合 計	390 100.0	94 24.1	84 21.5	111 28.5	97 24.9	91 23.3	73 18.7	46 11.8	54 13.8	41 10.5	28 7.2	24 6.2	20 5.1	15 3.8	6 1.5	137 35.1	9 2.3		
女性	10・20代	37 100.0	15 40.5	10 27.0	13 35.1	13 35.1	8 21.6	5 13.5	5 13.5	8 21.6	4 10.8	2 5.4	—	4 10.8	2 5.4	1 2.7	9 24.3	—		
	30代	78 100.0	23 29.5	25 32.1	26 33.3	27 34.6	15 19.2	18 23.1	15 19.2	12 15.4	11 14.1	10 12.8	12 15.4	5 6.4	2 2.6	2 2.6	20 25.6	3 3.8		
	40代	89 100.0	20 22.5	19 21.3	29 32.6	28 31.5	15 16.9	17 19.1	8 9.0	16 18.0	14 15.7	4 4.5	7 7.9	3 3.4	5 5.6	1 1.1	31 34.8	—		
	50代	97 100.0	23 23.7	20 20.6	25 25.8	22 22.7	31 32.0	18 18.6	12 12.4	11 11.3	7 7.2	6 6.2	1 1.0	5 5.2	3 3.1	1 1.0	33 34.0	2 2.1		
	60代	58 100.0	9 15.5	9 15.5	16 27.6	5 8.6	17 29.3	11 19.0	5 8.6	5 8.6	4 6.9	4 6.9	3 5.2	1 1.7	1 1.7	—	26 44.8	—		
	70歳以上	31 100.0	4 12.9	1 3.2	2 6.5	2 6.5	5 16.1	4 12.9	1 3.2	2 6.5	2 3.2	1 3.2	2 6.5	2 6.5	2 6.5	1 3.2	18 58.1	4 12.9		

「特にない」は、男女の家族形成期と女性の独身期(18～64 歳)では3割未満と低く、また、家族成長前期でも男女共に3分の1と低くなっており、この層では7～8割程度が何らかの格差等を感じていることが分かる。

「男性が育児休業を利用しにくい」は、男女共に家族形成期で最も高くなっており、特に男性では5割(51.1%)を占め、他の世代より15ポイント以上高くなっている。

「男性が介護休暇を利用しにくい」は男性の家族形成期で4割(37.8%)と高く、他の世代より14ポイント以上高くなっている。

「募集・採用に男女格差がある」は、女性の家族形成期と家族成長前期で2割以上と高くなっている。

		全 体	労働性 別に よる 差が ある	男性に よる 差が ある	女性に よる 差が ある	昇進・ 異格に よる 差が ある	配置に よる 差が ある	正社員 と同じ ような 仕事 をする のに、 パート 等の待 遇が劣 っている	賃金に よる 差が ある	男性に よる 差が ある	募集・ 採用に よる 差が ある	女性の 登用に 消極的 である	女性が 介護休 暇を利用 しにくい	女性が 結婚や 出産で退 職しない という 雰囲気 がある	女性が 結婚や 出産で退 職しない という 雰囲気 がある	女性が 育児休業 を利用し にくい	教育訓練・ 研修に よる 差が ある	定年退職 に よる 差が ある	特にな い	無回 答
	全 体	653 100.0	156 23.9	154 23.6	153 23.4	149 22.8	140 21.4	99 15.2	95 14.5	86 13.2	57 8.7	36 5.5	30 4.6	25 3.8	24 3.7	9 1.4	237 36.3	14 2.1		
男 性	合 計	252 100.0	60 23.8	67 26.6	41 16.3	50 19.8	46 18.3	24 9.5	49 19.4	31 12.3	16 6.3	8 3.2	6 2.4	5 2.0	8 3.2	2 0.8	96 38.1	5 2.0		
	独身期(18～39歳)	33 100.0	12 36.4	5 15.2	3 9.1	5 15.2	3 9.1	3 9.1	4 12.1	5 15.2	2 6.1	- -	1 3.0	- -	1 3.0	- -	13 39.4	- -		
	家族形成期	45 100.0	15 33.3	23 51.1	6 13.3	11 24.4	9 20.0	4 9.4	17 37.8	4 8.9	4 8.9	4 9.5	4 9.5	2 5.1	1 2.2	2 5.1	11 24.4	- -		
	家族成長前期	21 100.0	6 28.6	7 33.3	6 28.6	5 23.8	5 23.8	3 14.3	2 9.5	3 14.3	2 9.5	2 9.5	- -	- -	- -	- -	7 33.3	- -		
	家族成長後期	13 100.0	2 15.4	3 23.1	5 38.5	4 30.8	1 7.7	1 7.7	3 23.1	1 7.7	1 7.7	- -	1 7.7	- -	1 7.7	- -	3 23.1	1 7.7		
	家族成熟期	7 100.0	2 28.6	1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	- -	- -	1 14.3	- -	1 14.3	- -	- -	4 57.1	- -		
	高齢期	39 100.0	5 12.8	10 25.6	6 15.4	5 12.8	10 25.6	6 15.4	5 12.8	6 15.4	1 2.6	1 2.6	2 5.1	1 2.6	2 5.1	1 2.6	18 46.2	2 5.1		
	独身期(40～64歳)	50 100.0	7 14.0	11 22.0	7 14.0	6 12.0	10 20.0	3 6.0	9 18.0	6 12.0	4 8.0	- -	1 2.0	- -	1 2.0	- -	26 52.0	1 2.0		
	その他	44 100.0	11 25.0	7 15.9	7 15.9	12 27.3	6 13.6	5 11.4	8 18.2	6 13.6	3 6.8	1 2.3	1 2.3	1 2.3	2 4.5	- -	14 31.8	1 2.3		
	女 性	合 計	390 100.0	94 24.1	84 21.5	111 28.5	97 24.9	91 23.3	73 18.7	46 11.8	54 13.8	41 10.5	28 7.2	24 6.2	20 5.1	15 3.8	6 1.5	137 35.1	9 2.3	
独身期(18～39歳)		53 100.0	19 35.8	15 28.3	17 32.1	19 35.8	11 20.8	8 15.1	8 15.1	6 11.3	6 11.3	6 11.3	4 7.5	2 3.8	2 3.8	1 1.9	13 24.5	- -		
家族形成期		70 100.0	19 27.1	27 38.6	26 37.1	23 32.9	16 22.9	17 24.3	13 18.6	16 22.9	10 14.3	5 7.1	8 11.4	6 8.6	2 2.9	2 2.9	18 25.7	2 2.9		
家族成長前期		25 100.0	3 12.0	2 8.0	4 16.0	8 32.0	5 20.0	3 12.0	3 12.0	3 12.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	- -	8 32.0	- -		
家族成長後期		21 100.0	3 14.3	4 19.0	6 28.6	6 28.6	4 19.0	3 14.3	3 14.3	3 14.3	1 4.8	1 4.8	- -	- -	- -	- -	10 47.6	- -		
家族成熟期		17 100.0	2 11.8	5 29.4	3 17.6	2 11.8	6 35.3	4 23.5	3 17.6	3 17.6	2 11.8	2 11.8	- -	2 11.8	1 5.9	1 5.9	7 41.2	2 11.8		
高齢期		53 100.0	6 11.3	3 5.7	5 9.4	3 5.7	9 17.0	7 13.2	3 5.7	4 7.5</										

問7-2 職場における働き方改革（勤務形態や取組）の現状と今後

【現在就業している(問7で「1」～「5」のいずれかに「○」をした)方にお聞きします。】

次の勤務形態や取組のうち、あなたの職場で現在行われているものはありますか。また、今後行ってほしいものはありますか。

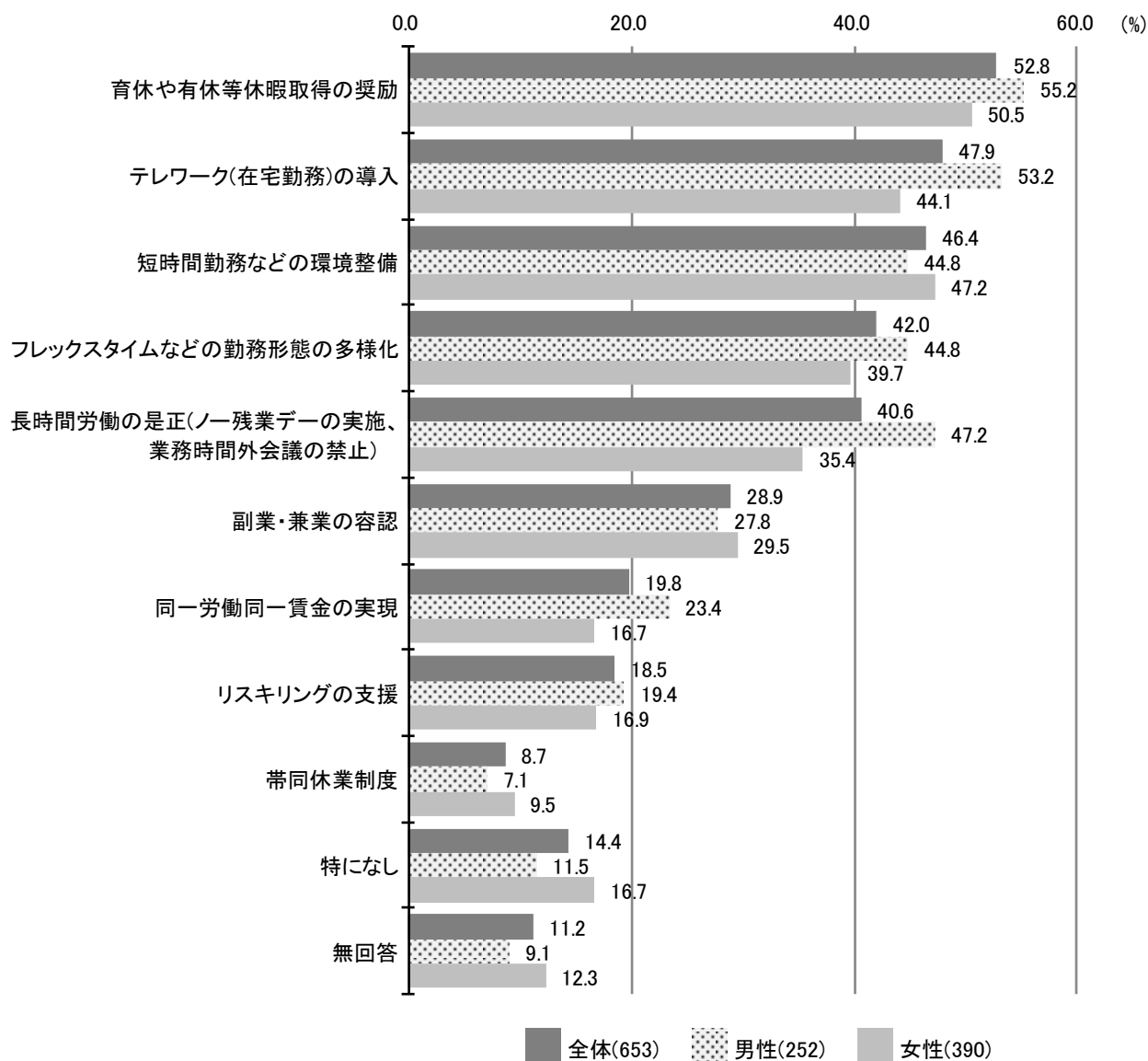
① 現在行われているもの【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

現在行われているものとしては、「育休や有休等休暇取得の奨励」が52.8%で最も多く、次いで、「テレワーク(在宅勤務)の導入」(47.9%)、「短時間勤務などの環境整備」(46.4%)となっている。

性別で見ると、「長時間労働の是正(ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止)」は男性では47.2%となっており、女性を10ポイント以上上回っている。

図V-3 職場において現在行われている働き方改革の取組（性別）

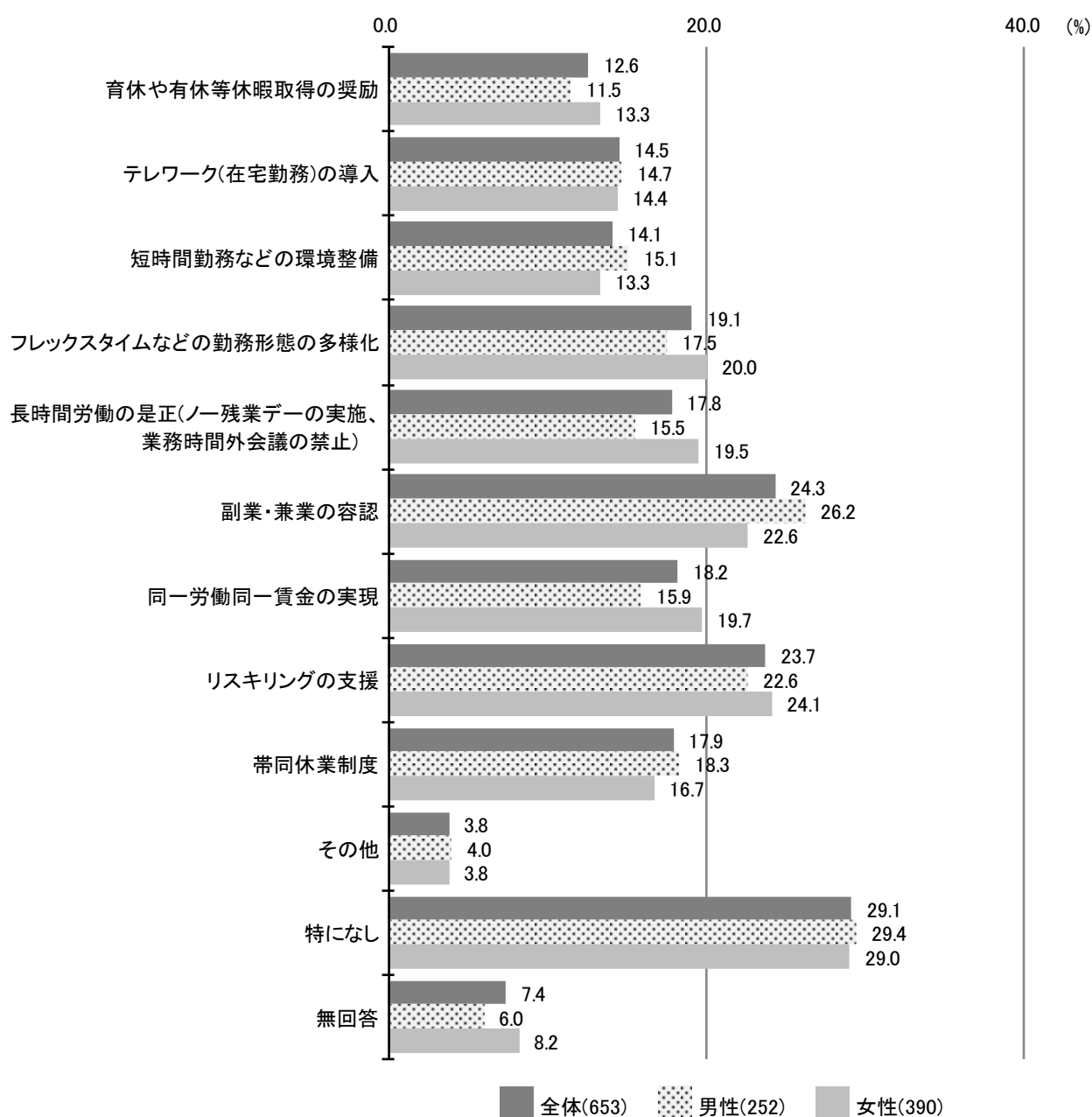


② 今後行ってほしいもの【〇はいくつでも】

○ 全体の傾向

今後行ってほしいものとしては、「副業・兼業の容認」が 24.3%、「リスクリングの支援」が 23.7%となっている。また、「特になし」という人も3割(29.1%)となっている。

図V-4 職場において今後行ってほしい働き方改革の取組（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「特になし」は、男性の 50 歳未満で1～2割、女性の 60 歳未満で2～3割と低くなっており、この世代では7～9割の人の何らかの希望する取組があることが分かる。

「副業・兼業の容認」は、男性では年齢が低くなるほど希望する割合が増えており、10・20 代では52.2%となっている。女性では60 歳未満で2割以上となっており、特に30 代で29.5%と最も高い。

「長時間労働の是正(ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止)」は、男性の 30 代(28.6%)、女性の10・20 代(35.1%)で他の世代よりも9ポイント以上高くなっている。

また、男性の10・20 代では、「帯同休業制度」(47.8%)や「短時間勤務などの環境整備」(34.8%)を希望する人の割合が他の世代に比べて非常に高くなっている。

表V-3 職場において今後行ってほしい働き方改革の取組(性・年齢別)

		全 体	奨 励 休 や 有 休 等 休 暇 取 得 の	テ レ ワ ー ク （ 在 宅 勤 務 ）	備 短 時 間 勤 務 な ど の 環 境 整	勤 務 形 態 の 多 様 化	フ レ ッ ク ス タ イ ム な ど の	間 外 会 議 の 禁 止 （	残 業 デ ー の 実 施 、 業 務 時	長 時 間 勤 務 の 是 正 （ ノ ー	副 業 ・ 兼 業 の 容 認	同 一 勤 務 同 一 賃 金 の 実 現	リ ス キ リ ン グ の 支 援	帯 同 休 業 制 度	そ の 他	特 に な し	無 回 答
全 体		653 100.0	82 12.6	95 14.5	92 14.1	125 19.1	116 17.8	159 24.3	119 18.2	155 23.7	117 17.9	25 3.8	190 29.1	48 7.4			
男性	合 計	252 100.0	29 11.5	37 14.7	38 15.1	44 17.5	39 15.5	66 26.2	40 15.9	57 22.6	46 18.3	10 4.0	74 29.4	15 6.0			
	10・20代	23 100.0	3 13.0	5 21.7	8 34.8	5 21.7	4 17.4	12 52.2	4 17.4	5 21.7	11 47.8	－ －	4 17.4	1 4.3			
	30代	42 100.0	8 19.0	6 14.3	9 21.4	11 26.2	12 28.6	15 35.7	5 11.9	10 23.8	7 16.7	4 9.5	5 11.9	－ －			
	40代	62 100.0	7 11.3	10 16.1	6 9.7	11 17.7	12 19.4	19 30.6	15 24.2	17 27.4	12 19.4	5 8.1	13 21.0	2 3.2			
	50代	64 100.0	6 9.4	9 14.1	6 9.4	10 15.6	4 6.3	14 21.9	8 12.5	13 20.3	8 12.5	－ －	26 40.6	4 6.3			
	60代	34 100.0	1 2.9	5 14.7	4 11.8	5 14.7	3 8.8	3 8.8	4 11.8	5 14.7	3 8.8	1 2.9	14 41.2	4 11.8			
	70歳以上	27 100.0	4 14.8	2 7.4	5 18.5	2 7.4	4 14.8	3 11.1	4 14.8	7 25.9	5 18.5	－ －	12 44.4	4 14.8			
	女性	合 計	390 100.0	52 13.3	56 14.4	52 13.3	78 20.0	76 19.5	88 22.6	77 19.7	94 24.1	65 16.7	15 3.8	113 29.0	32 8.2		
10・20代		37 100.0	8 21.6	5 13.5	3 8.1	6 16.2	13 35.1	8 21.6	6 16.2	7 18.9	9 24.3	2 5.4	9 24.3	1 2.7			
30代		78 100.0	14 17.9	13 16.7	13 16.7	18 23.1	20 25.6	23 29.5	13 16.7	25 32.1	15 19.2	6 7.7	16 20.5	4 5.1			
40代		89 100.0	11 12.4	15 16.9	10 11.2	21 23.6	19 21.3	23 25.8	23 25.8	21 23.6	14 15.7	3 3.4	26 29.2	4 4.5			
50代		97 100.0	10 10.3	12 12.4	16 16.5	19 19.6	15 15.5	23 23.7	23 23.7	30 30.9	17 17.5	4 4.1	26 26.8	3 3.1			
60代		58 100.0	7 12.1	9 15.5	7 12.1	12 20.7	4 6.9	8 13.8	7 12.1	9 15.5	8 13.8	－ －	24 41.4	11 19.0			
70歳以上		31 100.0	2 6.5	2 6.5	3 9.7	2 6.5	5 16.1	3 9.7	5 16.1	2 6.5	2 6.5	－ －	12 38.7	9 29.0			

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「特になし」は、男性の家族形成期では 8.9%となっており、9割の人に働き方改革に係る何らかの要望がある。

「帯同休業制度」は、男性では家族形成期で 28.9%と最も高く、女性では独身期(18～39歳)で 26.4%と最も高くなってる。

「フレックスタイムなどの勤務形態の多様化」は、男性では家族形成期で 28.9%と最も高く、また、独身期(40～64 歳)でも 24.0%と高くなってる。女性では、家族形成期～家族成長後期と独身期(40～64歳)で 25%程度と高くなっている。

「長時間労働の是正(ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止)」は、男性の家族形成期と女性の独身期(18～39 歳)で高く、特に女性は 37.7%と他の世代を14 ポイント以上上回っている。

表V-4 職場において今後行ってほしい働き方改革の取組(性・ライフステージ区分別)

		全 体	奨 励 育 休 や 有 休 等 休 暇 取 得 の	テ レ ワ ー ク （ 在 宅 勤 務 ） の 導 入	備 短 時 間 勤 務 な ど の 環 境 整	勤 務 形 態 の 多 様 化	フ レ ク ス タ イ ム な ど の	間 外 会 議 の 禁 止 ）	残 業 デ ー の 実 施 、 業 務 時	長 時 間 勤 務 の 是 正 （ ノ ー	副 業 ・ 兼 業 の 容 認	同 一 勤 務 同 一 賃 金 の 実 現	リ ス キ リ ン グ の 支 援	帯 同 休 業 制 度	そ の 他	特 に な し	無 回 答
全 体		653 100.0	82 12.6	95 14.5	92 14.1	125 19.1	116 17.8	159 24.3	119 18.2	155 23.7	117 17.9	25 3.8	190 29.1	48 7.4			
男 性	合 計	252 100.0	29 11.5	37 14.7	38 15.1	44 17.5	39 15.5	66 26.2	40 15.9	57 22.6	46 18.3	10 4.0	74 29.4	15 6.0			
	独身期(18～39歳)	33 100.0	4 12.1	4 12.1	9 27.3	7 21.2	6 18.2	12 36.4	3 9.1	7 21.2	7 21.2	2 6.1	7 21.2	1 3.0			
	家族形成期	45 100.0	8 17.8	11 24.4	8 17.8	13 28.9	12 26.7	19 42.2	7 15.6	10 22.2	13 28.9	2 4.4	4 8.9	－			
	家族成長前期	21 100.0	－	1 4.8	1 4.8	2 9.5	4 19.0	4 19.0	4 19.0	3 14.3	2 9.5	1 4.8	10 47.6	－			
	家族成長後期	13 100.0	1 7.7	1 7.7	1 7.7	－	1 7.7	5 38.5	2 15.4	2 15.4	2 15.4	－	4 30.8	1 7.7			
	家族成熟期	7 100.0	－	－	－	－	－	3 42.9	1 14.3	3 42.9	2 28.6	－	2 28.6	1 14.3			
	高齢期	39 100.0	4 10.3	3 7.7	6 15.4	2 5.1	5 12.8	3 7.7	5 12.8	8 20.5	5 12.8	－	19 48.7	5 12.8			
	独身期(40～64歳)	50 100.0	9 18.0	9 18.0	7 14.0	12 24.0	4 8.0	11 22.0	10 20.0	14 28.0	6 12.0	4 8.0	15 30.0	2 4.0			
	その他	44 100.0	3 6.8	8 18.2	6 13.6	8 18.2	7 15.9	9 20.5	8 18.2	10 22.7	9 20.5	1 2.3	13 29.5	5 11.4			
	女 性	合 計	390 100.0	52 13.3	56 14.4	52 13.3	78 20.0	76 19.5	88 22.6	77 19.7	94 24.1	65 16.7	15 3.8	113 29.0	32 8.2		
		独身期(18～39歳)	53 100.0	11 20.8	6 11.3	7 13.2	8 15.1	20 37.7	15 28.3	9 17.0	15 28.3	14 26.4	2 3.8	9 17.0	2 3.8		
		家族形成期	70 100.0	11 15.7	13 18.6	9 12.9	18 25.7	16 22.9	18 25.7	16 22.9	18 25.7	12 17.1	7 10.0	17 24.3	3 4.3		
家族成長前期		25 100.0	4 16.0	3 12.0	4 16.0	6 24.0	5 20.0	6 24.0	3 12.0	4 16.0	4 16.0	－	6 24.0	2 8.0			
家族成長後期		21 100.0	3 14.3	4 19.0	3 14.3	5 23.8	3 14.3	5 23.8	5 23.8	3 14.3	3 14.3	－	8 38.1	－			
家族成熟期		17 100.0	1 5.9	4 23.5	2 11.8	3 17.6	2 11.8	－	3 17.6	6 35.3	2 11.8	－	4 23.5	2 11.8			
高齢期		53 100.0	4 7.5	7 13.2	4 7.5	7 13.2	5 9.4	4 7.5	7 13.2	6 11.3	6 11.3	－	24 45.3	13 24.5			
独身期(40～64歳)		105 100.0	16 15.2	14 13.3	19 18.1	26 24.8	20 19.0	29 27.6	29 27.6	32 30.5	15 14.3	5 4.8	28 26.7	8 7.6			
その他		46 100.0	2 4.3	5 10.9	4 8.7	5 10.9	5 10.9	11 23.9	5 10.9	10 21.7	9 19.6	1 2.2	17 37.0	2 4.3			

問7-3 働いていない理由

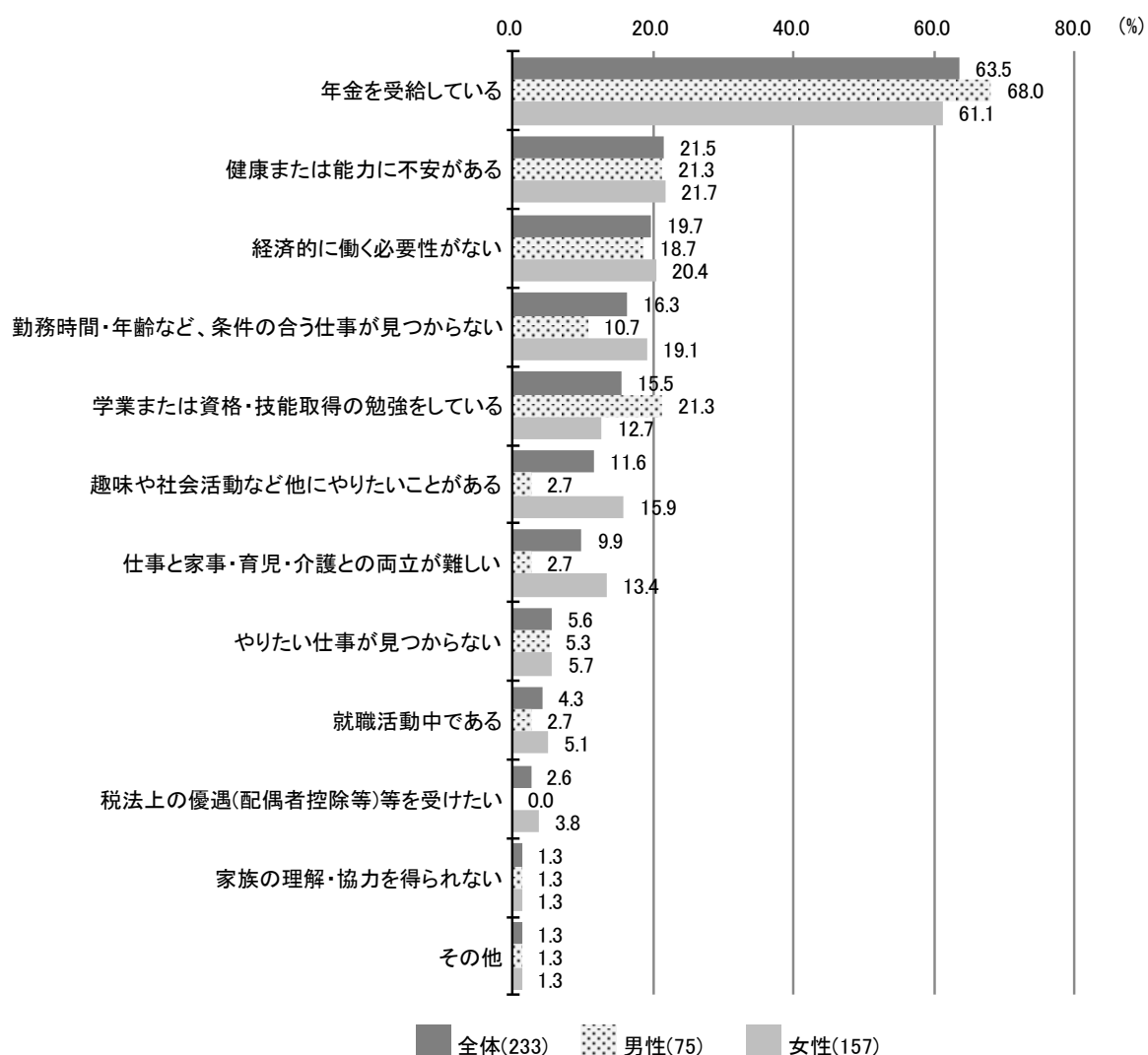
【現在就業していない(問7で「6」～「9」のいずれかに「○」をした)方にお聞きます。】
 あなたが働いていない理由は、どのようなことですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「年金を受給している」が、63.5%を占め最も多い。次いで、「健康または能力に不安がある」(21.5%)、「経済的に働く必要性がない」(19.7%)が2割となっている。

性別で見ると、「趣味や社会活動など他にやりたいことがある」と「仕事と家事・育児・介護との両立が難しい」を挙げた人は女性では1割以上となっているが、男性ではそれぞれ 2.7%にとどまっている。

図V-5 働いていない理由（性別）



○ 年齢別の傾向

30～50代では、「仕事と家事・育児・介護との両立が難しい」が5割を占め、最も多く、次いで、「勤務時間・年齢など、条件の合う仕事が見つからない」が4割、「健康または能力に不安がある」が3割、「経済的に働く必要性がない」が2割で続いている。

60代では、6割が「年金を受給している」であり、また、3人に1人が「健康または能力に不安がある」となっている。

70歳以上では「年金を受給している」が、10・20代では「学業または資格・技能取得の勉強をしている」が9割以上を占める。

表V-5 働いていない理由（年齢別）

	全 体	年金を受給している	健康または能力に不安がある	経済的に働く必要性がない	条件の合う仕事が見つからない	勤務時間・年齢など、取得の勉強をしている	学業または資格・技能	趣味や社会活動など他にやりたいことがある	仕事と家事・育児・介護との両立が難しい	やりたい仕事が見つからない	就職活動中である	税法上の優遇（配偶者控除等）を受けたい	家族の理解・協力を得られない	その他
全 体	233 100.0	148 63.5	50 21.5	46 19.7	38 16.3	36 15.5	27 11.6	23 9.9	13 5.6	10 4.3	6 2.6	3 1.3	3 1.3	
10・20代	31 100.0	－ －	2 6.5	－ －	2 6.5	30 96.8	1 3.2	1 3.2	1 3.2	4 12.9	1 3.2	－ －	－ －	
30～50代	32 100.0	2 6.3	10 31.3	7 21.9	13 40.6	2 6.3	4 12.5	16 50.0	3 9.4	3 9.4	2 6.3	2 6.3	3 9.4	
60代	40 100.0	24 60.0	13 32.5	9 22.5	7 17.5	2 5.0	8 20.0	4 10.0	4 10.0	2 5.0	3 7.5	－ －	－ －	
70歳以上	125 100.0	118 94.4	24 19.2	30 24.0	15 12.0	1 0.8	14 11.2	2 1.6	4 3.2	－ －	－ －	1 0.8	－ －	

問8 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと

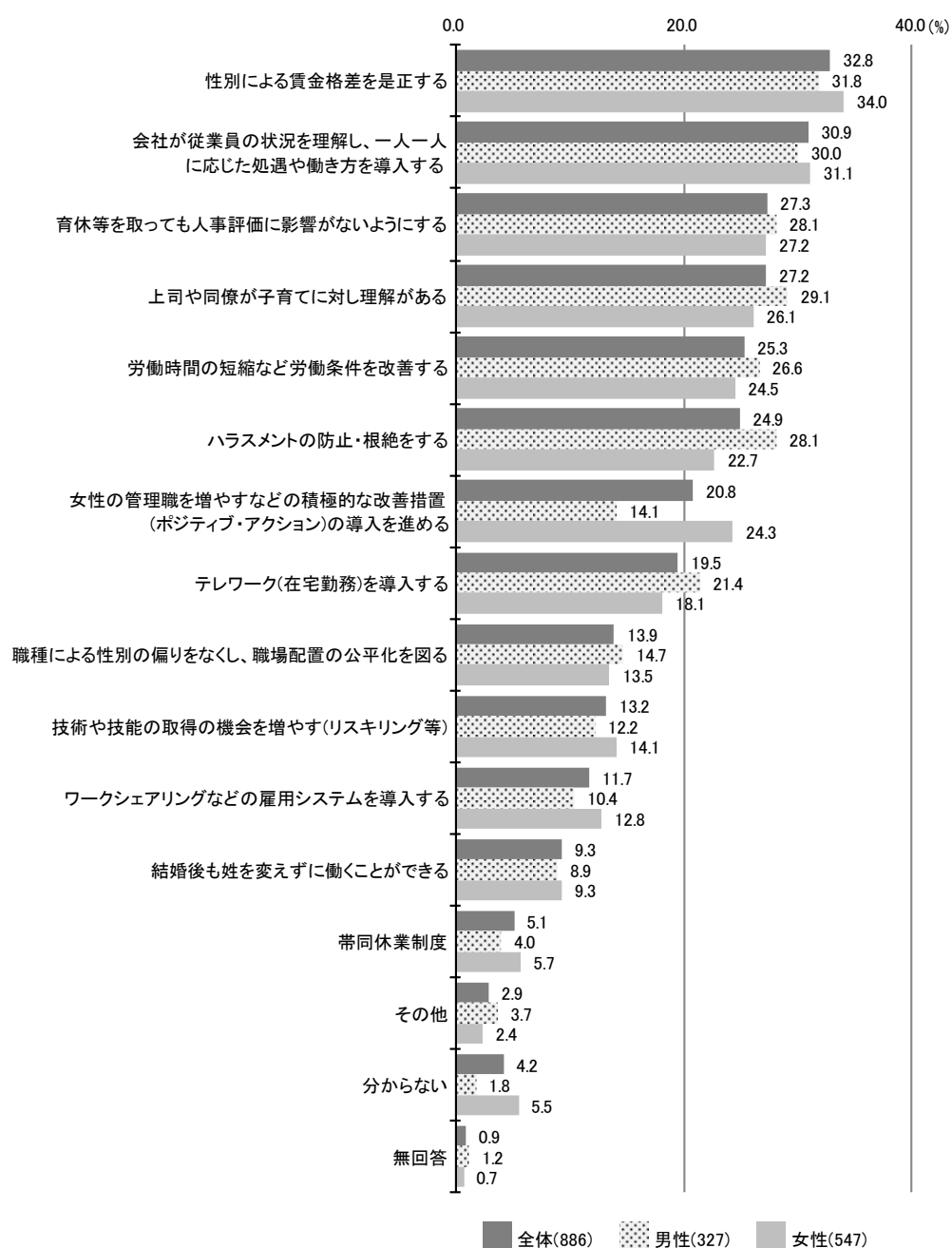
あなたは、性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために、どのようなことが重要だと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「性別による賃金格差を是正する」が32.8%で最も多く、次いで、「会社が従業員の状況を理解し、一人一人に応じた処遇や働き方を導入する」(30.9%)、「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」(27.3%)、「上司や同僚が子育てに対し理解がある」(27.2%)となっている。

性別で見ると、「女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)の導入を進める」は女性では24.3%であり、男性(14.1%)を大きく上回っている。

図V-6 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと(性別)



○ 性・年齢別の傾向

「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」は、10・20代で男性 44.7%、女性 56.6%となっており他の世代が3割未満であるのに比して非常に高くなっている。

「上司や同僚が子育てに対し理解がある」は男女共に 50歳未満で3割以上と高くなっており、特に男性の10・20代では 44.7%となっている。

「労働時間の短縮など労働条件を改善する」は、男女共に 30～40代で3割以上と高い。

「女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)の導入を進める」は、女性の10・20代で 39.6%となっており、他の世代を10ポイント以上上回っている。

表V-6 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと(性・年齢別)

		全 体	性別による賃金格差を是正する	一人ひとりに応じた処遇や働き方を導入する	会社が従業員の状況を理解し、育休等を取っても人事評価に影響がないようにする	上司や同僚が子育てに対し理解がある	労働時間の短縮など労働条件を改善する	ハラスメントの防止・根絶をする	女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置（ポジティブ・アクション）の導入を進める	テレワーク（在宅勤務）を導入する	職種による性別の偏りをなくし、職場配置の公平化を図る	技術や技能の取得の機会を増やす（リスキリング等）	ワークシェアリングなどの雇用システムを導入する	結婚後も姓を変えずに働くことができる	帯同休業制度	その他	分からない	無回答
全 体		886 100.0	291 32.8	274 30.9	242 27.3	241 27.2	224 25.3	221 24.9	184 20.8	173 19.5	123 13.9	117 13.2	104 11.7	82 9.3	45 5.1	26 2.9	37 4.2	8 0.9
男性	合 計	327 100.0	104 31.8	98 30.0	92 28.1	95 29.1	87 26.6	92 28.1	46 14.1	70 21.4	48 14.7	40 12.2	34 10.4	29 8.9	13 4.0	12 3.7	6 1.8	4 1.2
	10・20代	38 100.0	10 26.3	6 15.8	17 44.7	17 44.7	11 28.9	12 31.6	5 13.2	12 31.6	3 7.9	4 10.5	2 5.3	3 7.9	3 7.9	－	－	－
	30代	44 100.0	4 9.1	14 31.8	12 27.3	14 31.8	15 34.1	10 22.7	1 2.3	16 36.4	7 15.9	6 13.6	4 9.1	3 6.8	3 6.8	4 9.1	2 4.5	－
	40代	63 100.0	11 17.5	25 39.7	18 28.6	24 38.1	20 31.7	20 31.7	8 12.7	12 19.0	7 11.1	8 12.7	5 7.9	3 4.8	3 4.8	4 6.3	－	－
	50代	67 100.0	29 43.3	19 28.4	13 19.4	15 22.4	16 23.9	24 35.8	9 13.4	11 16.4	11 16.4	13 19.4	9 13.4	7 10.4	3 4.5	3 4.5	2 3.0	－
	60代	41 100.0	10 24.4	15 36.6	10 24.4	11 26.8	11 26.8	12 29.3	10 24.4	10 24.4	6 14.6	4 9.8	7 17.1	2 4.9	－	－	1 2.4	－
	70歳以上	72 100.0	40 55.6	19 26.4	21 29.2	14 19.4	14 19.4	14 19.4	13 18.1	8 11.1	13 18.1	5 6.9	7 9.7	11 15.3	1 1.4	1 1.4	1 1.4	4 5.6
	合 計	547 100.0	186 34.0	170 31.1	149 27.2	143 26.1	134 24.5	124 22.7	133 24.3	99 18.1	74 13.5	77 14.1	70 12.8	51 9.3	31 5.7	13 2.4	30 5.5	4 0.7
	10・20代	53 100.0	13 24.5	12 22.6	30 56.6	19 35.8	12 22.6	14 26.4	21 39.6	13 24.5	5 9.4	6 11.3	10 18.9	5 9.4	2 3.8	1 1.9	－	－
30代	79 100.0	17 21.5	25 31.6	21 26.6	26 32.9	28 35.4	19 24.1	19 24.1	22 27.8	10 12.7	12 15.2	10 12.7	4 12.7	4 5.1	4 5.1	3 3.8	－	
女性	40代	102 100.0	28 27.5	38 37.3	27 26.5	36 35.3	35 34.3	13 12.7	23 22.5	25 24.5	12 11.8	14 13.7	14 13.7	9 8.8	8 7.8	3 2.9	4 3.9	－
	50代	109 100.0	34 31.2	39 35.8	22 20.2	26 23.9	23 21.1	29 26.6	30 27.5	17 15.6	13 11.9	11 10.1	14 12.8	10 9.2	7 6.4	1 0.9	6 5.5	－
	60代	91 100.0	37 40.7	30 33.0	27 29.7	20 22.0	17 18.7	23 25.3	19 20.9	8 8.8	13 14.3	17 18.7	13 14.3	5 5.5	5 5.5	1 1.1	5 5.5	－
	70歳以上	110 100.0	55 50.0	25 22.7	22 20.0	15 13.6	17 15.5	24 21.8	21 19.1	14 12.7	19 17.3	17 15.5	9 8.2	12 10.9	5 4.5	3 2.7	12 10.9	4 3.6
	合 計	110 100.0	55 50.0	25 22.7	22 20.0	15 13.6	17 15.5	24 21.8	21 19.1	14 12.7	19 17.3	17 15.5	9 8.2	12 10.9	5 4.5	3 2.7	12 10.9	4 3.6

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」は、男性では家族形成期で、女性では独身期(18～39 歳)と家族成熟期で4割程度と高くなっている。

「上司や同僚が子育てに対し理解がある」は、男性の家族形成期と女性の家族成長前期で過半数となっており非常に高くなっている。

「労働時間の短縮など労働条件を改善する」は、男女共に家族形成期で4割と高くなっている。

「女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)の導入を進める」は、女性の独身期(18～39 歳)で4割(40.3%)と高くなっている。

表V-7 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと
(性・ライフステージ区分別)

				性別による賃金格差を是正する	一人一人に応じた処遇や働き方を導入する	会社が従業員の状況を理解し、一人一人に合った働き方を導入する	育休等を取っても人事評価に影響がないようにする	上司や同僚が子育てに対し理解がある	労働時間の短縮など労働条件を改善する	ハラスメントの防止・根絶をする	極的な改善措置（ポジティブ・アクション）の導入を進める	女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置（ポジティブ・アクション）の導入を進める	テレワーク（在宅勤務）を導入する	職種による性別の偏りをなくし、職場配置の公平化を図る	技術や技能の取得の機会を増やす（リスキリング等）	システムを導入する	ワークシェアリングなどの雇用システムを導入する	結婚後も姓を変えずに働くことができる	帯同休業制度	その他	分からない	無回答	
全 体		886 100.0	291 32.8	274 30.9	242 27.3	241 27.2	224 25.3	221 24.9	184 20.8	173 19.5	123 13.9	117 13.2	104 11.7	82 9.3	45 5.1	26 2.9	37 4.2	8 0.9					
男性	合 計	327 100.0	104 31.8	98 30.0	92 28.1	95 29.1	87 26.6	92 28.1	46 14.1	70 21.4	48 14.7	40 12.2	34 10.4	29 8.9	13 4.0	12 3.7	6 1.8	4 1.2					
	独身期(18～39歳)	47 100.0	7 14.9	12 25.5	16 34.0	13 27.7	12 25.5	16 34.0	3 6.4	15 31.9	5 10.6	8 17.0	6 12.8	4 8.5	4 8.5	1 2.1	2 4.3	-					
	家族形成期	48 100.0	9 18.8	13 27.1	20 41.7	26 54.2	18 37.5	7 14.6	4 8.3	16 33.3	6 12.5	2 4.2	1 2.1	3 6.3	2 4.2	3 6.3	-	-					
	家族成長前期	21 100.0	4 19.0	9 42.9	7 33.3	7 33.3	5 23.8	7 33.3	4 19.0	3 14.3	2 9.5	4 19.0	2 9.5	1 4.8	1 4.8	2 9.5	-	-					
	家族成長後期	13 100.0	2 15.4	4 30.8	3 23.1	4 30.8	5 38.5	4 30.8	3 23.1	4 30.8	1 7.7	3 23.1	2 15.4	-	-	1 7.7	-	-					
	家族成熟期	8 100.0	1 12.5	-	3 37.5	4 50.0	-	3 37.5	1 12.5	2 25.0	-	2 25.0	-	2 25.0	1 12.5	-	-	-					
	高齢期	90 100.0	44 48.9	25 27.8	25 27.8	18 20.0	20 22.2	19 21.1	15 16.7	11 12.2	16 17.8	9 10.0	11 12.2	12 13.3	1 1.1	1 1.1	2 2.2	4 4.4					
	独身期(40～64歳)	54 100.0	17 31.5	18 33.3	4 7.4	11 20.4	15 27.8	22 40.7	7 13.0	11 20.4	9 16.7	7 13.0	6 11.1	4 7.4	2 3.7	3 5.6	2 3.7	-					
	その他	44 100.0	20 45.5	17 38.6	13 29.5	12 27.3	12 27.3	14 31.8	9 20.5	7 15.9	8 18.2	5 11.4	6 13.6	3 6.8	2 4.5	1 2.3	-	-					
	女性	合 計	547 100.0	186 34.0	170 31.1	149 27.2	143 26.1	134 24.5	124 22.7	133 24.3	99 18.1	74 13.5	77 14.1	70 12.8	51 9.3	31 5.7	13 2.4	30 5.5	4 0.7				
		独身期(18～39歳)	67 100.0	16 23.9	19 28.4	29 43.3	22 32.8	19 28.4	18 26.9	27 40.3	11 16.4	8 11.9	9 13.4	10 14.9	6 9.0	1 1.5	1 1.5	2 3.0	-				
		家族形成期	77 100.0	16 20.8	22 28.6	27 35.1	31 40.3	17 22.1	17 22.1	16 20.8	28 36.4	8 10.4	7 9.1	12 15.6	9 11.7	6 7.8	5 6.5	-	-				
家族成長前期		28 100.0	9 32.1	9 32.1	6 21.4	16 57.1	7 25.0	3 10.7	3 10.7	6 21.4	1 3.6	4 14.3	4 14.3	2 7.1	1 3.6	-	2 7.1	-					
家族成長後期		34 100.0	7 20.6	7 20.6	10 29.4	13 38.2	9 26.5	6 17.6	8 23.5	3 8.8	6 17.6	5 14.7	6 17.6	-	5 14.7	-	3 8.8	-					
家族成熟期		21 100.0	6 28.6	5 23.8	9 42.9	8 38.1	4 19.0	8 38.1	7 33.3	2 9.5	2 9.5	3 14.3	4 19.0	2 9.5	2 9.5	-	-	-					
高齢期		148 100.0	71 48.0	37 25.0	37 25.0	23 15.5	25 16.9	31 20.9	30 20.3	17 11.5	23 15.5	25 16.9	14 9.5	13 8.8	8 5.4	4 2.7	14 9.5	4 2.7					
独身期(40～64歳)		116 100.0	44 37.9	49 42.2	19 16.4	20 17.2	26 22.4	22 19.0	30 25.9	23 19.8	16 13.8	18 15.5	16 13.8	13 11.2	5 4.3	3 2.6	7 6.0	-					
その他		53 100.0	15 28.3	21 39.6	12 22.6	9 17.0	11 20.8	17 32.1	12 22.6	9 17.0	8 15.1	6 11.3	4 7.5	6 11.3	3 5.7	-	2 3.8	-					

VI. 女性の活躍について

問9 女性が働き続けることに対する意識

あなたは、女性が仕事を持って働き続けることについて、どのように感じていますか。

【3つまで○】

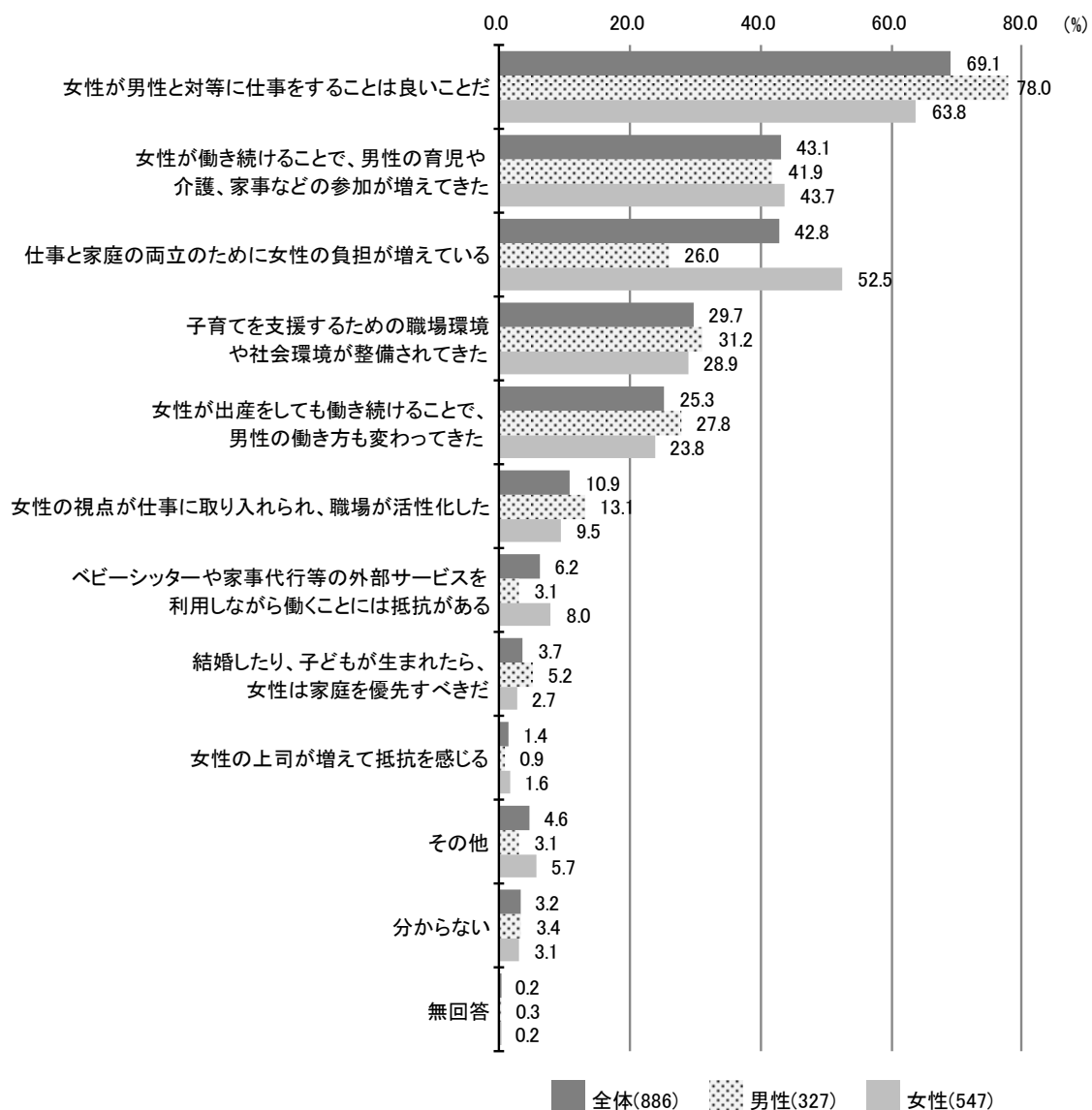
○ 全体・性別の傾向

「女性が男性と対等に仕事をするのは良いことだ」が69.1%で最も多く、次いで、「女性が働き続けることで、男性の育児や介護、家事などの参加が増えてきた」(43.1%)、「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」(42.8%)となっている。

性別で見ると、「女性が男性と対等に仕事をするのは良いことだ」は男性で78.0%であり、女性(63.8%)を上回っている。

「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」は女性では半数(52.5%)を占めており、男性(26.0%)を大きく上回る。

図VI-1 女性が働き続けることに対する意識（性別）



「女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ」は、男性の 10・20 代では 65.8%であり、男性の他の世代が8割前後であるのに比べて低くなっている。一方、女性の 10・20 代では 75.5%となっており、女性の 30～60 代が6割前後、70 歳以上が 69.1%であるのに比べ高くなっている。10・20 代では他の世代とは異なり、「女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ」と感じている人の割合が女性の方が高くなっていることが分かる。

「女性が出産をしても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた」は、男性の 10・20 代で 36.8%と高くなっている。

	全 体	女性が 男性と 同等に 仕事を するこ とは良 いこと だ	女性の 育児や 介護、 家事な どの参 加が増 えてき た	女性が 働き続 けるこ とで、 男性の 負担が 減って いる	仕事と 家庭の 両立の ために 女性 の負担 が増え てい る	子育て や社会 環境が 整備さ れてき た	女性が 出産を しても 働き続 けるこ とで、 男性の 働き方 も変 わって きた	女性の 視点が 仕事に 取り入 れられ 、職場 が活 性化し た	の外部 サービス を利用 しなが ら働く ことに は抵抗 がある	ベビー シッター や家事 代行等	結婚し たり、 子ども が生ま れ、女 性は家 庭を優 先すべ きた	女性の 上司が 増えて 抵抗を 感 じる	その他	分 か ら な い	無 回 答
全 体	886 100.0	612 69.1	382 43.1	379 42.8	263 29.7	224 25.3	97 10.9	55 6.2	33 3.7	12 1.4	41 4.6	28 3.2	2 0.2		
合 計	327 100.0	255 78.0	137 41.9	85 26.0	102 31.2	91 27.8	43 13.1	10 3.1	17 5.2	3 0.9	10 3.1	11 3.4	1 0.3		
20代	38 100.0	25 65.8	11 28.9	12 31.6	7 18.4	14 36.8	4 10.5	- -	5 13.2	1 2.6	2 5.3	3 7.9	- -		
代	44 100.0	35 79.5	16 36.4	9 20.5	13 29.5	13 29.5	6 13.6	1 2.3	- -	- -	2 4.5	- -	- -		
代	63 100.0	48 76.2	26 41.3	12 19.0	25 39.7	20 31.7	4 6.3	- -	1 1.6	1 1.6	3 4.8	2 3.2	- -		
代	67 100.0	53 79.1	28 41.8	16 23.9	22 32.8	18 26.9	12 17.9	3 4.5	4 6.0	- -	1 1.5	4 6.0	1 1.5		
代	41 100.0	32 78.0	18 43.9	14 34.1	14 34.1	12 29.3	5 12.2	2 4.9	3 7.3	- -	- -	1 2.4	- -		
歳以上	72 100.0	60 83.3	37 51.4	22 30.6	21 29.2	13 18.1	12 16.7	4 5.6	4 5.6	1 1.4	2 2.8	1 1.4	- -		
合 計	547 100.0	349 63.8	239 43.7	287 52.5	158 28.9	130 23.8	52 9.5	44 8.0	15 2.7	9 1.6	31 5.7	17 3.1	1 0.2		
20代	53 100.0	40 75.5	17 32.1	33 62.3	14 26.4	14 26.4	8 15.1	5 9.4	- -	- -	5 9.4	- -	- -		
代	79 100.0	46 58.2	31 39.2	56 70.9	16 20.3	18 22.8	7 8.9	10 12.7	2 2.5	1 1.3	6 7.6	2 2.5	- -		
代	102 100.0	60 58.8	50 49.0	59 57.8	27 26.5	22 21.6	9 8.8	12 11.8	3 2.9	3 2.9	11 10.8	2 2.0	- -		
代	109 100.0	69 63.3	39 35.8	59 54.1	33 30.3	29 26.6	7 6.4	5 4.6	1 0.9	3 2.8	4 3.7	5 4.6	- -		
代	91 100.0	56 61.5	45 49.5	39 42.9	36 39.6	24 26.4	6 6.6	5 5.5	3 3.3	- -	2 2.2	4 4.4	- -		
歳以上	110 100.0	76 69.1	55 50.0	41 37.3	31 28.2	23 20.9	15 13.6	6 5.5	5 4.5	2 1.8	3 2.7	4 3.6	1 0.9		

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」は、女性の家族形成期と家族成長前期では7割を占め、また、家族成熟期でも3分の2と高くなっている。

「女性が出産をしても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた」は、男性の家族形成期や家族成長前期では4割以上と高くなっている。一方、女性の同時期では男性の半分以上の割合となっており、男女で認識の乖離が見られる。

表Ⅵ-2 女性が働き続けることに対する意識（性・ライフステージ区分別）

			女性 が良 いこ と等 だ	参 加 が 増 え て き た	性 の 育 児 や 介 護 、 家 事 な ど の 男	性 の 負 担 が 増 え て い る	仕 事 と 家 庭 の 両 立 の た め に 女	環 境 や 社 会 環 境 が 整 備 さ れ て き た	子 育 て を 支 援 す る た め の 職 場	女 性 が 出 産 を し て も 働 き 続 け る こ と で 、 男 性 の 働 き 方 も 変 わ つ て き た	女 性 の 視 点 が 仕 事 に 取 り 入 れ ら れ 、 職 場 が 活 性 化 し た	の 外 部 サ ー ビ ス を 利 用 し な が ら 働 く こ と に は 抵 抗 が あ る	ベ ビ ー シ ッ タ ー や 家 事 代 行 等	き だ ら 、 女 性 は 家 庭 を 優 先 す べ き	結 婚 し た り 、 子 ど も が 生 ま れ	女 性 の 上 司 が 増 え て 抵 抗 を 感 じ る	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	612 69.1	382 43.1	379 42.8	263 29.7	224 25.3	97 10.9	55 6.2	33 3.7	12 1.4	41 4.6	28 3.2	2 0.2					
男 性	合 計	327 100.0	255 78.0	137 41.9	85 26.0	102 31.2	91 27.8	43 13.1	10 3.1	17 5.2	3 0.9	10 3.1	11 3.4	1 0.3					
	独身期(18～39歳)	47 100.0	32 68.1	15 31.9	11 23.4	12 25.5	12 25.5	4 8.5	－ －	3 6.4	－ －	1 2.1	3 6.4	－ －					
	家族形成期	48 100.0	38 79.2	20 41.7	11 22.9	14 29.2	22 45.8	6 12.5	1 2.1	2 4.2	1 2.1	3 6.3	1 2.1	－ －					
	家族成長前期	21 100.0	15 71.4	9 42.9	7 33.3	7 33.3	9 42.9	3 14.3	1 4.8	1 4.8	－ －	－ －	－ －	－ －					
	家族成長後期	13 100.0	10 76.9	7 53.8	6 46.2	9 69.2	3 23.1	－ －	－ －	－ －	－ －	1 7.7	－ －	－ －					
	家族成熟期	8 100.0	7 87.5	1 12.5	3 37.5	4 50.0	4 50.0	1 12.5	－ －	1 12.5	－ －	－ －	－ －	－ －					
	高齢期	90 100.0	75 83.3	43 47.8	27 30.0	29 32.2	14 15.6	16 17.8	5 5.6	5 5.6	1 1.1	2 2.2	2 2.2	－ －					
	独身期(40～64歳)	54 100.0	41 75.9	19 35.2	8 14.8	16 29.6	15 27.8	5 9.3	1 1.9	3 5.6	－ －	2 3.7	4 7.4	1 1.9					
	その他	44 100.0	35 79.5	22 50.0	12 27.3	11 25.0	11 25.0	8 18.2	2 4.5	2 4.5	1 2.3	1 2.3	1 2.3	－ －					
	女 性	合 計	547 100.0	349 63.8	239 43.7	287 52.5	158 28.9	130 23.8	52 9.5	44 8.0	15 2.7	9 1.6	31 5.7	17 3.1	1 0.2				
独身期(18～39歳)		67 100.0	49 73.1	23 34.3	40 59.7	16 23.9	19 28.4	10 14.9	2 3.0	－ －	－ －	4 6.0	1 1.5	－ －					
家族形成期		77 100.0	43 55.8	34 44.2	56 72.7	19 24.7	17 22.1	6 7.8	16 20.8	2 2.6	2 2.6	8 10.4	－ －	－ －					
家族成長前期		28 100.0	16 57.1	9 32.1	20 71.4	11 39.3	4 14.3	2 7.1	6 21.4	－ －	－ －	4 14.3	－ －	－ －					
家族成長後期		34 100.0	19 55.9	18 52.9	18 52.9	8 23.5	9 26.5	3 8.8	2 5.9	1 2.9	1 2.9	2 5.9	3 8.8	－ －					
家族成熟期		21 100.0	14 66.7	9 42.9	14 66.7	8 38.1	4 19.0	－ －	3 14.3	1 4.8	－ －	－ －	－ －	－ －					
高齢期		148 100.0	98 66.2	74 50.0	60 40.5	47 31.8	33 22.3	18 12.2	8 5.4	5 3.4	2 1.4	3 2.0	6 4.1	1 0.7					
独身期(40～64歳)		116 100.0	77 66.4	45 38.8	54 46.6	33 28.4	29 25.0	10 8.6	2 1.7	2 1.7	4 3.4	7 6.0	6 5.2	－ －					
その他		53 100.0	31 58.5	25 47.2	25 47.2	15 28.3	15 28.3	3 5.7	4 7.5	3 5.7	－ －	3 5.7	1 1.9	－ －					

問 10 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援

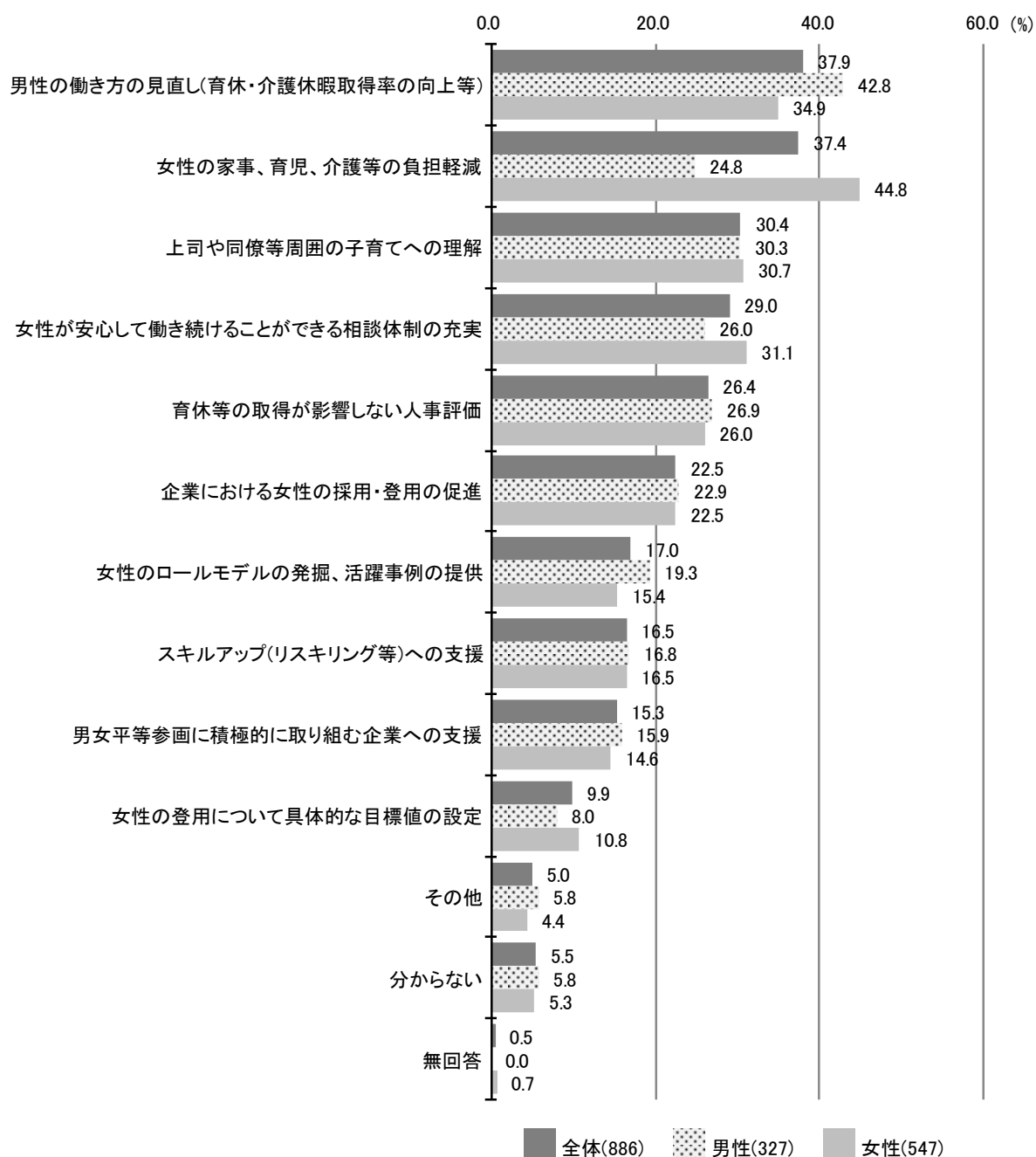
あなたは、雇用分野における女性の管理職の登用など、女性の参画を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」(37.9%)、「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」(37.4%)が多くなっている。そのほか、「上司や同僚等周囲の子育てへの理解」(30.4%)、「女性が安心して働き続けることができる相談体制の充実」(29.0%)が3割となっている。

性別で見ると、女性では、「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」が 44.8%で最も多く、男性(24.8%)を大きく上回っている。

図VI-2 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」は、男性の10～40代と60代で過半数と高くなっている。

「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」は、男性では40代で3人に1人が、女性の50歳未満では半数が必要と考えている。

「上司や同僚等周囲の子育てへの理解」は男女共に30～40代で高くなっている。

「育休等の取得が影響しない人事評価」は女性の10・20代では半数を占め他の世代を大きく上回っている。

表VI-3 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援(性・年齢別)

		全 体	取得率の向上等（育休・介護休暇の見直し）	男性の働き方の見直し（育休・介護休暇取得率の向上等）	女性の家事、育児、介護等の負担軽減	子育てや同僚等周囲の理解	上司や同僚等周囲の理解	継続体制の充実	女性が安心して働けることができる	育休等の取得が影響しない人事評価	企業における女性の促進	女性のロールモデルの発掘、活躍事例の提供	女性のリングアップへの支援	スキリングアップへの支援	男女平等参画に積極的に取り組む企業への支援	女性登用について具体的な目標値の設定	その他	分からない	無回答
全 体		886 100.0	336 37.9	331 37.4	269 30.4	257 29.0	234 26.4	199 22.5	151 17.0	146 16.5	136 15.3	88 9.9	44 5.0	49 5.5	4 0.5				
男性	合 計	327 100.0	140 42.8	81 24.8	99 30.3	85 26.0	88 26.9	75 22.9	63 19.3	55 16.8	52 15.9	26 8.0	19 5.8	19 5.8	—				
	10・20代	38 100.0	19 50.0	8 21.1	12 31.6	10 26.3	13 34.2	7 18.4	8 21.1	6 15.8	4 10.5	4 10.5	2 5.3	2 5.3	—				
	30代	44 100.0	22 50.0	9 20.5	17 38.6	8 18.2	9 20.5	4 9.1	10 22.7	9 20.5	3 6.8	2 4.5	8 18.2	2 4.5	—				
	40代	63 100.0	32 50.8	21 33.3	26 41.3	15 23.8	17 27.0	8 12.7	13 20.6	13 20.6	3 4.8	5 7.9	4 6.3	2 3.2	—				
	50代	67 100.0	22 32.8	11 16.4	17 25.4	17 25.4	18 26.9	22 32.8	18 26.9	13 19.4	9 13.4	4 6.0	4 6.0	7 10.4	—				
	60代	41 100.0	23 56.1	10 24.4	12 29.3	9 22.0	6 14.6	9 22.0	9 22.0	5 12.2	13 31.7	3 7.3	—	2 4.9	—				
	70歳以上	72 100.0	21 29.2	21 29.2	15 20.8	25 34.7	25 34.7	24 33.3	5 6.9	9 12.5	20 27.8	8 11.1	1 1.4	4 5.6	—				
	女性	合 計	547 100.0	191 34.9	245 44.8	168 30.7	170 31.1	142 26.0	123 22.5	84 15.4	90 16.5	80 14.6	59 10.8	24 4.4	29 5.3	4 0.7			
10・20代		53 100.0	20 37.7	27 50.9	16 30.2	13 24.5	27 50.9	11 20.8	13 24.5	3 5.7	10 18.9	12 22.6	1 1.9	—	—				
30代		79 100.0	27 34.2	39 49.4	28 35.4	18 22.8	19 24.1	14 17.7	16 20.3	14 17.7	9 11.4	4 5.1	9 11.4	4 5.1	—				
40代		102 100.0	45 44.1	50 49.0	35 34.3	26 25.5	22 21.6	20 19.6	20 19.6	18 17.6	12 11.8	10 9.8	7 6.9	4 3.9	—				
50代		109 100.0	38 34.9	44 40.4	31 28.4	34 31.2	19 17.4	25 22.9	17 15.6	19 17.4	14 12.8	13 11.9	4 3.7	8 7.3	—				
60代		91 100.0	35 38.5	39 42.9	29 31.9	35 38.5	30 33.0	21 23.1	9 9.9	19 20.9	12 13.2	10 11.0	2 2.2	3 3.3	—				
70歳以上		110 100.0	26 23.6	46 41.8	28 25.5	42 38.2	25 22.7	32 29.1	8 7.3	16 14.5	22 20.0	10 9.1	1 0.9	9 8.2	4 3.6				

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」は、男女共に家族形成期で最も高く、特に男性では過半数の56.3%となっている。

「上司や同僚等周囲の子育てへの理解」は、男性では家族形成期で47.9%と高く、他の時期を大きく上回っている。女性では、家族形成期～家族成熟期で4割程度と高くなっている。

「育休等の取得が影響しない人事評価」は、男性の家族成長前期と女性の独身期(18～39歳)で、4割と高くなっている。

表VI-4 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援(性・ライフステージ区分別)

			女性等 の向上等	女性の 働き方 の向上 等	女性の 家事・ 育児、 介護 等の負 担軽減	上司や 同僚等 周囲の 子育て への理 解	女性が 安心して 働き続 けるこ とがで きる相 談体制 の充実	育休等 の取得 が影響 しない 人事評 価	企業に おける 女性の 採用の 促進	掘、活 躍事例 の提供	女性の ロール モデル の発信	スキル アップ への支 援	男女平 等参画 への積 極的な 取り組み	女性の 登用に ついて 具体的 な目標 値の設 定	その他	分 か ら ない	無 回 答	
全 体		886 100.0	336 37.9	331 37.4	269 30.4	257 29.0	234 26.4	199 22.5	151 17.0	146 16.5	136 15.3	88 9.9	44 5.0	49 5.5	4 0.5			
男 性	合 計	327 100.0	140 42.8	81 24.8	99 30.3	85 26.0	88 26.9	75 22.9	63 19.3	55 16.8	52 15.9	26 8.0	19 5.8	19 5.8	-			
	独身期(18～39歳)	47 100.0	22 46.8	9 19.1	12 25.5	11 23.4	10 21.3	6 12.8	8 17.0	12 25.5	5 10.6	3 6.4	6 12.8	3 6.4	-			
	家族形成期	48 100.0	27 56.3	12 25.0	23 47.9	12 25.0	17 35.4	7 14.6	11 22.9	5 10.4	3 6.3	4 8.3	4 8.3	1 2.1	-			
	家族成長前期	21 100.0	10 47.6	8 38.1	8 38.1	2 9.5	9 42.9	3 14.3	7 33.3	4 19.0	2 9.5	2 9.5	2 9.5	1 4.8	-			
	家族成長後期	13 100.0	7 53.8	4 30.8	5 38.5	3 23.1	3 23.1	3 23.1	4 30.8	3 23.1	2 15.4	-	-	-	-			
	家族成熟期	8 100.0	3 37.5	-	2 25.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	3 37.5	-	1 12.5	1 12.5	2 25.0	-	-	-		
	高齢期	90 100.0	29 32.2	24 26.7	22 24.4	32 35.6	28 31.1	27 30.0	10 11.1	11 12.2	26 28.9	9 10.0	1 1.1	5 5.6	-			
	独身期(40～64歳)	54 100.0	24 44.4	15 27.8	11 20.4	13 24.1	10 18.5	16 29.6	8 14.8	15 27.8	5 9.3	3 5.6	2 3.7	5 9.3	-			
	その他	44 100.0	17 38.6	8 18.2	16 36.4	10 22.7	10 22.7	9 20.5	12 27.3	5 11.4	8 18.2	4 9.1	2 4.5	4 9.1	-			
女 性	合 計	547 100.0	191 34.9	245 44.8	168 30.7	170 31.1	142 26.0	123 22.5	84 15.4	90 16.5	80 14.6	59 10.8	24 4.4	29 5.3	4 0.7			
	独身期(18～39歳)	67 100.0	22 32.8	32 47.8	20 29.9	18 26.9	26 38.8	14 20.9	14 20.9	7 10.4	9 13.4	13 19.4	3 4.5	3 4.5	-			
	家族形成期	77 100.0	35 45.5	41 53.2	27 35.1	17 22.1	22 28.6	15 19.5	18 23.4	13 16.9	13 16.9	3 3.9	7 9.1	-	-			
	家族成長前期	28 100.0	9 32.1	13 46.4	12 42.9	7 25.0	7 25.0	4 14.3	9 32.1	5 17.9	4 14.3	1 3.6	1 3.6	1 3.6	-			
	家族成長後期	34 100.0	12 35.3	15 44.1	14 41.2	9 26.5	10 29.4	10 29.4	2 5.9	4 11.8	2 5.9	4 11.8	1 2.9	3 8.8	-			
	家族成熟期	21 100.0	8 38.1	10 47.6	8 38.1	10 47.6	6 28.6	6 28.6	2 9.5	2 9.5	3 14.3	3 14.3	-	-	-			
	高齢期	148 100.0	42 28.4	61 41.2	39 26.4	52 35.1	40 27.0	43 29.1	12 8.1	23 15.5	29 19.6	16 10.8	2 1.4	11 7.4	4 2.7			
	独身期(40～64歳)	116 100.0	40 34.5	52 44.8	33 28.4	37 31.9	20 17.2	22 19.0	19 16.4	25 21.6	14 12.1	12 10.3	10 8.6	7 6.0	-			
	その他	53 100.0	23 43.4	21 39.6	14 26.4	18 34.0	11 20.8	9 17.0	7 13.2	10 18.9	5 9.4	7 13.2	-	3 5.7	-			

VII. 家庭生活と社会生活の両立について

問 11 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の充実度

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についての考え方で、あなたの①希望と②現実(現状)に最も近いもの一つずつに「○」をしてください。

○ 全体・性別の傾向

希望としては、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が44.5%で最も多い。

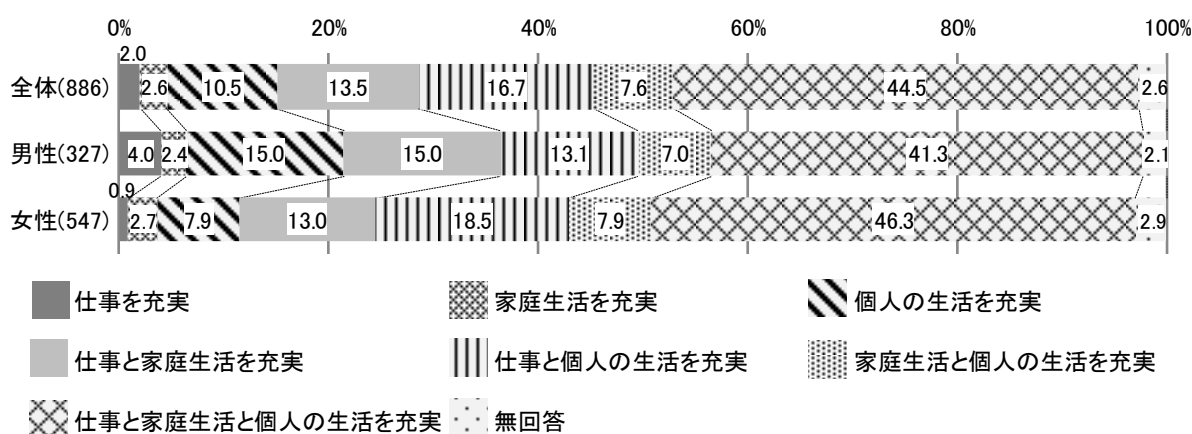
現実(現状)としては、「仕事を充実」が23.9%で最も多く、次いで、「仕事と家庭生活を充実」(19.0%)となっている。

現実(現状)を性別で見ると、「家庭生活を充実」は女性で14.3%であり、男性(4.6%)を9.7ポイント上回っている。

一方、男性では、「仕事を充実」(27.5%)や「個人の生活を充実」(16.2%)の割合が女性を上回っている。

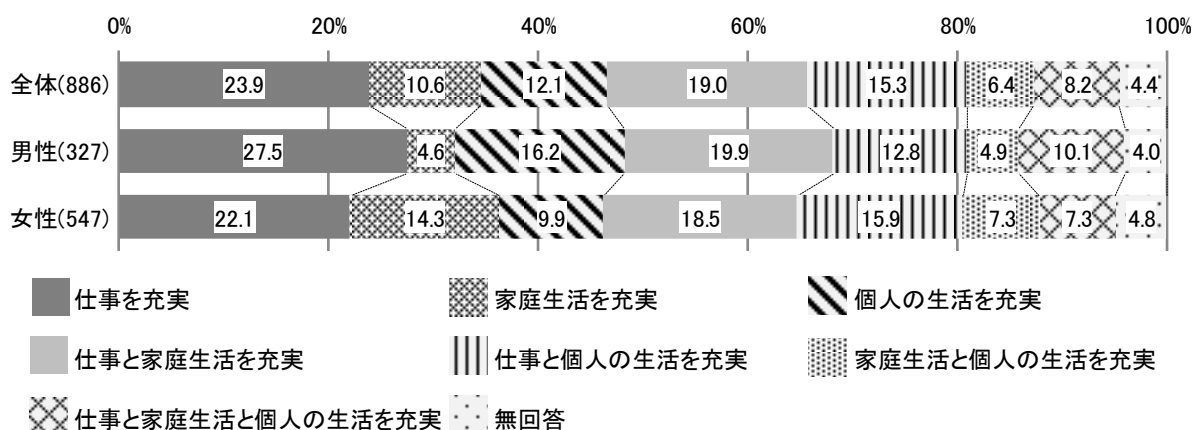
① 希望

図Ⅶ－1 希望する「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の充実度（性別）



② 現実（現状）

図Ⅶ－2 現実（現状）の「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の充実度（性別）



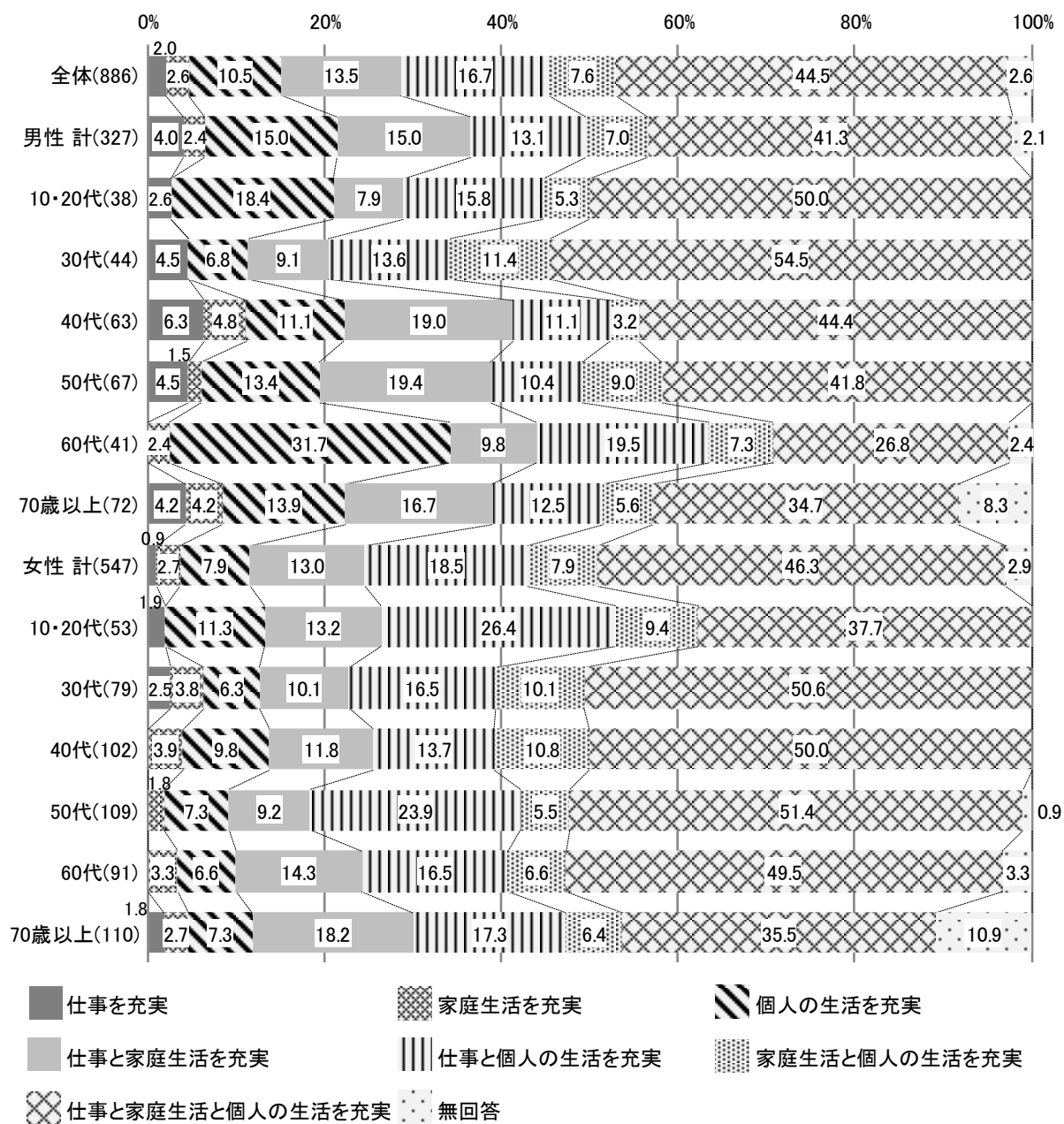
○ 性・年齢別の傾向

① 希望

男性の60代では「個人の生活を充実」が31.7%で最も多い。

女性の10・20代では、他の世代と比べて「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」(37.7%)が低く、「個人の生活を充実」(26.4%)が高くなっている。

図Ⅶ-3 希望する「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（性・年齢別）



② 現実（現状）

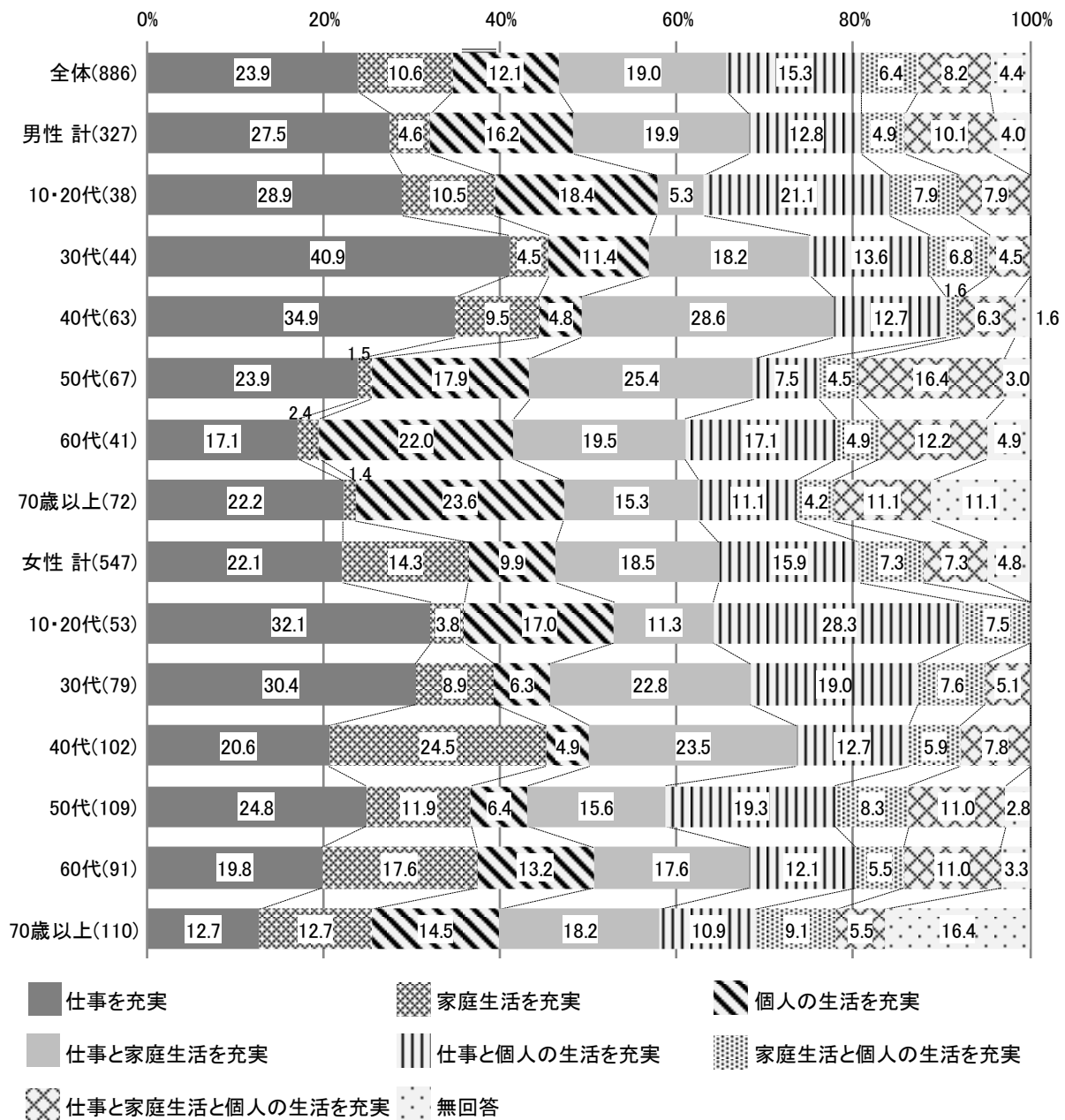
「仕事を充実」は、男性の30～40代、女性の10～30代で3割以上と高くなっている。

男性の40代では「個人の生活を充実」は4.8%にとどまり、「仕事と家庭生活を充実」が28.6%と高くなっている。また、50代でも「仕事と家庭生活を充実」が25.4%と高くなっている。

女性の40代では、「家庭生活を充実」が24.5%と高くなっている。

女性の30～50代では「個人の生活を充実」は1割未満にとどまっている。また、30～40代では「仕事と家庭生活を充実」が2割強と高くなっている。

図Ⅶ－４ 現実(現状)の「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度(性・年齢別)



○ 性・ライフステージ区分別の傾向

① 希望

男性の場合、家族形成期と家族成長前期では「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が6～7割を占める。

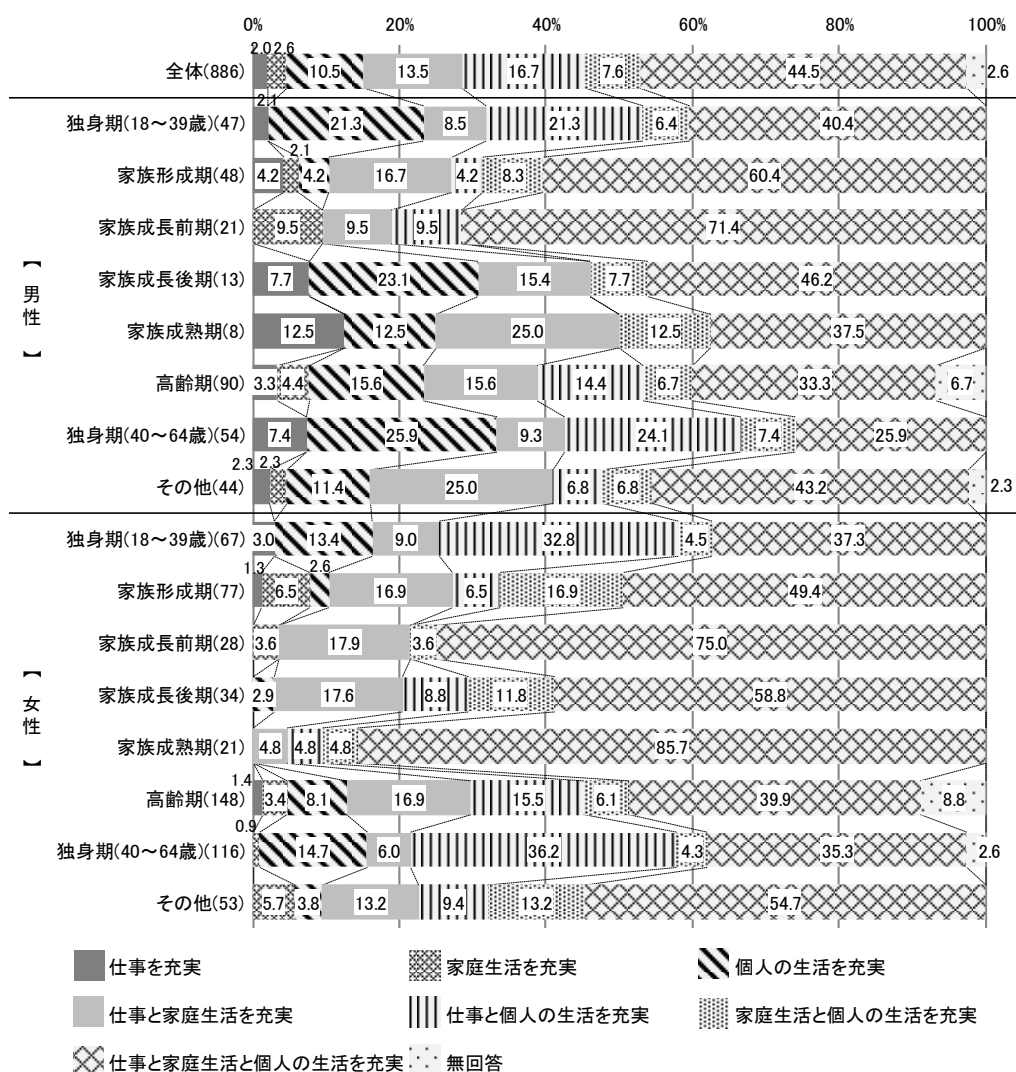
独身期(18～39歳)では、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が4割、「個人の生活を充実」と「仕事と個人の生活を充実」がそれぞれ2割であり、独身期(40～64歳)では、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」、「個人の生活を充実」、「仕事と個人の生活を充実」がそれぞれ4分の1ずつとなっている。

女性の場合、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が家族成熟期で85.7%、家族成長前期で75.0%を占め、また、家族成長後期でも過半数の58.8%となっている。

また、家族形成期～家族成長後期と高齢期では、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」に次いで、「仕事と家庭生活を充実」が約17%となっている。

独身期(18～64歳)では、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」と「仕事と個人の生活を充実」がそれぞれ35%前後となっている。

図Ⅶ－5 希望する「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度
(性・ライフステージ区分別)



② 現実（現状）

男性の場合、家族形成期で「仕事を充実」が4割と多くっており、次いで、「仕事と家庭生活を充実」(25.0%)となっている。

家族成長前期では、「仕事を充実」と「仕事と家庭生活を充実」がそれぞれ3割(28.6%)と多く、そのほか、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が23.8%となっている。

「個人の生活を充実」は独身期(18～64歳)と高齢期で、また、「仕事と個人の生活を充実」は独身期(18～64歳)で2割以上となっている。

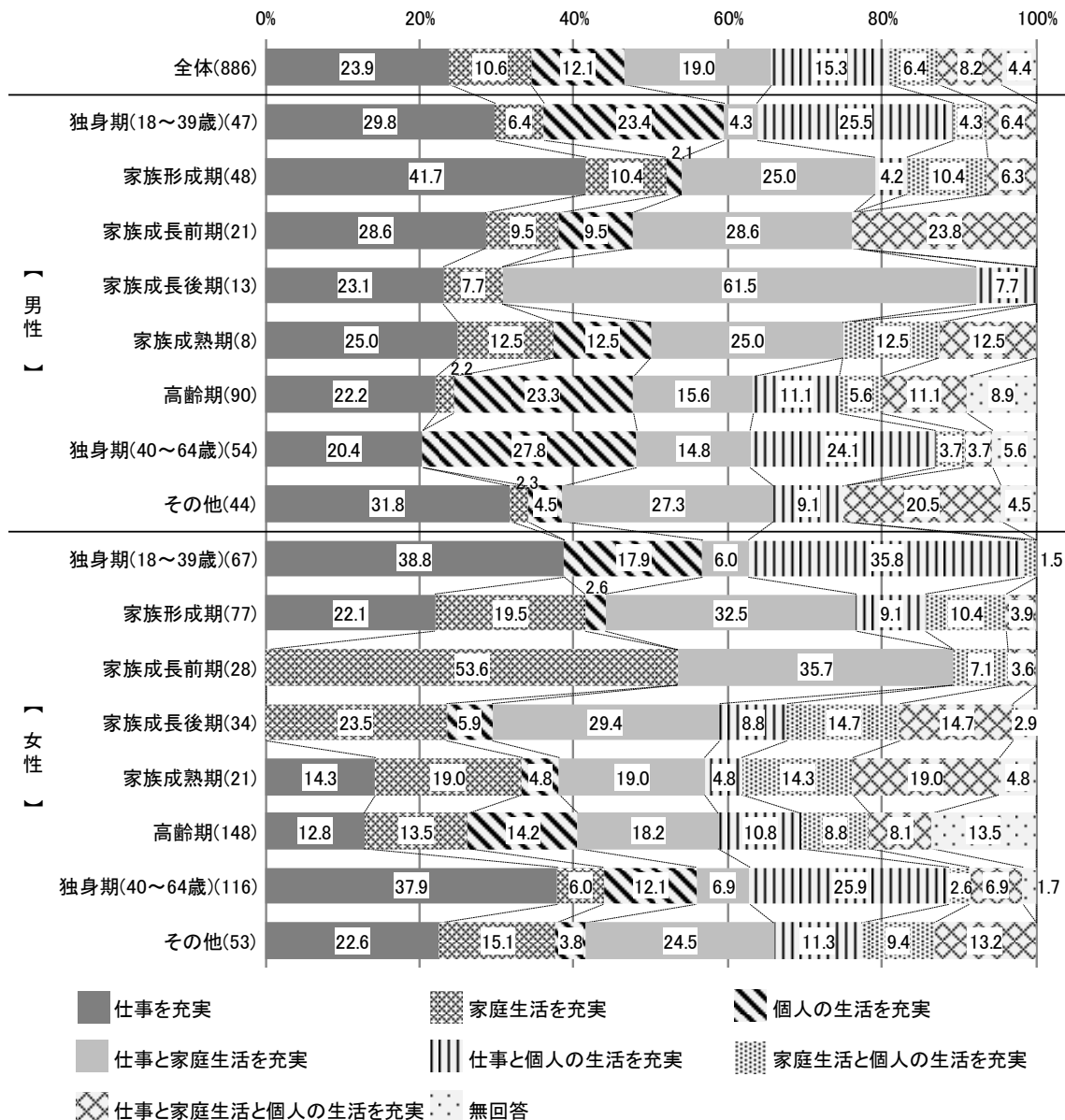
女性の場合、独身期(18～64歳)で「仕事を充実」が4割と多くっており、次いで、「仕事と個人の生活を充実」が多い。

「家庭生活を充実」は家族成長前期では半数を占めており、また、家族形成期、家族成長後期、家族成熟期で2割となっている。

「仕事と家庭生活を充実」は家族形成期～家族成長後期で3割以上となっている。

また、家族成長前期・後期では「仕事を充実」はいなかった。

図Ⅶ－6 現実（現状）の「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度
(性・ライフステージ区別)



問 12 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために重要なこと

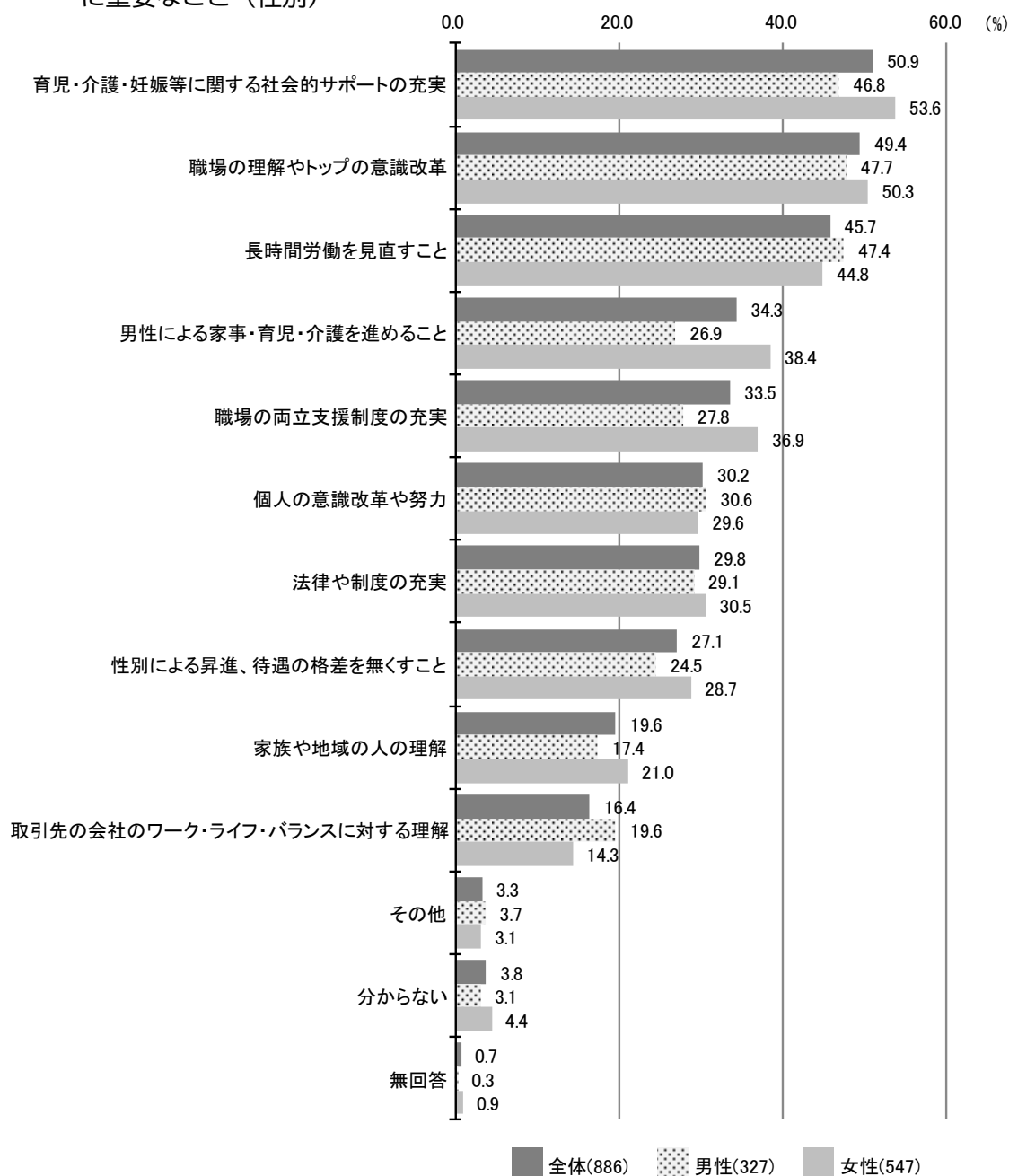
あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を図る上で、どのようなことが重要だと思いますか。【〇はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「育児・介護・妊娠等に関する社会的サポートの充実」(50.9%)、「職場の理解やトップの意識改革」(49.4%)、「長時間労働を見直すこと」(45.7%)が多くなっている。

性別で見ると、「男性による家事・育児・介護を進めること」は女性では 38.4%となっており、男性(26.9%)を 11.5 ポイント上回っている。また、「職場の両立支援制度の充実」も女性では 36.9%であり、男性(27.8%)を 9.1 ポイント上回っている。

図Ⅶー７ 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために重要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「長時間労働を見直すこと」は、男性の10～30代と女性の10・20代では6割以上を占め高くなっている。

「男性による家事・育児・介護を進めること」は、女性の50歳未満で高くなっており、特に、10～30代では過半数を占める。

表Ⅶ－1 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために重要なこと（性・年齢別）

		全 体	育 児・ 介 護・ 妊 娠 等 に 関 する 社 会 的 サ ポ ー ト の 充 実	職 場 の 理 解 や ト ッ プ の 意 識 改 革	長 時 間 労 働 を 見 直 す こ と	男 性 に よ る 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 を 進 め る こ と	職 場 の 両 立 支 援 制 度 の 充 実	個 人 の 意 識 改 革 や 努 力	法 律 や 制 度 の 充 実	性 別 に よ る 昇 進 ・ 待 遇 の 格 差 を 無 く す こ と	家 族 や 地 域 の 人 の 理 解	取 引 先 の 会 社 の ワ ー ク ・ ライ フ ・ バ ラン ス に 対 する 理 解	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	451 50.9	438 49.4	405 45.7	304 34.3	297 33.5	268 30.2	264 29.8	240 27.1	174 19.6	145 16.4	29 3.3	34 3.8	6 0.7
男 性	合 計	327 100.0	153 46.8	156 47.7	155 47.4	88 26.9	91 27.8	100 30.6	95 29.1	80 24.5	57 17.4	64 19.6	12 3.7	10 3.1	1 0.3
	10・20代	38 100.0	15 39.5	12 31.6	24 63.2	10 26.3	9 23.7	8 21.1	13 34.2	10 26.3	4 10.5	13 34.2	2 5.3	1 2.6	－
	30代	44 100.0	24 54.5	24 54.5	29 65.9	13 29.5	11 25.0	14 31.8	16 36.4	6 13.6	8 18.2	9 20.5	2 4.5	－	－
	40代	63 100.0	25 39.7	37 58.7	31 49.2	20 31.7	20 31.7	23 36.5	16 25.4	11 17.5	12 19.0	20 31.7	4 6.3	1 1.6	－
	50代	67 100.0	28 41.8	34 50.7	26 38.8	17 25.4	18 26.9	26 38.8	15 22.4	18 26.9	18 26.9	8 11.9	3 4.5	2 3.0	－
	60代	41 100.0	20 48.8	18 43.9	20 48.8	10 24.4	11 26.8	12 29.3	12 29.3	9 22.0	5 12.2	8 19.5	－	2 4.9	－
	70歳以上	72 100.0	39 54.2	30 41.7	24 33.3	17 23.6	22 30.6	17 23.6	23 31.9	25 34.7	10 13.9	6 8.3	1 1.4	4 5.6	1 1.4
	女 性	合 計	547 100.0	293 53.6	275 50.3	245 44.8	210 38.4	202 36.9	162 29.6	167 30.5	157 28.7	115 21.0	78 14.3	17 3.1	24 4.4
10・20代		53 100.0	30 56.6	31 58.5	32 60.4	30 56.6	24 45.3	9 17.0	21 39.6	23 43.4	11 20.8	10 18.9	1 1.9	1 1.9	－
30代		79 100.0	44 55.7	42 53.2	42 53.2	40 50.6	33 41.8	24 30.4	27 34.2	22 27.8	21 26.6	25 31.6	4 5.1	2 2.5	－
40代		102 100.0	50 49.0	49 48.0	52 51.0	44 43.1	35 34.3	32 31.4	25 24.5	27 26.5	16 15.7	12 11.8	7 6.9	4 3.9	－
50代		109 100.0	51 46.8	63 57.8	52 47.7	34 31.2	42 38.5	40 36.7	41 37.6	31 28.4	22 20.2	16 14.7	3 2.8	4 3.7	1 0.9
60代		91 100.0	59 64.8	48 52.7	22 24.2	30 33.0	37 40.7	29 31.9	26 28.6	25 27.5	18 19.8	11 12.1	1 1.1	4 4.4	－
70歳以上		110 100.0	58 52.7	41 37.3	42 38.2	31 28.2	30 27.3	27 24.5	26 23.6	28 25.5	27 24.5	4 3.6	1 0.9	9 8.2	4 3.6

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「長時間労働を見直すこと」は、男女共に独身期(18～39 歳)～家族成長前期で5割以上と高くなっており、特に、男性の独身期(18～39 歳)と家族形成期では6割以上となっている。

「男性による家事・育児・介護を進めること」は、女性の独身期(18～39 歳)～家族成長前期で5～6割を占める。

「職場の両立支援制度の充実」は女性の家族形成期と家族成長前期で5割と高くなっている。

表Ⅶ－２ 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために重要なこと（性・ライフステージ区分別）

		全 体	社会的 サポート の充実	革 職 場 の 理 解 や ト ッ プ の 意 識 改	長 時 間 労 働 を 見 直 す こ と	男 性 に よ る 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 を 進 め る こ と	職 場 の 両 立 支 援 制 度 の 充 実	個 人 の 意 識 改 革 や 努 力	法 律 や 制 度 の 充 実	性 別 に よ る 昇 進 ・ 待 遇 の 格 差 を 無 く す こ と	家 族 や 地 域 の 人 の 理 解	フ・取 引 先 の 会 社 の ワ ー ク ・ ラ イ フ ・ バ ラ ン ス に 対 する 理 解	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	451 50.9	438 49.4	405 45.7	304 34.3	297 33.5	268 30.2	264 29.8	240 27.1	174 19.6	145 16.4	29 3.3	34 3.8	6 0.7
男 性	合 計	327 100.0	153 46.8	156 47.7	155 47.4	88 26.9	91 27.8	100 30.6	95 29.1	80 24.5	57 17.4	64 19.6	12 3.7	10 3.1	1 0.3
	独身期(18～39歳)	47 100.0	20 42.6	20 42.6	29 61.7	12 25.5	9 19.1	16 34.0	16 34.0	12 25.5	6 12.8	13 27.7	1 2.1	1 2.1	— —
	家族形成期	48 100.0	27 56.3	21 43.8	31 64.6	16 33.3	16 33.3	8 16.7	15 31.3	6 12.5	10 20.8	10 20.8	3 6.3	— —	— —
	家族成長前期	21 100.0	9 42.9	12 57.1	12 57.1	4 19.0	5 23.8	6 28.6	1 4.8	5 23.8	2 9.5	6 28.6	1 4.8	— —	— —
	家族成長後期	13 100.0	4 30.8	9 69.2	7 53.8	4 30.8	6 46.2	7 53.8	2 15.4	2 15.4	2 15.4	2 15.4	— —	— —	— —
	家族成熟期	8 100.0	4 50.0	7 87.5	3 37.5	5 62.5	4 50.0	5 62.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	— —	— —
	高齢期	90 100.0	49 54.4	39 43.3	32 35.6	21 23.3	27 30.0	21 23.3	30 33.3	28 31.1	13 14.4	10 11.1	1 1.1	5 5.6	1 1.1
	独身期(40～64歳)	54 100.0	23 42.6	28 51.9	19 35.2	13 24.1	16 29.6	25 46.3	17 31.5	14 25.9	14 25.9	19 35.2	1 1.9	2 3.7	— —
	その他	44 100.0	15 34.1	19 43.2	21 47.7	12 27.3	8 18.2	12 27.3	13 29.5	10 22.7	8 18.2	2 4.5	4 9.1	2 4.5	— —
女 性	合 計	547 100.0	293 53.6	275 50.3	245 44.8	210 38.4	202 36.9	162 29.6	167 30.5	157 28.7	115 21.0	78 14.3	17 3.1	24 4.4	5 0.9
	独身期(18～39歳)	67 100.0	37 55.2	40 59.7	35 52.2	36 53.7	26 38.8	13 19.4	24 35.8	26 38.8	11 16.4	15 22.4	2 3.0	2 3.0	— —
	家族形成期	77 100.0	48 62.3	39 50.6	45 58.4	44 57.1	38 49.4	25 32.5	28 36.4	23 29.9	23 29.9	21 27.3	4 5.2	— —	— —
	家族成長前期	28 100.0	18 64.3	13 46.4	14 50.0	14 50.0	15 53.6	12 42.9	8 28.6	8 28.6	11 39.3	3 10.7	2 7.1	2 7.1	— —
	家族成長後期	34 100.0	13 38.2	12 35.3	14 41.2	14 41.2	11 32.4	10 29.4	8 23.5	5 14.7	6 17.6	4 11.8	1 2.9	3 8.8	— —
	家族成熟期	21 100.0	16 76.2	12 57.1	5 23.8	10 47.6	5 23.8	4 19.0	8 38.1	9 42.9	6 28.6	3 14.3	1 4.8	— —	— —
	高齢期	148 100.0	82 55.4	63 42.6	51 34.5	45 30.4	51 34.5	41 27.7	41 27.7	39 26.4	36 24.3	8 5.4	1 0.7	12 8.1	4 2.7
	独身期(40～64歳)	116 100.0	50 43.1	69 59.5	56 48.3	28 24.1	38 32.8	39 33.6	36 31.0	35 30.2	13 11.2	20 17.2	6 5.2	5 4.3	1 0.9
	その他	53 100.0	28 52.8	26 49.1	22 41.5	18 34.0	17 32.1	17 32.1	13 24.5	11 20.8	9 17.0	4 7.5	— —	— —	— —

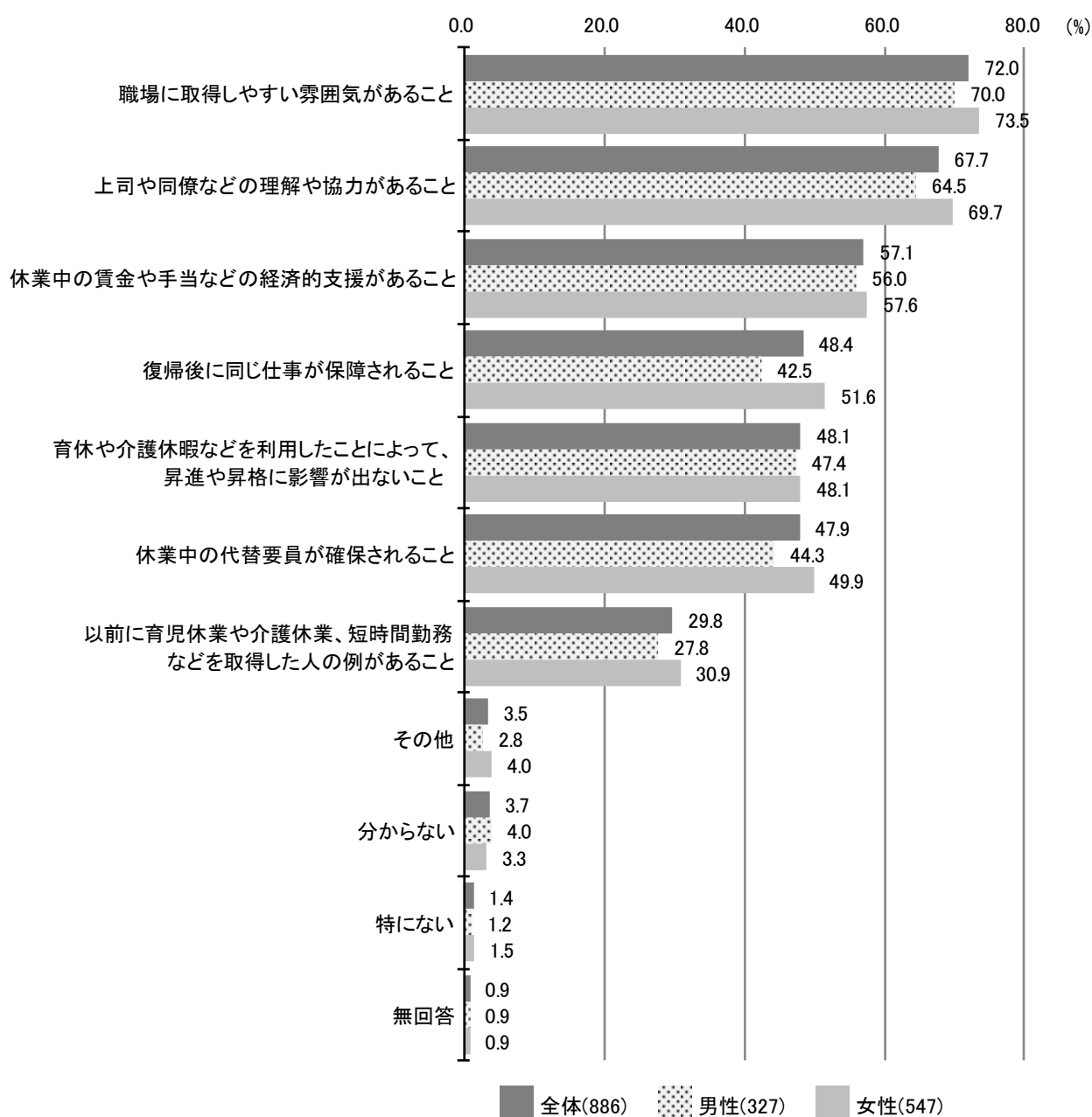
問 13 育児休業、介護休業等取得しやすくするために必要なこと

あなたは、育児や介護における休業・休暇等取得しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

○ 全体の傾向

「職場に取得しやすい雰囲気があること」が 72.0%で最も多く、次いで、「上司や同僚などの理解や協力があること」が 67.7%となっている。

図Ⅶ－８ 育児休業、介護休業等取得しやすくするために必要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「職場に取得しやすい雰囲気があること」は、男性では 50 代で 79.1%と高くなっている。女性では、年齢が低くなるほど高くなっており、10・20 代では 83.0%となっている。

「上司や同僚などの理解や協力があること」は、男性では 40～50 代で約 71%と高く、また、女性では、10～30 代で約 75%と高くなっている。

「休業中の賃金や手当などの経済的支援があること」は男女共に 10・20 代で高く、特に女性 73.6%と他の世代を 10 ポイント以上上回っている。

「休業中の代替要員が確保されること」は、女性の 30 代の3分の2が必要なことと考えている。

「以前に育児休業や介護休業、短時間勤務などを取得した人の例があること」は男女共に年齢が低いほど高くなっており、男性の 40 歳未満、女性の 50 歳未満では4～5割が必要と考えている。

表Ⅶ－3 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと（性・年齢別）

		全 体	職 場 に 取 得 し や す い 雰 囲 気 が あ る こ と	上 司 や 同 僚 な ど の 理 解 や 協 力 が あ る こ と	休 業 中 の 賃 金 や 手 当 な ど の 経 済 的 支 援 が あ る こ と	復 帰 後 に 同 じ 仕 事 が 保 障 さ れ る こ と	昇 格 に 影 響 が 出 な い こ と	育 休 や 介 護 休 暇 な ど を 利 用 し た こ と に よ つ て 、 昇 進 や	休 業 中 の 代 替 要 員 が 確 保 さ れ る こ と	業 、 短 時 間 勤 務 な ど を 取 得 し た 人 の 例 が あ る こ と	以 前 に 育 児 休 業 や 介 護 休 業	そ 他	分 か ら な い	特 に な い	無 回 答
全 体		886 100.0	638 72.0	600 67.7	506 57.1	429 48.4	426 48.1	424 47.9	264 29.8	31 3.5	33 3.7	12 1.4	8 0.9		
男 性	合 計	327 100.0	229 70.0	211 64.5	183 56.0	139 42.5	155 47.4	145 44.3	91 27.8	9 2.8	13 4.0	4 1.2	3 0.9		
	10・20代	38 100.0	24 63.2	24 63.2	25 65.8	14 36.8	19 50.0	16 42.1	18 47.4	－ －	1 2.6	－ －	－ －		
	30代	44 100.0	32 72.7	25 56.8	27 61.4	18 40.9	20 45.5	16 36.4	21 47.7	2 4.5	1 2.3	－ －	－ －		
	40代	63 100.0	47 74.6	45 71.4	31 49.2	24 38.1	31 49.2	36 57.1	20 31.7	3 4.8	－ －	1 1.6	－ －		
	50代	67 100.0	53 79.1	48 71.6	38 56.7	33 49.3	30 44.8	29 43.3	15 22.4	2 3.0	4 6.0	1 1.5	1 1.5		
	60代	41 100.0	24 58.5	22 53.7	21 51.2	20 48.8	15 36.6	21 51.2	9 22.0	－ －	3 7.3	－ －	－ －		
	70歳以上	72 100.0	48 66.7	46 63.9	40 55.6	29 40.3	39 54.2	26 36.1	8 11.1	2 2.8	4 5.6	2 2.8	2 2.8		
女 性	合 計	547 100.0	402 73.5	381 69.7	315 57.6	282 51.6	263 48.1	273 49.9	169 30.9	22 4.0	18 3.3	8 1.5	5 0.9		
	10・20代	53 100.0	44 83.0	40 75.5	39 73.6	33 62.3	34 64.2	28 52.8	26 49.1	2 3.8	－ －	－ －	－ －		
	30代	79 100.0	63 79.7	59 74.7	48 60.8	38 48.1	45 57.0	51 64.6	36 45.6	6 7.6	2 2.5	－ －	－ －		
	40代	102 100.0	78 76.5	68 66.7	59 57.8	52 51.0	52 51.0	50 49.0	44 43.1	8 7.8	3 2.9	3 2.9	－ －		
	50代	109 100.0	79 72.5	77 70.6	64 58.7	47 43.1	42 38.5	55 50.5	35 32.1	4 3.7	3 2.8	2 1.8	－ －		
	60代	91 100.0	66 72.5	61 67.0	53 58.2	49 53.8	44 48.4	43 47.3	15 16.5	2 2.2	5 5.5	1 1.1	－ －		
	70歳以上	110 100.0	70 63.6	73 66.4	51 46.4	61 55.5	45 40.9	44 40.0	12 10.9	－ －	5 4.5	2 1.8	5 4.5		

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「職場に取得しやすい雰囲気があること」は、男性の家族成長前期では9割(90.5%)を占めている。

「復帰後に同じ仕事が保障されること」は、女性の家族成長前期では8割(78.6%)を占め、他の時期より 20 ポイント以上高くなっている。

「以前に育児休業や介護休業、短時間勤務などを取得した人の例があること」は、男性では家族形成期で過半数の 54.2%と高く、女性では、独身期(18～39 歳)～家族成長前期で4～5割と高くなっている。

表Ⅶ－４ 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと
(性・ライフステージ区分別)

		全 体	が 職 場 に 取 得 し や す い 雰 囲 気	上 司 や 同 僚 な ど の 理 解 や 協	休 業 中 の 賃 金 や 手 当 な ど の	復 帰 後 に 同 じ 仕 事 が 保 障 さ	昇 格 に 影 響 が 出 な い こ と	育 休 や 介 護 休 暇 な ど を 利 用	休 業 中 の 代 替 要 員 が 確 保 さ	業 、 短 時 間 勤 務 な ど を 取 得 し た 人 の 例 が あ る こ と	以 前 に 育 児 休 業 や 介 護 休 業	そ の 他	分 か ら な い	特 に な い	無 回 答
全 体		886 100.0	638 72.0	600 67.7	506 57.1	429 48.4	426 48.1	424 47.9	264 29.8	31 3.5	33 3.7	12 1.4	8 0.9		
男 性	合 計	327 100.0	229 70.0	211 64.5	183 56.0	139 42.5	155 47.4	145 44.3	91 27.8	9 2.8	13 4.0	4 1.2	3 0.9		
	独身期(18～39歳)	47 100.0	32 68.1	28 59.6	28 59.6	18 38.3	19 40.4	18 38.3	19 40.4	— —	2 4.3	— —	— —		
	家族形成期	48 100.0	33 68.8	30 62.5	30 62.5	20 41.7	27 56.3	23 47.9	26 54.2	2 4.2	— —	— —	— —		
	家族成長前期	21 100.0	19 90.5	14 66.7	9 42.9	6 28.6	10 47.6	13 61.9	8 38.1	2 9.5	— —	— —	— —		
	家族成長後期	13 100.0	9 69.2	9 69.2	4 30.8	4 30.8	4 30.8	8 61.5	4 30.8	— —	— —	— —	— —		
	家族成熟期	8 100.0	7 87.5	5 62.5	5 62.5	3 37.5	5 62.5	3 37.5	3 37.5	1 12.5	— —	— —	— —		
	高齢期	90 100.0	60 66.7	57 63.3	50 55.6	37 41.1	46 51.1	36 40.0	14 15.6	2 2.2	5 5.6	2 2.2	2 2.2		
	独身期(40～64歳)	54 100.0	40 74.1	38 70.4	35 64.8	29 53.7	25 46.3	24 44.4	10 18.5	2 3.7	3 5.6	2 3.7	— —		
	その他	44 100.0	28 63.6	29 65.9	21 47.7	21 47.7	18 40.9	19 43.2	7 15.9	— —	3 6.8	— —	1 2.3		
	女 性	合 計	547 100.0	402 73.5	381 69.7	315 57.6	282 51.6	263 48.1	273 49.9	169 30.9	22 4.0	18 3.3	8 1.5	5 0.9	
独身期(18～39歳)		67 100.0	55 82.1	48 71.6	44 65.7	37 55.2	39 58.2	36 53.7	31 46.3	3 4.5	2 3.0	— —	— —		
家族形成期		77 100.0	60 77.9	60 77.9	51 66.2	42 54.5	48 62.3	47 61.0	39 50.6	10 13.0	— —	— —	— —		
家族成長前期		28 100.0	24 85.7	21 75.0	20 71.4	22 78.6	20 71.4	16 57.1	12 42.9	1 3.6	— —	2 7.1	— —		
家族成長後期		34 100.0	27 79.4	21 61.8	13 38.2	10 29.4	13 38.2	12 35.3	11 32.4	1 2.9	1 2.9	— —	— —		
家族成熟期		21 100.0	18 85.7	16 76.2	14 66.7	11 52.4	13 61.9	7 33.3	8 38.1	— —	1 4.8	— —	— —		
高齢期		148 100.0	98 66.2	98 66.2	75 50.7	84 56.8	69 46.6	61 41.2	19 12.8	1 0.7	7 4.7	3 2.0	5 3.4		
独身期(40～64歳)		116 100.0	81 69.8	80 69.0	65 56.0	47 40.5	37 31.9	64 55.2	36 31.0	6 5.2	5 4.3	3 2.6	— —		
その他		53 100.0	37 69.8	34 64.2	32 60.4	27 50.9	23 43.4	28 52.8	12 22.6	— —	2 3.8	— —	— —		

問 14 育児や介護中に希望する働き方

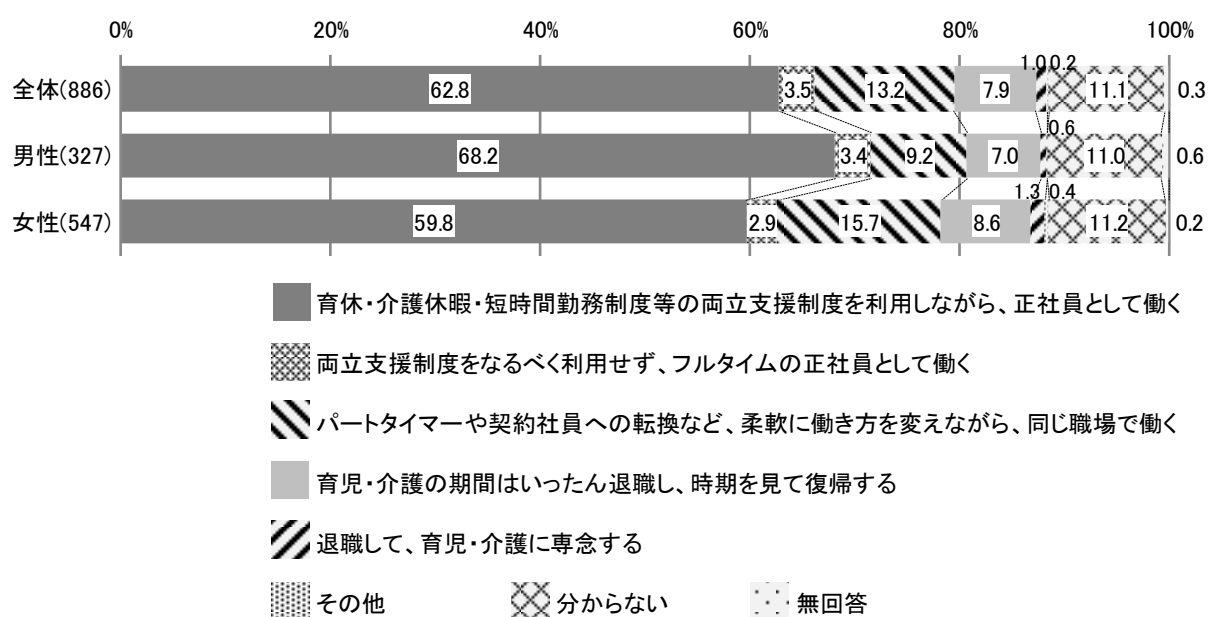
あなたは、育児や介護中にどのような働き方を希望しますか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が62.8%を占め最も多い。次いで、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が13.2%となっている。

性別で見ると、「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」は男性の方が、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」は女性の方が高くなっている。

図Ⅶ－9 育児や介護中に希望する働き方（性別）



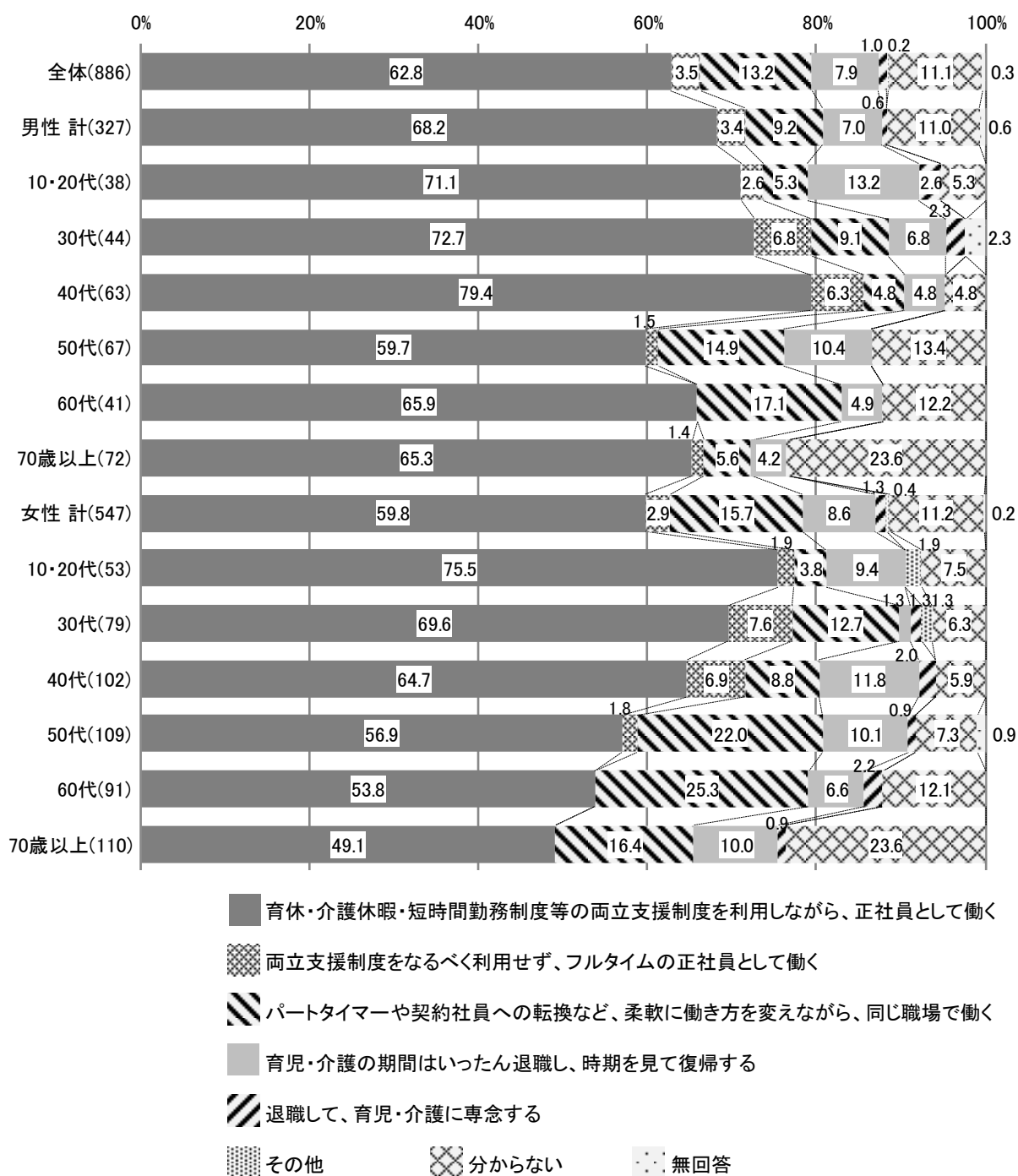
○ 性・年齢別の傾向

「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」は、男性の50代未満では、年齢が上がるにつれて高くなっている。一方、女性では年齢が低いほど高くなっている。

男女共に50～60代では、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が高くなっている。

また、男女共に30～40代の約7%が「両立支援制度をなるべく利用せず、フルタイムの正社員として働く」を希望している。

図Ⅶ-10 育児や介護中に希望する働き方（性・年齢別）



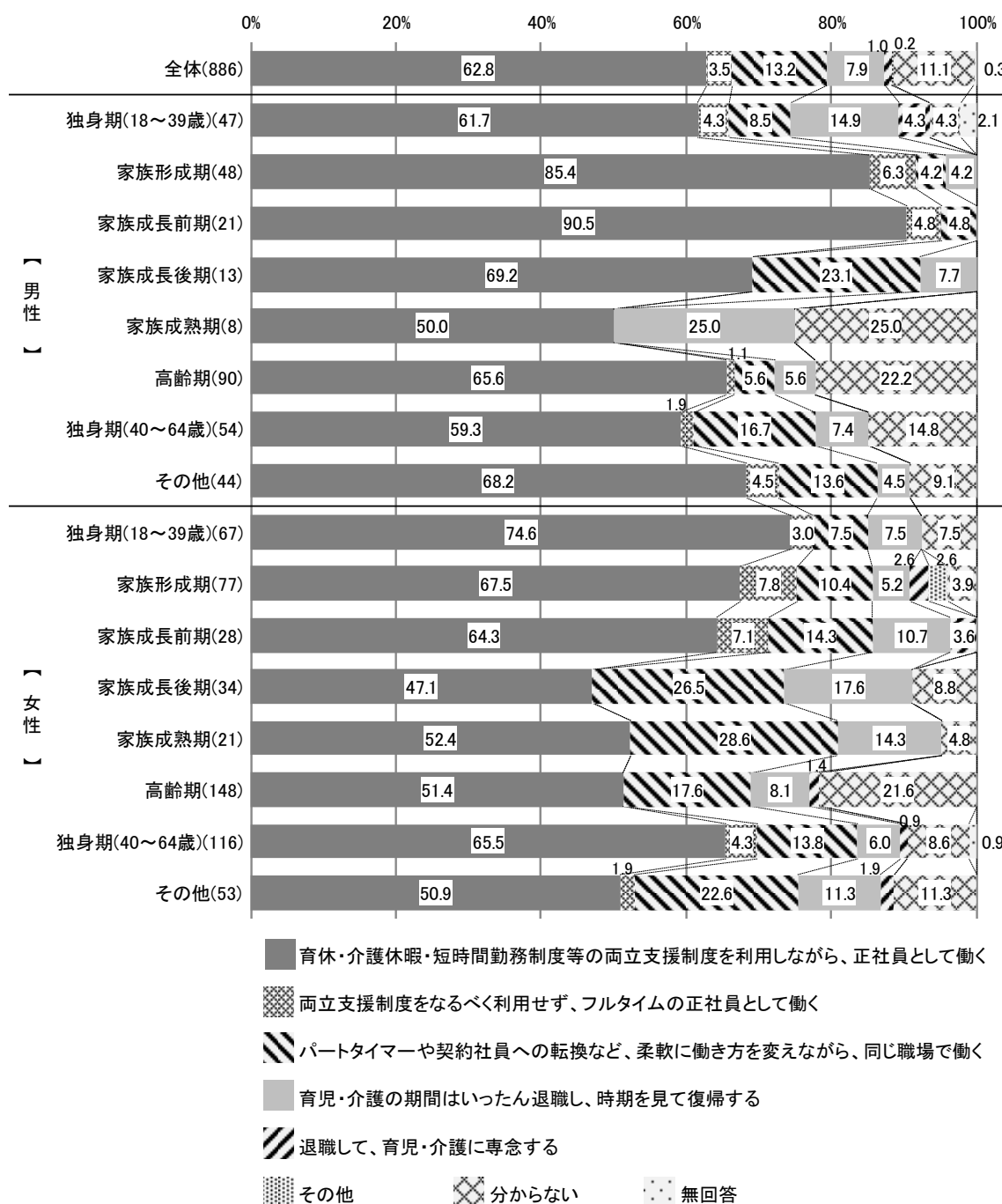
○ 性・ライフステージ区分別の傾向

男性の場合は、「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が家族形成期と家族成長前期で8割以上を占めている。

また、独身期(40～64 歳)とその他では、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が1割以上と他の時期より高くなっている。

女性の場合は、家族成長後期～高齢期とその他では、「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が5割と低くなっており、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が2～3割程度と他の時期より高くなっている。

図Ⅶ-11 育児や介護中に希望する働き方（性・ライフステージ区分別）



VIII. 地域活動、社会活動への参画について

問 15 この1年間に参加した地域活動や社会活動

あなたは、この1年間にどのような地域活動や社会活動に参加しましたか。【〇はいくつでも】

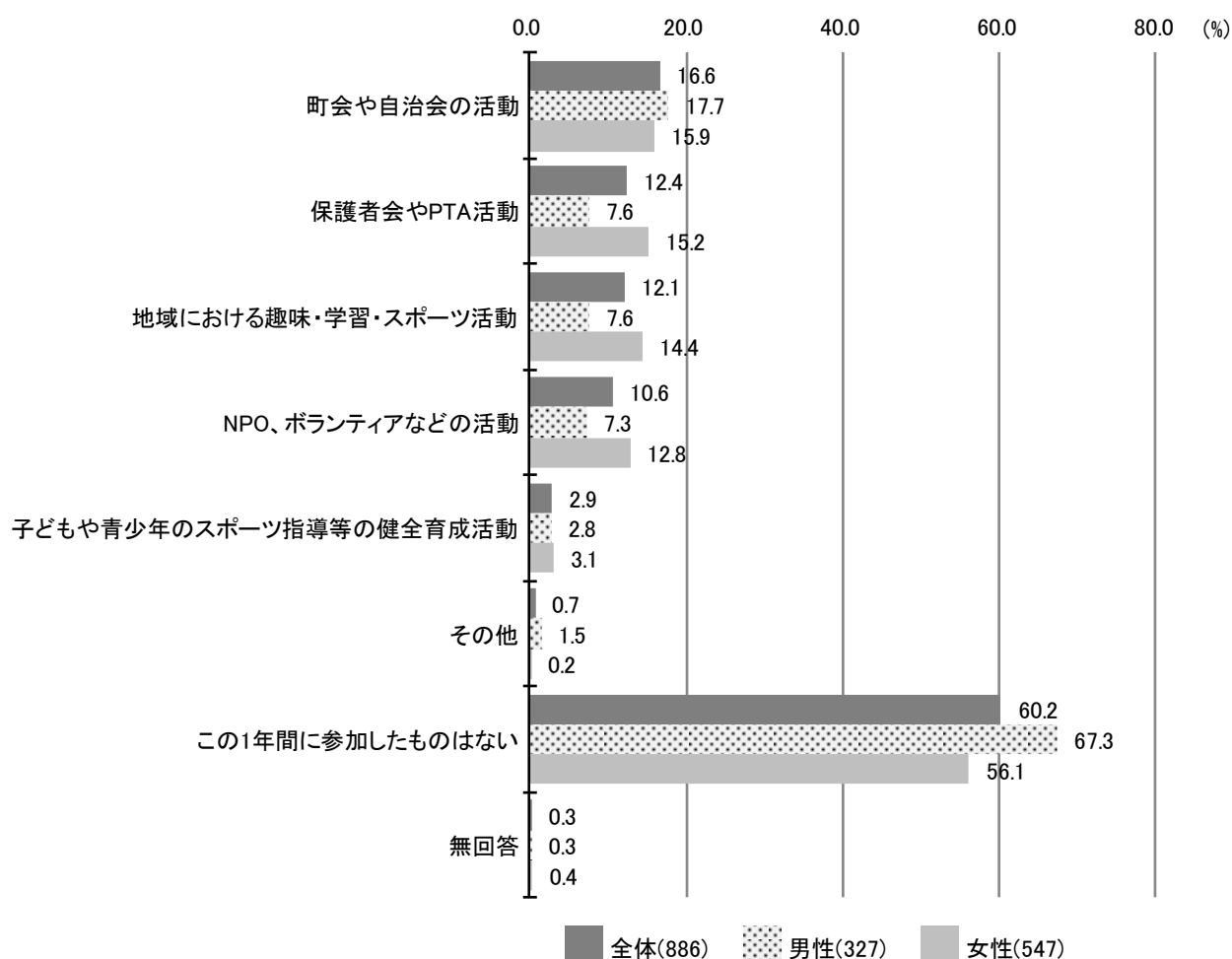
○ 全体・性別の傾向

「この1年間に参加したものはない」が6割(60.2%)を占めている。

参加している場合は、「町会や自治会の活動」が16.6%で最も多く、次いで、「保護者会やPTA活動」(12.4%)、「地域における趣味・学習・スポーツ活動」(12.1%)、「NPO、ボランティアなどの活動」(10.6%)となっている。

性別で見ると、「この1年間に参加したものはない」人の割合は男性(67.3%)が女性(56.1%)を上回っており、女性の方が地域活動・社会活動への参加率が高くなっている。

図Ⅷ－1 この1年間に参加した地域活動や社会活動（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「この1年間に参加したものはなし」は、男性では40代と70歳以上を除き7～8割と高くなっており、この世代で地域活動や社会活動に参加した人は2～3割となっている。一方、女性では、10代・20代では77.4%と高くなっているが、30歳以上では5～6割程度となっており、4～5割程度が地域活動や社会活動に参加していることが分かる。

「町会や自治会の活動」は、男性では、70歳以上と40代で2～3割と高くなっている。女性では、60歳以上で2割と高くなっている。

「保護者会やPTA活動」は男女共に40代で高くなっているが、女性の40代は43.1%であり、男性の40代(25.4%)を大きく上回る。

「地域における趣味・学習・スポーツ活動」は、女性の70歳以上では4人に1人(26.4%)が参加している。

表Ⅷ－1 この1年間に参加した地域活動や社会活動（性・年齢別）

		全 体	町 会 や 自 治 会 の 活 動	保 護 者 会 や P T A 活 動	地 域 に お け る 活 動 ・ 学 習	ど の 活 動 ・ N P O 、 ボ ラ ン テ ィ ア な 活 動	子 ど も や 青 少 年 の 健 全 育 成 活 動	そ の 他	こ の 1 年 間 に 参 加 し た も の は な い	無 回 答
	全 体	886 100.0	147 16.6	110 12.4	107 12.1	94 10.6	26 2.9	6 0.7	533 60.2	3 0.3
男 性	合 計	327 100.0	58 17.7	25 7.6	25 7.6	24 7.3	9 2.8	5 1.5	220 67.3	1 0.3
	10・20代	38 100.0	5 13.2	1 2.6	5 13.2	2 5.3	1 2.6	— —	29 76.3	— —
	30代	44 100.0	6 13.6	3 6.8	2 4.5	1 2.3	— —	1 2.3	34 77.3	— —
	40代	63 100.0	14 22.2	16 25.4	7 11.1	5 7.9	4 6.3	— —	34 54.0	— —
	50代	67 100.0	7 10.4	4 6.0	4 6.0	6 9.0	3 4.5	1 1.5	49 73.1	— —
	60代	41 100.0	5 12.2	— —	1 2.4	2 4.9	1 2.4	3 7.3	32 78.0	— —
	70歳以上	72 100.0	20 27.8	1 1.4	6 8.3	8 11.1	— —	— —	41 56.9	1 1.4
	合 計	547 100.0	87 15.9	83 15.2	79 14.4	70 12.8	17 3.1	1 0.2	307 56.1	2 0.4
	10・20代	53 100.0	4 7.5	1 1.9	2 3.8	8 15.1	1 1.9	— —	41 77.4	— —
女 性	30代	79 100.0	10 12.7	16 20.3	11 13.9	8 10.1	3 3.8	— —	47 59.5	— —
	40代	102 100.0	13 12.7	44 43.1	10 9.8	7 6.9	4 3.9	1 1.0	48 47.1	— —
	50代	109 100.0	16 14.7	16 14.7	14 12.8	12 11.0	3 2.8	— —	67 61.5	— —
	60代	91 100.0	18 19.8	4 4.4	12 13.2	18 19.8	5 5.5	— —	49 53.8	— —
	70歳以上	110 100.0	25 22.7	2 1.8	29 26.4	17 15.5	1 0.9	— —	54 49.1	2 1.8

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「この1年間に参加したものはなし」は、男女共に独身期(18～64 歳)では8割を占めている。一方、男性の家族成長前期では3割、女性の家族成長前期・後期では1割と低く、この時期は男性で7割、女性では9割が何らかの地域活動や社会活動に参加している。

「保護者会やPTA活動」は男女共に、家族成長前期・後期で高くなっているが、女性が約8割以上であるのに対し、男性は5割未満となっている。

「地域における趣味・学習・スポーツ活動」は、男性の家族成長前期と女性の家族成長前期・後期、高齢期では4人に1人が参加している。

表Ⅷ－２ この1年間に参加した地域活動や社会活動（性・ライフステージ区分別）

		町会 や自治会 の活動	保護 者会 やPTA 活動	地域に おける 趣味・学 習・ス ポーツ活 動	どの活 動にお ける活 動	NPO、 ボラン ティア な活動	子ども や青年 のスポ ーツ活 動	その他	この1 年間に 参加し たもの はない	無回 答
全 体		886 100.0	147 16.6	110 12.4	107 12.1	94 10.6	26 2.9	6 0.7	533 60.2	3 0.3
男 性	合 計	327 100.0	58 17.7	25 7.6	25 7.6	24 7.3	9 2.8	5 1.5	220 67.3	1 0.3
	独身期(18～39歳)	47 100.0	4 8.5	— —	6 12.8	2 4.3	— —	— —	37 78.7	— —
	家族形成期	48 100.0	12 25.0	9 18.8	4 8.3	2 4.2	2 4.2	1 2.1	31 64.6	— —
	家族成長前期	21 100.0	6 28.6	10 47.6	5 23.8	2 9.5	2 9.5	— —	6 28.6	— —
	家族成長後期	13 100.0	2 15.4	5 38.5	1 7.7	2 15.4	1 7.7	— —	7 53.8	— —
	家族成熟期	8 100.0	2 25.0	— —	— —	2 25.0	— —	— —	4 50.0	— —
	高齢期	90 100.0	22 24.4	1 1.1	7 7.8	10 11.1	— —	1 1.1	54 60.0	1 1.1
	独身期(40～64歳)	54 100.0	4 7.4	— —	2 3.7	1 1.9	— —	— —	47 87.0	— —
	その他	44 100.0	5 11.4	— —	— —	3 6.8	4 9.1	3 6.8	33 75.0	— —
	合 計	547 100.0	87 15.9	83 15.2	79 14.4	70 12.8	17 3.1	1 0.2	307 56.1	2 0.4
女 性	独身期(18～39歳)	67 100.0	3 4.5	1 1.5	2 3.0	7 10.4	1 1.5	— —	56 83.6	— —
	家族形成期	77 100.0	12 15.6	24 31.2	11 14.3	8 10.4	2 2.6	— —	35 45.5	— —
	家族成長前期	28 100.0	7 25.0	24 85.7	7 25.0	4 14.3	5 17.9	— —	2 7.1	— —
	家族成長後期	34 100.0	8 23.5	27 79.4	9 26.5	3 8.8	2 5.9	— —	3 8.8	— —
	家族成熟期	21 100.0	6 28.6	3 14.3	3 14.3	3 14.3	— —	— —	10 47.6	— —
	高齢期	148 100.0	36 24.3	3 2.0	36 24.3	26 17.6	5 3.4	— —	70 47.3	2 1.4
	独身期(40～64歳)	116 100.0	6 5.2	— —	6 5.2	8 6.9	1 0.9	1 0.9	95 81.9	— —
	その他	53 100.0	8 15.1	1 1.9	4 7.5	11 20.8	1 1.9	— —	35 66.0	— —
	合 計	547 100.0	87 15.9	83 15.2	79 14.4	70 12.8	17 3.1	1 0.2	307 56.1	2 0.4
	独身期(18～39歳)	67 100.0	3 4.5	1 1.5	2 3.0	7 10.4	1 1.5	— —	56 83.6	— —

問 15-1 地域活動・社会活動に参加していない理由

【問 15 で「7. この1年間に参加したものはなし」に「○」をした方にお聞きます。】

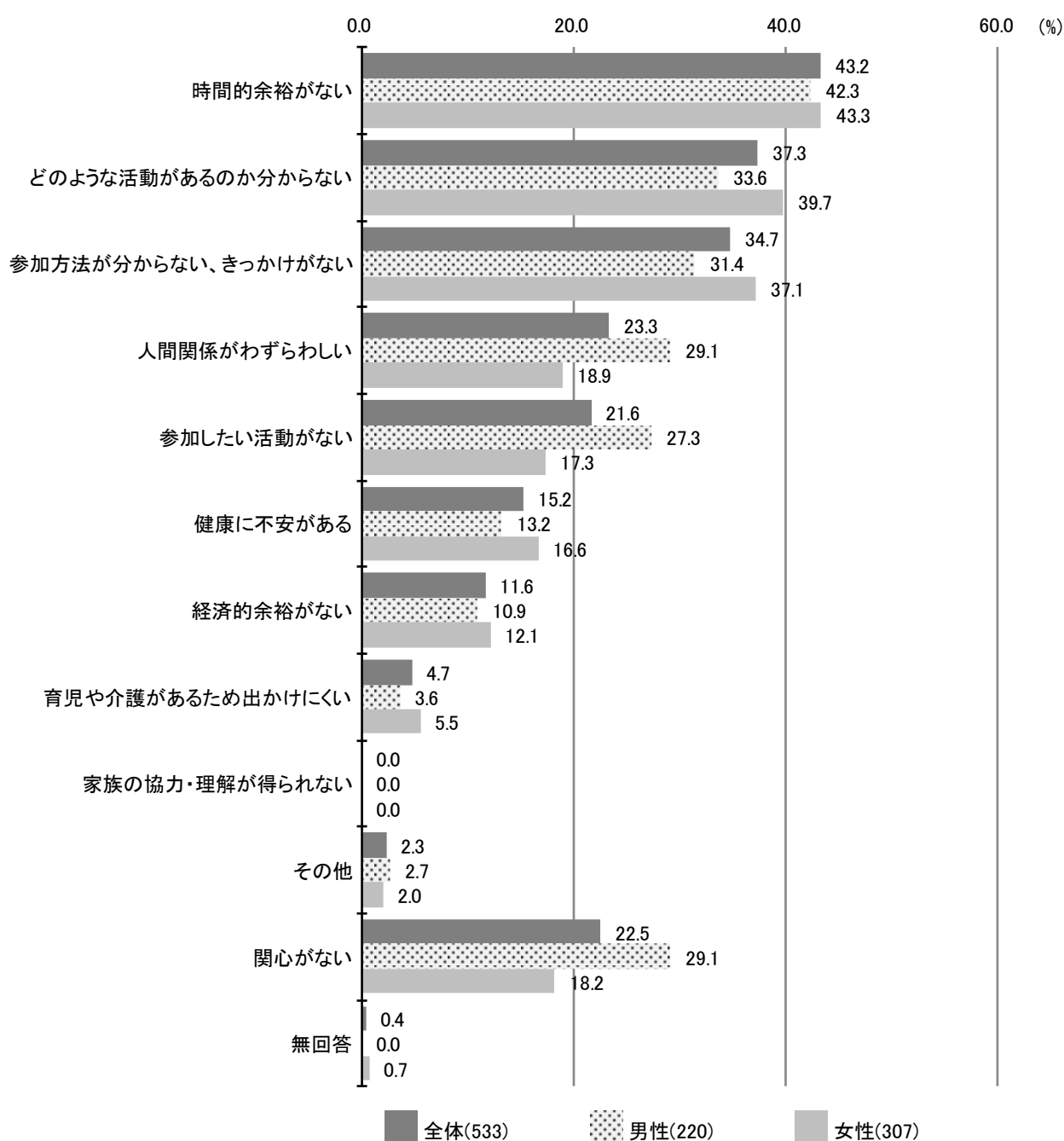
あなたが地域活動・社会活動に参加していないのはどうしてですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「時間的余裕がない」が 43.2%で最も多く、次いで、「どのような活動があるのか分からない」(37.3%)、「参加方法が分からない、きっかけがない」(34.7%)となっている。また、「関心がない」という人は 22.5%である。

性別で見ると、「関心がない」は、男性で 29.1%であり、女性を(18.2%)を 10.9 ポイント上回っている。

図Ⅷ-2 地域活動・社会活動に参加していない理由（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「時間的余裕がない」は、男性の40代と女性の30代で6割を占めている。

男性の30～40代と女性の40歳未満では、「どのような活動があるのか分からない」は過半数を占め、また、「参加方法が分からない、きっかけがない」が4～5割と高くなっている。

「健康に不安がある」は70歳以上では最も多い理由となっている。

表Ⅷ－3 地域活動・社会活動に参加していない理由（性・年齢別）

	全 体	時 間 的 余 裕 が な い	ど の か よ う な 活 動 が あ い な い	い ま ま の 方 法 が 分 か ら な い	し 人 間 関 係 が わ ず ら わ ない	い ま ま の 方 法 が 分 か ら な い	健 康 に 不 安 が あ る	経 済 的 余 裕 が な い	め 育 児 や 介 護 が あ る た い	得 ら れ な い 協 力 ・ 理 解 が あ る	そ の 他	関 心 が な い	無 回 答
全 体	533 100.0	230 43.2	199 37.3	185 34.7	124 23.3	115 21.6	81 15.2	62 11.6	25 4.7	— —	12 2.3	120 22.5	2 0.4
男 性	合計	220 100.0	93 42.3	74 33.6	69 31.4	64 29.1	60 27.3	29 13.2	24 10.9	8 3.6	— —	6 2.7	64 29.1
	10・20代	29 100.0	9 31.0	13 44.8	11 37.9	9 31.0	8 27.6	— —	2 6.9	— —	— —	2 6.9	11 37.9
	30代	34 100.0	17 50.0	18 52.9	15 44.1	9 26.5	14 41.2	1 2.9	2 5.9	— —	— —	1 2.9	12 35.3
	40代	34 100.0	20 58.8	19 55.9	14 41.2	13 38.2	12 35.3	2 5.9	2 5.9	1 2.9	— —	1 2.9	8 23.5
	50代	49 100.0	24 49.0	12 24.5	15 30.6	13 26.5	9 18.4	6 12.2	8 16.3	4 8.2	— —	1 2.0	12 24.5
	60代	32 100.0	13 40.6	9 28.1	9 28.1	9 28.1	7 21.9	5 15.6	6 18.8	2 6.3	— —	— —	12 37.5
	70歳以上	41 100.0	10 24.4	3 7.3	5 12.2	11 26.8	10 24.4	14 34.1	4 9.8	1 2.4	— —	1 2.4	9 22.0
女 性	合計	307 100.0	133 43.3	122 39.7	114 37.1	58 18.9	53 17.3	51 16.6	37 12.1	17 5.5	— —	6 2.0	56 18.2
	10・20代	41 100.0	20 48.8	21 51.2	20 48.8	10 24.4	8 19.5	1 2.4	4 9.8	— —	— —	— —	10 24.4
	30代	47 100.0	29 61.7	26 55.3	23 48.9	11 23.4	12 25.5	2 4.3	6 12.8	3 6.4	— —	1 2.1	11 23.4
	40代	48 100.0	22 45.8	20 41.7	19 39.6	13 27.1	14 29.2	3 6.3	4 8.3	4 8.3	— —	1 2.1	9 18.8
	50代	67 100.0	27 40.3	26 38.8	27 40.3	13 19.4	5 7.5	9 13.4	11 16.4	2 3.0	— —	1 1.5	10 14.9
	60代	49 100.0	23 46.9	17 34.7	17 34.7	5 10.2	12 24.5	7 14.3	8 16.3	6 12.2	— —	1 2.0	11 22.4
	70歳以上	54 100.0	12 22.2	11 20.4	8 14.8	6 11.1	2 3.7	28 51.9	4 7.4	2 3.7	— —	2 3.7	5 9.3

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「どのような活動があるのか分からない」は、男女の独身期(18～39 歳)と女性の家族形成期で過半数と高くなっている。

「参加方法が分からない、きっかけがない」は、男女の独身期(18～64 歳)と女性の家族形成期で4～5割と高くなっている。

「健康に不安がある」は、男女共に高齢期で高くなっている。

「関心がない」は、男性の独身期(18～39 歳)で4割(40.5%)と高くなっている。

表Ⅷ－4 地域活動・社会活動に参加していない理由（性・ライフステージ区分別）

		全 体	時 間 的 余 裕 が な い	ど の よ う な 活 動 が あ る の か 分 か ら な い	参 加 方 法 が 分 か ら な い 、 き つ か け が な い	人 間 関 係 が わ ず ら わ し い	参 加 し た い 活 動 が な い	健 康 に 不 安 が あ る	経 済 的 余 裕 が な い	か け に く い 育 児 や 介 護 が あ る た め 出	家 族 の 協 力 ・ 理 解 が 得 ら れ な い	そ の 他	関 心 が な い	無 回 答
全 体		533 100.0	230 43.2	199 37.3	185 34.7	124 23.3	115 21.6	81 15.2	62 11.6	25 4.7	－ －	12 2.3	120 22.5	2 0.4
男 性	合 計	220 100.0	93 42.3	74 33.6	69 31.4	64 29.1	60 27.3	29 13.2	24 10.9	8 3.6	－ －	6 2.7	64 29.1	－ －
	独身期(18～39歳)	37 100.0	16 43.2	19 51.4	16 43.2	11 29.7	11 29.7	－ －	3 8.1	－ －	－ －	2 5.4	15 40.5	－ －
	家族形成期	31 100.0	15 48.4	12 38.7	10 32.3	7 22.6	13 41.9	1 3.2	1 3.2	1 3.2	－ －	1 3.2	8 25.8	－ －
	家族成長前期	6 100.0	4 66.7	3 50.0	1 16.7	4 66.7	3 50.0	－ －	1 16.7	－ －	－ －	－ －	2 33.3	－ －
	家族成長後期	7 100.0	4 57.1	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	－ －	－ －	2 28.6	2 28.6	－ －
	家族成熟期	4 100.0	3 75.0	1 25.0	－ －	1 25.0	1 25.0	－ －	1 25.0	1 25.0	－ －	－ －	2 50.0	－ －
	高齢期	54 100.0	14 25.9	9 16.7	10 18.5	16 29.6	12 22.2	16 29.6	7 13.0	3 5.6	－ －	1 1.9	14 25.9	－ －
	独身期(40～64歳)	47 100.0	21 44.7	17 36.2	20 42.6	15 31.9	9 19.1	8 17.0	9 19.1	2 4.3	－ －	－ －	12 25.5	－ －
	その他	33 100.0	16 48.5	12 36.4	11 33.3	9 27.3	9 27.3	2 6.1	1 3.0	1 3.0	－ －	－ －	9 27.3	－ －
女 性	合 計	307 100.0	133 43.3	122 39.7	114 37.1	58 18.9	53 17.3	51 16.6	37 12.1	17 5.5	－ －	6 2.0	56 18.2	2 0.7
	独身期(18～39歳)	56 100.0	30 53.6	31 55.4	28 50.0	12 21.4	13 23.2	－ －	7 12.5	－ －	－ －	1 1.8	13 23.2	1 1.8
	家族形成期	35 100.0	21 60.0	18 51.4	17 48.6	9 25.7	7 20.0	2 5.7	2 5.7	7 20.0	－ －	－ －	7 20.0	－ －
	家族成長前期	2 100.0	－ －	1 50.0	2 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
	家族成長後期	3 100.0	1 33.3	－ －	1 33.3	1 33.3	－ －	1 33.3	1 33.3	－ －	－ －	－ －	2 66.7	－ －
	家族成熟期	10 100.0	5 50.0	5 50.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	－ －	－ －	－ －	2 20.0	－ －
	高齢期	70 100.0	16 22.9	16 22.9	13 18.6	6 8.6	8 11.4	30 42.9	5 7.1	4 5.7	－ －	2 2.9	10 14.3	1 1.4
	独身期(40～64歳)	95 100.0	43 45.3	37 38.9	42 44.2	20 21.1	15 15.8	14 14.7	19 20.0	5 5.3	－ －	2 2.1	15 15.8	－ －
	その他	35 100.0	17 48.6	13 37.1	9 25.7	8 22.9	8 22.9	2 5.7	2 5.7	1 2.9	－ －	1 2.9	7 20.0	－ －

問 16 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと

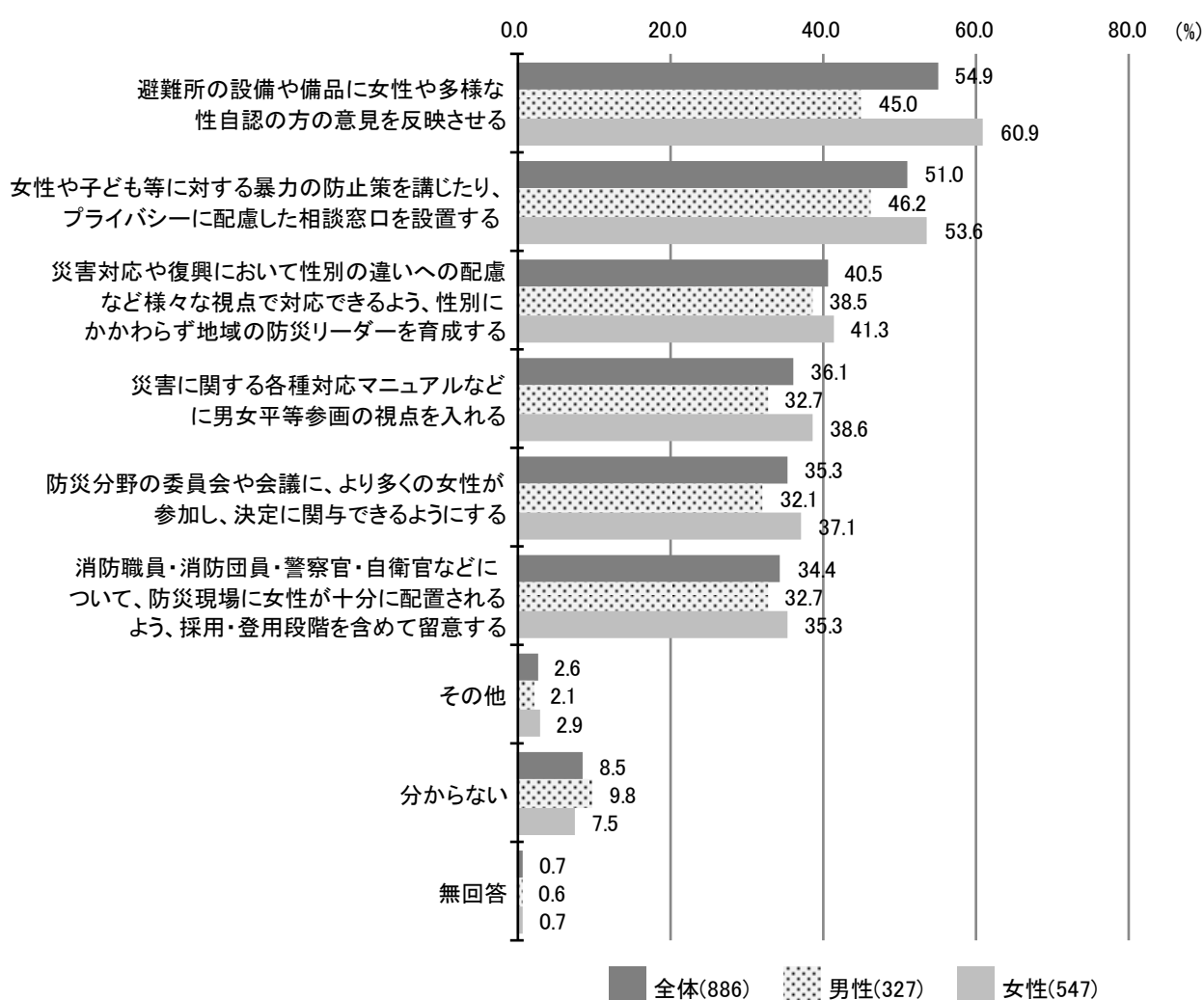
あなたは、災害時に備えた男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。【〇はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる」(54.9%)、「女性や子ども等に対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」(51.0%)が半数程度と多くなっている。

性別で見ると、「避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる」は女性では 60.9%を占め、男性(45.0%)を大きく上回っている。

図Ⅷ－３ 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「女性や子ども等に対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」は女性の10・20代で64.2%と高くなっている。

また、女性の10・20代では、「災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を」入れる」、「防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加し、決定に関与できるようにする」が5割と高くなっている。

表Ⅷ－5 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと(性・年齢別)

		全 体	避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる	女性や子ども等に対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する	災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるように、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を入れる	防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加し、決定に関与できるようにする	消防職員・消防団員・警察官・自衛官などに、採用・登用段階を含めて留意する	その他	分からない	無回答
全 体		886 100.0	486 54.9	452 51.0	359 40.5	320 36.1	313 35.3	305 34.4	23 2.6	75 8.5	6 0.7
男性	合 計	327 100.0	147 45.0	151 46.2	126 38.5	107 32.7	105 32.1	107 32.7	7 2.1	32 9.8	2 0.6
	10・20代	38 100.0	15 39.5	20 52.6	15 39.5	12 31.6	11 28.9	10 26.3	2 5.3	5 13.2	— —
	30代	44 100.0	13 29.5	18 40.9	16 36.4	14 31.8	12 27.3	15 34.1	3 6.8	5 11.4	1 2.3
	40代	63 100.0	25 39.7	35 55.6	22 34.9	23 36.5	20 31.7	23 36.5	1 1.6	7 11.1	— —
	50代	67 100.0	39 58.2	33 49.3	29 43.3	20 29.9	23 34.3	25 37.3	1 1.5	5 7.5	— —
	60代	41 100.0	19 46.3	14 34.1	15 36.6	11 26.8	13 31.7	14 34.1	— —	3 7.3	— —
	70歳以上	72 100.0	35 48.6	30 41.7	29 40.3	27 37.5	25 34.7	19 26.4	— —	7 9.7	1 1.4
	女性	合 計	547 100.0	333 60.9	293 53.6	226 41.3	211 38.6	203 37.1	193 35.3	16 2.9	41 7.5
10・20代		53 100.0	33 62.3	34 64.2	19 35.8	27 50.9	26 49.1	22 41.5	3 5.7	3 5.7	— —
30代		79 100.0	48 60.8	43 54.4	31 39.2	36 45.6	31 39.2	27 34.2	4 5.1	3 3.8	— —
40代		102 100.0	59 57.8	58 56.9	43 42.2	32 31.4	35 34.3	39 38.2	5 4.9	6 5.9	— —
50代		109 100.0	71 65.1	66 60.6	52 47.7	48 44.0	40 36.7	43 39.4	1 0.9	7 6.4	— —
60代		91 100.0	58 63.7	54 59.3	39 42.9	35 38.5	39 42.9	28 30.8	1 1.1	7 7.7	— —
70歳以上		110 100.0	61 55.5	38 34.5	41 37.3	32 29.1	31 28.2	32 29.1	2 1.8	15 13.6	4 3.6

【参考】

表Ⅷ－６ 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと
(その他の性自認)

分らない	その他	消防職員・消防団員・警察官・自衛官などに ついて、防災現場に女性が十分に配置される よう、採用・登用段階を含めて留意する	防災分野の委員会や会議に、より多くの女性 が参加し、決定に関与できるようにする	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女 平等参画の視点を入れる	災害対応や復興において性別の違いへの配慮 など様々な視点で対応できるように、性別にか かわらず地域の防災リーダーを育成する	女性や子ども等に対する暴力の防止策を講じ たり、プライバシーに配慮した相談窓口を設 置する	避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の 方の意見を反映させる	全 体
— —	— —	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	4 100.0	2 50.0	4 100.0

IX. 政策決定過程への女性の参画について

問 17 女性の意見が行政にどの程度反映されているか

あなたは、女性の意見が国や自治体の行政にどの程度反映されていると思いますか。

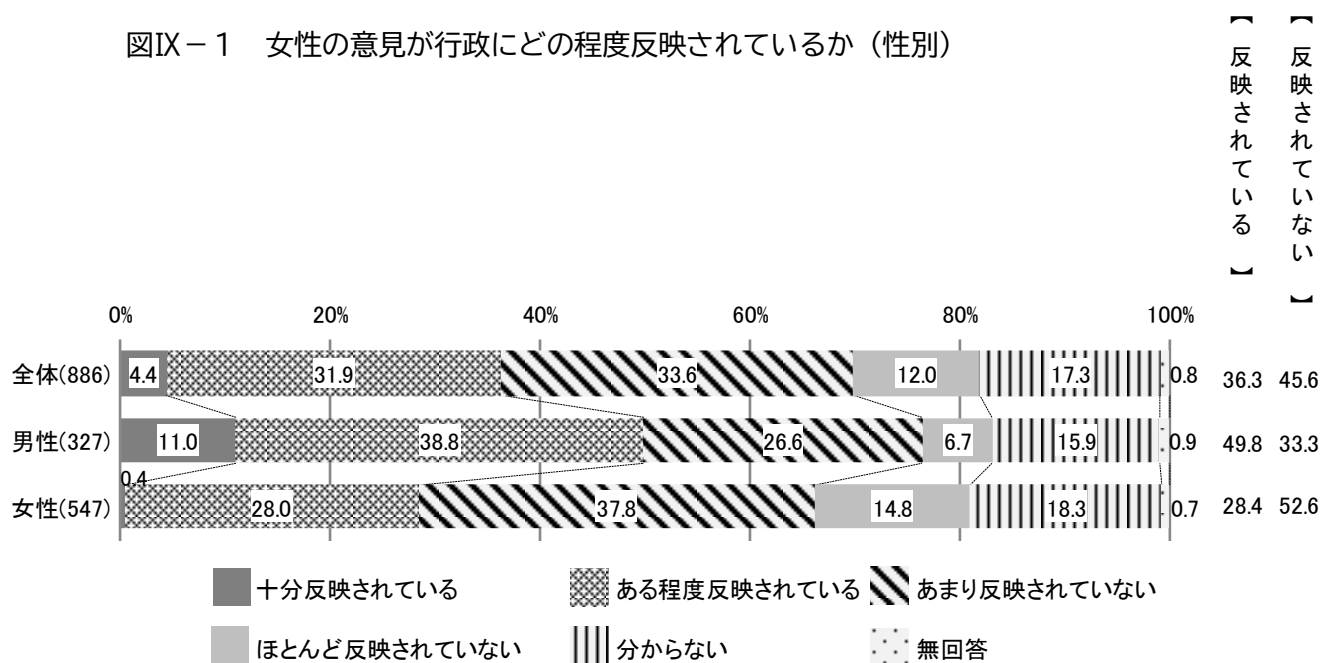
【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

男性では、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計（以下、『反映されている』）が半数（49.8％）を占め、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」の合計（以下、『反映されていない』）は 33.3％であるが、一方、女性では『反映されている』は 28.4％であり、『反映されていない』が半数（52.6％）となっている。

性別で見ると、「十分反映されている」は、男性では 11.0％であるが、女性では 0.4％（547 人中2人）のみとなっている。

図IX－1 女性の意見が行政にどの程度反映されているか（性別）



○ 性・年齢別の傾向

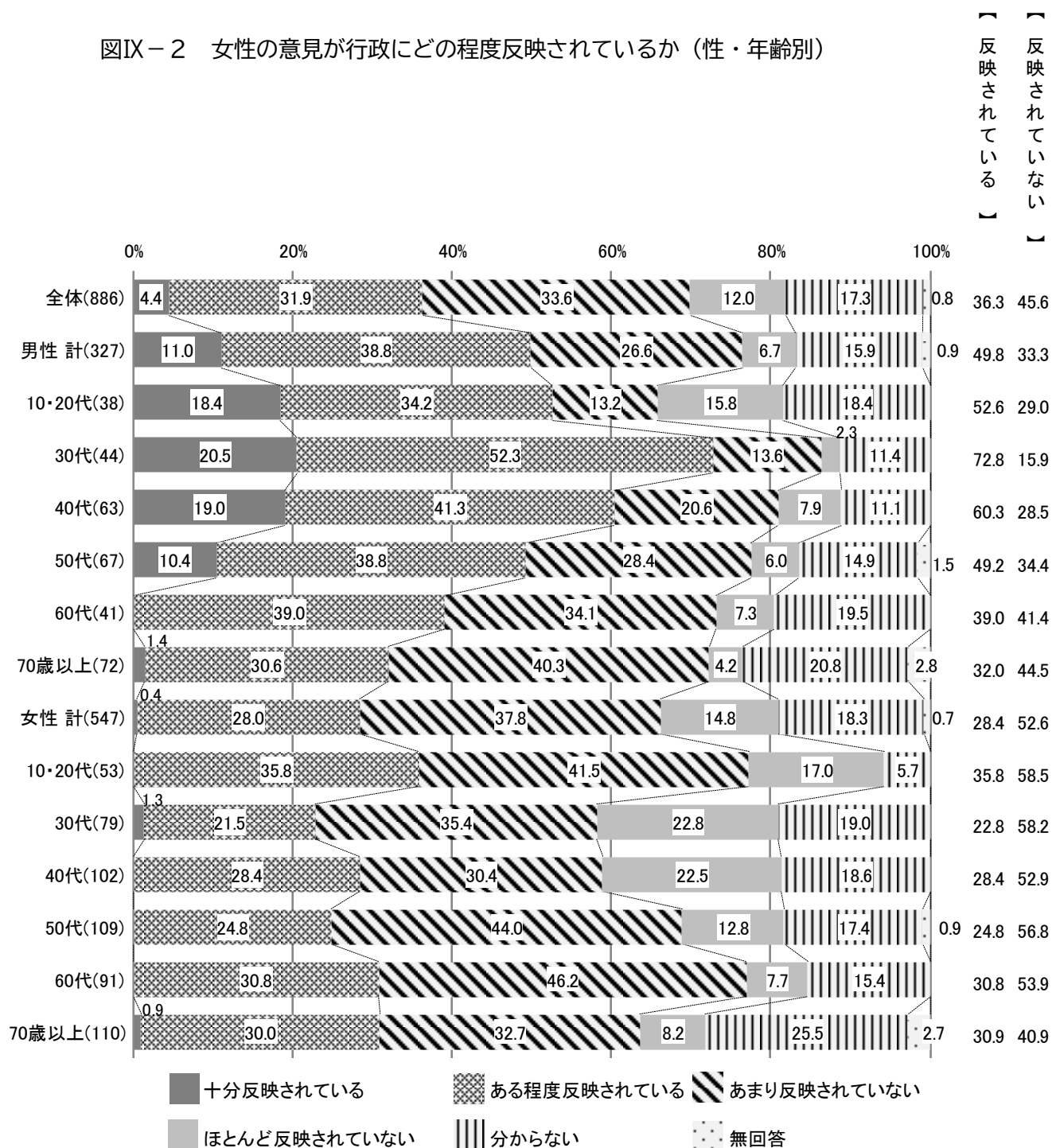
男性では、30代で『反映されている』が72.8%と最も高く、『反映されていない』が15.9%と最も低くなっている。年齢が上がるにつれて『反映されている』が減り、『反映されていない』が増えており、60歳以上では、『反映されていない』と考える人が『反映されている』を上回っている。

また、「十分反映されている」と考える人は50歳未満では2割、50代で1割となっている。

女性では、「十分反映されている」と考える人は僅かであり、「ある程度反映されている」は、10・20代では35.8%と他の世代より高くなっている。

また、「ほとんど反映されていない」は50歳未満で2割前後と高くなっている。

図IX-2 女性の意見が行政にどの程度反映されているか（性・年齢別）



問 17－1 反映されていない理由

【問 17 で「3. あまり反映されていない」又は「4. ほとんど反映されていない」のいずれかに「○」をした方にお聞きします。】

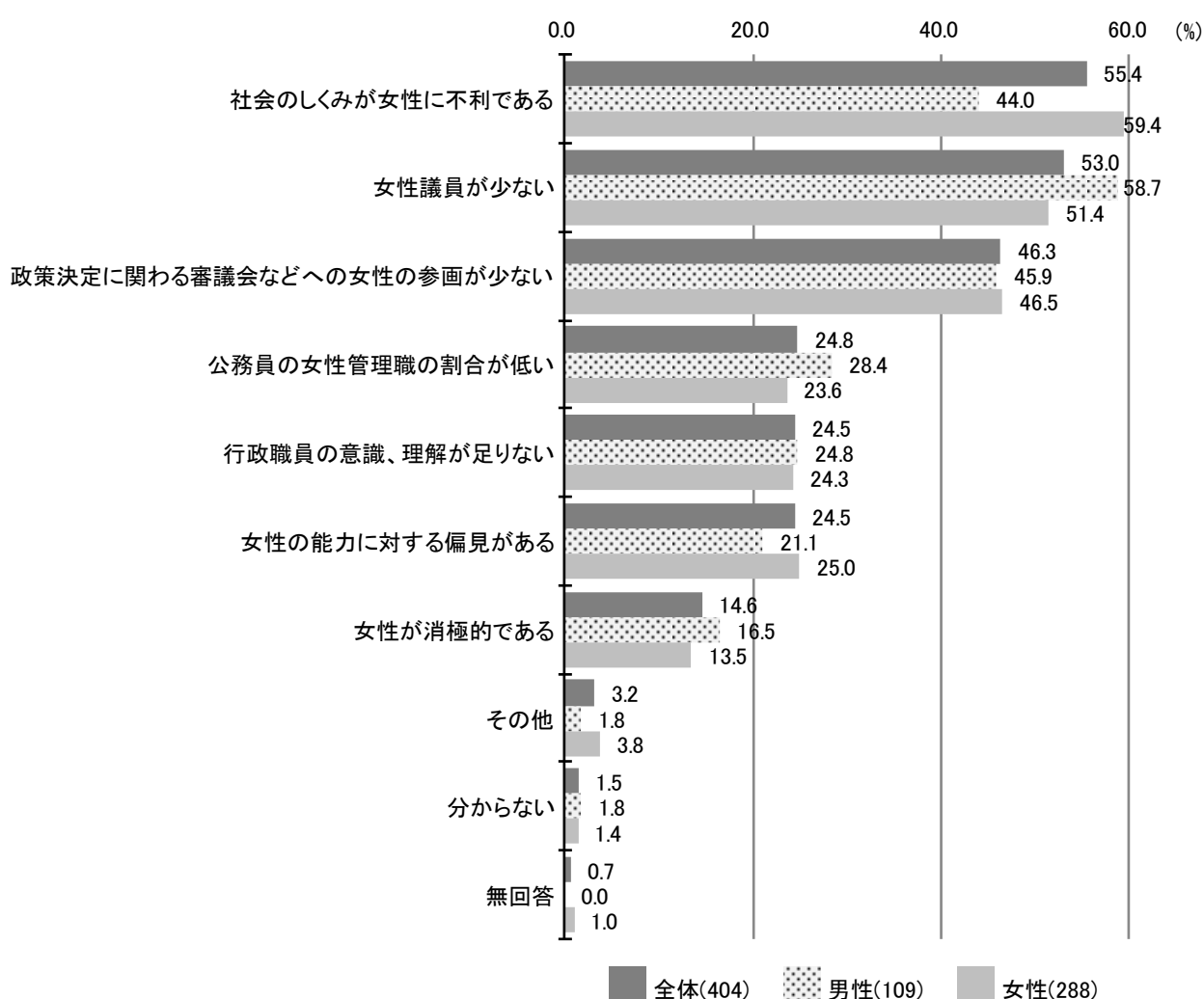
反映されていない理由は、どのようなことだと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「社会のしくみが女性に不利である」は 55.4%で最も多く、次いで、「女性議員が少ない」(53.0%)、「政策決定に関わる審議会などへの女性の参画が少ない」(46.3%)となっている。

性別で見ると、「社会のしくみが女性に不利である」は、女性では 59.4%であり、男性(44.0%)を大きく上回る。

図IX－3 反映されていない理由（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「社会のしくみが女性に不利である」は、女性の10～30代で68.8%と高くなっている。

「政策決定に関わる審議会などへの女性の参画が少ない」は、男性の40代で66.7%と高くなっている。

「公務員の女性管理職の割合が低い」は、男性の70歳以上で4割、女性の40～50代で3割と高くなっている。

表IX－1 反映されていない理由（性・年齢別）

		全体	社会のしくみが女性に不利である	女性議員が少ない	政策決定に関わる審議会などへの女性の参画が少ない	公務員の女性管理職の割合が低い	行政職員の意識、理解が足りない	ある女性の能力に対する偏見がある	女性が消極的である	その他	分からない	無回答
全体		404 100.0	224 55.4	214 53.0	187 46.3	100 24.8	99 24.5	99 24.5	59 14.6	13 3.2	6 1.5	3 0.7
男性	合計	109 100.0	48 44.0	64 58.7	50 45.9	31 28.4	27 24.8	23 21.1	18 16.5	2 1.8	2 1.8	－ －
	10～30代	18 100.0	9 50.0	12 66.7	9 50.0	4 22.2	2 11.1	6 33.3	5 27.8	2 11.1	1 5.6	－ －
	40代	18 100.0	6 33.3	11 61.1	12 66.7	4 22.2	6 33.3	2 11.1	3 16.7	－ －	－ －	－ －
	50代	23 100.0	10 43.5	11 47.8	11 47.8	6 26.1	6 26.1	5 21.7	6 26.1	－ －	－ －	－ －
	60代	17 100.0	8 47.1	10 58.8	7 41.2	4 23.5	5 29.4	3 17.6	1 5.9	－ －	－ －	－ －
	70歳以上	32 100.0	15 46.9	19 59.4	11 34.4	13 40.6	8 25.0	7 21.9	3 9.4	－ －	1 3.1	－ －
	合計	288 100.0	171 59.4	148 51.4	134 46.5	68 23.6	70 24.3	72 25.0	39 13.5	11 3.8	4 1.4	3 1.0
女性	10～30代	77 100.0	53 68.8	46 59.7	35 45.5	14 18.2	12 15.6	17 22.1	7 9.1	4 5.2	－ －	1 1.3
	40代	54 100.0	32 59.3	28 51.9	25 46.3	17 31.5	12 22.2	15 27.8	9 16.7	3 5.6	2 3.7	－ －
	50代	62 100.0	35 56.5	33 53.2	27 43.5	18 29.0	14 22.6	17 27.4	6 9.7	－ －	－ －	1 1.6
	60代	49 100.0	31 63.3	20 40.8	23 46.9	8 16.3	17 34.7	10 20.4	9 18.4	3 6.1	1 2.0	－ －
	70歳以上	45 100.0	19 42.2	20 44.4	23 51.1	10 22.2	15 33.3	12 26.7	8 17.8	1 2.2	1 2.2	1 2.2
	合計	288 100.0	171 59.4	148 51.4	134 46.5	68 23.6	70 24.3	72 25.0	39 13.5	11 3.8	4 1.4	3 1.0

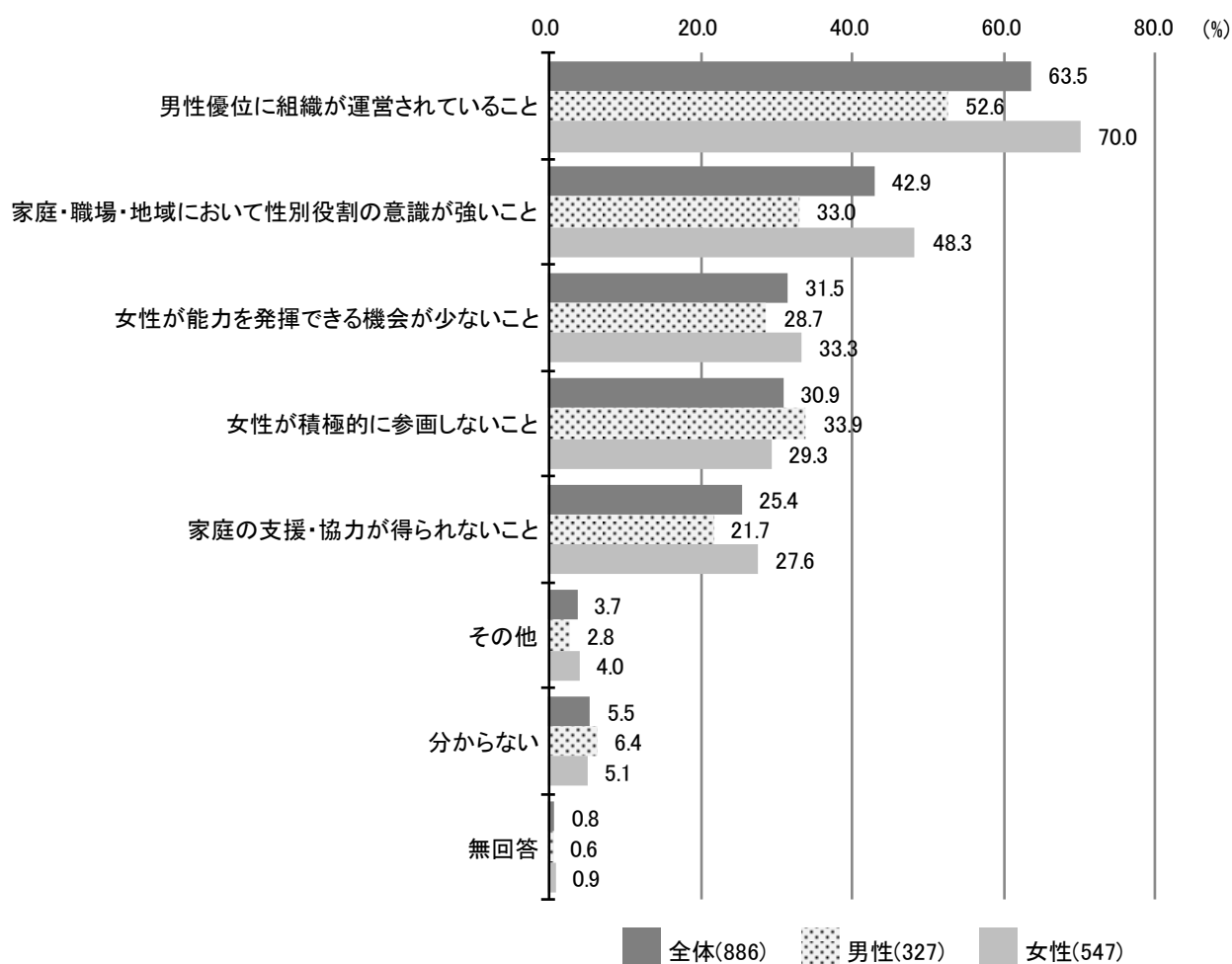
問 18 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因

あなたは、政治の場や仕事の場において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因は、どのようなことだと思いますか。【〇はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「男性優位に組織が運営されていること」が 63.5%で最も多く、次いで、「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」が 42.9%となっている。いずれも女性の割合が高くなっており、男性を 15 ポイント以上上回っている。

図IX－4 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」は、女性では概ね年齢が低いほど高くなる傾向にあり、50歳未満で過半数を占め、特に、10・20代では64.2%となっている。

「女性が能力を発揮できる機会が少ないこと」は、男性では50歳以上で3～4割程度と高くなっている。

「女性が積極的に参画しないこと」は、男性では概ね年齢が低くなるほど高くなる傾向にあり、特に30代では5割となっており、他の世代を10ポイント以上上回っている。

「家庭の支援・協力が得られないこと」は、女性では、概ね年齢が低くなるほど高くなる傾向にあり、10・20代と40代で3割、30代では4割(38.0%)となっている。

表IX－2 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因（性・年齢別）

		全 体	て男 性優 位に 組織 が運 営さ れ	性家 庭役 ・割 の職 場・ 意地 識域 がに 強お いこ とて	会女 性が 少な い能 力を 発揮 でき る機 会	こ女 性が 積極 的に 参画 しな い	な家 庭の 支援 ・協 力が 得ら れ	そ 他	分 から ない	無 回 答
全 体		886 100.0	563 63.5	380 42.9	279 31.5	274 30.9	225 25.4	33 3.7	49 5.5	7 0.8
男 性	合 計	327 100.0	172 52.6	108 33.0	94 28.7	111 33.9	71 21.7	9 2.8	21 6.4	2 0.6
	10・20代	38 100.0	20 52.6	16 42.1	8 21.1	15 39.5	3 7.9	— —	2 5.3	— —
	30代	44 100.0	10 22.7	10 22.7	7 15.9	22 50.0	10 22.7	3 6.8	4 9.1	— —
	40代	63 100.0	32 50.8	22 34.9	15 23.8	24 38.1	10 15.9	5 7.9	4 6.3	— —
	50代	67 100.0	39 58.2	24 35.8	24 35.8	23 34.3	20 29.9	1 1.5	4 6.0	1 1.5
	60代	41 100.0	27 65.9	11 26.8	12 29.3	9 22.0	9 22.0	— —	2 4.9	— —
	70歳以上	72 100.0	43 59.7	25 34.7	28 38.9	17 23.6	18 25.0	— —	5 6.9	1 1.4
女 性	合 計	547 100.0	383 70.0	264 48.3	182 33.3	160 29.3	151 27.6	22 4.0	28 5.1	5 0.9
	10・20代	53 100.0	41 77.4	34 64.2	19 35.8	14 26.4	16 30.2	2 3.8	1 1.9	— —
	30代	79 100.0	59 74.7	42 53.2	22 27.8	25 31.6	30 38.0	4 5.1	3 3.8	— —
	40代	102 100.0	72 70.6	54 52.9	38 37.3	26 25.5	32 31.4	6 5.9	5 4.9	— —
	50代	109 100.0	76 69.7	48 44.0	38 34.9	26 23.9	29 26.6	5 4.6	7 6.4	1 0.9
	60代	91 100.0	68 74.7	44 48.4	27 29.7	28 30.8	25 27.5	4 4.4	3 3.3	— —
	70歳以上	110 100.0	66 60.0	42 38.2	37 33.6	40 36.4	18 16.4	1 0.9	8 7.3	4 3.6

問 19 地域活動における女性リーダーを増やすために必要なこと

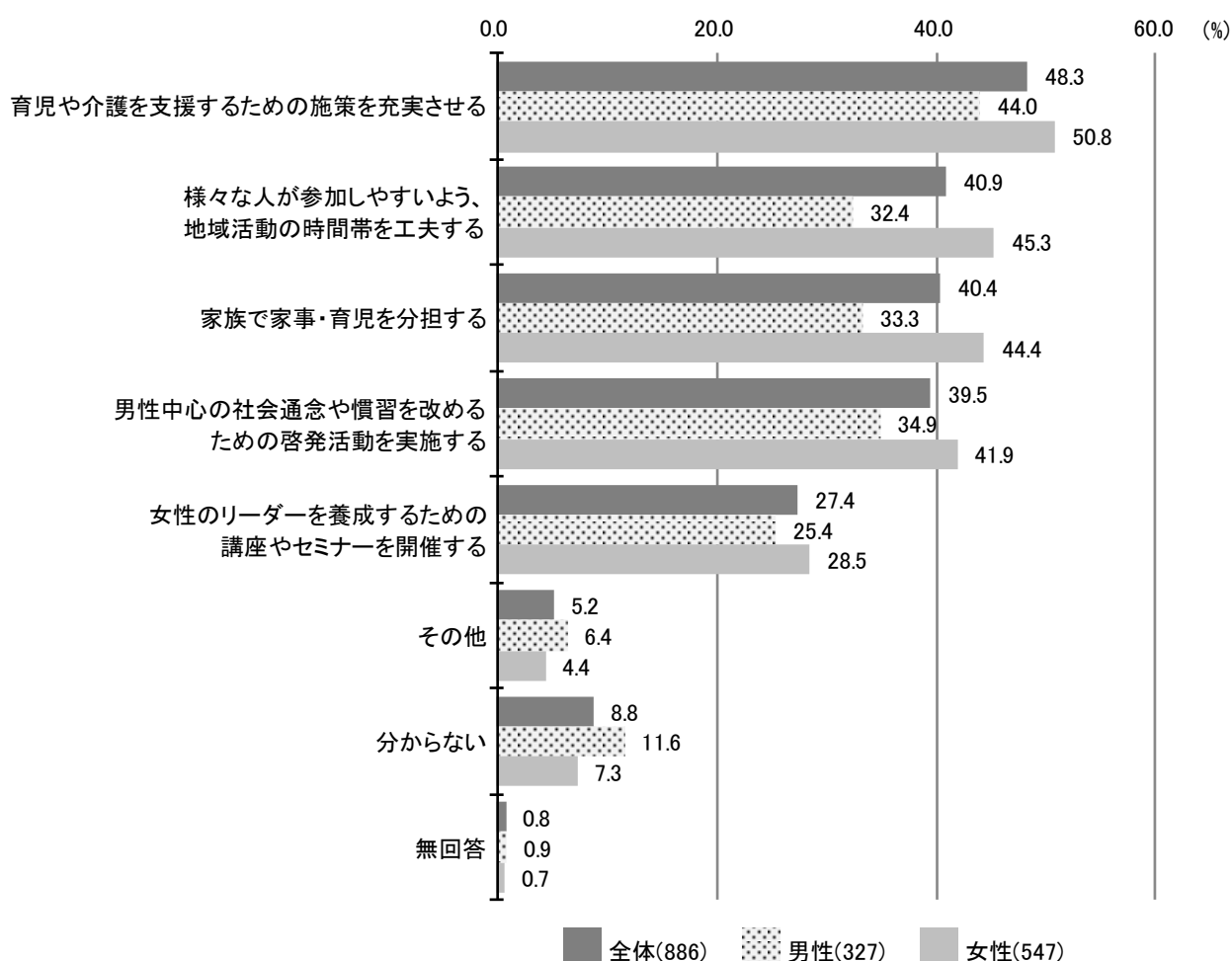
現在、女性リーダーがなかなか増えないという状況にあります。地域活動における女性リーダーを増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「育児や介護を支援するための施策を充実させる」が半数(48.3%)を占め最も多く、また、「様々な人が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫する」(40.9%)、「家族で家事・育児を分担する」(40.4%)、「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」(39.5%)がそれぞれ4割となっている。

性別で見ると、「様々な人が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫する」と「家族で家事・育児を分担する」は女性が男性を10ポイント以上上回っている。

図IX-5 地域活動における女性リーダーを増やすために必要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「育児や介護を支援するための施策を充実させる」は女性の10・20代(66.0%)と30代(58.2%)で過半数と高く、また、「様々な人が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫する」も女性の10・20代では過半数の56.6%となっている。

「家族で家事・育児を分担する」は、女性では、年齢が低いほど高くなっており、50歳未満で半数を占め、10・20代は67.9%となっている。

表IX-3 地域活動における女性リーダーを増やすために必要なこと(性・年齢別)

			全 体	育 児 の 施 策 を 充 実 さ せ る た め	を 工 夫 す る	様 々 な 人 が 参 加 し や す い よう、地 域 活 動 の 時 間 帯	家 族 で 家 事・育 児 を 分 担 す る	男 性 中 心 の 社 会 通 念 や 慣 習 を 改 め る た め の 啓 発 活 動 を 実 施 す る	女 性 の リ ー ダ ー を 養 成 す る た め の 講 座 や セ ミ ナ ー を 開 催 す る	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	428 48.3	362 40.9	358 40.4	350 39.5	243 27.4	46 5.2	78 8.8	7 0.8		
男 性	合 計	327 100.0	144 44.0	106 32.4	109 33.3	114 34.9	83 25.4	21 6.4	38 11.6	3 0.9		
	10・20代	38 100.0	19 50.0	11 28.9	13 34.2	11 28.9	8 21.1	3 7.9	6 15.8	－ －		
	30代	44 100.0	18 40.9	13 29.5	16 36.4	4 9.1	10 22.7	7 15.9	8 18.2	－ －		
	40代	63 100.0	30 47.6	21 33.3	19 30.2	26 41.3	15 23.8	7 11.1	5 7.9	－ －		
	50代	67 100.0	22 32.8	26 38.8	25 37.3	22 32.8	15 22.4	3 4.5	10 14.9	1 1.5		
	60代	41 100.0	17 41.5	11 26.8	11 26.8	20 48.8	10 24.4	－ －	5 12.2	－ －		
	70歳以上	72 100.0	37 51.4	24 33.3	24 33.3	30 41.7	25 34.7	1 1.4	4 5.6	2 2.8		
	合 計	547 100.0	278 50.8	248 45.3	243 44.4	229 41.9	156 28.5	24 4.4	40 7.3	4 0.7		
	10・20代	53 100.0	35 66.0	30 56.6	36 67.9	28 52.8	12 22.6	2 3.8	3 5.7	－ －		
30代	79 100.0	46 58.2	36 45.6	49 62.0	27 34.2	17 21.5	3 3.8	6 7.6	－ －			
女 性	40代	102 100.0	51 50.0	45 44.1	56 54.9	35 34.3	24 23.5	6 5.9	8 7.8	－ －		
	50代	109 100.0	51 46.8	48 44.0	42 38.5	52 47.7	30 27.5	5 4.6	12 11.0	1 0.9		
	60代	91 100.0	45 49.5	38 41.8	27 29.7	45 49.5	29 31.9	5 5.5	3 3.3	－ －		
	70歳以上	110 100.0	49 44.5	49 44.5	32 29.1	41 37.3	42 38.2	3 2.7	7 6.4	3 2.7		

○ 性・ライフステージ区部別の傾向

「育児や介護を支援するための施策を充実させる」は、男性の家族形成期で6割、女性の独身期(18～39歳)～家族成長前期、家族成熟期で6～7割程度と高くなっている。

「様々な人が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫する」は、女性の独身期(18～39歳)と家族成長前期で6割弱と高くなっている。

「家族で家事・育児を分担する」は、女性の独身期(18～39歳)～家族成長前期で6～7割と高くなっている。

表IX-4 地域活動における女性リーダーを増やすために必要なこと
(性・ライフステージ区部別)

		全 体	め の 施 策 を 充 実 さ せ る た	育 児 や 介 護 を 支 援 す る た	を 工 夫 す る 地 域 活 動 の 時 間 帯 い	様 々 な 人 が 参 加 し や す い よう 、 地 域 活 動 の 時 間 帯 を 工 夫 す る	家 族 で 家 事 ・ 育 児 を 分 担 す る	男 性 中 心 の 社 会 通 念 や 慣 習 を 改 め る た め の 啓 発 活 動 を 実 施 す る	女 性 の リ ー ダ ー を 養 成 す る た め の 講 座 や セ ミ ナ ー を 開 催 す る	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	428 48.3	362 40.9	358 40.4	350 39.5	243 27.4	46 5.2	78 8.8	7 0.8		
男 性	合 計	327 100.0	144 44.0	106 32.4	109 33.3	114 34.9	83 25.4	21 6.4	38 11.6	3 0.9		
	独身期(18～39歳)	47 100.0	17 36.2	16 34.0	14 29.8	8 17.0	10 21.3	3 6.4	10 21.3	－ －		
	家族形成期	48 100.0	28 58.3	10 20.8	20 41.7	13 27.1	12 25.0	8 16.7	4 8.3	－ －		
	家族成長前期	21 100.0	9 42.9	9 42.9	8 38.1	11 52.4	1 4.8	2 9.5	1 4.8	－ －		
	家族成長後期	13 100.0	3 23.1	6 46.2	5 38.5	5 38.5	3 23.1	－ －	2 15.4	－ －		
	家族成熟期	8 100.0	3 37.5	1 12.5	5 62.5	5 62.5	4 50.0	－ －	－ －	－ －		
	高齢期	90 100.0	43 47.8	30 33.3	28 31.1	40 44.4	29 32.2	1 1.1	6 6.7	2 2.2		
	独身期(40～64歳)	54 100.0	21 38.9	23 42.6	12 22.2	17 31.5	14 25.9	4 7.4	7 13.0	－ －		
	その他	44 100.0	19 43.2	11 25.0	16 36.4	14 31.8	10 22.7	3 6.8	8 18.2	1 2.3		
女 性	合 計	547 100.0	278 50.8	248 45.3	243 44.4	229 41.9	156 28.5	24 4.4	40 7.3	4 0.7		
	独身期(18～39歳)	67 100.0	46 68.7	37 55.2	45 67.2	34 50.7	14 20.9	－ －	4 6.0	－ －		
	家族形成期	77 100.0	44 57.1	31 40.3	54 70.1	25 32.5	18 23.4	6 7.8	5 6.5	－ －		
	家族成長前期	28 100.0	18 64.3	16 57.1	17 60.7	8 28.6	6 21.4	1 3.6	1 3.6	－ －		
	家族成長後期	34 100.0	14 41.2	16 47.1	15 44.1	15 44.1	6 17.6	3 8.8	5 14.7	－ －		
	家族成熟期	21 100.0	13 61.9	8 38.1	11 52.4	13 61.9	6 28.6	1 4.8	1 4.8	－ －		
	高齢期	148 100.0	70 47.3	64 43.2	42 28.4	58 39.2	57 38.5	6 4.1	9 6.1	3 2.0		
	独身期(40～64歳)	116 100.0	45 38.8	48 41.4	35 30.2	52 44.8	33 28.4	6 5.2	11 9.5	－ －		
	その他	53 100.0	27 50.9	26 49.1	23 43.4	23 43.4	14 26.4	1 1.9	3 5.7	1 1.9		

問 20 女性リーダー増加の影響

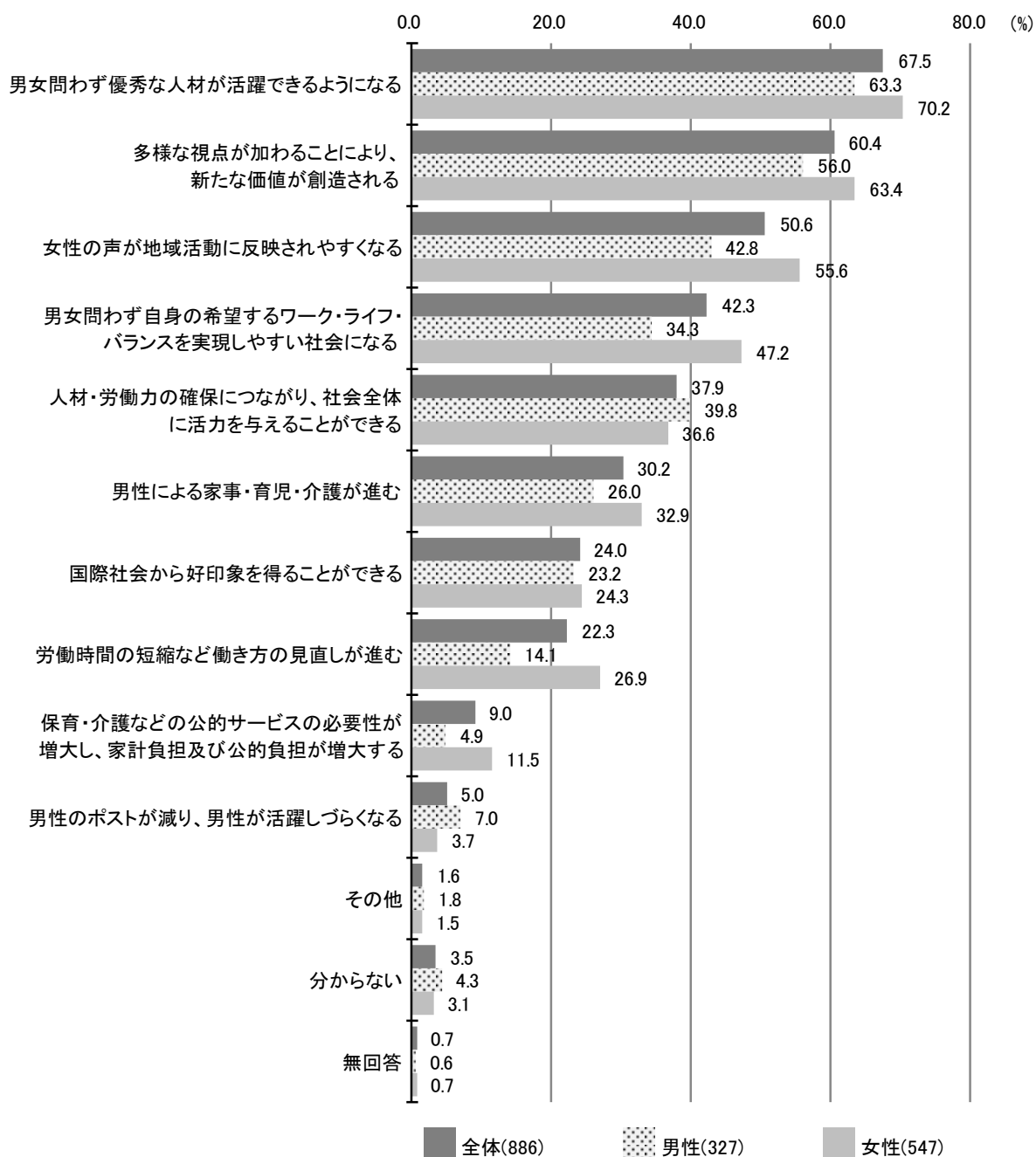
政治・経済・地域などの各分野で女性参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。【〇はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 67.5%で最も多く、次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値が創造される」(60.4%)、「女性の声が地域活動に反映されやすくなる」(50.6%)となっている。

性別で見ると、「女性の声が地域活動に反映されやすくなる」、「男女問わず自身の希望するワーク・ライフ・バランスを実現しやすい社会になる」、「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」は女性の方が男性よりも 10 ポイント以上高くなっている。

図IX-6 女性リーダー増加の影響（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「女性の声が地域活動に反映されやすくなる」は、女性の10・20代で64.2%と高くなっている。

「男女問わず自身の希望するワーク・ライフ・バランスを実現しやすい社会になる」は、男女共に概ね年齢が低くなるほど高くなる傾向にあるが、特に女性の40代未満では6割以上を占めている。

「男性による家事・育児・介護が進む」は、女性の50歳未満で高くなっている。

表IX-5 女性リーダー増加の影響（性・年齢別）

		無回答	分からない	その他	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	国際社会から好印象を得ることができる	男性による家事・育児・介護が進む	人材・労働力の確保につながる、社会全体に活力を与えることができる	男女問わず自身の希望するワーク・ライフ・バランスを実現しやすい社会になる	女性の声が地域活動に反映されやすくなる	多様な視点が加わることで、新たな価値が創造される	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	全体	全体
全体		6	31	14	44	80	198	213	268	336	375	448	535	598	886	全体
		0.7	3.5	1.6	5.0	9.0	22.3	24.0	30.2	37.9	42.3	50.6	60.4	67.5	100.0	
男性	合計	2	14	6	23	16	46	76	85	130	112	140	183	207	327	合計
		0.6	4.3	1.8	7.0	4.9	14.1	23.2	26.0	39.8	34.3	42.8	56.0	63.3	100.0	
	10・20代	—	1	1	6	—	7	11	7	14	16	16	15	22	38	10・20代
		—	2.6	2.6	15.8	—	18.4	28.9	18.4	36.8	42.1	42.1	39.5	57.9	100.0	
	30代	—	2	3	7	5	9	8	14	13	18	16	23	28	44	30代
		—	4.5	6.8	15.9	11.4	20.5	18.2	31.8	29.5	40.9	36.4	52.3	63.6	100.0	
	40代	—	3	1	4	4	6	16	17	26	25	25	33	42	63	40代
		—	4.8	1.6	6.3	6.3	9.5	25.4	27.0	41.3	39.7	39.7	52.4	66.7	100.0	
50代	1	3	—	2	4	8	12	15	29	24	29	40	42	67	50代	
	1.5	4.5	—	3.0	6.0	11.9	17.9	22.4	43.3	35.8	43.3	59.7	62.7	100.0		
60代	—	3	—	2	1	4	12	9	18	7	18	25	28	41	60代	
	—	7.3	—	4.9	2.4	9.8	29.3	22.0	43.9	17.1	43.9	61.0	68.3	100.0		
70歳以上	1	2	1	2	2	11	17	23	30	22	35	46	44	72	70歳以上	
	1.4	2.8	1.4	2.8	2.8	15.3	23.6	31.9	41.7	30.6	48.6	63.9	61.1	100.0		
女性	合計	4	17	8	20	63	147	133	180	200	258	304	347	384	547	合計
		0.7	3.1	1.5	3.7	11.5	26.9	24.3	32.9	36.6	47.2	55.6	63.4	70.2	100.0	
	10・20代	—	3	1	2	8	20	16	23	22	34	34	33	36	53	10・20代
		—	5.7	1.9	3.8	15.1	37.7	30.2	43.4	41.5	64.2	64.2	62.3	67.9	100.0	
	30代	—	1	1	5	10	20	21	29	33	50	44	51	56	79	30代
		—	1.3	1.3	6.3	12.7	25.3	26.6	36.7	41.8	63.3	55.7	64.6	70.9	100.0	
	40代	—	1	3	2	8	31	32	40	43	50	57	68	73	102	40代
		—	1.0	2.9	2.0	7.8	30.4	31.4	39.2	42.2	49.0	55.9	66.7	71.6	100.0	
50代	1	7	2	4	14	27	25	28	36	54	57	69	76	109	50代	
	0.9	6.4	1.8	3.7	12.8	24.8	22.9	25.7	33.0	49.5	52.3	63.3	69.7	100.0		
60代	—	3	1	2	11	22	22	28	29	40	49	62	67	91	60代	
	—	3.3	1.1	2.2	12.1	24.2	24.2	30.8	31.9	44.0	53.8	68.1	73.6	100.0		
70歳以上	3	1	—	5	11	26	16	31	35	30	61	64	75	110	70歳以上	
	2.7	0.9	—	4.5	10.0	23.6	14.5	28.2	31.8	27.3	55.5	58.2	68.2	100.0		

X. 健康について

問 21 女性が性や妊娠・出産に関して自分の意志で決める上で必要なこと

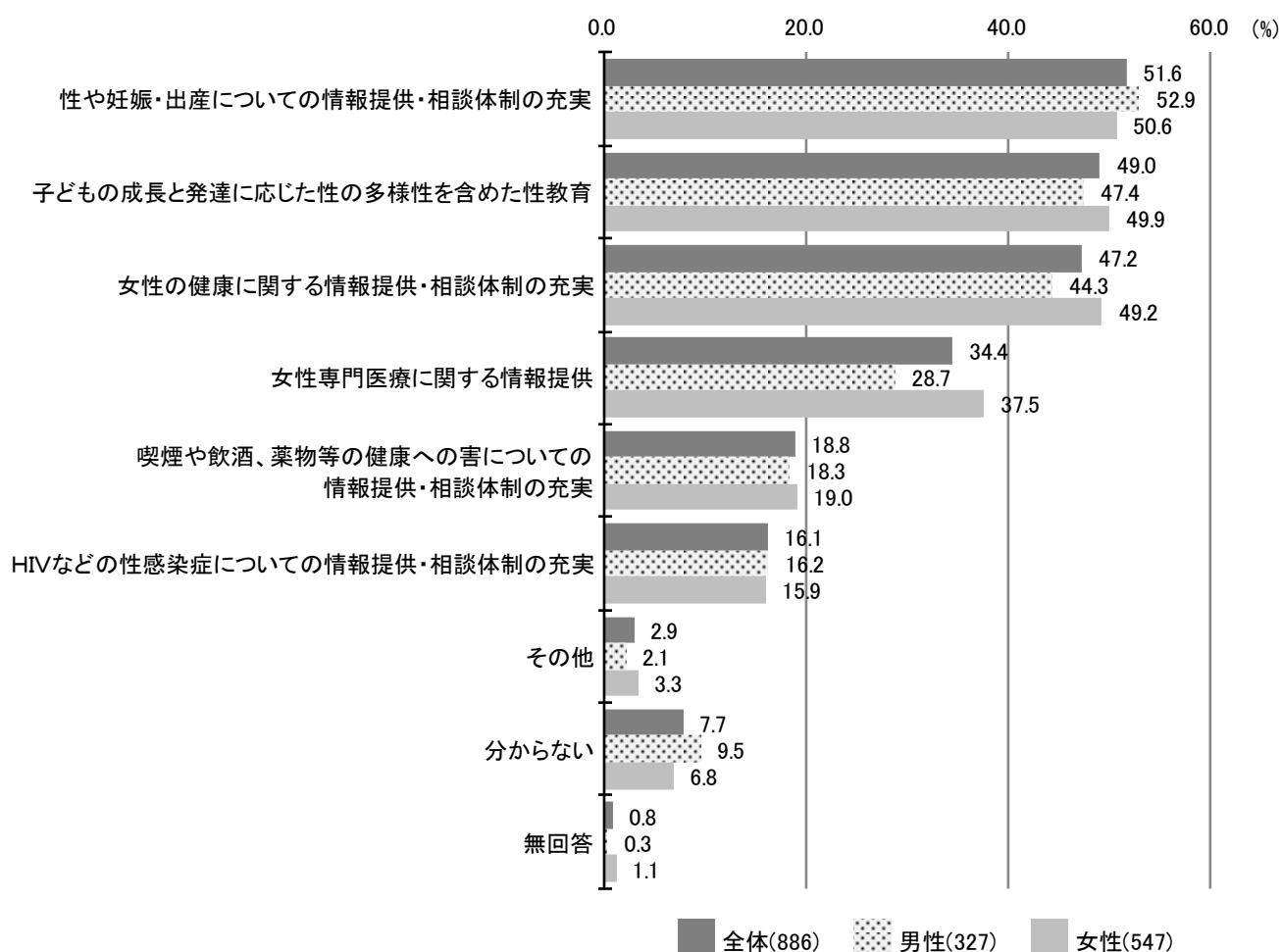
女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関することを自分の意志で決める上で、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」(51.6%)、「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」(49.0%)、「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」(47.2%)が多くなっている。

性別で見ると、「女性専門医療に関する情報提供」は女性(37.5%)の方 8.8 ポイント高くなっている。

図X-1 女性が性や妊娠・出産に関して決める上で必要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」は、男女共に年齢が低くなるほど高くなっており、10・20代では、男性 65.8%、女性 71.7%、30代では、男性 61.4%、女性 68.4%となっている。

「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」は、男性の10・20代と40代、女性の50歳未満で6割前後と高くなっている。

「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」は、女性の50代以上で5割以上と高くなっている。

「HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実」は、男性の10・20代と40代で4人に1人が、女性の10・20代では3人に1人が必要と考えている。

表X-1 女性が性や妊娠・出産に関して決める上で必要なこと（性・年齢別）

		全 体	充 実 の 性 情 報 提 供 ・ 出 産 に 関 する 制 度 の 充 実	性 教 育 の 多 様 性 を 含 め た こ と	子 ど も の 成 長 と 発 達 に 応 じた 性 の 多 様 性 を 含 め た 性 教 育	提 供 性 の 健 康 に 関 する 充 実 の 情 報	女 性 専 門 医 療 に 関 する 情 報	提 供 の 健 康 に 関 する 充 実 の 情 報	喫 煙 や 飲 酒 ・ 薬 物 等 の 健 康 に 関 する 充 実 の 情 報	体 制 の 充 実 の 情 報	つ い て の 性 感 染 症 に 関 する 充 実 の 情 報	そ の 他	分 か ら ない	無 回 答
全 体		886 100.0	457 51.6	434 49.0	418 47.2	305 34.4	167 18.8	143 16.1	26 2.9	68 7.7	7 0.8			
男 性	合 計	327 100.0	173 52.9	155 47.4	145 44.3	94 28.7	60 18.3	53 16.2	7 2.1	31 9.5	1 0.3			
	10・20代	38 100.0	25 65.8	21 55.3	12 31.6	6 15.8	5 13.2	10 26.3	－ －	4 10.5	－ －			
	30代	44 100.0	27 61.4	17 38.6	20 45.5	11 25.0	6 13.6	9 20.5	5 11.4	1 2.3	－ －			
	40代	63 100.0	36 57.1	40 63.5	24 38.1	13 20.6	13 20.6	16 25.4	1 1.6	2 3.2	－ －			
	50代	67 100.0	34 50.7	29 43.3	32 47.8	23 34.3	14 20.9	8 11.9	1 1.5	6 9.0	－ －			
	60代	41 100.0	21 51.2	17 41.5	20 48.8	16 39.0	10 24.4	4 9.8	－ －	4 9.8	－ －			
	70歳以上	72 100.0	29 40.3	30 41.7	35 48.6	25 34.7	12 16.7	6 8.3	－ －	14 19.4	1 1.4			
	合 計	547 100.0	277 50.6	273 49.9	269 49.2	205 37.5	104 19.0	87 15.9	18 3.3	37 6.8	6 1.1			
10・20代	53 100.0	38 71.7	34 64.2	23 43.4	18 34.0	7 13.2	18 34.0	3 5.7	1 1.9	－ －				
30代	79 100.0	54 68.4	46 58.2	32 40.5	22 27.8	8 10.1	16 20.3	5 6.3	5 6.3	－ －				
40代	102 100.0	58 56.9	61 59.8	43 42.2	40 39.2	18 17.6	19 18.6	6 5.9	5 4.9	－ －				
50代	109 100.0	48 44.0	48 44.0	61 56.0	40 36.7	14 12.8	11 10.1	2 1.8	11 10.1	1 0.9				
60代	91 100.0	39 42.9	46 50.5	47 51.6	40 44.0	26 28.6	11 12.1	2 2.2	7 7.7	－ －				
70歳以上	110 100.0	39 35.5	38 34.5	61 55.5	42 38.2	29 26.4	11 10.0	－ －	8 7.3	5 4.5				

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」は、女性の独身期(18～39 歳)～家族成長前期と家族成熟期で6割以上と高く、特に、独身期(18～39 歳)では7割(70.1%)を占めている。

「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」は、男性の家族成長前期で7割、女性の独身期(18～39 歳)と家族成長前期で3分の2と高くなっている。

「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」は、女性の家族成熟期とその他で6割以上、高齢期と独身期(40～64 歳)で過半数と高くなっている。

「女性専門医療に関する情報提供」は、女性の家族成長前期で 46.4%と高くなっている。

「HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実」は、男女共に独身期(18～39 歳)で3割以上、独身期(40～64 歳)で2割と高くなっている。

表X-2 女性が性や妊娠・出産に関して決める上で必要なこと(性・ライフステージ区分別)

		全 体	性 や 妊 娠 ・ 出 産 に 関 する 情 報 の 充 実	子 ど も の 成 長 と 発 達 に 応 じ た 性 教 育	女 性 の 健 康 に 関 する 情 報 提 供 ・ 相 談 体 制 の 充 実	女 性 専 門 医 療 に 関 する 情 報 提 供	喫 煙 や 飲 酒 、 薬 物 等 の 健 康 へ の 制 害 に 関 する 情 報 提 供 ・ 相 談 体 制 の 充 実	H I V な ど の 性 感 染 症 に 関 する 情 報 提 供 ・ 相 談 体 制 の 充 実	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	457 51.6	434 49.0	418 47.2	305 34.4	167 18.8	143 16.1	26 2.9	68 7.7	7 0.8
男 性	合 計	327 100.0	173 52.9	155 47.4	145 44.3	94 28.7	60 18.3	53 16.2	7 2.1	31 9.5	1 0.3
	独身期(18～39歳)	47 100.0	27 57.4	23 48.9	15 31.9	6 12.8	9 19.1	16 34.0	1 2.1	4 8.5	—
	家族形成期	48 100.0	32 66.7	25 52.1	18 37.5	12 25.0	5 10.4	7 14.6	4 8.3	2 4.2	—
	家族成長前期	21 100.0	12 57.1	15 71.4	13 61.9	3 14.3	3 14.3	3 14.3	—	—	—
	家族成長後期	13 100.0	8 61.5	8 61.5	9 69.2	3 23.1	2 15.4	3 23.1	—	1 7.7	—
	家族成熟期	8 100.0	4 50.0	4 50.0	3 37.5	5 62.5	3 37.5	2 25.0	—	—	—
	高齢期	90 100.0	38 42.2	36 40.0	45 50.0	31 34.4	17 18.9	6 6.7	—	15 16.7	1 1.1
	独身期(40～64歳)	54 100.0	29 53.7	19 35.2	25 46.3	22 40.7	13 24.1	11 20.4	1 1.9	4 7.4	—
	その他	44 100.0	22 50.0	24 54.5	15 34.1	12 27.3	8 18.2	5 11.4	1 2.3	5 11.4	—
	女 性	合 計	547 100.0	277 50.6	273 49.9	269 49.2	205 37.5	104 19.0	87 15.9	18 3.3	37 6.8
独身期(18～39歳)		67 100.0	47 70.1	43 64.2	29 43.3	22 32.8	6 9.0	26 38.8	3 4.5	2 3.0	—
家族形成期		77 100.0	52 67.5	44 57.1	31 40.3	23 29.9	11 14.3	10 13.0	7 9.1	4 5.2	—
家族成長前期		28 100.0	18 64.3	19 67.9	6 21.4	13 46.4	6 21.4	3 10.7	1 3.6	2 7.1	—
家族成長後期		34 100.0	14 41.2	17 50.0	14 41.2	10 29.4	6 17.6	3 8.8	2 5.9	5 14.7	—
家族成熟期		21 100.0	13 61.9	11 52.4	13 61.9	7 33.3	4 19.0	1 4.8	—	1 4.8	—
高齢期		148 100.0	57 38.5	59 39.9	81 54.7	62 41.9	37 25.0	13 8.8	1 0.7	11 7.4	5 3.4
独身期(40～64歳)		116 100.0	54 46.6	56 48.3	60 51.7	44 37.9	15 12.9	25 21.6	4 3.4	10 8.6	—
その他		53 100.0	21 39.6	24 45.3	33 62.3	21 39.6	17 32.1	5 9.4	—	2 3.8	1 1.9

XI. 人権問題について

問 22 各種ハラスメントを受けた経験

あなたは、ここ3年以内に次の①～⑦のハラスメントを受けたことがありますか。

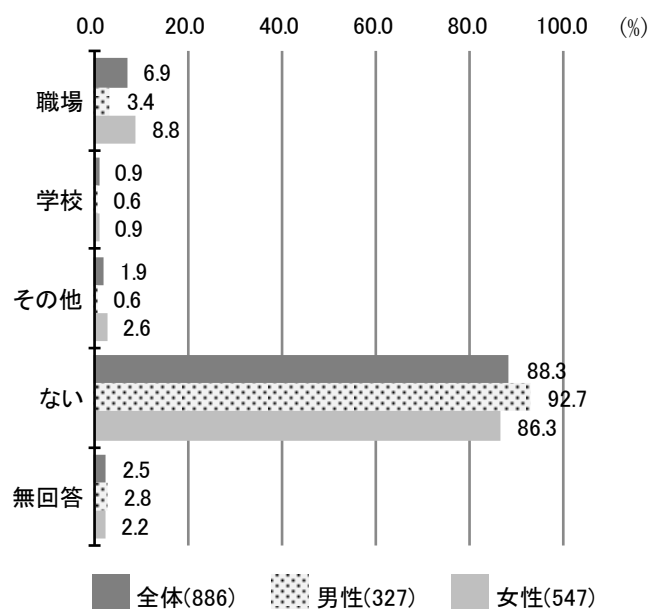
【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

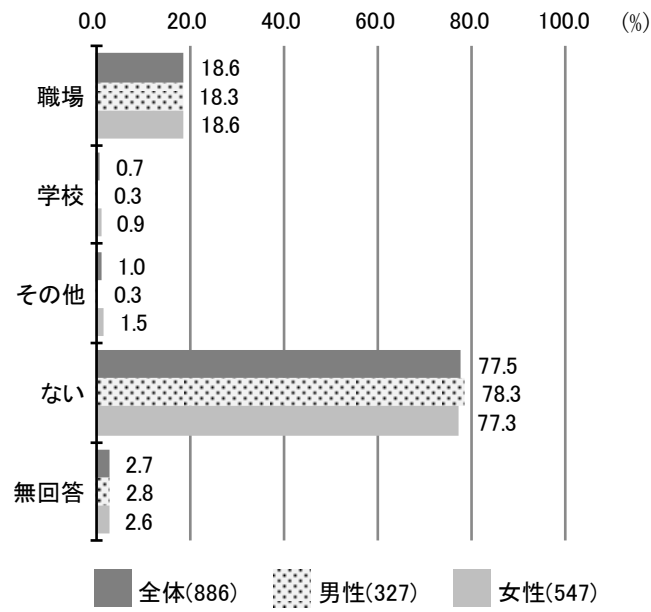
職場でハラスメントを受けたという人が比較的多く、「パワー・ハラスメント」が 18.6%、「モラル・ハラスメント」が 10.0%、「セクシュアル・ハラスメント」が 6.9%となっている。性別で見ると「セクシュアル・ハラスメント」を受けたという人は女性で 8.8%であり、男性(3.4%)を 5.4 ポイント上回る。

図XI－1 各種ハラスメントを受けた経験（性別）

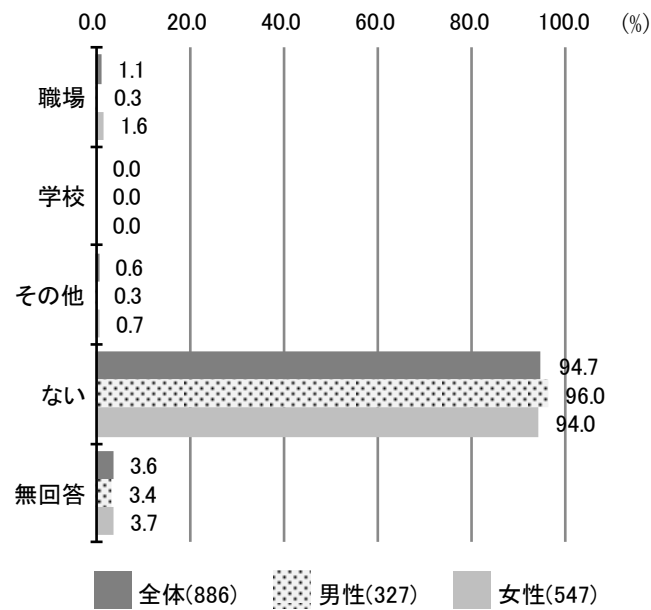
① セクシュアル・ハラスメント



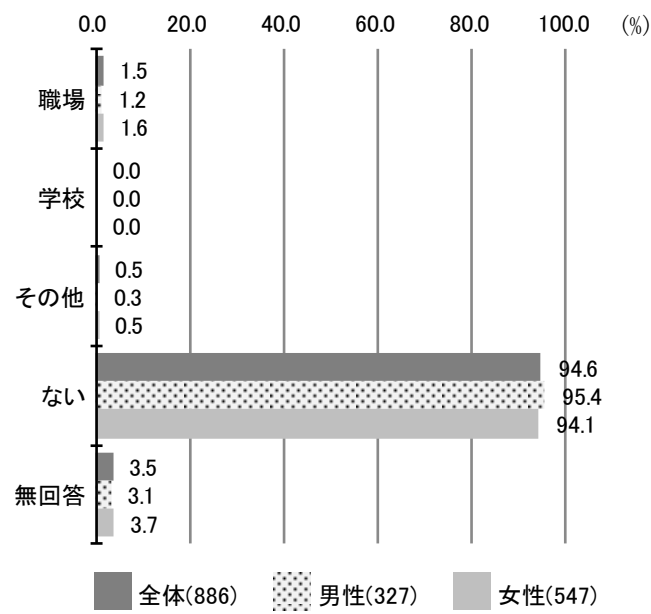
② パワー・ハラスメント



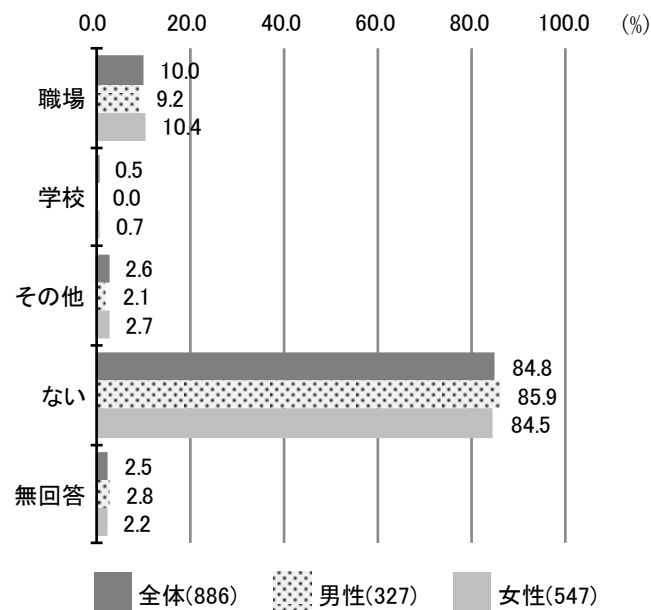
③ マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント



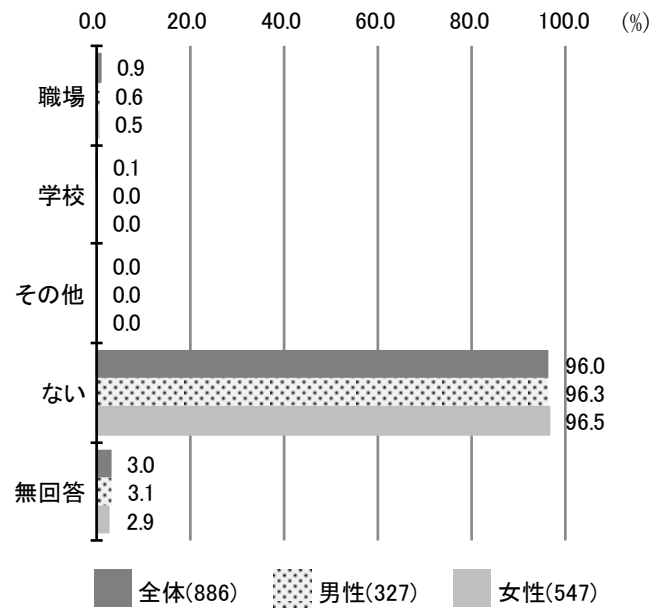
④ 育児休業、介護休暇に係るハラスメント



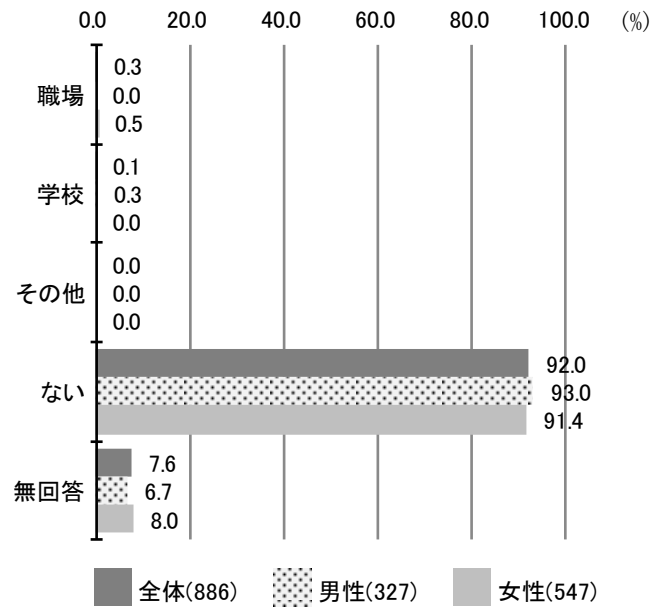
⑤ モラル・ハラスメント



⑥ SOGI（性的指向・性自認）ハラスメント



⑦ その他



○ 性・年齢別の傾向

① セクシュアル・ハラスメント

「ない」と無回答を除いたセクシュアル・ハラスメントを『受けたことがある』人は、女性の10・20代で17.0%、30代で20.3%と高くなっている。また、40～60代も1割の人が『受けたことがある』と回答している。

男性では、10・20代で13.2%と高くなっている。

表XI-1 セクシャル・ハラスメントを受けた経験（性・年齢別）

		全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こ と が あ る 】	な い	無 回 答
全 体		886 100.0	61 6.9	8 0.9	17 1.9	82 9.3	782 88.3	22 2.5
男 性	合 計	327 100.0	11 3.4	2 0.6	2 0.6	15 4.6	303 92.7	9 2.8
	10・20代	38 100.0	3 7.9	2 5.3	— —	5 13.2	33 86.8	— —
	30代	44 100.0	2 4.5	— —	— —	2 4.5	42 95.5	— —
	40代	63 100.0	1 1.6	— —	1 1.6	2 3.2	61 96.8	— —
	50代	67 100.0	3 4.5	— —	— —	3 4.5	64 95.5	— —
	60代	41 100.0	1 2.4	— —	1 2.4	2 4.9	38 92.7	1 2.4
	70歳以上	72 100.0	1 1.4	— —	— —	1 1.4	64 88.9	7 9.7
女 性	合 計	547 100.0	48 8.8	5 0.9	14 2.6	63 11.5	472 86.3	12 2.2
	10・20代	53 100.0	8 15.1	2 3.8	1 1.9	9 17.0	44 83.0	— —
	30代	79 100.0	14 17.7	1 1.3	2 2.5	16 20.3	63 79.7	— —
	40代	102 100.0	9 8.8	— —	3 2.9	12 11.8	89 87.3	1 1.0
	50代	109 100.0	8 7.3	1 0.9	2 1.8	10 9.2	98 89.9	1 0.9
	60代	91 100.0	7 7.7	— —	4 4.4	11 12.1	79 86.8	1 1.1
	70歳以上	110 100.0	2 1.8	— —	2 1.8	4 3.6	97 88.2	9 8.2

② パワー・ハラスメント

「ない」と無回答を除いたパワー・ハラスメントを『受けたことがある』人は、男女共に 30 代で高くなっており、特に、女性の 30 代では3人に1人(32.9%)が『受けたことがある』と回答している。

表XI-2 パワー・ハラスメントを受けた経験（性・年齢別）

		全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こ と が あ る 】	な い	無 回 答
全 体		886 100.0	165 18.6	6 0.7	9 1.0	175 19.8	687 77.5	24 2.7
男 性	合 計	327 100.0	60 18.3	1 0.3	1 0.3	62 19.0	256 78.3	9 2.8
	10・20代	38 100.0	5 13.2	1 2.6	1 2.6	7 18.4	31 81.6	— —
	30代	44 100.0	13 29.5	— —	— —	13 29.5	31 70.5	— —
	40代	63 100.0	16 25.4	— —	— —	16 25.4	47 74.6	— —
	50代	67 100.0	15 22.4	— —	— —	15 22.4	52 77.6	— —
	60代	41 100.0	8 19.5	— —	— —	8 19.5	32 78.0	1 2.4
	70歳以上	72 100.0	3 4.2	— —	— —	3 4.2	62 86.1	7 9.7
女 性	合 計	547 100.0	102 18.6	5 0.9	8 1.5	110 20.1	423 77.3	14 2.6
	10・20代	53 100.0	9 17.0	1 1.9	— —	10 18.9	43 81.1	— —
	30代	79 100.0	26 32.9	1 1.3	1 1.3	26 32.9	53 67.1	— —
	40代	102 100.0	14 13.7	— —	1 1.0	15 14.7	86 84.3	1 1.0
	50代	109 100.0	29 26.6	1 0.9	2 1.8	30 27.5	78 71.6	1 0.9
	60代	91 100.0	20 22.0	1 1.1	1 1.1	21 23.1	69 75.8	1 1.1
	70歳以上	110 100.0	3 2.7	1 0.9	3 2.7	7 6.4	92 83.6	11 10.0

③ モラル・ハラスメント

「ない」と無回答を除いたモラル・ハラスメントを『受けたことがある』人は、男女共に30代で高くなっており、特に、女性の30代では4人に1人(24.1%)が『受けたことがある』と回答している。

表XI-3 モラル・ハラスメントを受けた経験(性・年齢別)

		全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こ と が あ る 】	な い	無 回 答
全 体		886 100.0	89 10.0	4 0.5	23 2.6	113 12.8	751 84.8	22 2.5
男 性	合 計	327 100.0	30 9.2	— —	7 2.1	37 11.3	281 85.9	9 2.8
	10・20代	38 100.0	4 10.5	— —	— —	4 10.5	34 89.5	— —
	30代	44 100.0	6 13.6	— —	2 4.5	8 18.2	36 81.8	— —
	40代	63 100.0	9 14.3	— —	1 1.6	10 15.9	53 84.1	— —
	50代	67 100.0	5 7.5	— —	2 3.0	7 10.4	60 89.6	— —
	60代	41 100.0	5 12.2	— —	1 2.4	6 14.6	34 82.9	1 2.4
	70歳以上	72 100.0	1 1.4	— —	1 1.4	2 2.8	63 87.5	7 9.7
	合 計	547 100.0	57 10.4	4 0.7	15 2.7	73 13.3	462 84.5	12 2.2
女 性	10・20代	53 100.0	4 7.5	2 3.8	— —	5 9.4	48 90.6	— —
	30代	79 100.0	16 20.3	1 1.3	4 5.1	19 24.1	60 75.9	— —
	40代	102 100.0	11 10.8	— —	8 7.8	19 18.6	82 80.4	1 1.0
	50代	109 100.0	15 13.8	1 0.9	1 0.9	17 15.6	91 83.5	1 0.9
	60代	91 100.0	9 9.9	— —	2 2.2	11 12.1	79 86.8	1 1.1
	70歳以上	110 100.0	2 1.8	— —	— —	2 1.8	99 90.0	9 8.2
	合 計	547 100.0	57 10.4	4 0.7	15 2.7	73 13.3	462 84.5	12 2.2
	10・20代	53 100.0	4 7.5	2 3.8	— —	5 9.4	48 90.6	— —

【参考】

表XI－4 セクシャル・ハラスメントを受けた経験（その他の性自認）

全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こ と が あ る 】	な い
4 100.0	2 50.0	1 25.0	－ －	3 75.0	1 25.0

表XI－5 SOG I（性的指向・性自認）ハラスメントを受けた経験（その他の性自認）

全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こ と が あ る 】	な い
4 100.0	3 75.0	1 25.0	－ －	3 75.0	1 25.0

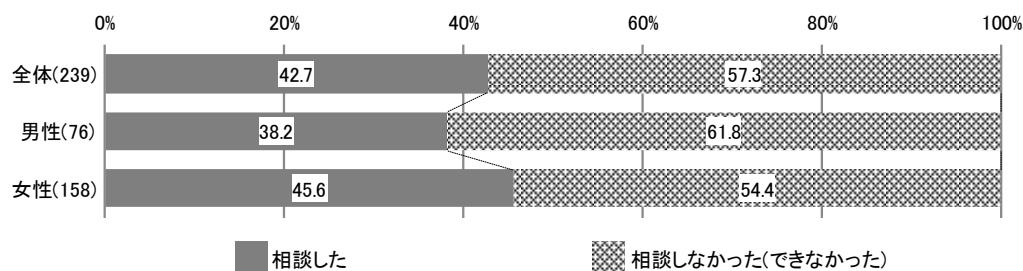
問 22－1 ハラスメントを受けた際の相談の有無

【ハラスメントを受けたことがある(問 22 で「1」～「3」のいずれかに「○」をした)方にお聞きます。】
 あなたが受けたハラスメントについて、どなたかに相談しましたか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「相談した」人が 42.7%、「相談しなかった(できなかった)」人が 57.3%である。
 性別で見ると、女性の方が「相談した」人の割合が高くなっている。

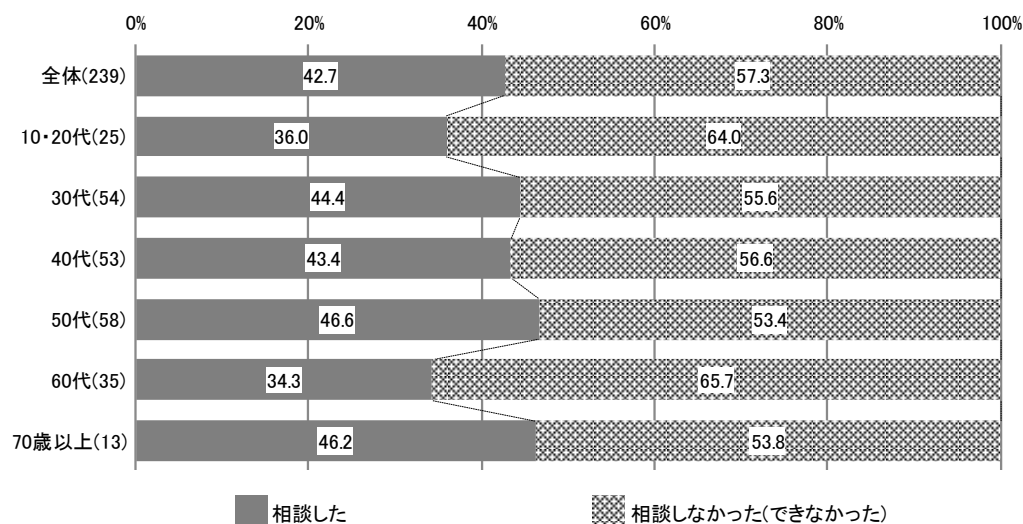
図XI－2 ハラスメントを受けた際の相談の有無（性別）



○ 年齢別の傾向

10・20代と 60代では「相談した」が4割を下回り、他の世代に比べて低くなっている。

図XI－3 ハラスメントを受けた際の相談の有無（年齢別）



【参考】

表XI－6 ハラスメントを受けた際の相談の有無（その他の性自認）

全 体	相 談 し た	（ 相 談 し な か つ た ）
3	－	3
100.0	－	100.0

問 22－1－1 ハラスメントを受けた際の相談先

【問 22－1で「1. 相談した」に「○」をした方にお聞きます。】
 そのとき、どこ(だれ)に相談しましたか。【○はいくつでも】

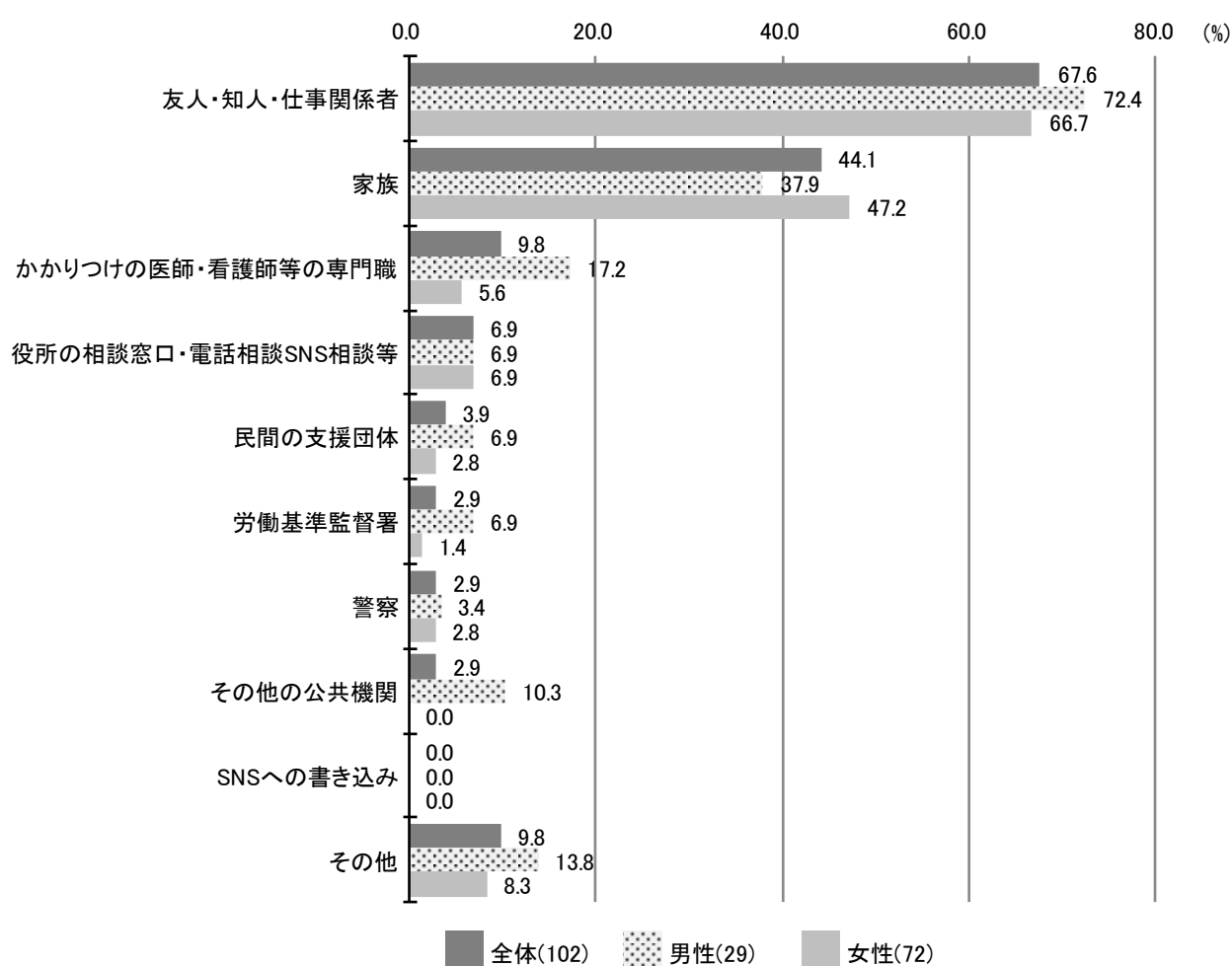
○ 全体・性別の傾向

「友人・知人・仕事関係者」が 67.6%で最も多く、次いで、「家族」が 44.1%となっている。

性別で見ると、「かかりつけの医師・看護師等の専門職」は、男性では17.2%であり女性(5.6%)を 10 ポイント以上上回っている。

また、「その他の公共機関」は、男性で 10.3%となっているが、女性ではいなかった。

図XI－4 ハラスメントを受けた際の相談先（性別）



問 22-1-2 ハラスメントを相談しなかった（できなかった）理由

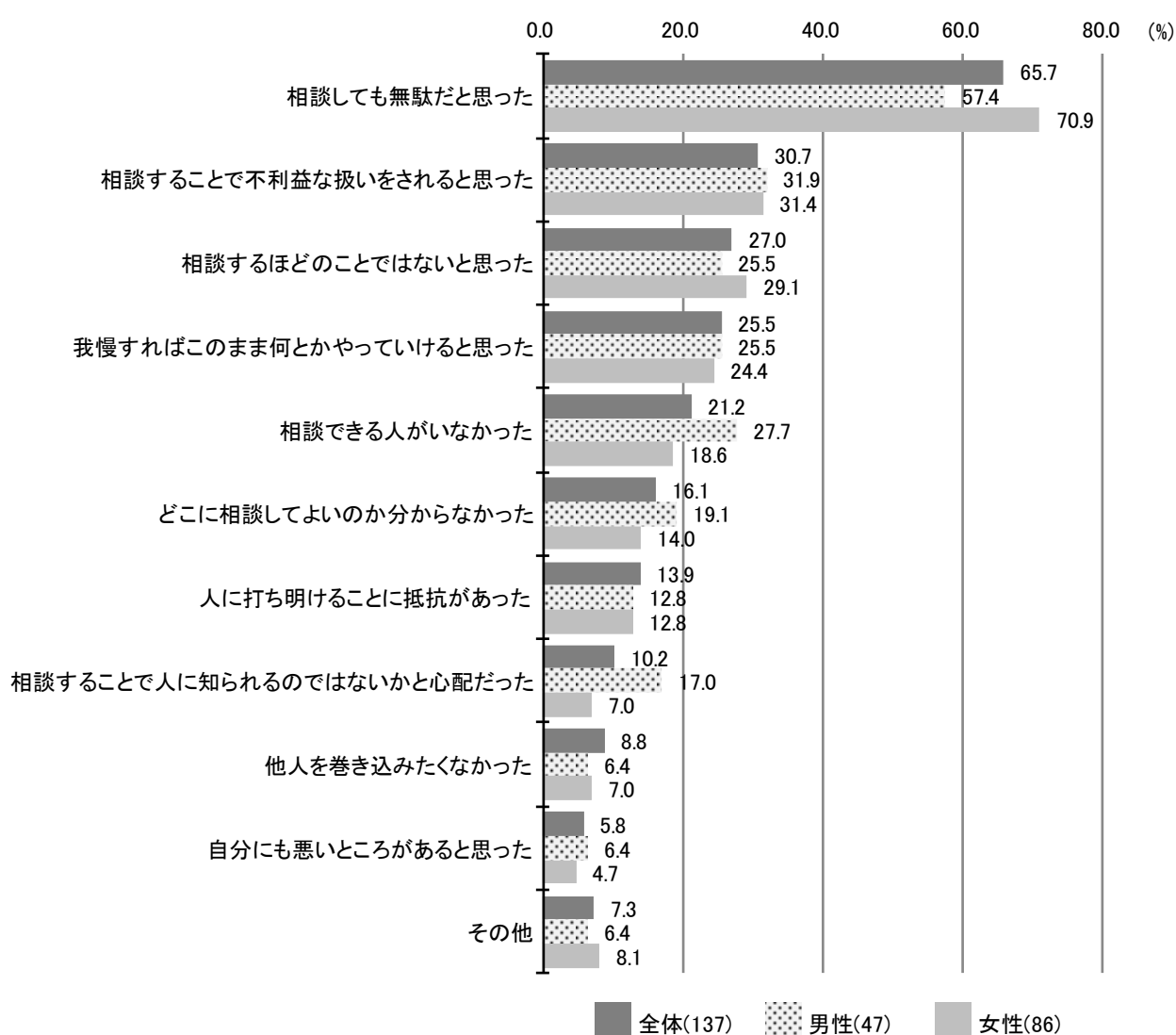
【問 22-1 で「2. 相談しなかった（できなかった）」に「○」をした方にお聞きます。】
 相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「相談しても無駄だと思った」が 65.7%で最も多く、次いで、「相談することで不利益な扱いをされると思った」が 30.7%となっている。

性別で見ると、「相談しても無駄だと思った」は、女性の方が男性よりも 13.5 ポイント高くなっている。

図XI-5 ハラスメントを相談しなかった（できなかった）理由（性別）



○ 年齢別の傾向

「相談することで不利益な扱いをされると思った」は、50代で45.2%と高くなっている。

「相談するほどのことではないと思った」は、40歳以上では3割以上となっている。

「相談できる人がいなかった」は60歳以上で3割と高くなっている。

表XI-7 ハラスメントを相談しなかった（できなかった）理由（年齢別）

	全 体	相 談 し て も 無 駄 だ と 思 っ た	を さ れ る と 思 っ た	相 談 す る ほ ど の こ と で は な い	我 慢 す れ ば こ の ま ま 何 と か や っ て い け る と 思 っ た	相 談 す る 人 が い な か つ た	ど こ に 相 談 し て よ い の か 分 か ら な か つ た	あ つ た 人 に 打 ち 明 け る こ と に 抵 抗 が	相 談 す る こ と で 人 に 知 ら れ る の で は な い か と 心 配 だ つ た	他 人 を 巻 き 込 み た く な か つ た	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と 思 っ た	そ の 他
全 体	137 100.0	90 65.7	42 30.7	37 27.0	35 25.5	29 21.2	22 16.1	19 13.9	14 10.2	12 8.8	8 5.8	10 7.3
10～30代	46 100.0	29 63.0	14 30.4	8 17.4	13 28.3	9 19.6	9 19.6	8 17.4	8 17.4	5 10.9	3 6.5	5 10.9
40代	30 100.0	21 70.0	8 26.7	10 33.3	5 16.7	4 13.3	6 20.0	2 6.7	1 3.3	3 10.0	2 6.7	1 3.3
50代	31 100.0	21 67.7	14 45.2	10 32.3	9 29.0	7 22.6	1 3.2	7 22.6	4 12.9	3 9.7	2 6.5	2 6.5
60歳以上	30 100.0	19 63.3	6 20.0	9 30.0	8 26.7	9 30.0	6 20.0	2 6.7	1 3.3	1 3.3	1 3.3	2 6.7

【参考】

表XI-8 ハラスメントを相談しなかった（できなかった）理由（その他の性自認）

全 体	思 っ た	相 談 し て も 無 駄 だ と	思 っ た	益 な 扱 い を さ れ る と 利	相 談 す る ほ ど の こ と	で は な い と 思 っ た	何 と 思 っ た	我 慢 す れ ば こ の ま ま	か つ た	相 談 す る ほ ど の こ と	ど こ に 相 談 し て よ い の か	に 抵 抗 が あ っ た	人 に 打 ち 明 け る こ と	か と 心 配 だ つ た	知 ら れ る こ と で 人 に	相 談 す る こ と で	な か つ た	他 人 を 巻 き 込 み た く	が あ る と 思 っ た	自 分 に も 悪 い と こ ろ	そ の 他
3 100.0	1 33.3	-	-	-	-	-	2 66.7	-	-	-	-	2 66.7	-	-	-	-	2 66.7	1 33.3	-	-	-

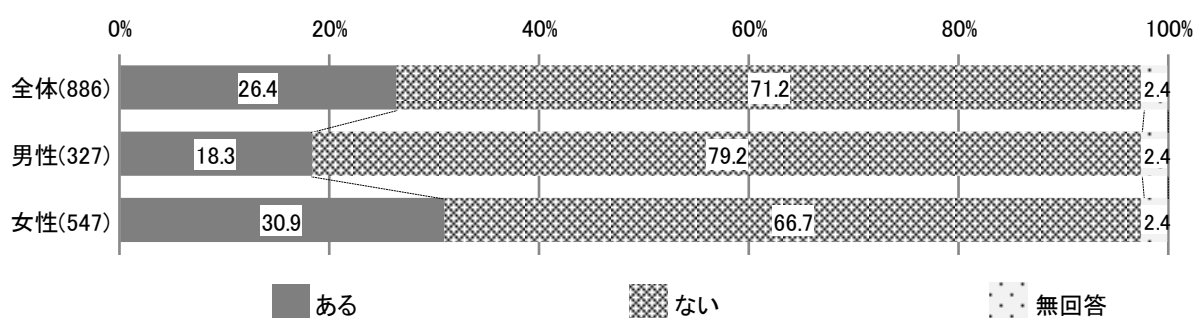
問 23 性別による役割分担に悩んだ経験の有無

あなたは、これまでの生活の中で、「女らしくしなさい」、「男はこうすべきだ」といった性別役割(ジェンダー含む)について悩んだり、疑問を感じたり、嫌な思いをしたことや身近な人が悩んでいる場面にあったことがありますか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「ある」という人は女性では3割(30.9%)となっており、男性(18.3%)を 12.6 ポイント上回っている。

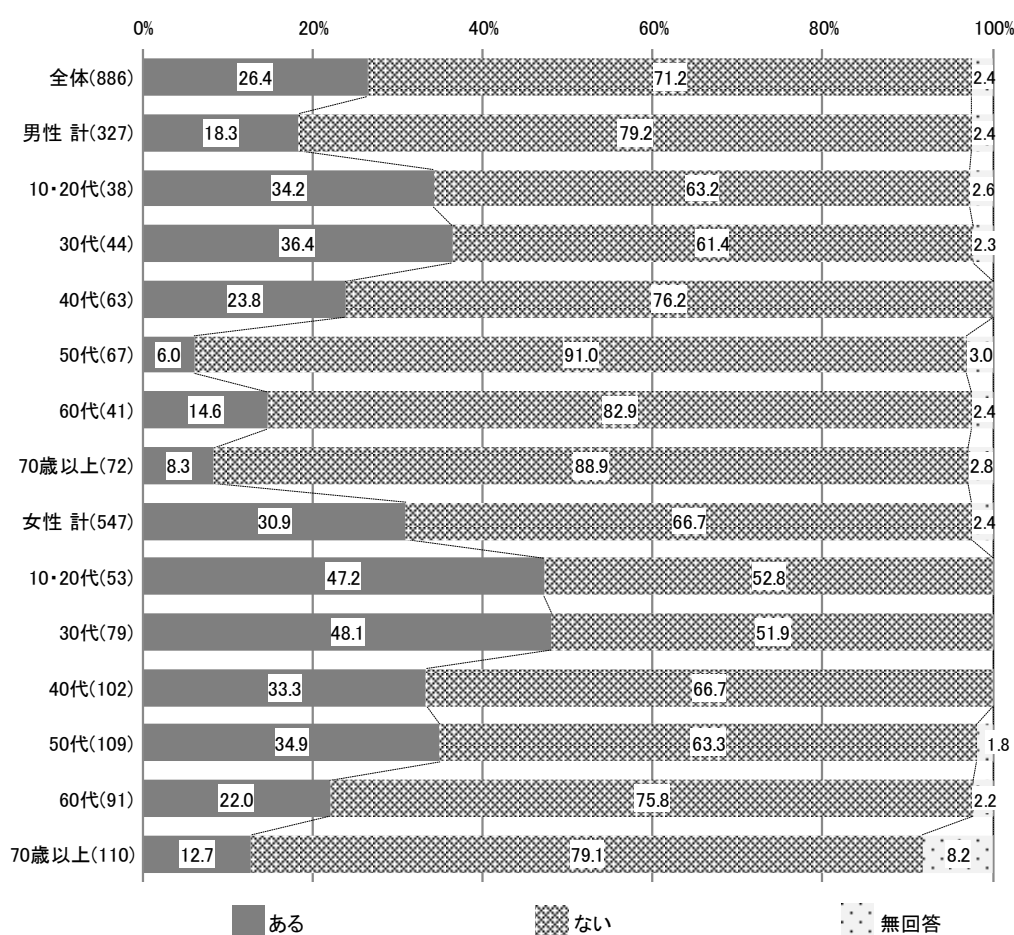
図XI-6 性別による役割分担に悩んだ経験の有無(性別)



○ 性・年齢別の傾向

「ある」という人は男女共に 40 歳未満で高くなっている。

図XI-7 性別による役割分担に悩んだ経験の有無(性・年齢別)



【参考】

表XI－9 性別による役割分担に悩んだ経験の有無（その他の性自認）

全 体	あ る	な い
4 100.0	3 75.0	1 25.0

問 24 男性特有の負担感や生きづらさ

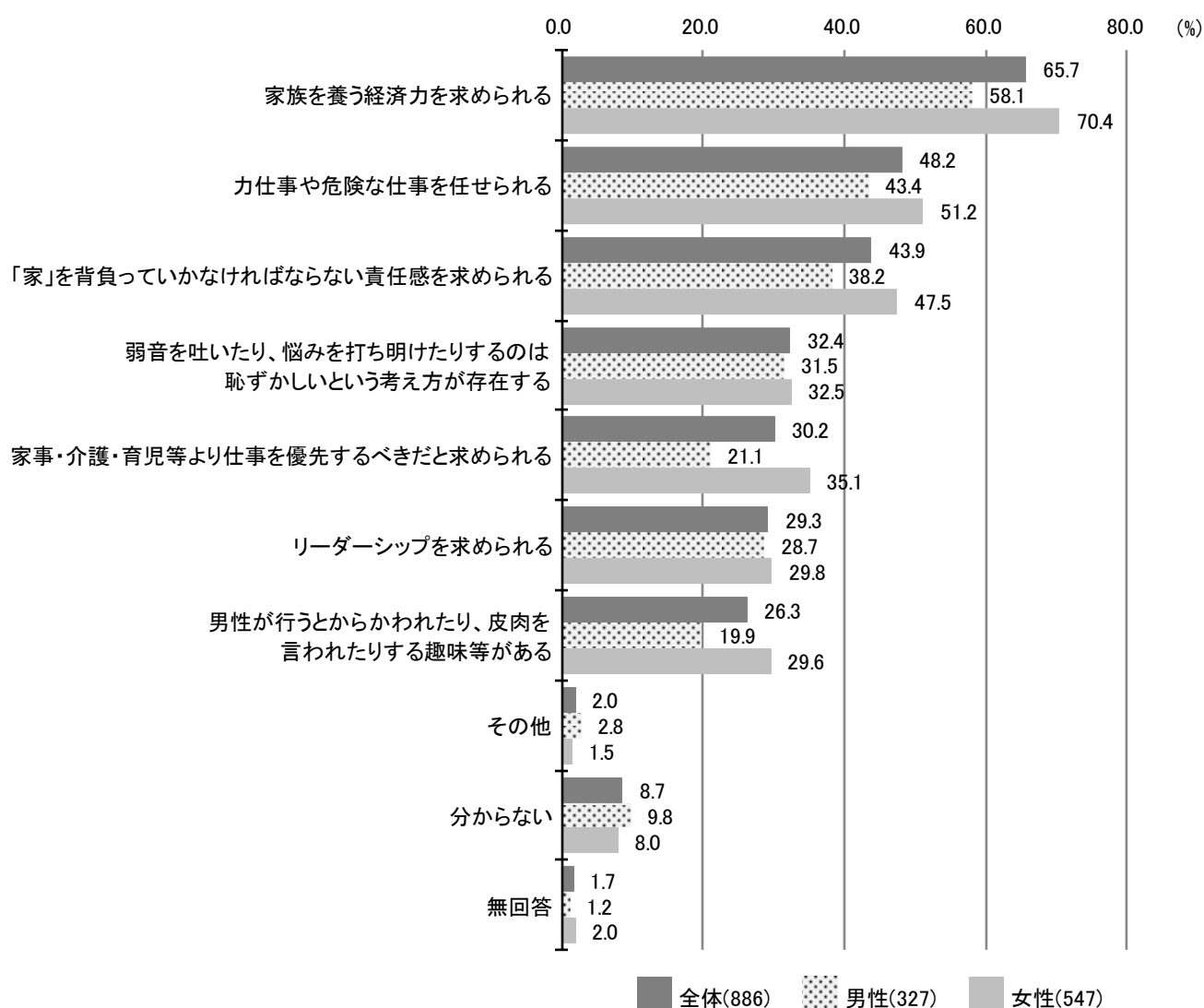
日本社会において「男性である」がゆえに生じる男性特有の負担感や生きづらさとしては、どのようなものがあると思いますか。(どの性別の方もお答えください。)(〇はいくつでも)

○ 全体・性別の傾向

「家族を養う経済力を求められる」が65.7%で最も多く、次いで、「力仕事や危険な仕事を任せられる」(48.2%)、「家」を背負っていかねばならない責任感を求められる」(43.9%)となっている。

性別で見ると、「家事・介護・育児等より仕事を優先するべきだと求められる」は女性の方が男性よりも14.0ポイント高くなっている。そのほか、女性の方が「家族を養う経済力を求められる」で12.3ポイント、「男性が行うとからかわれたり、皮肉を言われたりする趣味等がある」で9.7ポイント、「家」を背負っていかねばならない責任感を求められる」で9.3ポイント男性より高くなっている。

図XI-8 男性特有の負担感や生きづらさ（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「家族を養う経済力を求められる」は、男性では 50 歳未満で6割以上となっており、特に 30 代で 70.5%と高くなっている。

「力仕事や危険な仕事を任せられる」は、男性では 50 歳未満で過半数となっており、特に 30 代では 61.4%と高くなっている。女性では 40 歳未満と 60 代で6割以上となっている。

「弱音を吐いたり、悩みを打ち明けたりするのは恥ずかしいという考え方が存在する」は、男性の 10・20 代で 44.7%となっており他の世代を 10 ポイント以上上回っている。

「男性が行うとからかわれたり、皮肉を言われたりする趣味等がある」は、男女共に概ね年齢が低いほど高くなる傾向にあり、特に男性の 30 代では 45.5%と他の世代を 10 ポイント以上上回っている。

表XI-10 男性特有の負担感や生きづらさ（性・年齢別）

		家族を養う経済力を求められる	力仕事や危険な仕事を任せられる	「家」を背負っている責任感を求められない	弱音を吐いたり、悩みを打ち明けたりするのは恥ずかしいという考え方が存在する	優先するべきだと求められ仕事をする	家事・介護・育児等より仕事をリーダーシップを求められる	皮肉を言われたりからかわれたりする趣味等がある	男性が行うとからかわれたりする趣味等がある	その他	分からない	無回答
全 体		886 100.0	582 65.7	427 48.2	389 43.9	287 32.4	268 30.2	260 29.3	233 26.3	18 2.0	77 8.7	15 1.7
男性	合 計	327 100.0	190 58.1	142 43.4	125 38.2	103 31.5	69 21.1	94 28.7	65 19.9	9 2.8	32 9.8	4 1.2
	10・20代	38 100.0	23 60.5	21 55.3	16 42.1	17 44.7	9 23.7	17 44.7	12 31.6	3 7.9	5 13.2	1 2.6
	30代	44 100.0	31 70.5	27 61.4	17 38.6	14 31.8	8 18.2	17 38.6	20 45.5	3 6.8	3 6.8	-
	40代	63 100.0	41 65.1	33 52.4	26 41.3	20 31.7	15 23.8	19 30.2	16 25.4	3 4.8	3 4.8	1 1.6
	50代	67 100.0	32 47.8	23 34.3	23 34.3	21 31.3	12 17.9	21 31.3	12 17.9	-	9 13.4	-
	60代	41 100.0	21 51.2	13 31.7	14 34.1	13 31.7	11 26.8	4 9.8	4 9.8	-	3 7.3	-
	70歳以上	72 100.0	41 56.9	24 33.3	27 37.5	18 25.0	13 18.1	16 22.2	1 1.4	-	9 12.5	2 2.8
女性	合 計	547 100.0	385 70.4	280 51.2	260 47.5	178 32.5	192 35.1	163 29.8	162 29.6	8 1.5	44 8.0	11 2.0
	10・20代	53 100.0	40 75.5	34 64.2	24 45.3	22 41.5	15 28.3	18 34.0	22 41.5	1 1.9	3 5.7	-
	30代	79 100.0	58 73.4	48 60.8	36 45.6	28 35.4	38 48.1	25 31.6	31 39.2	1 1.3	8 10.1	-
	40代	102 100.0	72 70.6	53 52.0	51 50.0	29 28.4	42 41.2	35 34.3	37 36.3	3 2.9	6 5.9	-
	50代	109 100.0	73 67.0	49 45.0	52 47.7	35 32.1	38 34.9	32 29.4	32 29.4	2 1.8	5 4.6	1 0.9
	60代	91 100.0	62 68.1	55 60.4	42 46.2	34 37.4	32 35.2	27 29.7	27 29.7	1 1.1	6 6.6	3 3.3
	70歳以上	110 100.0	78 70.9	40 36.4	54 49.1	30 27.3	27 24.5	25 22.7	13 11.8	-	16 14.5	6 5.5

問 25 メディアにおける性や暴力表現についての考え

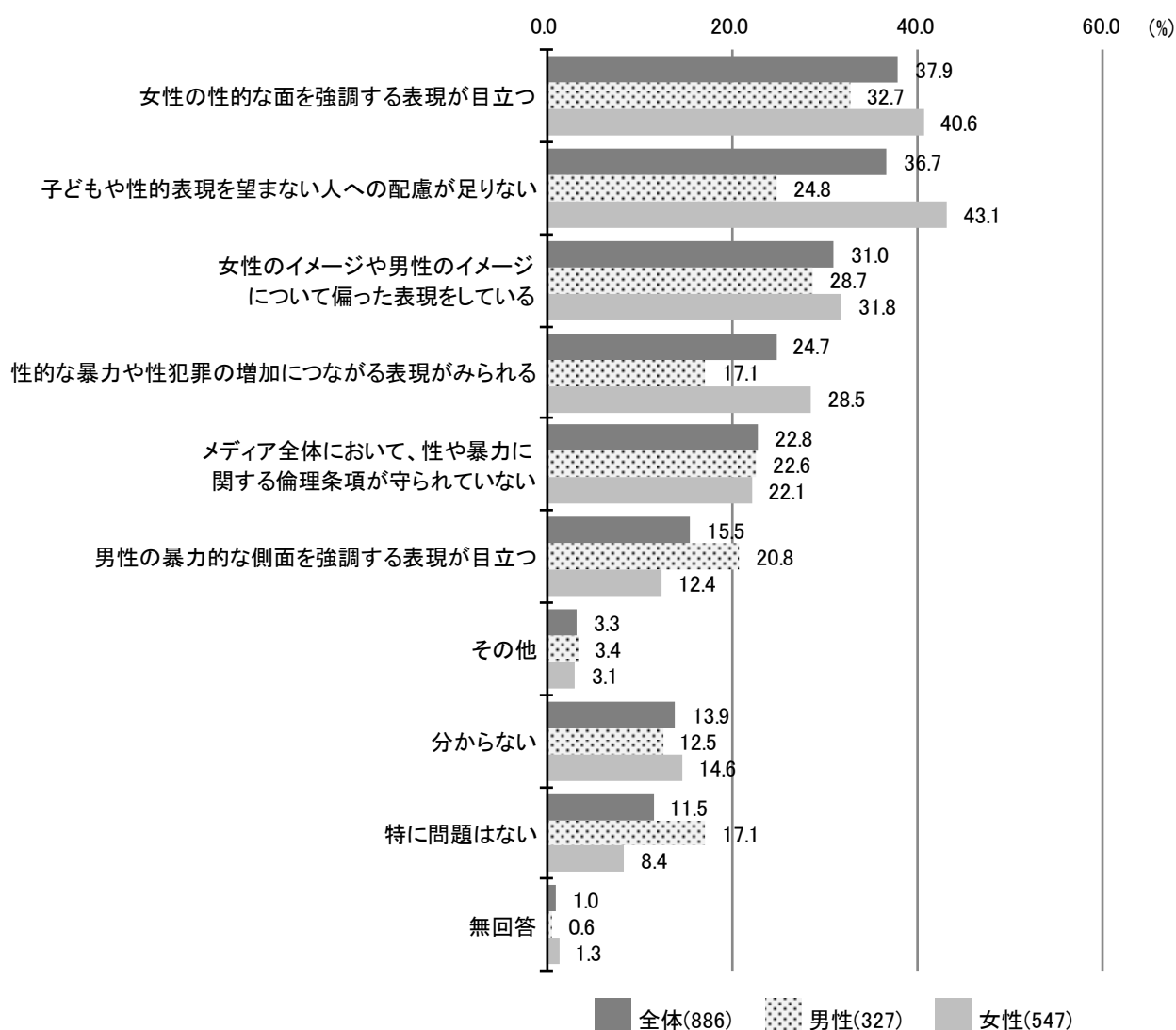
テレビ、ラジオ、インターネット、雑誌、広告などのメディアにおける性や暴力表現について、あなたはどのように感じていますか。【〇はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」が37.9%、「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が36.7%で多くなっている。そのほか、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」が31.0%となっている。

性別で見ると、女性では「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が43.1%で最も多く、男性(24.8%)を18.3ポイント上回る。また、「性的な暴力や性犯罪の増加につながる表現がみられる」も女性は28.5%で、男性(17.1%)を11.4ポイント上回っている。

図XI-9 メディアにおける性や暴力表現についての考え（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」、「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」については、女性の場合、年齢が低くなるほど高くなる傾向にある。特に、「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」は、女性の10・20代で60.4%となっており、他の世代を大きく上回っている。

また、「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」は、男性の場合は、40歳以上で高くなっている。

表XI-11 メディアにおける性や暴力表現についての考え（性・年齢別）

		表 現 が 目 立 つ	女 性 の 性 的 な 面 を 強 調 す る	子 ど も や 性 的 表 現 を 望 ま な い	こ れ に 関 心 が あ る	メ ジ ア の イ メ ー ジ に 関 心 が あ る	女 性 の 性 的 な 面 を 強 調 す る	性 的 な 暴 力 表 現 が 犯 罪 の 増 加 に 関 与 し て い る	守 ら れ て い な い	メ デ ィ ア に 関 し て の 倫 理 的 な 問 題 が あ る	男 性 の 暴 力 表 現 が 目 立 つ	そ の 他	分 か ら な い	特 に 問 題 は な い	無 回 答
全 体		886 100.0	336 37.9	325 36.7	275 31.0	219 24.7	202 22.8	137 15.5	29 3.3	123 13.9	102 11.5	9 1.0			
男 性	合 計	327 100.0	107 32.7	81 24.8	94 28.7	56 17.1	74 22.6	68 20.8	11 3.4	41 12.5	56 17.1	2 0.6			
	10・20代	38 100.0	10 26.3	9 23.7	13 34.2	5 13.2	9 23.7	8 21.1	1 2.6	3 7.9	12 31.6	— —			
	30代	44 100.0	9 20.5	11 25.0	13 29.5	5 11.4	4 9.1	11 25.0	6 13.6	5 11.4	7 15.9	1 2.3			
	40代	63 100.0	22 34.9	18 28.6	20 31.7	8 12.7	16 25.4	15 23.8	3 4.8	5 7.9	13 20.6	— —			
	50代	67 100.0	24 35.8	15 22.4	22 32.8	14 20.9	15 22.4	9 13.4	— —	14 20.9	10 14.9	— —			
	60代	41 100.0	17 41.5	9 22.0	13 31.7	10 24.4	11 26.8	7 17.1	1 2.4	5 12.2	4 9.8	— —			
	70歳以上	72 100.0	24 33.3	18 25.0	13 18.1	14 19.4	19 26.4	17 23.6	— —	9 12.5	10 13.9	1 1.4			
女 性	合 計	547 100.0	222 40.6	236 43.1	174 31.8	156 28.5	121 22.1	68 12.4	17 3.1	80 14.6	46 8.4	7 1.3			
	10・20代	53 100.0	32 60.4	23 43.4	23 43.4	13 24.5	10 18.9	8 15.1	4 7.5	3 5.7	7 13.2	— —			
	30代	79 100.0	36 45.6	40 50.6	32 40.5	18 22.8	19 24.1	6 7.6	4 5.1	6 7.6	9 11.4	— —			
	40代	102 100.0	38 37.3	49 48.0	39 38.2	37 36.3	25 24.5	8 7.8	4 3.9	11 10.8	11 10.8	— —			
	50代	109 100.0	46 42.2	50 45.9	31 28.4	37 33.9	20 18.3	13 11.9	1 0.9	16 14.7	10 9.2	1 0.9			
	60代	91 100.0	35 38.5	35 38.5	24 26.4	26 28.6	19 20.9	14 15.4	3 3.3	16 17.6	6 6.6	1 1.1			
	70歳以上	110 100.0	33 30.0	37 33.6	25 22.7	24 21.8	28 25.5	19 17.3	1 0.9	27 24.5	3 2.7	5 4.5			

問 26 社会における人権問題の対応状況についての考え

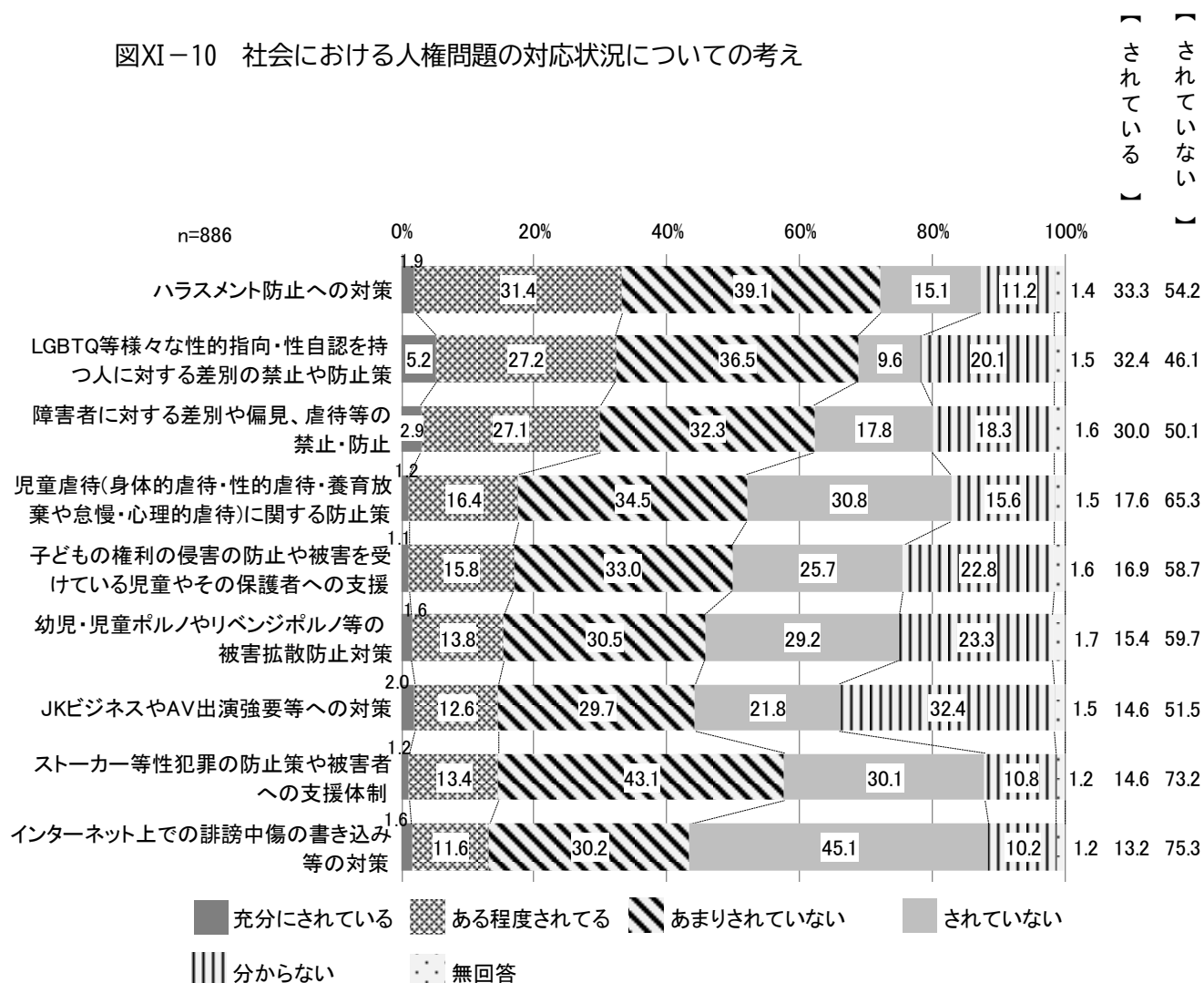
あなたは、日本の社会における人権及び人権に関わる問題について、どの程度人権が尊重され、支援や防止対策がされていると思いますか。ア～ケのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

○ 全体の傾向

「ハラスメント防止への対策」(33.3%)、「LGBTQ等様々な性的指向・性自認を持つ人に対する差別の禁止や防止策」(32.4%)、「障害者に対する差別や偏見、虐待等の禁止・防止」(30.0%)については「十分にされている」と「ある程度されてる」の合計(以下、『されている』)が3割以上となっているが、それ以外については『されている』は2割未満となっている。

特に、「インターネット上での誹謗中傷の書き込み等の対策」(75.3%)、「ストーカー等性犯罪の防止策や被害者への支援体制」(73.2%)は「あまりされていない」と「されていない」の合計が7割以上を占めている。

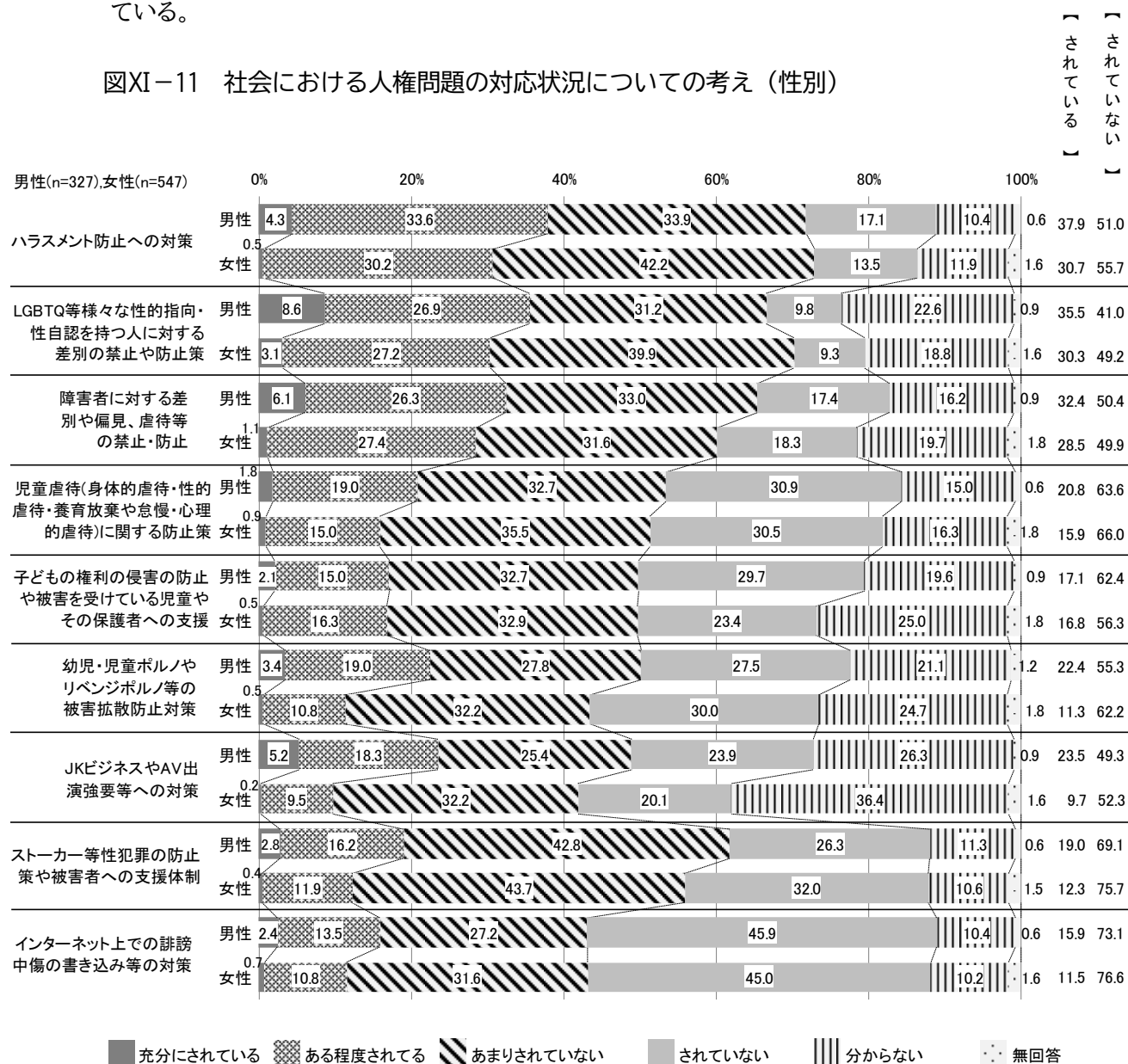
図XI-10 社会における人権問題の対応状況についての考え



○ 性別の傾向

「幼児・児童ポルノやリベンジポルノ等の被害拡散防止対策」や「JK ビジネスや AV 出演強要等への対策」について、女性で『されている』と回答した人の割合は、男性を 10 ポイント以上下回っている。

図XI-11 社会における人権問題の対応状況についての考え（性別）



【参考】

表XI-12 社会における人権問題の対応状況についての考え『LGBTQ等様々な性的指向・性自認を持つ人に対する差別の禁止や防止策』（その他の性自認）

全体	充分にされている	ある程度されてる	あまりされていない	されていない	分からない
4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-

XII. 性の多様性について

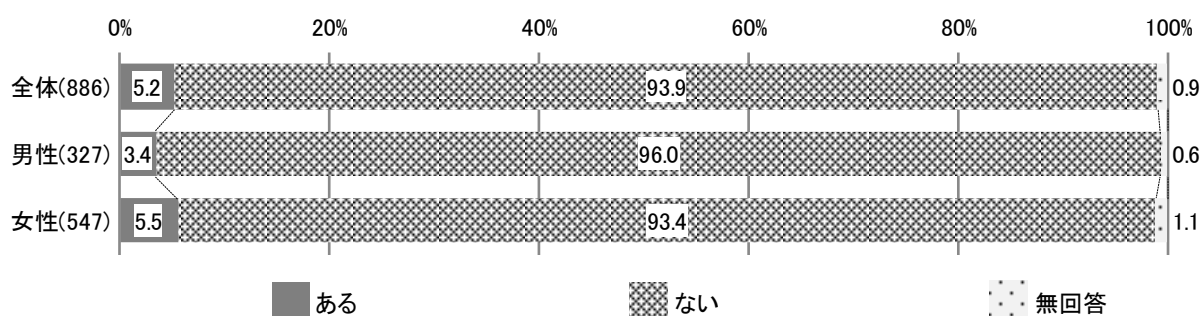
問 27 性自認や性的指向について悩んだ経験の有無

あなたは、今までに自分の性別(性自認)や恋愛対象の性(性的指向)について悩んだことはありますか。【1つだけ○】

○ 全体の傾向

「ある」と回答した人は、5.2%である。

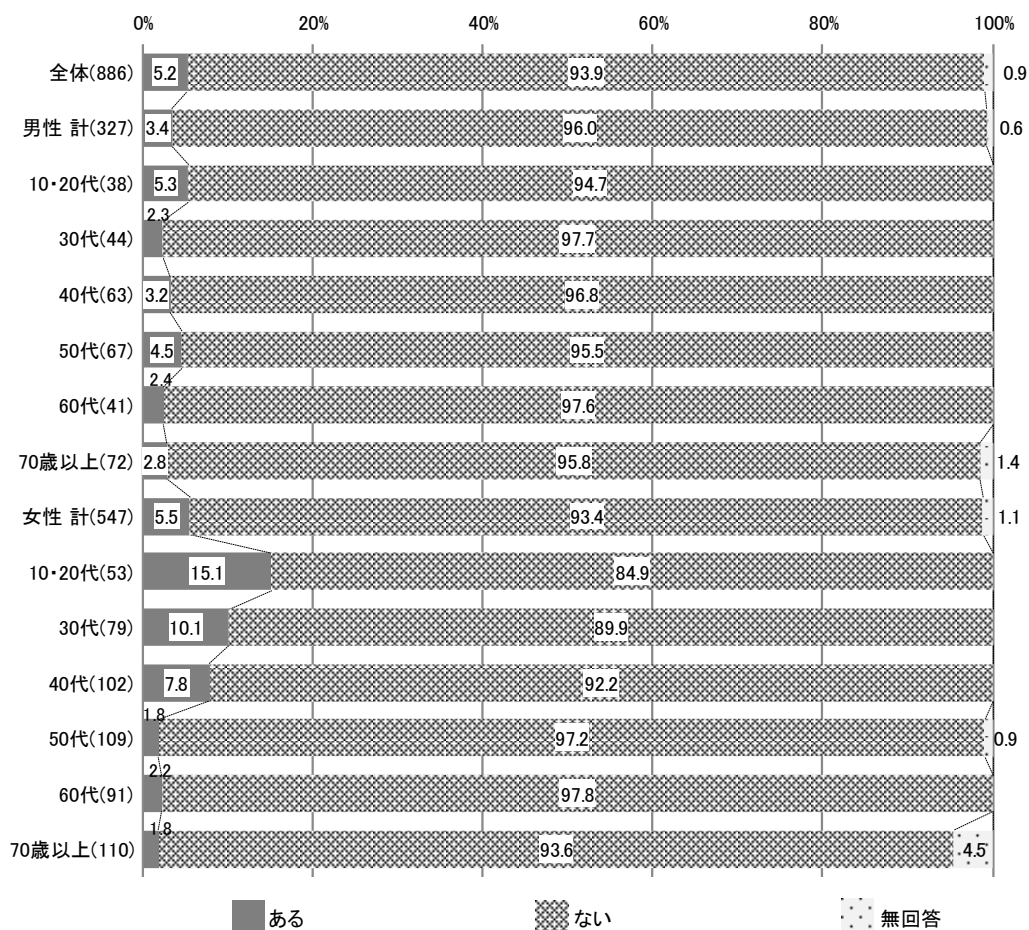
図XII-1 性自認や性的指向について悩んだ経験の有無(性別)



○ 性・年齢別の傾向

女性の10・20代(15.1%)、30代(10.1%)では「ある」と回答した人が1割以上となっている。

図XII-2 性自認や性的指向について悩んだ経験の有無(性・年齢別)



【参考】

表Ⅻ－１ 性自認や性的指向について悩んだ経験の有無（その他の性自認）

全 体	あ る	な い
4 100.0	3 75.0	1 25.0

問 28 身近に L G B T Q等の人はいるか

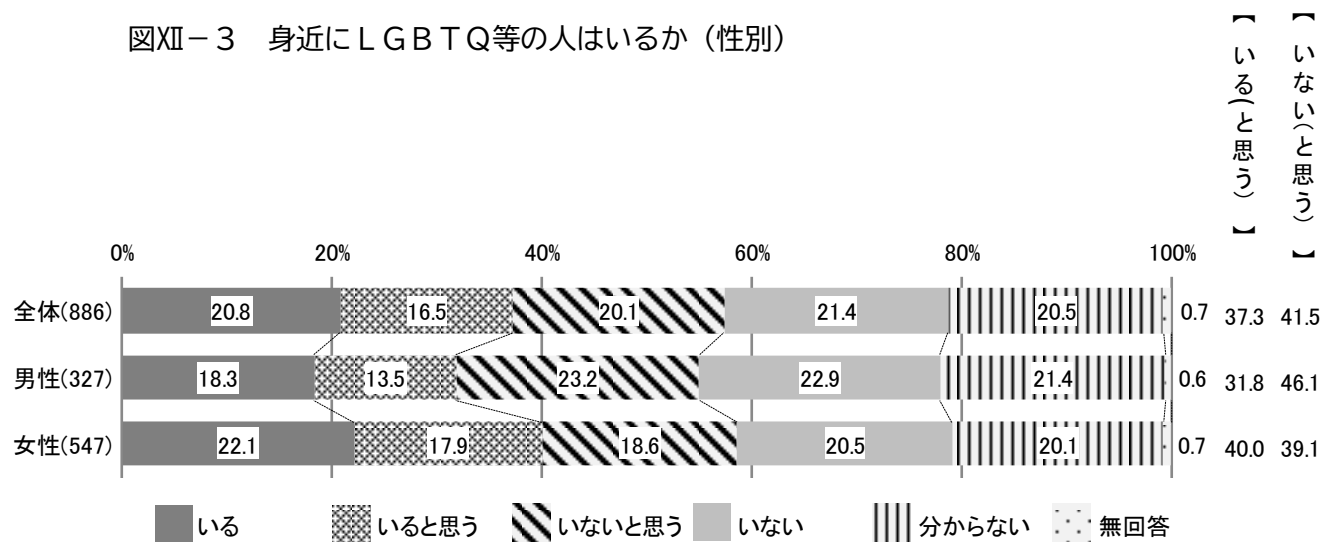
あなたの身近な人(職場の同僚、友人、親戚や家族、近所の知人)に LGBTQ 等の人はいますか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「いる」が 20.8%、「いると思う」が 16.5%となっている。

性別で見ると、「いる」と「いると思う」の合計は、女性で 40.0%であり、男性(31.8%)より高くなっている。

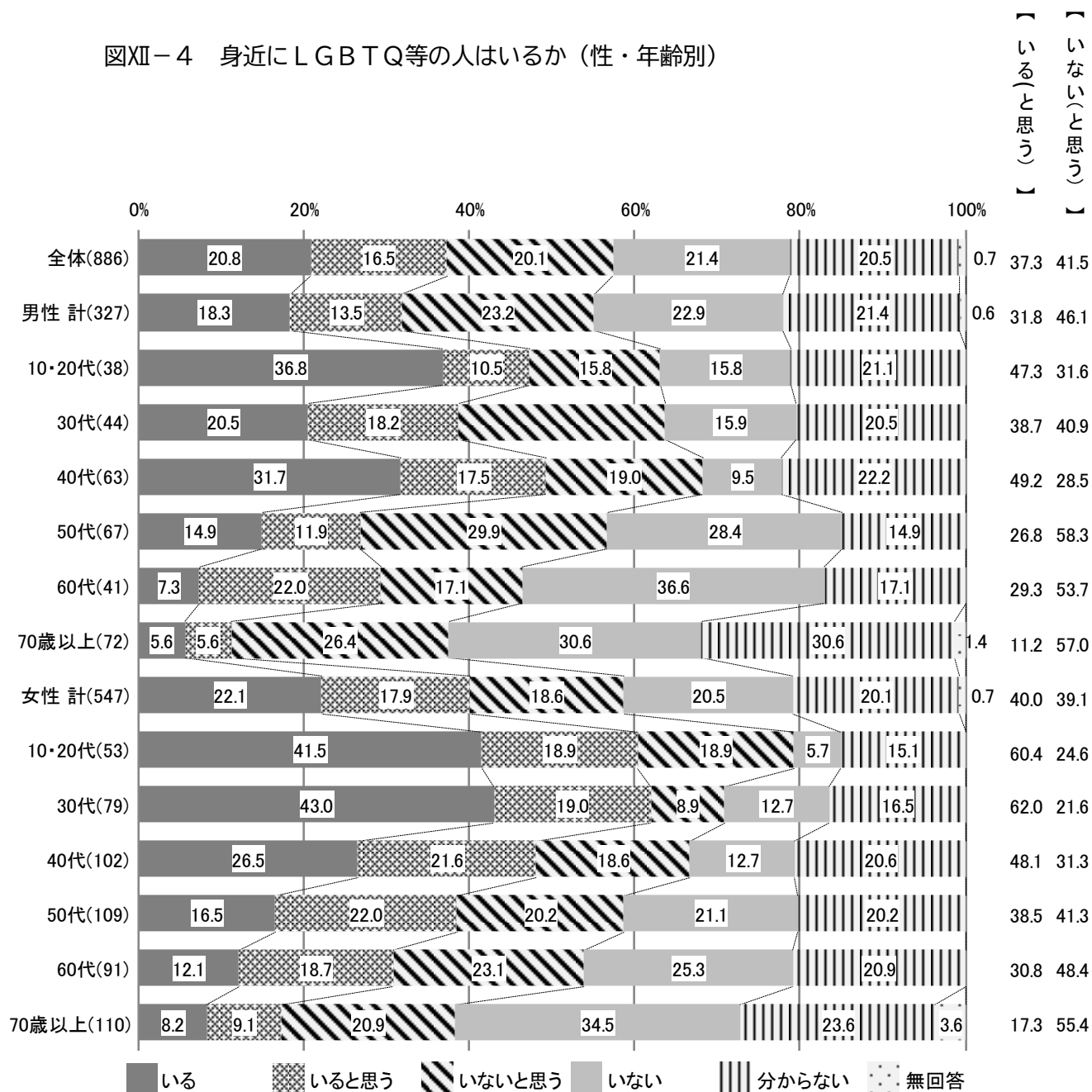
図Ⅻ－3 身近に L G B T Q等の人はいるか（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「いる」は、男性の10・20代と40代で3割以上、女性の10～30代では4割以上と高くなっている。

図Ⅻ-4 身近にLGBTQ等の人はいるか（性・年齢別）



【参考】

表Ⅻ-2 身近にLGBTQ等の人はいるか（その他の性自認）

全体	いる	いると思う	いないと思う	いない	分からない
4 100.0	2 50.0	2 50.0	-	-	-

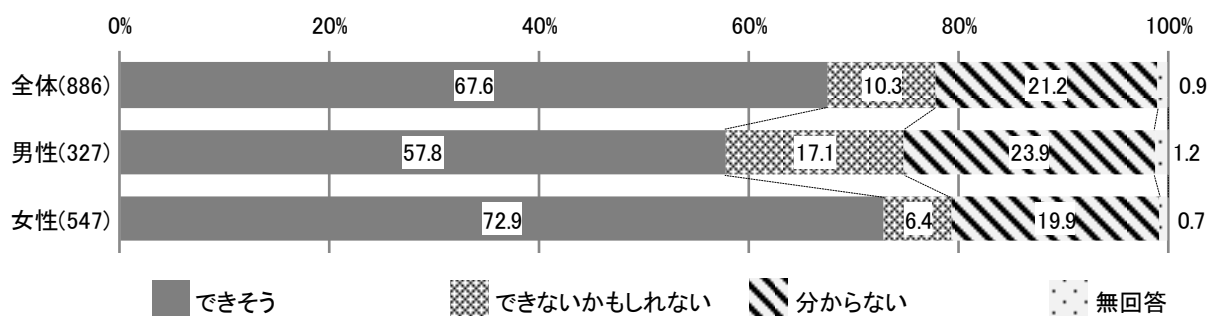
問 29 身近な人から L G B T Q 等であることを打ち明けられたときの対応

あなたは、身近な人から L G B T Q 等であることを打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができそうですか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「できそう」と回答した人は、女性は 72.9%、男性は 57.8%であり、男性が女性より 15.1 ポイント低い。

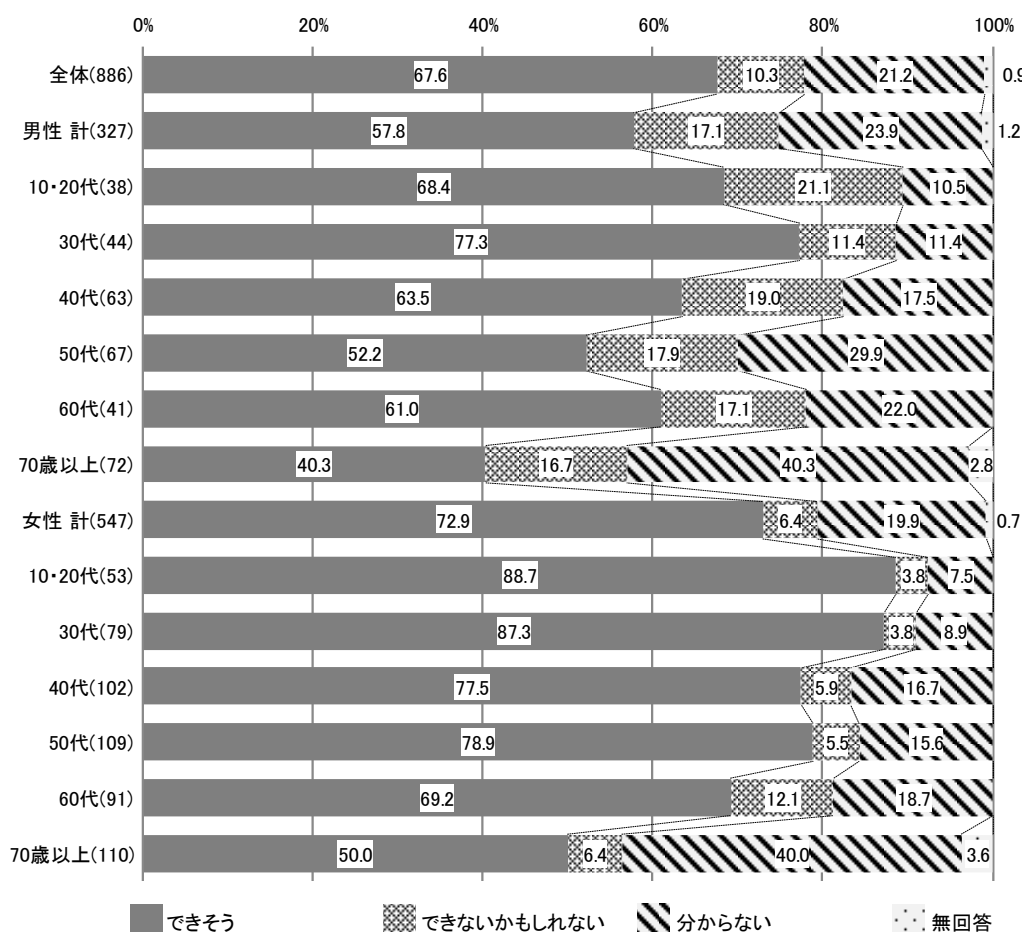
図Ⅻ－5 身近な人から L G B T Q 等であることを打ち明けられたときの対応（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「できそう」と回答した人は、概ね年齢が低くなるほど高くなる傾向にあり、男性は30代で8割弱、女性は10～30代で9割弱と高くなっている。

図Ⅻ－6 身近な人から L G B T Q 等であることを打ち明けられたときの対応(性・年齢別)



【参考】

表Ⅻ－３ 身近な人からＬＧＢＴＱ等であることを打ち明けられたときの対応
(その他の性自認)

全 体	で き そ う	で き な い か も し れ な い	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -

問 29－ 1 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができない理由

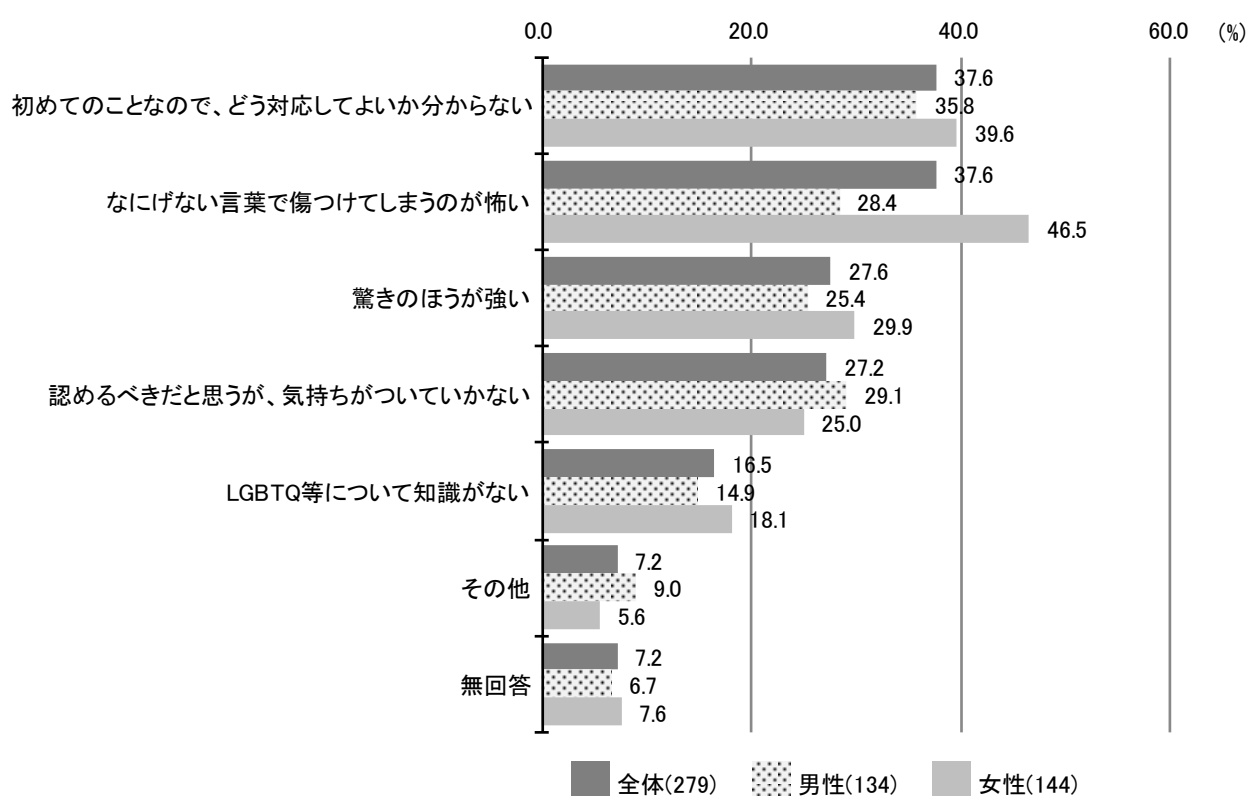
【問 29 で「2. できないかもしれない」、「3. 分からない」に「○」をした方にお聞きします。】
それはどうしてですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「初めてのことなので、どう対応してよいかわからない」(37.6%)、「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」(37.6%)が多くなっている。

性別で見ると、女性では「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」が 46.5%で最も多くなっており、男性(28.4%)を 18.1 ポイントと大幅に上回っている。

図Ⅻ－ 7 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができない理由（性別）



○ 年齢別の傾向

「驚きのほうが強い」は、40代で39.1%、10～30代で31.6%と高くなっている。

「認めるべきだと思うが、気持ちがついていかない」は、60代で38.6%と高くなっている。

表Ⅻ－4 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができない理由（年齢別）

	全 体	対 応 し て よ い か な か ら な い う	初 め て の こ と な か ら な い う	し ま う の が 怖 い	な に げ な い 言 葉 で 傷 つ け て	驚 き の ほ う が 強 い	持 ち め る べ き だ と 思 う が 、 気	認 め る べ き だ と 思 う が 、 知 識	が な い	L G B T Q 等 に つ い て	そ の 他	無 回 答
全 体	279 100.0	105 37.6	105 37.6	77 27.6	76 27.2	46 16.5	20 7.2	20 7.2				
10～30代	38 100.0	15 39.5	17 44.7	12 31.6	6 15.8	2 5.3	7 18.4	1 2.6				
40代	46 100.0	17 37.0	20 43.5	18 39.1	13 28.3	6 13.0	5 10.9	4 8.7				
50代	55 100.0	24 43.6	24 43.6	11 20.0	16 29.1	10 18.2	4 7.3	1 1.8				
60代	44 100.0	13 29.5	19 43.2	12 27.3	17 38.6	6 13.6	2 4.5	1 2.3				
70歳以上	93 100.0	36 38.7	25 26.9	23 24.7	24 25.8	22 23.7	2 2.2	11 11.8				

問 30 L G B T Q等の人たちが暮らしやすい社会になるために必要なこと

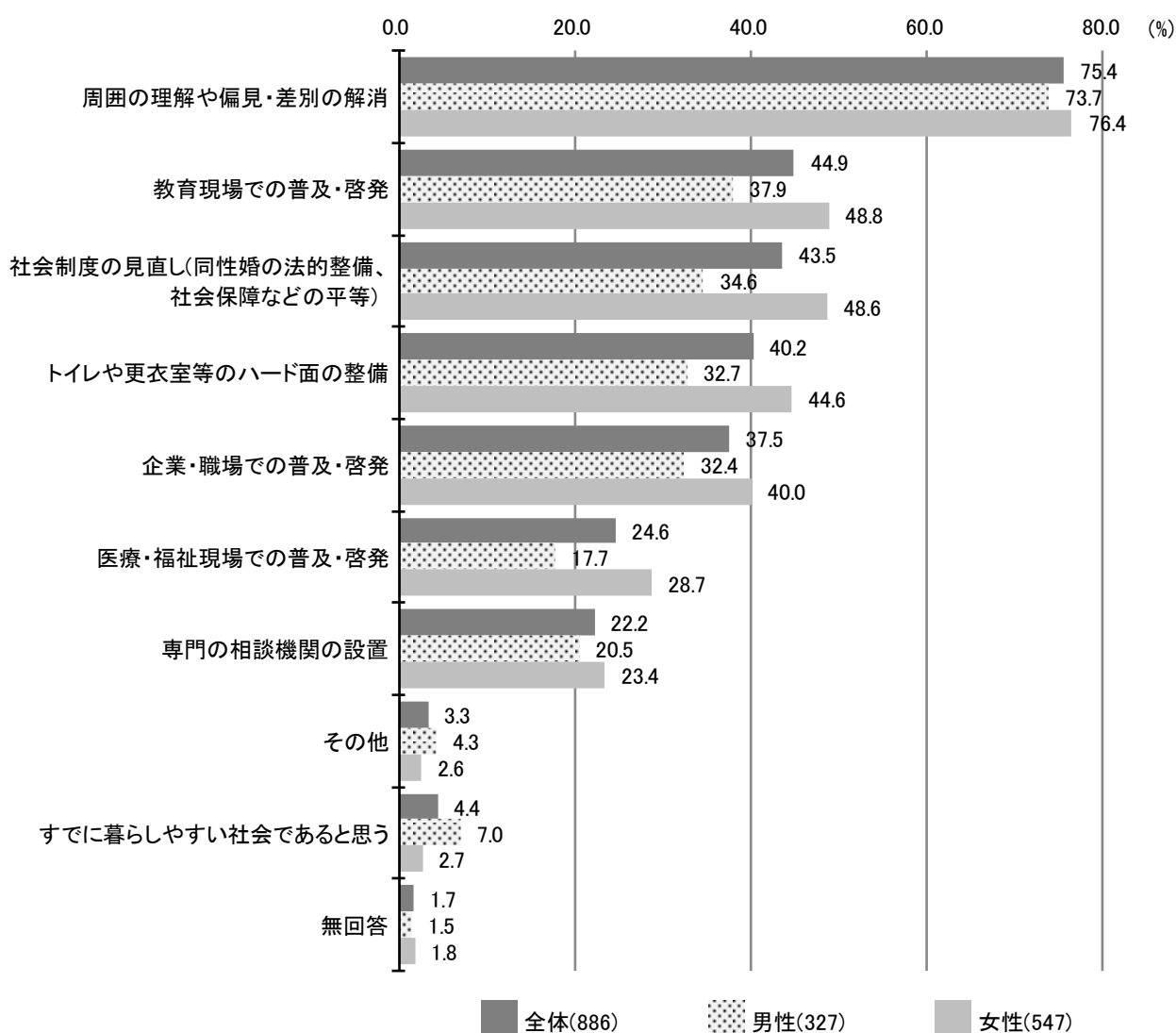
あなたは、LGBTQ 等の方々が暮らしやすい社会になるために何が必要だと思いますか。
【〇はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「周囲の理解や偏見・差別の解消」が 75.4%で最も多く、次いで、「教育現場での普及・啓発」(44.9%)、「社会制度の見直し(同性婚の法的整備、社会保障などの平等)」(43.5%)、「トイレや更衣室等のハード面の整備」(40.2%)となっている。

性別で見ると、「教育現場での普及・啓発」、「社会制度の見直し(同性婚の法的整備、社会保障などの平等)」、「トイレや更衣室等のハード面の整備」、「医療・福祉現場での普及・啓発」と回答した人は女性が男性を 10 ポイント以上上回っている。

図Ⅻ－8 L G B T Q等の人たちが暮らしやすい社会になるために必要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「教育現場での普及・啓発」は、男性では40～50代で4割以上と高くなっている。女性では50歳未満で5割以上と高くなっており、特に10・20代では58.5%となっている。

「社会制度の見直し(同性婚の法的整備、社会保障などの平等)」は、女性の10・20代の3人に2人(64.2%)がこの点を挙げており、他の世代を10ポイント以上上回っている。

「トイレや更衣室等のハード面の整備」は女性の60代で過半数の54.9%と高くなっている。

表Ⅻ-5 L G B T Q等の人たちが暮らしやすい社会になるために必要なこと(性・年齢別)

		全 体	別 周 の 解 消 理 解 や 偏 見 ・ 差	発 教 育 現 場 で の 普 及 ・ 啓	保 障 な ど の 法 的 整 備 ・ 社 会	性 婚 の 法 的 整 備 ・ 社 会	社 会 制 度 の 見 直 し （ 同 性 婚 な ど の 平 等 ）	ハ イ ド レ 面 の 整 備	啓 発 ・ 職 場 で の 普 及 ・	医 療 ・ 福 祉 現 場 で の 普 及 ・ 啓 発	専 門 の 相 談 機 関 の 設 置	そ の 他	会 で あ る と 思 う	す で に 暮 ら し や す い 社	無 回 答
全 体		886 100.0	668 75.4	398 44.9	385 43.5	356 40.2	332 37.5	218 24.6	197 22.2	29 3.3	39 4.4	15 1.7			
男 性	合 計	327 100.0	241 73.7	124 37.9	113 34.6	107 32.7	106 32.4	58 17.7	67 20.5	14 4.3	23 7.0	5 1.5			
	10・20代	38 100.0	25 65.8	11 28.9	11 28.9	14 36.8	8 21.1	8 21.1	10 26.3	3 7.9	6 15.8	－ －			
	30代	44 100.0	32 72.7	15 34.1	12 27.3	5 11.4	11 25.0	5 11.4	7 15.9	5 11.4	3 6.8	－ －			
	40代	63 100.0	48 76.2	29 46.0	28 44.4	22 34.9	21 33.3	16 25.4	16 25.4	4 6.3	3 4.8	1 1.6			
	50代	67 100.0	51 76.1	28 41.8	23 34.3	22 32.8	26 38.8	12 17.9	12 17.9	2 3.0	6 9.0	－ －			
	60代	41 100.0	33 80.5	13 31.7	10 24.4	17 41.5	16 39.0	6 14.6	7 17.1	－ －	2 4.9	－ －			
	70歳以上	72 100.0	51 70.8	28 38.9	29 40.3	27 37.5	24 33.3	11 15.3	15 20.8	－ －	3 4.2	3 4.2			
	女 性	合 計	547 100.0	418 76.4	267 48.8	266 48.6	244 44.6	219 40.0	157 28.7	128 23.4	14 2.6	15 2.7	10 1.8		
10・20代		53 100.0	37 69.8	31 58.5	34 64.2	26 49.1	23 43.4	17 32.1	15 28.3	2 3.8	2 3.8	1 1.9			
30代		79 100.0	63 79.7	43 54.4	41 51.9	36 45.6	28 35.4	23 29.1	13 16.5	2 2.5	4 5.1	－ －			
40代		102 100.0	76 74.5	54 52.9	49 48.0	41 40.2	44 43.1	36 35.3	20 19.6	4 3.9	4 3.9	1 1.0			
50代		109 100.0	90 82.6	47 43.1	54 49.5	43 39.4	46 42.2	26 23.9	28 25.7	2 1.8	3 2.8	1 0.9			
60代		91 100.0	73 80.2	39 42.9	43 47.3	50 54.9	32 35.2	23 25.3	20 22.0	3 3.3	2 2.2	1 1.1			
70歳以上		110 100.0	78 70.9	51 46.4	44 40.0	46 41.8	44 40.0	31 28.2	32 29.1	1 0.9	－ －	6 5.5			

【参考】

表Ⅻ－6 L G B T Q等の人たちが暮らしやすい社会になるために必要なこと
(その他の性自認)

全 体	周囲 の理 解や 偏見・ 差別の 解消	教育 現場で の普及・ 啓発	社会制 度の法 的整備 の整直 し（同 性婚 の平等 ）	トイレ や更衣 室等の ハード 面の整 備	企業・ 職場で の普及・ 啓発	医療・ 福祉現 場での 普及・ 啓発	専門の 相談機 関の設 置	その他	すでに 暮らし やすい 社会で あると 思う
4 100.0	4 100.0	3 75.0	3 75.0	1 25.0	3 75.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	－ －

XⅢ. 暴力の防止について

問 31 認知している公的なDV相談機関

配偶者・パートナー又は交際相手などからの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))についての公的な相談機関として、知っているものがありますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

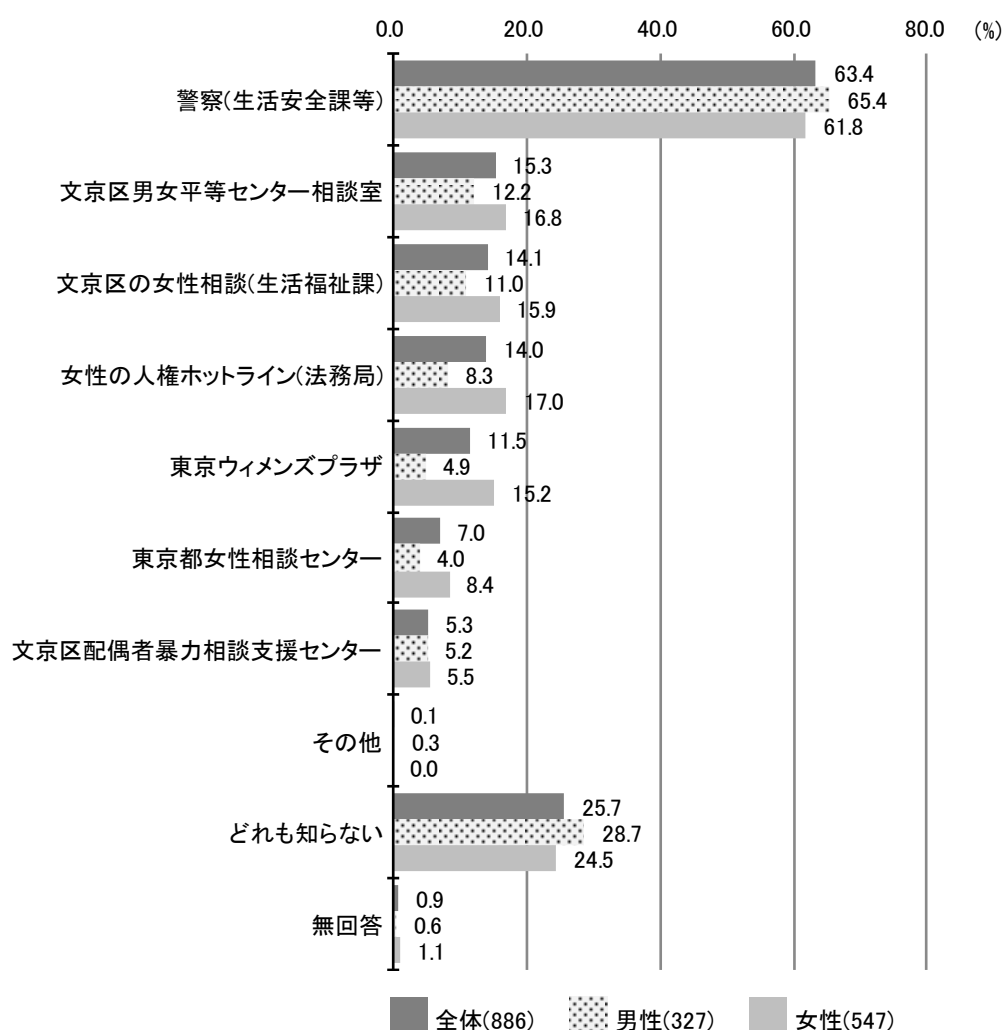
「警察(生活安全課等)」が63.4%を占め最も多い。それ以外の相談機関を挙げた人はいずれも2割未満となっている。

また、「どれも知らない」が25.7%となっている。

性別で見ると、「女性の人権ホットライン(法務局)」は、女性で知っている人は17.0%であり、男性(8.3%)を8.7ポイント上回っている。

また、「東京ウィメンズプラザ」も女性で知っている人は15.2%となっており、男性(4.9%)を10.3ポイント上回っている。

図 XⅢ－1 認知している公的なDV相談機関（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「どれも知らない」は、男性の10・20代で47.4%、50代で35.8%と高くなっている。

「女性の人権ホットライン(法務局)」は、女性の10・20代では3割(28.3%)が知っている。

「東京ウィメンズプラザ」の認知度は、女性の10・20代では0%であり、50～60代で2～3割となっている。

表XIII－1 認知している公的なDV相談機関（性・年齢別）

		全 体	警 察 （ 生 活 安 全 課 等 ）	文 京 区 男 女 平 等 セ ン タ ー 相 談 室	文 京 区 の 女 性 相 談 （ 生 活 福 祉 課 ）	女 性 の 人 権 ホ ッ ト ラ イ ン （ 法 務 局 ）	東 京 ウ ィ メ ン ズ プ ラ ザ	東 京 ウ ィ メ ン ズ プ ラ ザ タ ー 相 談 セ ン タ ー	支 援 セ ン タ ー 文 京 区 配 偶 者 暴 力 相 談	そ の 他	ど れ も 知 ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	562 63.4	136 15.3	125 14.1	124 14.0	102 11.5	62 7.0	47 5.3	1 0.1	228 25.7	8 0.9
男 性	合 計	327 100.0	214 65.4	40 12.2	36 11.0	27 8.3	16 4.9	13 4.0	17 5.2	1 0.3	94 28.7	2 0.6
	10・20代	38 100.0	20 52.6	3 7.9	3 7.9	3 7.9	－ －	－ －	2 5.3	1 2.6	18 47.4	－ －
	30代	44 100.0	33 75.0	6 13.6	5 11.4	3 6.8	－ －	－ －	3 6.8	－ －	11 25.0	－ －
	40代	63 100.0	43 68.3	9 14.3	11 17.5	5 7.9	4 6.3	5 7.9	3 4.8	－ －	14 22.2	－ －
	50代	67 100.0	40 59.7	4 6.0	3 4.5	7 10.4	6 9.0	3 4.5	5 7.5	－ －	24 35.8	－ －
	60代	41 100.0	29 70.7	7 17.1	6 14.6	3 7.3	1 2.4	3 7.3	－ －	－ －	9 22.0	－ －
	70歳以上	72 100.0	48 66.7	11 15.3	8 11.1	6 8.3	5 6.9	2 2.8	4 5.6	－ －	18 25.0	1 1.4
	合 計	547 100.0	338 61.8	92 16.8	87 15.9	93 17.0	83 15.2	46 8.4	30 5.5	－ －	134 24.5	6 1.1
女 性	10・20代	53 100.0	39 73.6	6 11.3	7 13.2	15 28.3	－ －	2 3.8	2 3.8	－ －	10 18.9	－ －
	30代	79 100.0	49 62.0	12 15.2	9 11.4	11 13.9	9 11.4	5 6.3	6 7.6	－ －	22 27.8	－ －
	40代	102 100.0	67 65.7	16 15.7	20 19.6	19 18.6	9 8.8	7 6.9	7 6.9	－ －	23 22.5	－ －
	50代	109 100.0	66 60.6	22 20.2	13 11.9	13 11.9	22 20.2	11 10.1	6 5.5	－ －	27 24.8	1 0.9
	60代	91 100.0	61 67.0	11 12.1	14 15.4	18 19.8	25 27.5	8 8.8	5 5.5	－ －	21 23.1	－ －
	70歳以上	110 100.0	55 50.0	25 22.7	24 21.8	17 15.5	18 16.4	13 11.8	4 3.6	－ －	29 26.4	5 4.5

問 32 配偶者・パートナー、交際相手などから暴力等の行為を受けた経験又は加害経験

あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手などとの間で、次のような行為を受けたり、行為をしたことがありますか。【1 つだけ○】

① 行為を受けた経験

○ 全体・性別の傾向

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した行為を受けたことがある人は、女性では、心理的攻撃が 18.6%、身体的暴行が 14.3%、経済的圧迫が 10.3%、性的強要が 8.3%となっており、いずれも男性で行為を受けたことがある人よりも6～9ポイント高くなっている。

図 XⅢ－2 配偶者・パートナー、交際相手などから暴力等の行為を受けた経験

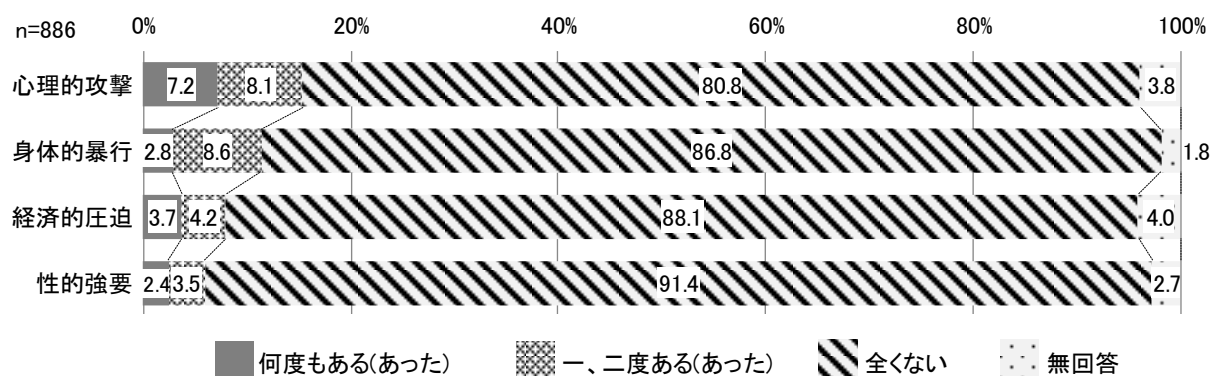
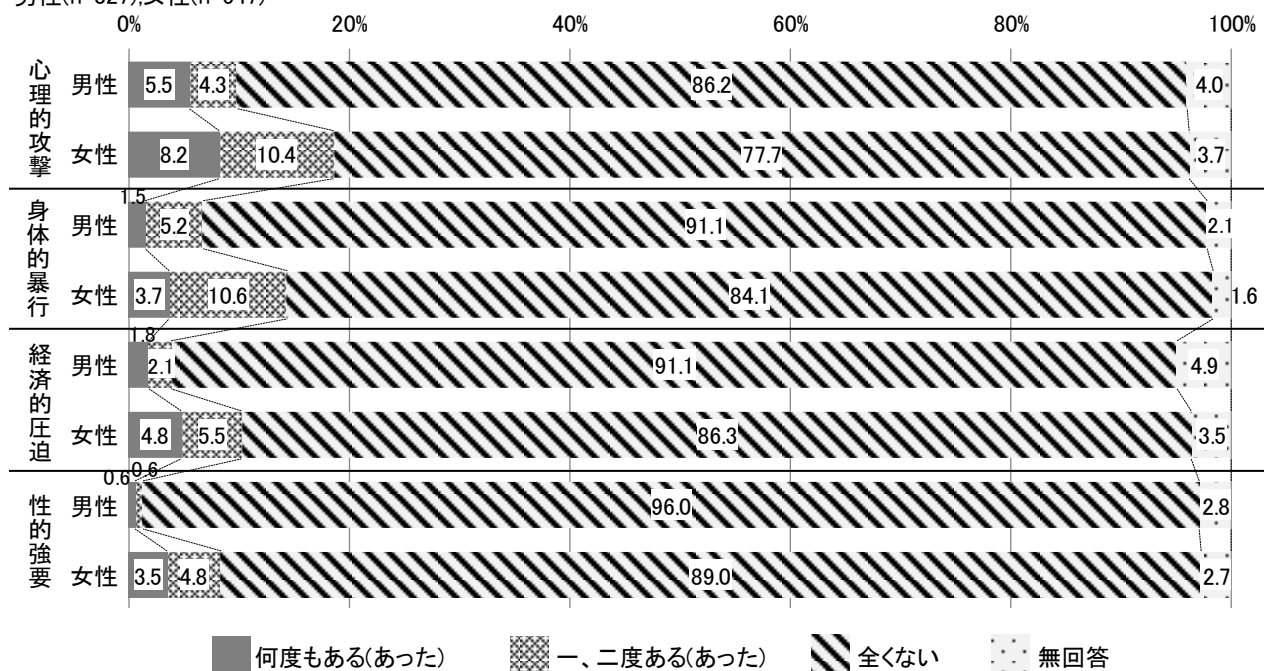


図 XⅢ－3 配偶者・パートナー、交際相手などから暴力等の行為を受けた経験（性別）

男性(n=327),女性(n=547)



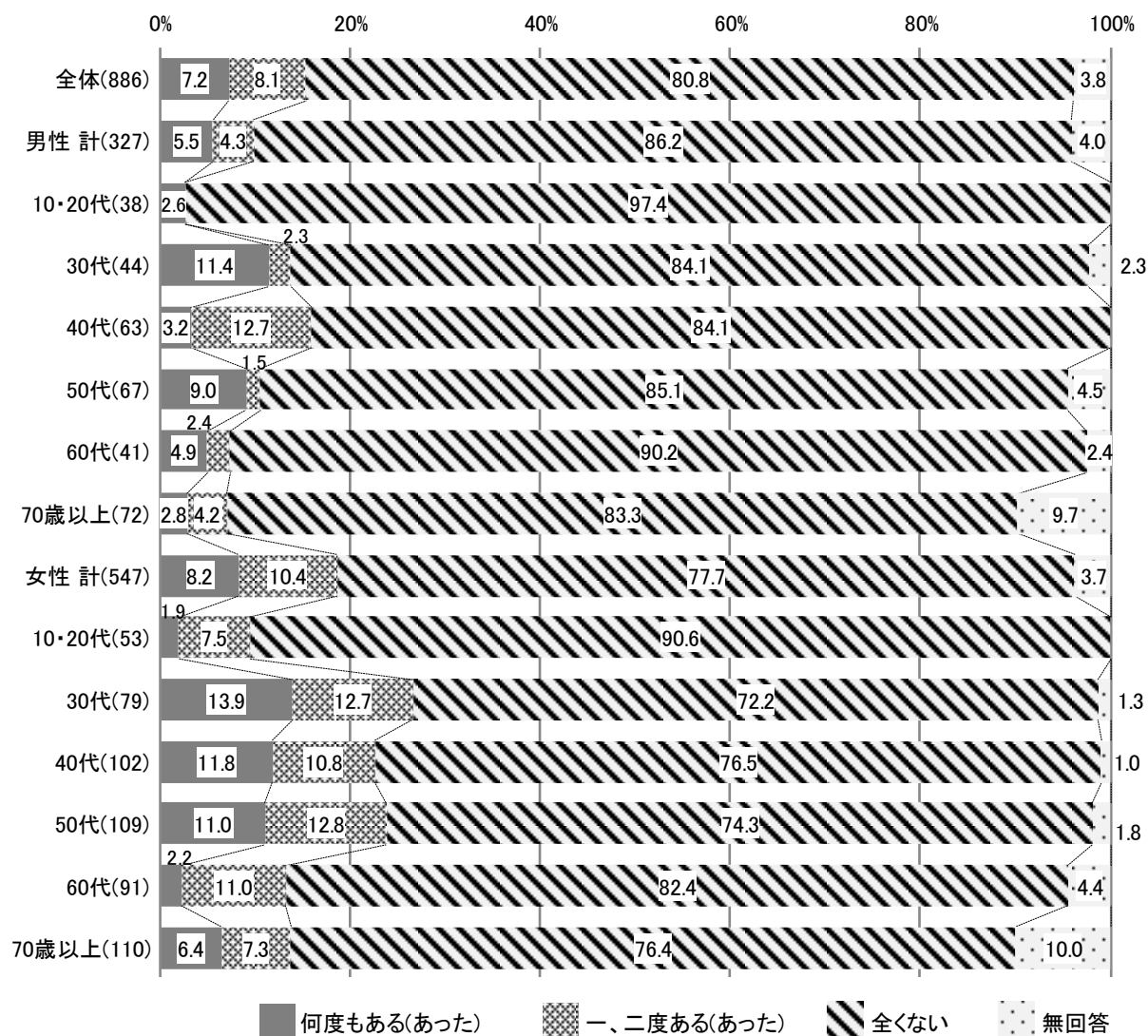
○ 性・年齢別の傾向

【心理的攻撃】

「何でもある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した心理的攻撃を受けたことがある人は、女性では、30代～50代で2割以上となっており、特に30代では4人に1人(26.6%)が受けたことがあると回答している。

男性では、30代～50代で1割以上となっており、40代では15.9%と高くなっている。

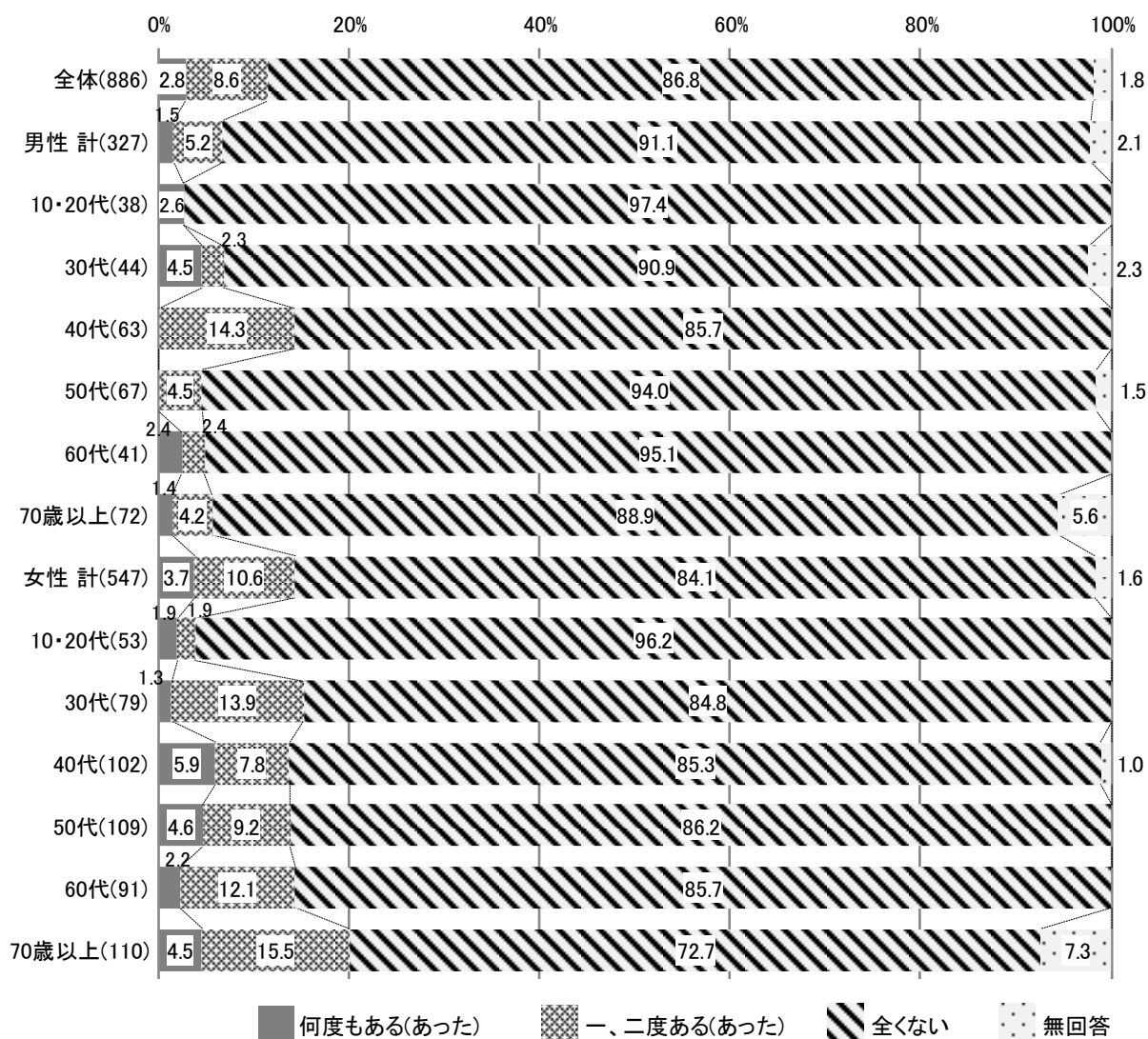
図ⅩⅢ－４ 心理的攻撃を受けた経験(性・年齢別)



【身体的暴行】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した身体的暴行を受けたことがある人は、女性では 70 歳以上で2割と高くなっている。また、男性では 40 代で 14.3%と高くなっている。

図ⅩⅢ－５ 身体的暴行を受けた経験（性・年齢別）

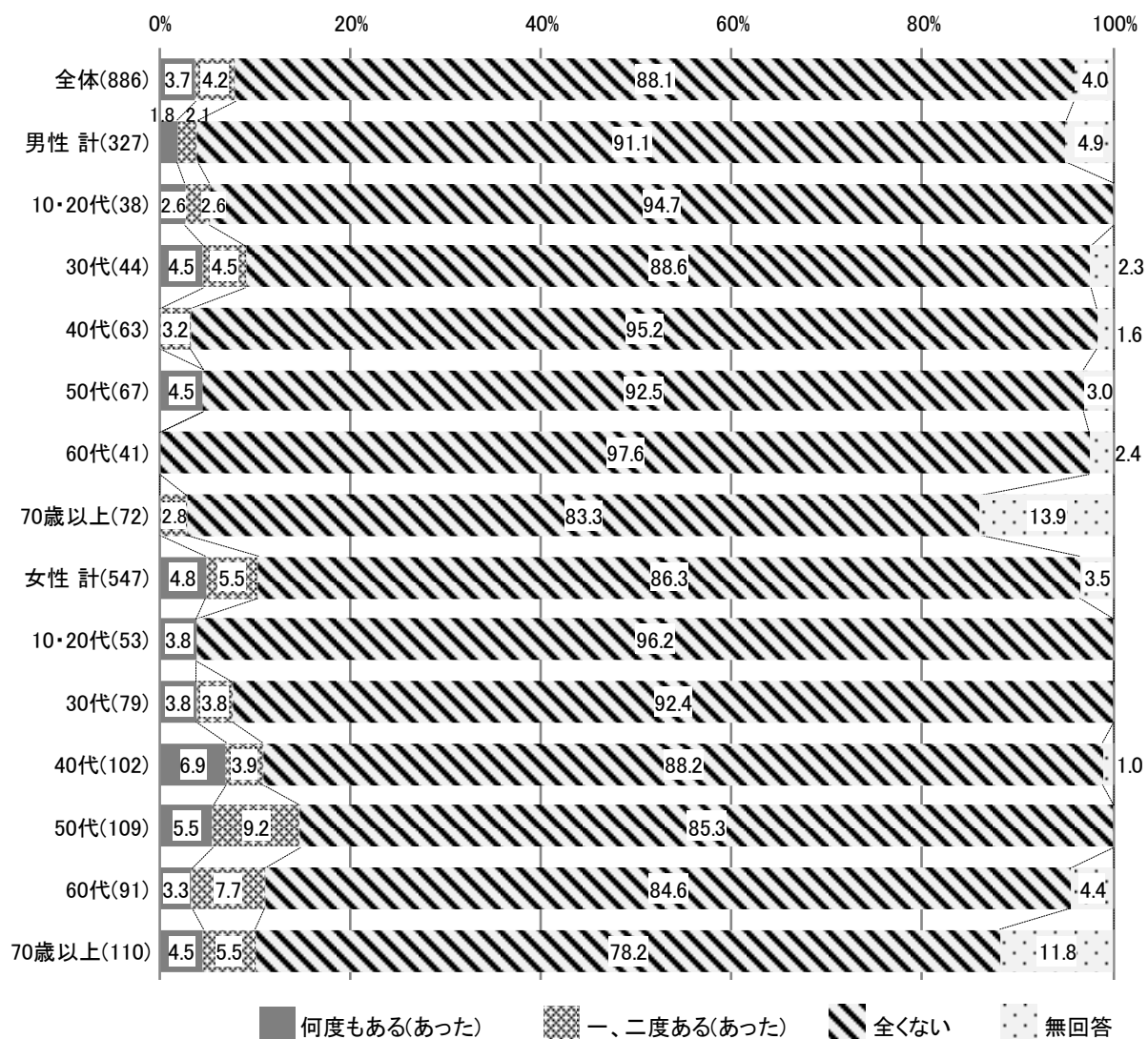


【経済的圧迫】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した経済的圧迫を受けたことがある人は、女性では、40 歳以上で1割以上となっており、特に 50 代で 14.7%と高くなっている。

男性では、30 代で 9.0%となっている。

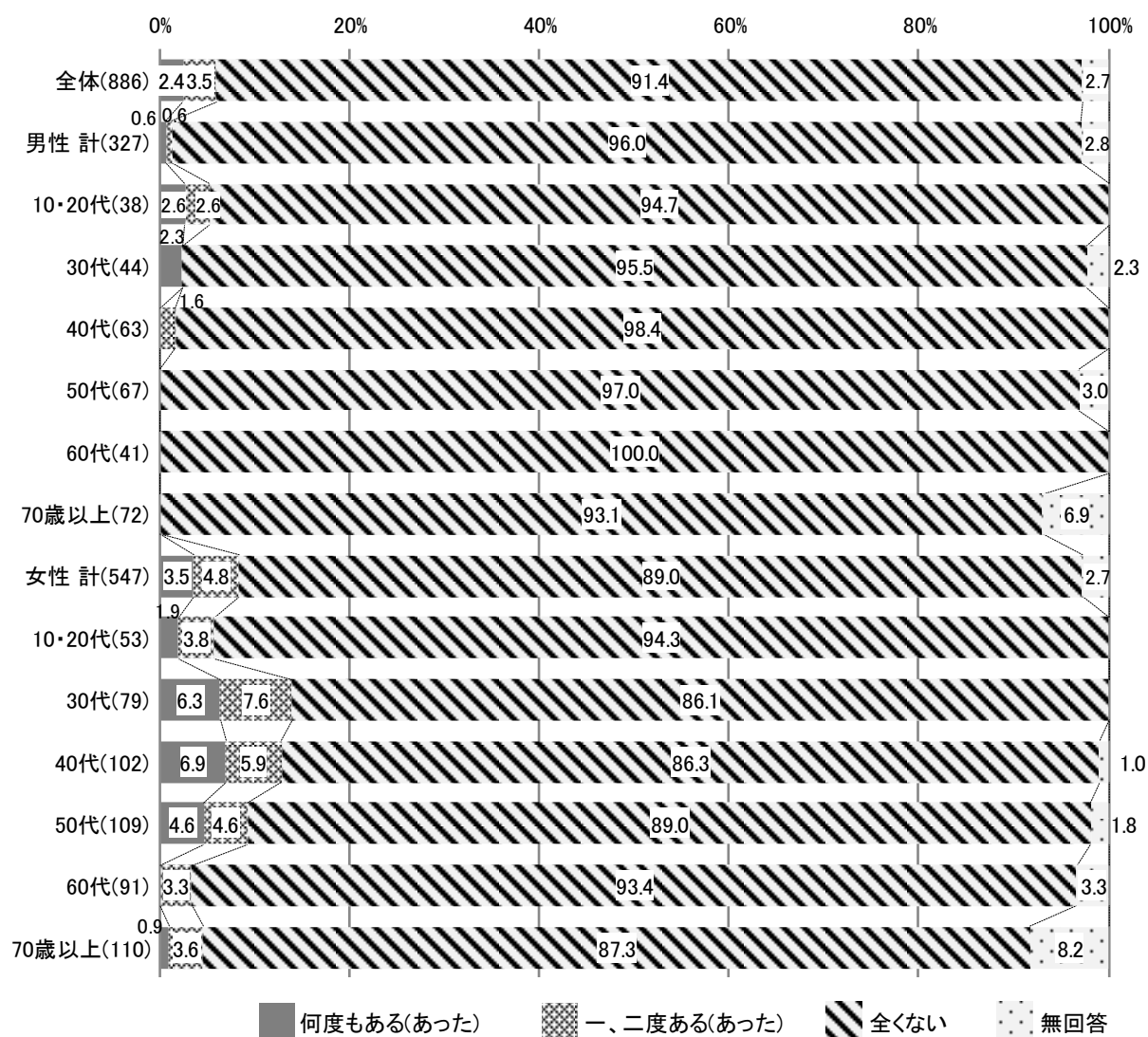
図ⅩⅢ－6 経済的圧迫を受けた経験（性・年齢別）



【性的強要】

「何でもある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した性的強要を受けたことがある人は、女性の30～40代で1割以上となっており、また、50代で9.2%となっている。

図XⅢ－7 性的強要を受けた経験(性・年齢別)



② 行為をした（加害）経験

○ 全体・性別の傾向

行為をしたことがあると回答した人は、心理的攻撃で 9.7%、身体的暴行で 7.3%、経済的圧迫で 2.0%、性的強要で 1.7%であり、性別による差は見られなかった。

図 XⅢ－8 配偶者・パートナー、交際相手などに暴力等の行為をした（加害）経験

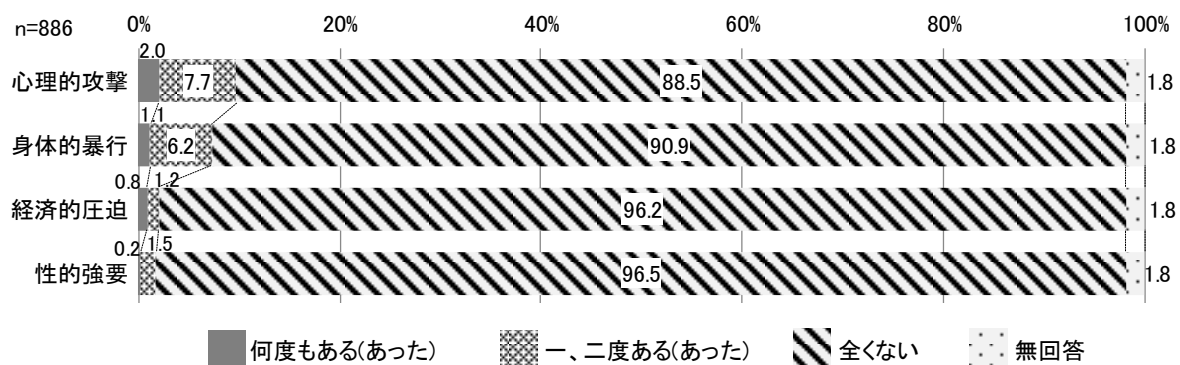
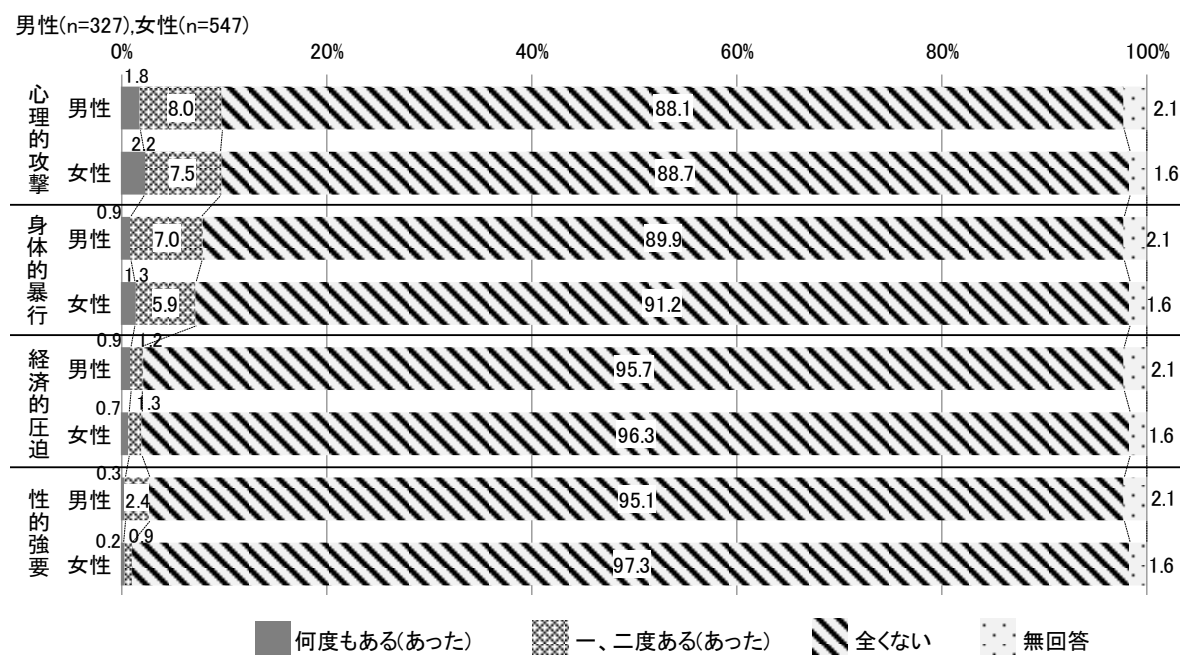


図 XⅢ－9 配偶者・パートナー、交際相手などに暴力等の行為をした(加害)経験(性別)

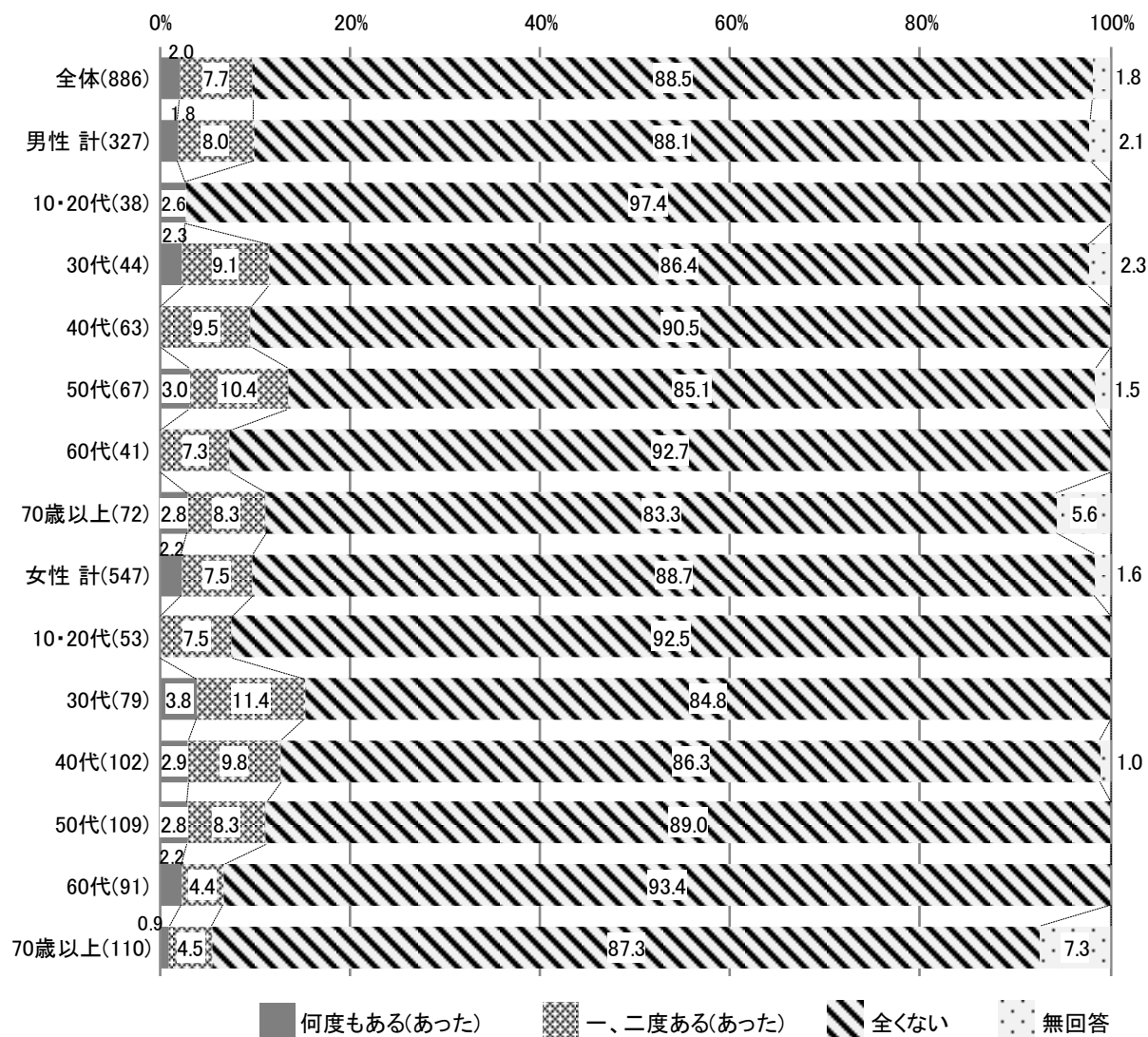


○ 性・年齢別の傾向

【心理的攻撃】

「何でもある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した心理的攻撃をしたことがある人は、男性の50代(13.4%)と女性の30代(15.2%)で高くなっている。

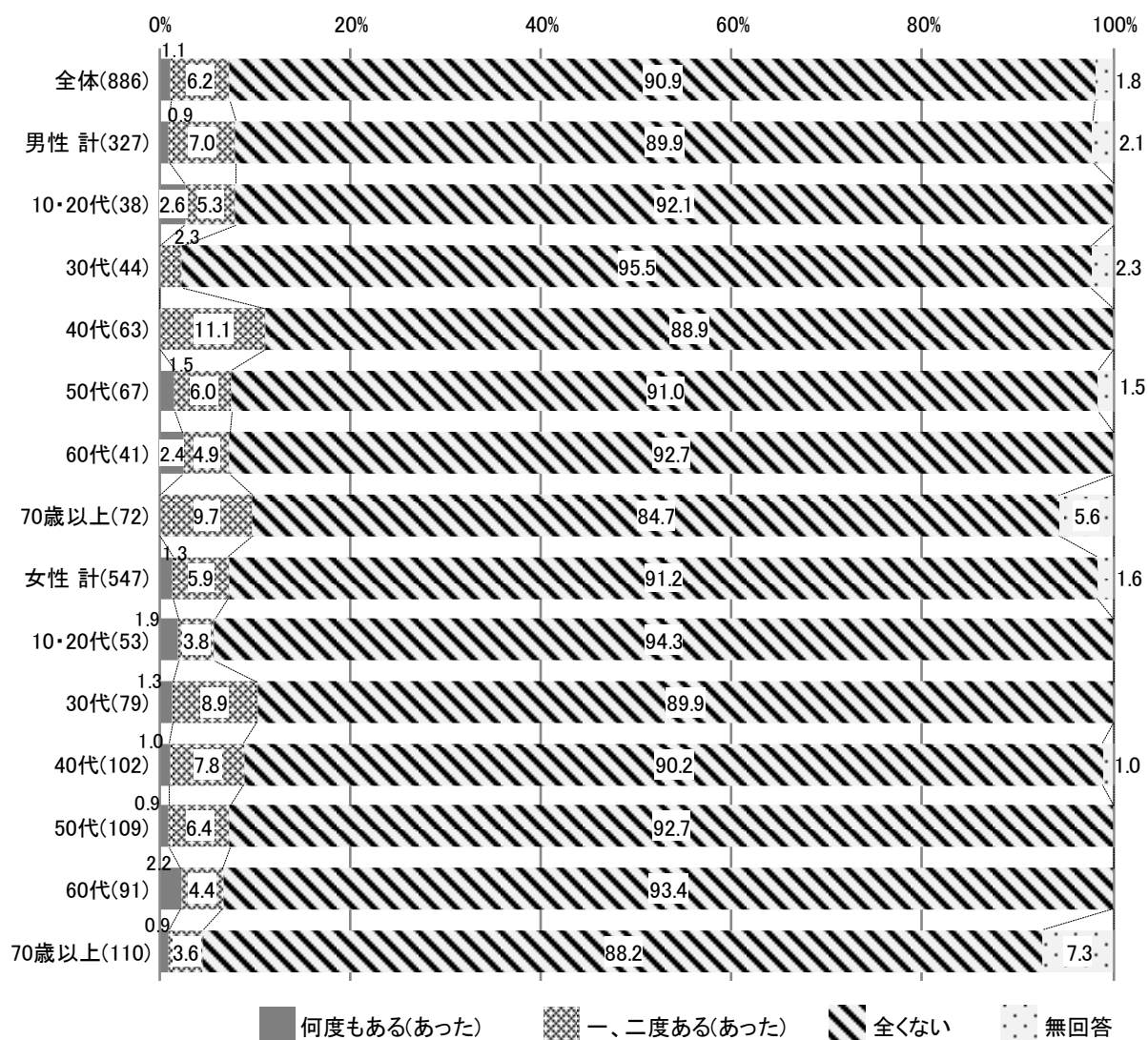
図XⅢ-10 心理的攻撃をした経験(性・年齢別)



【身体的暴行】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した身体的暴行をしたことがある人は、男性の40代(11.1%)と女性の30代(10.2%)で高くなっている。

図XⅢ－11 身体的暴行をした経験(性・年齢別)



問 32－1 暴力等を受けた際の相談先

【問 32①で「1. 何度もある(あった)」又は「2. 1、2度ある(あった)」に「○」をした方にお聞きします。】

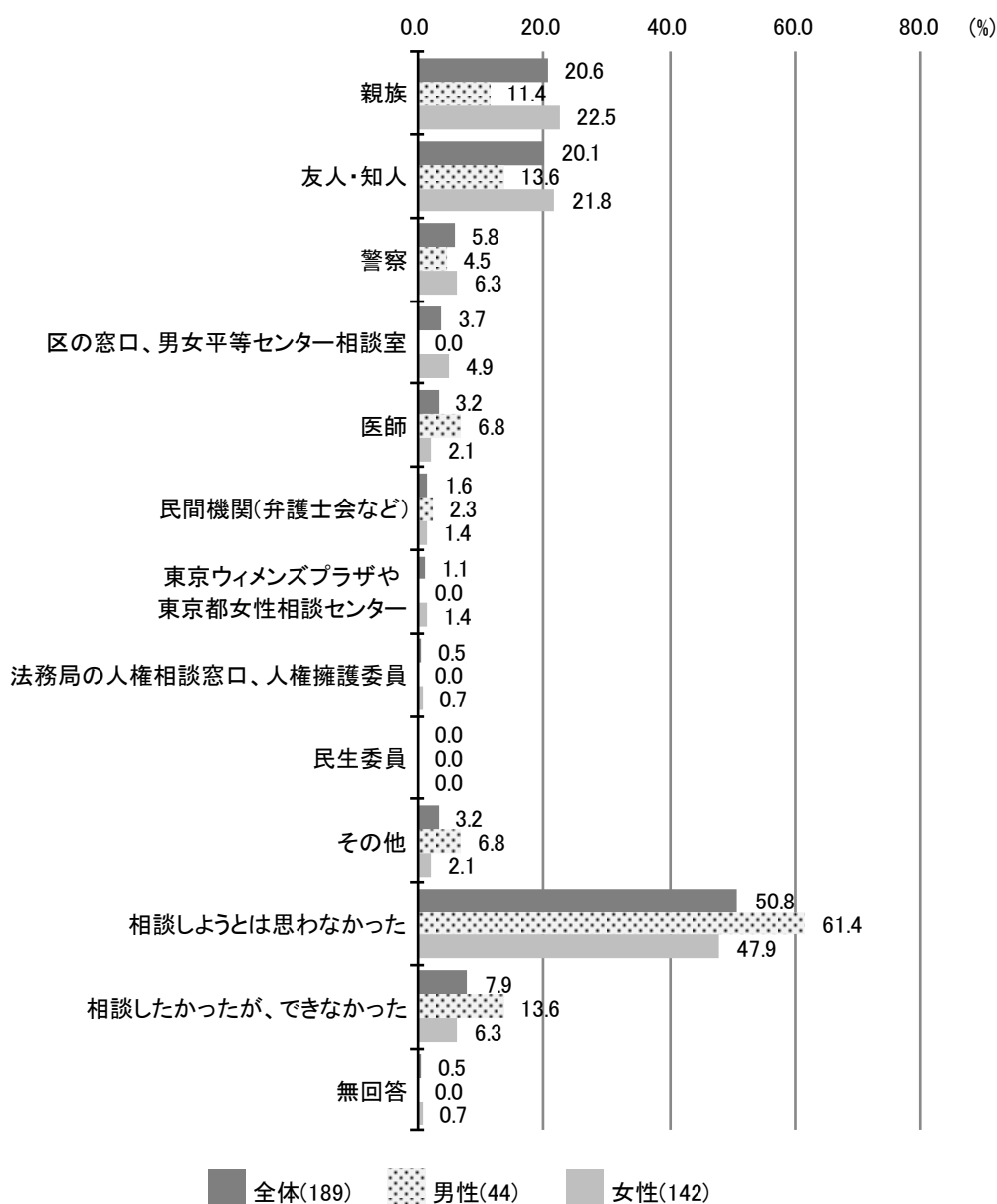
あなたが受けた暴力について、どなたかに相談しましたか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「相談しようとは思わなかった」が 50.8%となっており、特に、男性では 61.4%を占め、女性(47.9%)を大きく上回る。また、「相談したかったが、できなかった」という人は 7.9%である。

相談をした場合は、「親族」(20.6%)、「友人・知人」(20.1%)に相談をした人がそれぞれ2割となっている。

図XⅢ－12 暴力等を受けた際の相談先（性別）



○ 年齢別の傾向

「親族」に相談した人は、10～30代と60歳以上で2～3割となっており、40～50代では約15%とやや低くなっている。

表XⅢ－2 暴力等を受けた際の相談先（年齢別）

	全 体	親 族	友 人・ 知 人	警 察	区 の窓 口、 男女 平等 セン ター 相談 室	医 師	民 間 機 関 （弁 護 士 会 な ど）	東 京 ウ イ メ ン ズ プ ラ ザ ー 東 京 都 女 性 相 談 セ ン タ ー	法 務 局 の 人 権 擁 護 委 員 会 の 人 権 相 談 窓 口、 人 権 擁 護 委 員	民 生 委 員	そ の 他	相 談 し た か つ た が、 で き な か つ た	相 談 し よ う と は 思 わ な か つ た	無 回 答
全 体	189 100.0	39 20.6	38 20.1	11 5.8	7 3.7	6 3.2	3 1.6	2 1.1	1 0.5	－	6 3.2	15 7.9	96 50.8	1 0.5
10～30代	45 100.0	10 22.2	9 20.0	4 8.9	2 4.4	2 4.4	－ 0.0	－ 0.0	1 2.2	－ 0.0	1 2.2	4 8.9	24 53.3	－ 0.0
40代	42 100.0	6 14.3	10 23.8	2 4.8	2 4.8	1 2.4	－ －	1 2.4	－ －	－ －	－ －	3 7.1	22 52.4	－ －
50代	40 100.0	6 15.0	8 20.0	－ －	－ －	1 2.5	1 2.5	1 2.5	－ －	－ －	2 5.0	3 7.5	20 50.0	－ －
60代	25 100.0	7 28.0	6 24.0	3 12.0	1 4.0	1 4.0	2 8.0	－ －	－ －	－ －	1 4.0	1 4.0	13 52.0	－ －
70歳以上	36 100.0	9 25.0	5 13.9	2 5.6	2 5.6	1 2.8	－ －	－ －	－ －	－ －	2 5.6	4 11.1	17 47.2	1 2.8

問 32－1－1 相談しなかった理由

【問 32－1で「11. 相談したかったが、できなかった」又は「12. 相談しようとは思わなかった」に「○」をした方にお聞きます。】

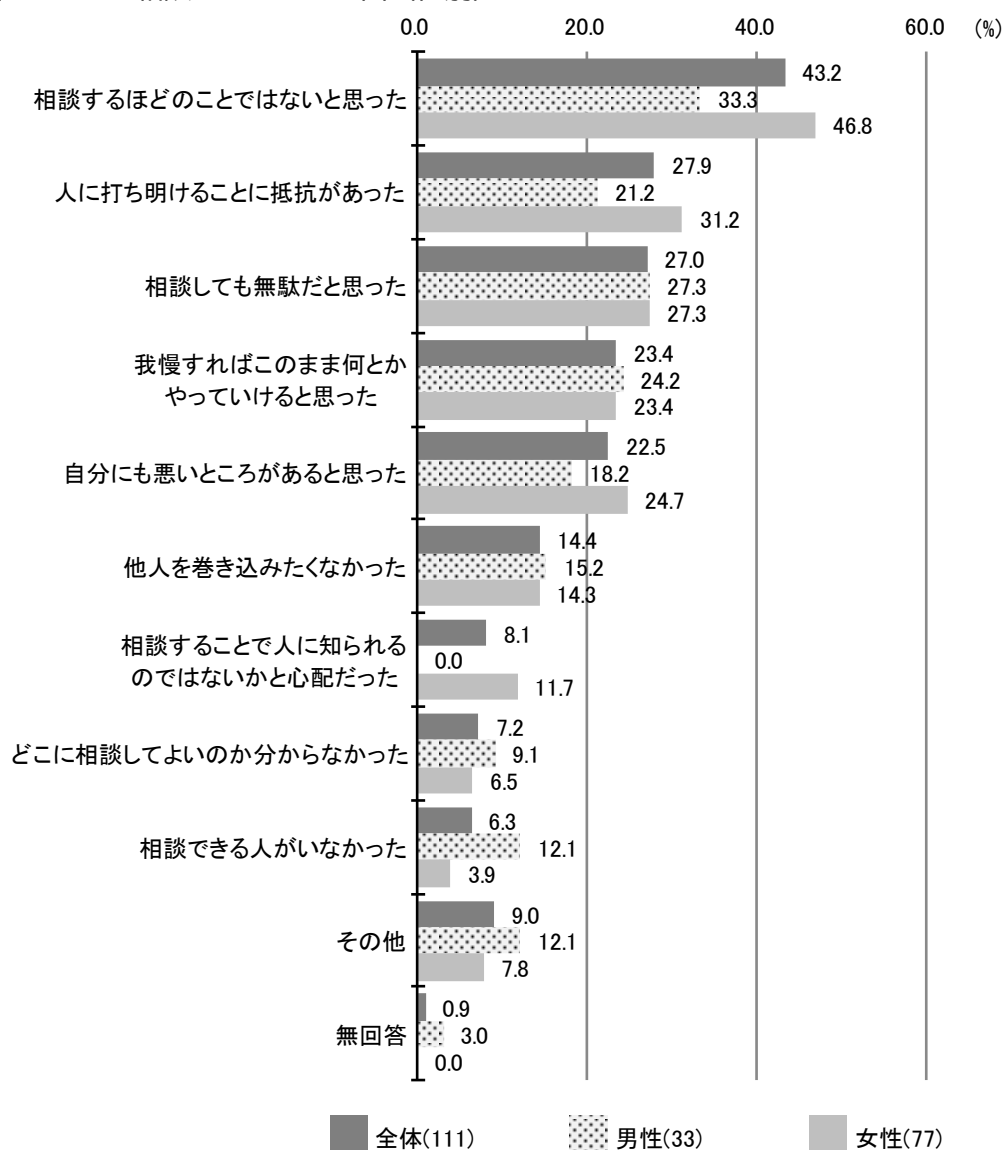
相談できなかった又は相談しなかったのはなぜですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「相談するほどのことではないと思った」が43.2%で最も多くなっている。次いで、「人に打ち明けることに抵抗があった」(27.9%)、「相談しても無駄だと思った」(27.0%)となっている。

性別で見ると、「相談するほどのことではないと思った」、「人に打ち明けることに抵抗があった」は、女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

図XⅢ－13 相談しなかった理由（性別）



○ 年齢別の傾向

「自分にも悪いところがあると思った」は、40代で44.0%となっており、他の世代を20ポイント以上上回っている。

表XⅢ－3 相談しなかった理由（年齢別）

	全 体	相 談 す る ほ ど の こ と で は な い と 思 っ た	人 に 打 ち 明 け る こ と に 抵 抗 が あ っ た	相 談 し て も 無 駄 だ と 思 っ た	我 慢 す れ ば こ の ま ま 何 と か や っ て い け る と 思 っ た	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と 思 っ た	他 人 を 巻 き 込 み た く な か つ た	相 談 す る こ と で 人 に 知 ら れ る の で は な い か と 心 配 だ つ た	ど こ に 相 談 し て よ い の か 分 か ら な か つ た	相 談 で き る 人 が い な か つ た	そ の 他	無 回 答
全 体	111 100.0	48 43.2	31 27.9	30 27.0	26 23.4	25 22.5	16 14.4	9 8.1	8 7.2	7 6.3	10 9.0	1 0.9
10～30代	28 100.0	13 46.4	11 39.3	6 21.4	8 28.6	6 21.4	4 14.3	1 3.6	2 7.1	－ －	5 17.9	－ －
40代	25 100.0	13 52.0	5 20.0	7 28.0	8 32.0	11 44.0	4 16.0	2 8.0	2 8.0	－ －	2 8.0	1 4.0
50代	23 100.0	9 39.1	8 34.8	8 34.8	4 17.4	1 4.3	3 13.0	4 17.4	2 8.7	3 13.0	2 8.7	－ －
60歳以上	35 100.0	13 37.1	7 20.0	9 25.7	6 17.1	7 20.0	5 14.3	2 5.7	2 5.7	4 11.4	1 2.9	－ －

問 33 DV相談の窓口などで配慮してほしいこと

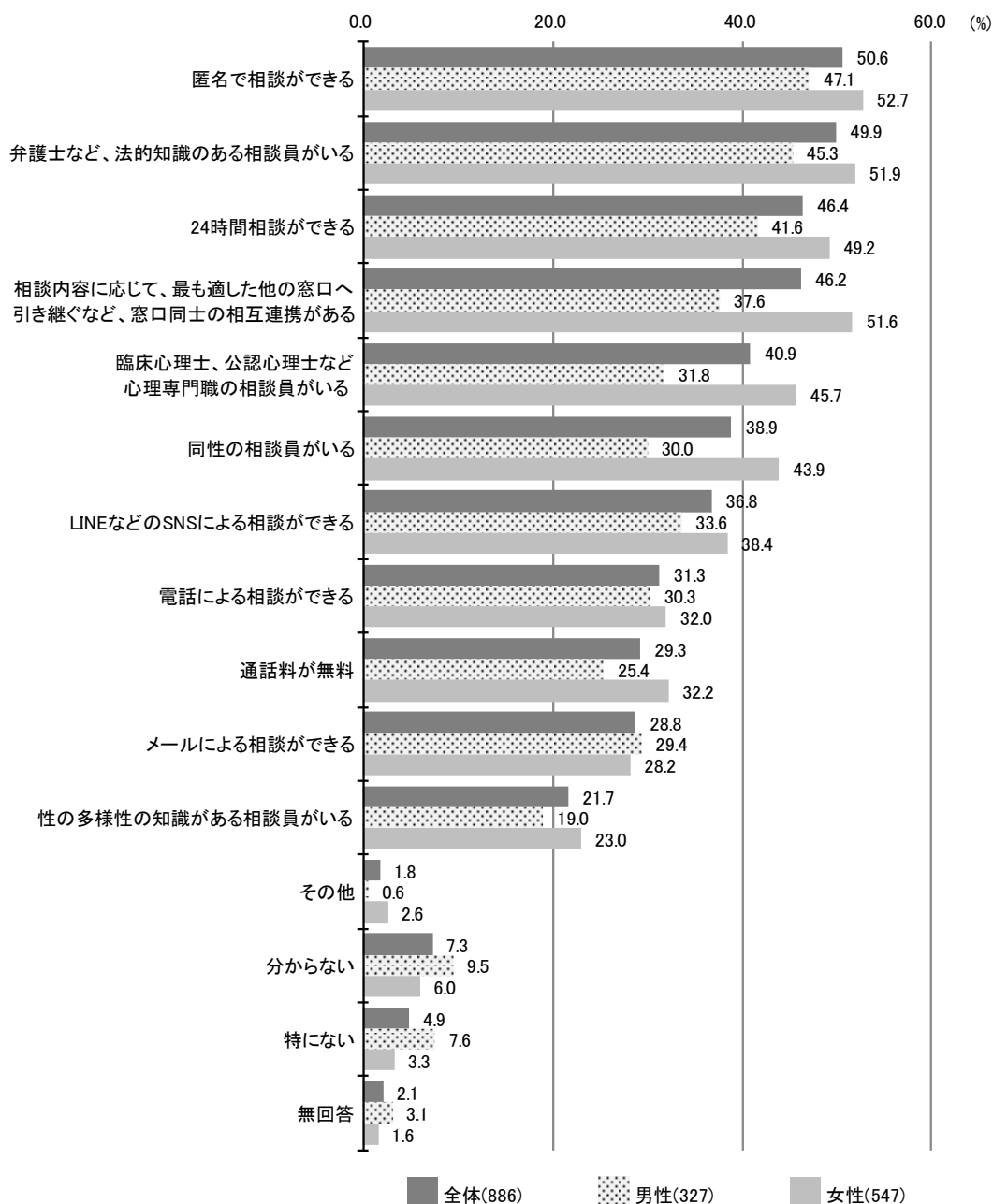
配偶者・パートナー又は交際相手からの暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。【〇はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「匿名で相談ができる」(50.6%)と「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(49.9%)を挙げた人が半数と多くっており、次いで、「24 時間相談ができる」(46.4%)、「相談内容に応じて、最も適した他の窓口へ引き継ぐなど、窓口同士の相互連携がある」(46.2%)となっている。

性別で見ると、「相談内容に応じて、最も適した他の窓口へ引き継ぐなど、窓口同士の相互連携がある」、「臨床心理士、公認心理士など心理専門職の相談員がいる」、「同性の相談員がいる」は女性の方が男性よりも約 14 ポイント高くなっている。

図 XⅢ－14 DV相談の窓口などで配慮してほしいこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

女性の10・20代では、「同性の相談員がいる」が77.4%と最も多くなっており、他の世代より30ポイント以上高くなっている。また、「24時間相談ができる」も71.7%と多く、他の世代を大きく上回っている。

「LINEなどのSNSによる相談ができる」は、概ね年齢が低くなるにつれ高くなる傾向にあり、男性の10・20代と女性の10～30代では約6割となっている。

表XⅢ－4 DV相談の窓口などで配慮してほしいこと（性・年齢別）

		匿名で相談ができる	弁護士など、法的知識のある相談員がいる	24時間相談ができる	他の窓口へ引き継ぐなど、窓口の連携がある	相談内容に応じて、最も適した相談員が対応できる	臨床心理士、公認心理士など、専門職の相談員がいる	同性の相談員がいる	LINEなどのSNSによる相談ができる	電話による相談ができる	通話料が無料	メールによる相談ができる	性の多様性の知識がある相談員がいる	その他	分からない	特になし	無回答
全 体		886 100.0	448 50.6	442 49.9	411 46.4	409 46.2	362 40.9	345 38.9	326 36.8	277 31.3	260 29.3	255 28.8	192 21.7	16 1.8	65 7.3	43 4.9	19 2.1
男 性	合 計	327 100.0	154 47.1	148 45.3	136 41.6	123 37.6	104 31.8	98 30.0	110 33.6	99 30.3	83 25.4	96 29.4	62 19.0	2 0.6	31 9.5	25 7.6	10 3.1
	10・20代	38 100.0	18 47.4	14 36.8	16 42.1	11 28.9	11 28.9	13 34.2	23 60.5	12 31.6	13 34.2	11 28.9	8 21.1	— —	5 13.2	2 5.3	— —
	30代	44 100.0	21 47.7	25 56.8	20 45.5	19 43.2	12 27.3	12 27.3	14 31.8	9 20.5	10 22.7	10 22.7	8 18.2	1 2.3	3 6.8	4 9.1	1 2.3
	40代	63 100.0	37 58.7	32 50.8	30 47.6	29 46.0	20 31.7	28 44.4	27 42.9	24 38.1	23 36.5	23 36.5	13 20.6	— —	5 7.9	2 3.2	2 3.2
	50代	67 100.0	35 52.2	37 55.2	30 44.8	30 44.8	27 40.3	25 37.3	28 41.8	24 35.8	20 29.9	29 43.3	20 29.9	1 1.5	5 7.5	5 7.5	1 1.5
	60代	41 100.0	13 31.7	18 43.9	17 41.5	12 29.3	11 26.8	11 26.8	10 24.4	10 24.4	6 14.6	11 26.8	7 17.1	— —	5 12.2	1 2.4	— —
	70歳以上	72 100.0	29 40.3	22 30.6	23 31.9	22 30.6	23 31.9	9 12.5	8 11.1	20 27.8	11 15.3	12 16.7	6 8.3	— —	8 11.1	10 13.9	6 8.3
	合 計	547 100.0	288 52.7	284 51.9	269 49.2	282 51.6	250 45.7	240 43.9	210 38.4	175 32.0	176 32.2	154 28.2	126 23.0	14 2.6	33 6.0	18 3.3	9 1.6
女 性	10・20代	53 100.0	35 66.0	35 66.0	38 71.7	29 54.7	28 52.8	41 77.4	32 60.4	19 35.8	23 43.4	13 24.5	21 39.6	1 1.9	1 1.9	1 1.9	— —
	30代	79 100.0	50 63.3	44 55.7	45 57.0	43 54.4	35 44.3	37 46.8	45 57.0	24 30.4	33 41.8	31 39.2	14 17.7	2 2.5	3 3.8	— —	— —
	40代	102 100.0	65 63.7	60 58.8	57 55.9	56 54.9	47 46.1	46 45.1	45 44.1	29 28.4	36 35.3	31 30.4	26 25.5	9 8.8	1 1.0	4 3.9	— —
	50代	109 100.0	63 57.8	59 54.1	55 50.5	58 53.2	51 46.8	49 45.0	42 38.5	40 36.7	40 36.7	37 33.9	25 22.9	1 0.9	9 8.3	2 1.8	1 0.9
	60代	91 100.0	46 50.5	44 48.4	40 44.0	50 54.9	48 52.7	38 41.8	34 37.4	33 36.3	29 31.9	27 29.7	21 23.1	— —	4 4.4	3 3.3	— —
	70歳以上	110 100.0	28 25.5	41 37.3	34 30.9	45 40.9	40 36.4	29 26.4	12 10.9	29 26.4	14 12.7	15 13.6	19 17.3	1 0.9	15 13.6	7 6.4	7 6.4

問 34 DVに対する対策や援助として特に充実すべきもの

あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手からの暴力防止及び被害者支援のためにどのようなことを充実すべきだと思いますか。【3つまで○】

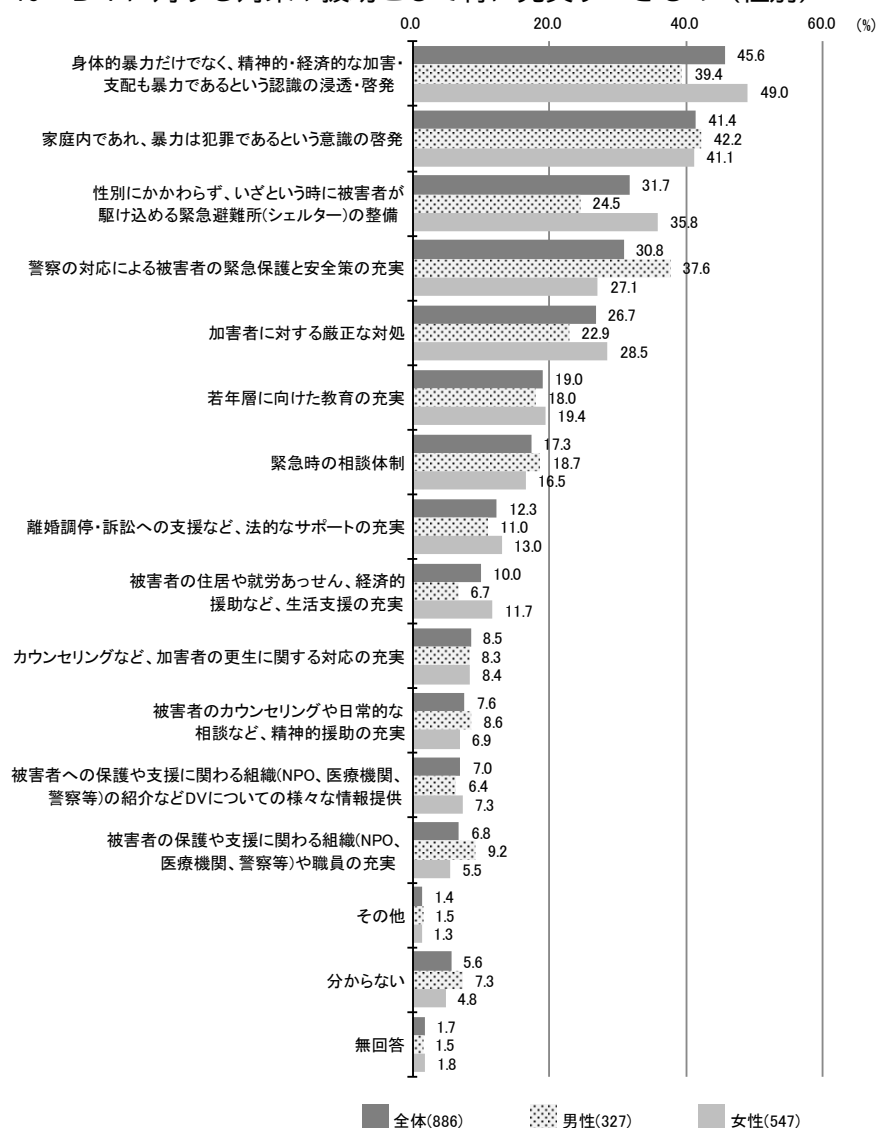
○ 全体・性別の傾向

「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」が45.6%で最も多い。次いで、「家庭内であれ、暴力は犯罪であるという意識の啓発」(41.4%)、「性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」(31.7%)、「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」(30.8%)、「加害者に対する厳正な対処」(26.7%)となっている。

性別で見ると、「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」は女性では49.0%であり、男性(39.4%)を9.6ポイント上回っている。また、「性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」も女性では35.8%で男性(24.5%)を11.3ポイント上回る。

「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」は男性で37.6%であり、女性(27.1%)を10.5ポイント上回っている。

図XⅢ-15 DVに対する対策や援助として特に充実すべきもの(性別)



○ 性・年齢別の傾向

「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」は、女性の60代で60.4%と高くなっている。

「家庭内であれ、暴力は犯罪であるという意識の啓発」は男性の10・20代で52.6%と高くなっている。

「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」は、男性の40代で49.2%と高くなっている。

「加害者に対する厳正な対処」は女性の10・20代で47.2%と高くなっている。

表ⅩⅢ－５ DVに対する対策や援助として特に充実すべきもの（性・年齢別）

		全 体	識 的 な 加 害 ・ 支 配 も 暴 力 で あ る と い う 認 識 の 浸 透 ・ 啓 発	身 体 的 暴 力 だ け で な く、 精 神 的 ・ 経 済 的	家 庭 内 で あ れ、 暴 力 は 犯 罪 で あ る と い う 意 識 の 啓 発	害 者 が 駆 け 込 め ら れ、 緊 急 避 難 所 （ シ ェ ル タ ー ） の 整 備	性 別 に か か わ ら ず、 い ざ と い う 時 に 被 害 者 が 緊 急 保 護 と 安 全 策 の 充 実	警 察 の 対 応 に よ る 被 害 者 の 緊 急 保 護 と 安 全 策 の 充 実	加 害 者 に 対 す る 厳 正 な 対 処	若 年 層 に 向 け た 教 育 の 充 実	緊 急 時 の 相 談 体 制	離 婚 調 停 ・ 訴 訟 へ の 支 援 な ど、 法 的 な サ ポ ー ト の 充 実	被 害 者 の 住 居 や 就 労 あ つ せ ん、 経 済 的 支 援 な ど、 生 活 支 援 の 充 実	関 連 す る 対 応 の 充 実	カ ウ ン セ リ ン グ な ど、 加 害 者 の 更 生 に 関 連 す る 対 応 の 充 実	被 害 者 の カ ウ ン セ リ ン グ や 日 常 的 な 相 談 な ど、 精 神 的 支 援 の 充 実	被 害 者 の 保 護 や 支 援 に 関 わ る 組 織 の 充 実 （ N P O 、 医 療 機 関 、 警 察 等 ） の 紹 介	被 害 者 の 保 護 や 支 援 に 関 わ る 組 織 の 充 実 （ N P O 、 医 療 機 関 、 警 察 等 ） や 職 員	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
全 体		886 100.0	404 45.6	367 41.4	281 31.7	273 30.8	237 26.7	168 19.0	153 17.3	109 12.3	89 10.0	75 8.5	67 7.6	62 7.0	60 6.8	12 1.4	50 5.6	15 1.7			
男 性	合 計	327 100.0	129 39.4	138 42.2	80 24.5	123 37.6	75 22.9	59 18.0	61 18.7	36 11.0	22 6.7	27 8.3	28 8.6	21 6.4	30 9.2	5 1.5	24 7.3	5 1.5			
	10・20代	38 100.0	13 34.2	20 52.6	6 15.8	12 31.6	8 21.1	7 18.4	7 18.4	5 13.2	1 2.6	3 7.9	2 5.3	4 10.5	2 5.3	1 2.6	5 13.2	—			
	30代	44 100.0	17 38.6	20 45.5	12 27.3	15 34.1	10 22.7	11 25.0	7 15.9	10 22.7	1 2.3	4 9.1	2 4.5	2 4.5	2 4.5	1 2.3	1 2.3	1 2.3			
	40代	63 100.0	23 36.5	21 33.3	15 23.8	31 49.2	19 30.2	9 14.3	7 11.1	8 12.7	5 7.9	7 11.1	4 6.3	2 3.2	6 9.5	2 3.2	2 3.2	1 1.6			
	50代	67 100.0	25 37.3	31 46.3	19 28.4	27 40.3	16 23.9	16 23.9	13 19.4	7 10.4	5 7.5	7 10.4	8 11.9	4 6.0	5 7.5	—	4 6.0	—			
	60代	41 100.0	19 46.3	19 46.3	9 22.0	14 34.1	10 24.4	8 19.5	10 24.4	4 9.8	6 14.6	4 9.8	7 17.1	1 2.4	6 14.6	1 2.4	2 4.9	—			
	70歳以上	72 100.0	32 44.4	26 36.1	19 26.4	24 33.3	12 16.7	8 11.1	15 20.8	2 2.8	4 5.6	2 2.8	5 6.9	7 9.7	8 11.1	—	10 13.9	3 4.2			
	女 性	合 計	547 100.0	268 49.0	225 41.1	196 35.8	148 27.1	156 28.5	106 19.4	90 16.5	71 13.0	64 11.7	46 8.4	38 6.9	40 7.3	30 5.5	7 1.3	26 4.8	10 1.8		
10・20代		53 100.0	25 47.2	18 34.0	17 32.1	22 41.5	25 47.2	2 3.8	5 9.4	13 24.5	4 7.5	1 1.9	3 5.7	8 15.1	—	2 3.8	1 1.9	—			
30代		79 100.0	37 46.8	26 32.9	29 36.7	27 34.2	26 32.9	16 20.3	8 10.1	16 20.3	14 17.7	7 8.9	2 2.5	4 5.1	6 7.6	—	3 3.8	—			
40代		102 100.0	47 46.1	44 43.1	35 34.3	28 27.5	26 25.5	29 28.4	13 12.7	19 18.6	15 14.7	9 8.8	10 9.8	3 2.9	3 2.9	4 3.9	3 2.9	—			
50代		109 100.0	51 46.8	45 41.3	41 37.6	29 26.6	33 30.3	23 21.1	25 22.9	10 9.2	10 9.2	16 14.7	9 8.3	9 8.3	8 7.3	1 0.9	4 3.7	1 0.9			
60代		91 100.0	55 60.4	43 47.3	37 40.7	28 30.8	25 27.5	20 22.0	21 23.1	8 8.8	13 14.3	6 6.6	6 6.6	8 8.8	5 5.5	—	4 4.4	—			
70歳以上		110 100.0	52 47.3	48 43.6	36 32.7	14 12.7	21 19.1	16 14.5	18 16.4	5 4.5	8 7.3	7 6.4	8 7.3	7 6.4	8 7.3	—	11 10.0	8 7.3			

XIV. 生活の悩みや困りごとの相談窓口やサービスについて

問 35 生活の悩みや困りごと

現在、生活での悩みや困りごとなどがありますか。当てはまるもの全てに「○」をしてください。

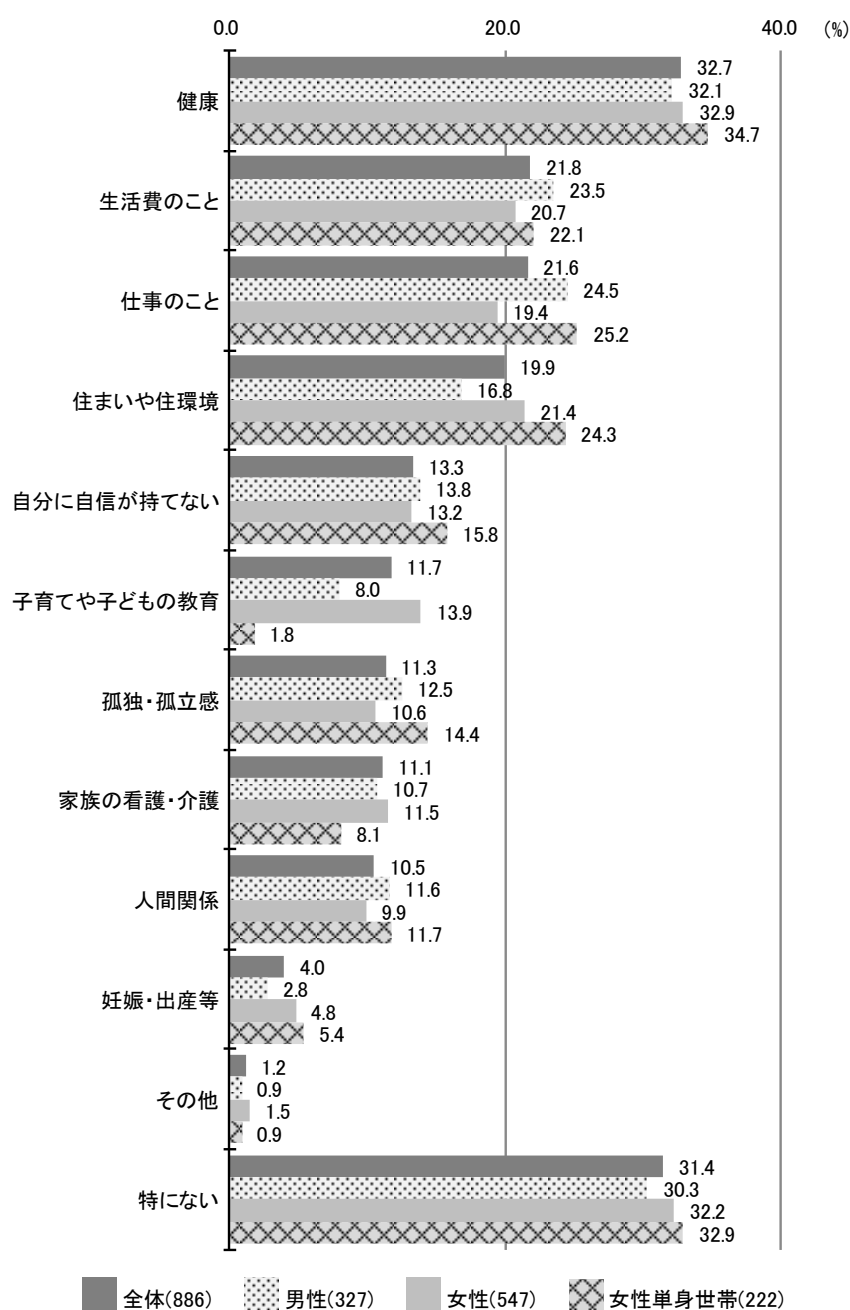
○ 全体・性別の傾向

「健康」が32.7%で最も多く、そのほか、「生活費のこと」(21.8%)、「仕事のこと」(21.6%)、「住まいや住環境」(19.9%)となっている。男性・女性での差は、ほとんどない。

また、「特にない」(31.4%)となっている。

なお、女性単身世帯では、「健康」(34.7%)、「仕事のこと」(25.2%)、「住まいや住環境」(24.3%)を挙げている。

図 XIV-1 生活の悩みや困りごと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「生活費のこと」は、男性の40代未満と女性の10・20代で30%以上と高くなっている。

「仕事のこと」は、男性の30～50代と女性の30代、50代で30%以上と高くなっている。

「住まいや住環境」は、男性の30代で34.1%と高くなっている。

「自分に自信が持てない」は、年齢が低いほど高くなっており、男性の50歳未満で20%以上であり、10・20代では26.3%となっている。また、女性の10・20代では22.6%となっている。

「子育てや子どもの教育」は女性の30～40代で30%以上となっている。

「孤立・孤独感」は、男性12.5%、女性10.6%で女性単身世帯で14.4%となっている。

「家族の看護・介護」は男性の60代で29.3%と高くなっている。

「人間関係」は、男性の30代(22.7%)と女性の10・20代(22.6%)で高くなっている。

表 XIV-1 生活の悩みや困りごと（性・年齢別）

		全 体	健康	生活費のこと	仕事のこと	住まいや住環境	自分に自信が持てない	子育てや子どもの教育	孤独・孤立感	家族の看護・介護	人間関係	妊娠・出産等	その他	特 に ない	無 回 答
全 体		886 100.0	290 32.7	193 21.8	191 21.6	176 19.9	118 13.3	104 11.7	100 11.3	98 11.1	93 10.5	35 4.0	11 1.2	278 31.4	10 1.1
男 性	合 計	327 100.0	105 32.1	77 23.5	80 24.5	55 16.8	45 13.8	26 8.0	41 12.5	35 10.7	38 11.6	9 2.8	3 0.9	99 30.3	4 1.2
	10・20代	38 100.0	3 7.9	15 39.5	8 21.1	6 15.8	10 26.3	2 5.3	8 21.1	1 2.6	4 10.5	3 7.9	－ －	9 23.7	－ －
	30代	44 100.0	16 36.4	14 31.8	16 36.4	15 34.1	11 25.0	6 13.6	7 15.9	4 9.1	10 22.7	4 9.1	－ －	10 22.7	－ －
	40代	63 100.0	17 27.0	13 20.6	21 33.3	13 20.6	13 20.6	12 19.0	7 11.1	4 6.3	6 9.5	2 3.2	1 1.6	16 25.4	－ －
	50代	67 100.0	28 41.8	15 22.4	24 35.8	6 9.0	8 11.9	4 6.0	12 17.9	11 16.4	10 14.9	－ －	2 3.0	19 28.4	－ －
	60代	41 100.0	15 36.6	8 19.5	6 14.6	6 14.6	1 2.4	1 2.4	3 7.3	12 29.3	4 9.8	－ －	－ －	11 26.8	－ －
	70歳以上	72 100.0	25 34.7	12 16.7	5 6.9	9 12.5	2 2.8	1 1.4	4 5.6	2 2.8	4 5.6	－ －	－ －	34 47.2	3 4.2
女 性	合 計	547 100.0	180 32.9	113 20.7	106 19.4	117 21.4	72 13.2	76 13.9	58 10.6	63 11.5	54 9.9	26 4.8	8 1.5	176 32.2	6 1.1
	10・20代	53 100.0	11 20.8	17 32.1	14 26.4	5 9.4	12 22.6	4 7.5	6 11.3	3 5.7	12 22.6	8 15.1	1 1.9	16 30.2	－ －
	30代	79 100.0	17 21.5	19 24.1	26 32.9	19 24.1	15 19.0	24 30.4	11 13.9	7 8.9	6 7.6	15 19.0	－ －	13 16.5	1 1.3
	40代	102 100.0	35 34.3	26 25.5	19 18.6	24 23.5	15 14.7	34 33.3	13 12.7	9 8.8	10 9.8	3 2.9	5 4.9	26 25.5	－ －
	50代	109 100.0	40 36.7	29 26.6	34 31.2	30 27.5	13 11.9	10 9.2	12 11.0	19 17.4	13 11.9	－ －	－ －	36 33.0	－ －
	60代	91 100.0	32 35.2	11 12.1	9 9.9	21 23.1	8 8.8	2 2.2	8 8.8	14 15.4	10 11.0	－ －	2 2.2	36 39.6	1 1.1
	70歳以上	110 100.0	43 39.1	10 9.1	3 2.7	17 15.5	8 7.3	2 1.8	7 6.4	10 9.1	2 1.8	－ －	－ －	48 43.6	4 3.6

表 XIV－2 生活の悩みや困りごと（女性単身世帯、年齢別）

	全 体	健康	生活 費の こと	仕事 のこと	住 まい や 住 環 境	自 分 に 自 信 が 持 て な い	子 育 て や 子 ど も の 教 育	孤 独 ・ 孤 立 感	家 族 の 看 護 ・ 介 護	人 間 関 係	妊 娠 ・ 出 産 等	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	886 100.0	290 32.7	193 21.8	191 21.6	176 19.9	118 13.3	104 11.7	100 11.3	98 11.1	93 10.5	35 4.0	11 1.2	278 31.4	10 1.1
女性単身 世帯合計	222 100.0	77 34.7	49 22.1	56 25.2	54 24.3	35 15.8	4 1.8	32 14.4	18 8.1	26 11.7	12 5.4	2 0.9	73 32.9	2 0.9
10・20代	32 100.0	8 25.0	10 31.3	7 21.9	3 9.4	8 25.0	2 6.3	6 18.8	1 3.1	8 25.0	5 15.6	－ －	9 28.1	－ －
30代	25 100.0	6 24.0	7 28.0	12 48.0	6 24.0	4 16.0	1 4.0	5 20.0	4 16.0	2 8.0	7 28.0	－ －	5 20.0	－ －
40代	34 100.0	13 38.2	8 23.5	8 23.5	7 20.6	6 17.6	－ －	5 14.7	4 11.8	3 8.8	－ －	1 2.9	10 29.4	－ －
50代	45 100.0	18 40.0	15 33.3	21 46.7	17 37.8	9 20.0	－ －	8 17.8	6 13.3	7 15.6	－ －	－ －	11 24.4	－ －
60代	34 100.0	14 41.2	7 20.6	6 17.6	10 29.4	4 11.8	－ －	3 8.8	2 5.9	5 14.7	－ －	1 2.9	14 41.2	－ －
70歳以上	50 100.0	17 34.0	2 4.0	2 4.0	10 20.0	4 8.0	1 2.0	5 10.0	1 2.0	1 2.0	－ －	－ －	23 46.0	2 4.0

【参考】

表 XIV－3 生活の悩みや困りごと（母子世帯）

全 体	健康	生活 費の こと	仕事 のこと	住 まい や 住 環 境	自 分 に 自 信 が 持 て な い	子 育 て や 子 ど も の 教 育	孤 独 ・ 孤 立 感	家 族 の 看 護 ・ 介 護	人 間 関 係	妊 娠 ・ 出 産 等	そ の 他	特 に な い
12 100.0	2 16.7	4 33.3	4 33.3	4 33.3	1 8.3	3 25.0	－ －	－ －	1 8.3	－ －	1 8.3	5 41.7

問 36 悩みや困りごとの相談先

過去1年間に誰(どこ)かに悩みや困りごとを相談したことがありますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

悩みや困りごとがあった場合は、「友人・知人」に相談したという人が29.8%で最も多く、次いで、「配偶者・パートナー等」が25.7%、「親」が18.3%、「きょうだい・親族」が16.7%と続いている。

また、行政機関窓口その他の専門機関等は3%未満にとどまる。

一方、「相談しなかった(できなかった)」という人は12.6%となっている。

性別で見ると、女性は「友人・知人」に相談した人が35.3%と最も多く、男性(20.2%)より15.1ポイント高い。また、「親」や「きょうだい・親族」に相談した人も2割と男性よりも高くなっている。

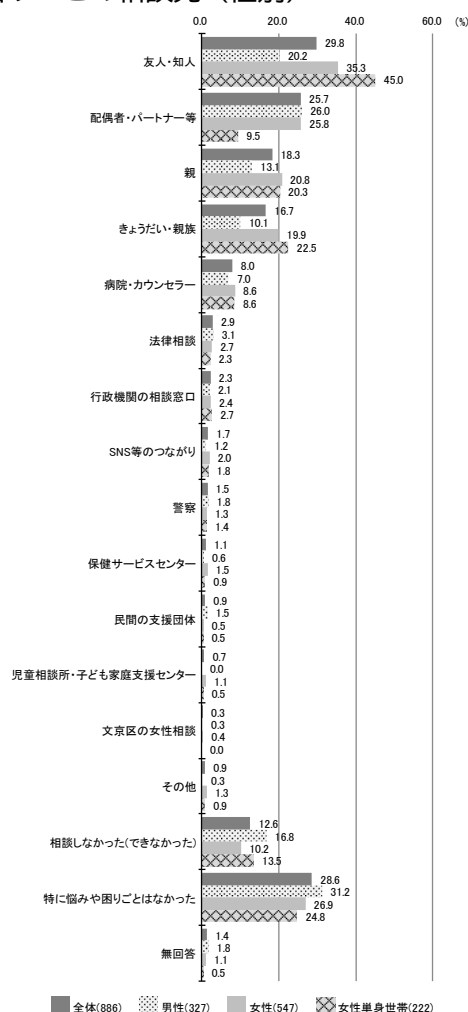
男性は、「配偶者・パートナー等」に相談した人が26.0%で最も多い。

また、「相談しなかった(できなかった)」という人は、男性で16.8%、女性(10.2%)、女性単身世帯13.5%となっている。

「特に悩みや困りごとはなかった」という人が28.6%となっている。

なお、女性単身世帯では、「友人・知人」に相談したという人が半数近い45.0%で、女性全体より10ポイント程度高くなっている。

図 XIV-2 悩みや困りごとの相談先(性別)



○ 性・年齢別の傾向

「友人・知人」は、男性の 40 歳未満、女性の 60 代未満で高くなっており、特に女性の 10・20 代では 60.4%と他の世代を大きく上回っている。

「配偶者・パートナー等」は、男女共に 30～40 代で40%前後と高くなっている。

「親」は男女共に 10・20 代(男性 39.5%、女性 49.1%)で高くなっている

「特に悩みや困りごとはなかった」という人は、男性では 70 歳以上(52.8%)、50 代(38.8%)で高く、女性・女性単身世帯とも 60 歳以上で40%と高くなっている。

表 XIV－4 悩みや困りごとの相談先（性・年齢別）

		全 体	友 人・ 知 人	配 偶 者・ パ ー ト ナ ー 等	親	き よ う だ い・ 親 族	病 院・ カ ウ ン セ ラ ー	法 律 相 談	行 政 機 関 の 相 談 窓 口	S N S 等 の つ な が り	警 察	保 健 サ ー ビ ス セ ン タ ー	民 間 の 支 援 団 体	庭 支 援 セ ン タ ー	児 童 相 談 所・ 子 ど も 家	文 京 区 の 女 性 相 談	そ の 他	な か っ た （ で き な か っ た ）	特 に 悩 み や 困 り ご と は な か っ た	無 回 答
全 体		886 100.0	264 29.8	228 25.7	162 18.3	148 16.7	71 8.0	26 2.9	20 2.3	15 1.7	13 1.5	10 1.1	8 0.9	6 0.7	3 0.3	8 0.9	112 12.6	253 28.6	12 1.4	
男 性	合 計	327 100.0	66 20.2	85 26.0	43 13.1	33 10.1	23 7.0	10 3.1	7 2.1	4 1.2	6 1.8	2 0.6	5 1.5	－ －	1 0.3	1 0.3	55 16.8	102 31.2	6 1.8	
	10・20代	38 100.0	13 34.2	11 28.9	15 39.5	6 15.8	3 7.9	－ －	－ －	1 2.6	－ －	－ －	1 2.6	－ －	－ －	－ －	8 21.1	6 15.8	－	
	30代	44 100.0	16 36.4	19 43.2	9 20.5	5 11.4	2 4.5	－ －	－ －	1 2.3	－ －	－ －	2 4.5	－ －	－ －	－ －	8 18.2	6 13.6	－	
	40代	63 100.0	13 20.6	23 36.5	8 12.7	5 7.9	2 3.2	4 6.3	1 1.6	2 3.2	1 1.6	－ －	1 1.6	－ －	1 1.6	－ －	10 15.9	14 22.2	－	
	50代	67 100.0	8 11.9	14 20.9	8 11.9	5 7.5	7 10.4	2 3.0	3 4.5	－ －	1 1.5	－ －	－ －	－ －	－ －	1 1.5	14 20.9	26 38.8	1 1.5	
	60代	41 100.0	6 14.6	9 22.0	2 4.9	7 17.1	4 9.8	1 2.4	－ －	－ －	2 4.9	1 2.4	1 2.4	－ －	－ －	－ －	9 22.0	12 29.3	1 2.4	
	70歳以上	72 100.0	9 12.5	8 11.1	1 1.4	4 5.6	4 5.6	3 4.2	3 4.2	－ －	1 1.4	1 1.4	－ －	－ －	－ －	－ －	6 8.3	38 52.8	4 5.6	
	女 性	合 計	547 100.0	193 35.3	141 25.8	114 20.8	109 19.9	47 8.6	15 2.7	13 2.4	11 2.0	7 1.3	8 1.5	3 0.5	6 1.1	2 0.4	7 1.3	56 10.2	147 26.9	6 1.1
10・20代		53 100.0	32 60.4	13 24.5	26 49.1	14 26.4	1 1.9	－ －	－ －	3 5.7	－ －	1 1.9	－ －	－ －	1 1.9	1 1.9	4 7.5	9 17.0	－	
30代		79 100.0	30 38.0	36 45.6	27 34.2	13 16.5	6 7.6	1 1.3	1 1.3	3 3.8	2 2.5	4 5.1	－ －	2 2.5	1 1.3	－ －	10 12.7	12 15.2	－	
40代		102 100.0	37 36.3	42 41.2	33 32.4	23 22.5	14 13.7	2 2.0	1 1.0	3 2.9	1 1.0	2 2.0	2 2.0	3 2.9	－ －	3 2.9	13 12.7	14 13.7	－	
50代		109 100.0	46 42.2	28 25.7	24 22.0	21 19.3	8 7.3	4 3.7	4 3.7	2 1.8	1 0.9	－ －	－ －	－ －	－ －	1 0.9	14 12.8	26 23.9	－	
60代		91 100.0	26 28.6	15 16.5	3 3.3	14 15.4	9 9.9	4 4.4	2 2.2	－ －	－ －	－ －	－ －	1 1.1	－ －	2 2.2	7 7.7	38 41.8	1 1.1	
70歳以上		110 100.0	21 19.1	6 5.5	－ －	23 20.9	9 8.2	4 3.6	5 4.5	－ －	3 2.7	1 0.9	1 0.9	－ －	－ －	－ －	8 7.3	47 42.7	5 4.5	

表 XIV-5 悩みや困りごとの相談先（女性単身世帯、年齢別）

	全 体	友人・知 人	配偶者・パ ートナー等	親	き ょう だ い・ 親 族	病 院・ カ ウ ン セ ラー	法 律 相 談	行 政 機 関 の 相 談 窓 口	S N S 等 の つ な が り	警 察	保 健 サ ー ビ ス セ ン タ ー	民 間 の 支 援 団 体	庭 支 援 セ ン タ ー	児 童 相 談 所・子 ど も 家	文 京 区 の 女 性 相 談	そ の 他	相 談 し な か つ た （ で き な か つ た ）	特 に 悩 み や 困 り ご と は な か つ た	無 回 答
全 体	886 100.0	264 29.8	228 25.7	162 18.3	148 16.7	71 8.0	26 2.9	20 2.3	15 1.7	13 1.5	10 1.1	8 0.9	6 0.7	3 0.3	8 0.9	112 12.6	253 28.6	12 1.4	
女性単身 世帯合計	222 100.0	100 45.0	21 9.5	45 20.3	50 22.5	19 8.6	5 2.3	6 2.7	4 1.8	3 1.4	2 0.9	1 0.5	1 0.5	— —	2 0.9	30 13.5	55 24.8	1 0.5	
10・20代	32 100.0	24 75.0	5 15.6	19 59.4	9 28.1	1 3.1	— —	— —	2 6.3	— —	1 3.1	— —	— —	— —	— —	2 6.3	5 15.6	— —	
30代	25 100.0	13 52.0	5 20.0	7 28.0	5 20.0	1 4.0	— —	— —	1 4.0	1 4.0	— —	— —	— —	— —	— —	5 20.0	6 24.0	— —	
40代	34 100.0	17 50.0	5 14.7	10 29.4	6 17.6	5 14.7	— —	1 2.9	— —	— —	— —	1 2.9	— —	— —	— —	6 17.6	3 8.8	— —	
50代	45 100.0	23 51.1	4 8.9	9 20.0	11 24.4	5 11.1	1 2.2	1 2.2	1 2.2	1 2.2	— —	— —	— —	— —	1 2.2	8 17.8	7 15.6	— —	
60代	34 100.0	12 35.3	1 2.9	— —	5 14.7	3 8.8	2 5.9	1 2.9	— —	— —	— —	— —	1 2.9	— —	1 2.9	3 8.8	13 38.2	— —	
70歳以上	50 100.0	10 20.0	1 2.0	— —	14 28.0	4 8.0	2 4.0	3 6.0	— —	1 2.0	1 2.0	— —	— —	— —	— —	6 12.0	20 40.0	1 2.0	

【参考】

表 XIV-6 悩みや困りごとの相談先（母子世帯）

全 体	友人・知 人	配偶者・パ ートナー等	親	き ょう だ い・ 親 族	病 院・ カ ウ ン セ ラー	法 律 相 談	行 政 機 関 の 相 談 窓 口	S N S 等 の つ な が り	警 察	保 健 サ ー ビ ス セ ン タ ー	民 間 の 支 援 団 体	庭 支 援 セ ン タ ー	児 童 相 談 所・子 ど も 家	文 京 区 の 女 性 相 談	そ の 他	相 談 し な か つ た （ で き な か つ た ）	特 に 悩 み や 困 り ご と は な か つ た
12 100.0	5 41.7	-	4 33.3	2 16.7	-	1 8.3	-	-	-	1 8.3	-	1 8.3	-	-	2 16.7	1 8.3	1 8.3

問 36－ 1 相談しなかった理由

【問 36 で「15. 相談しなかった(できなかった)」に「○」をした方にお聞きます。】

相談しなかった(できなかった)のはなぜですか。【○はいくつでも】

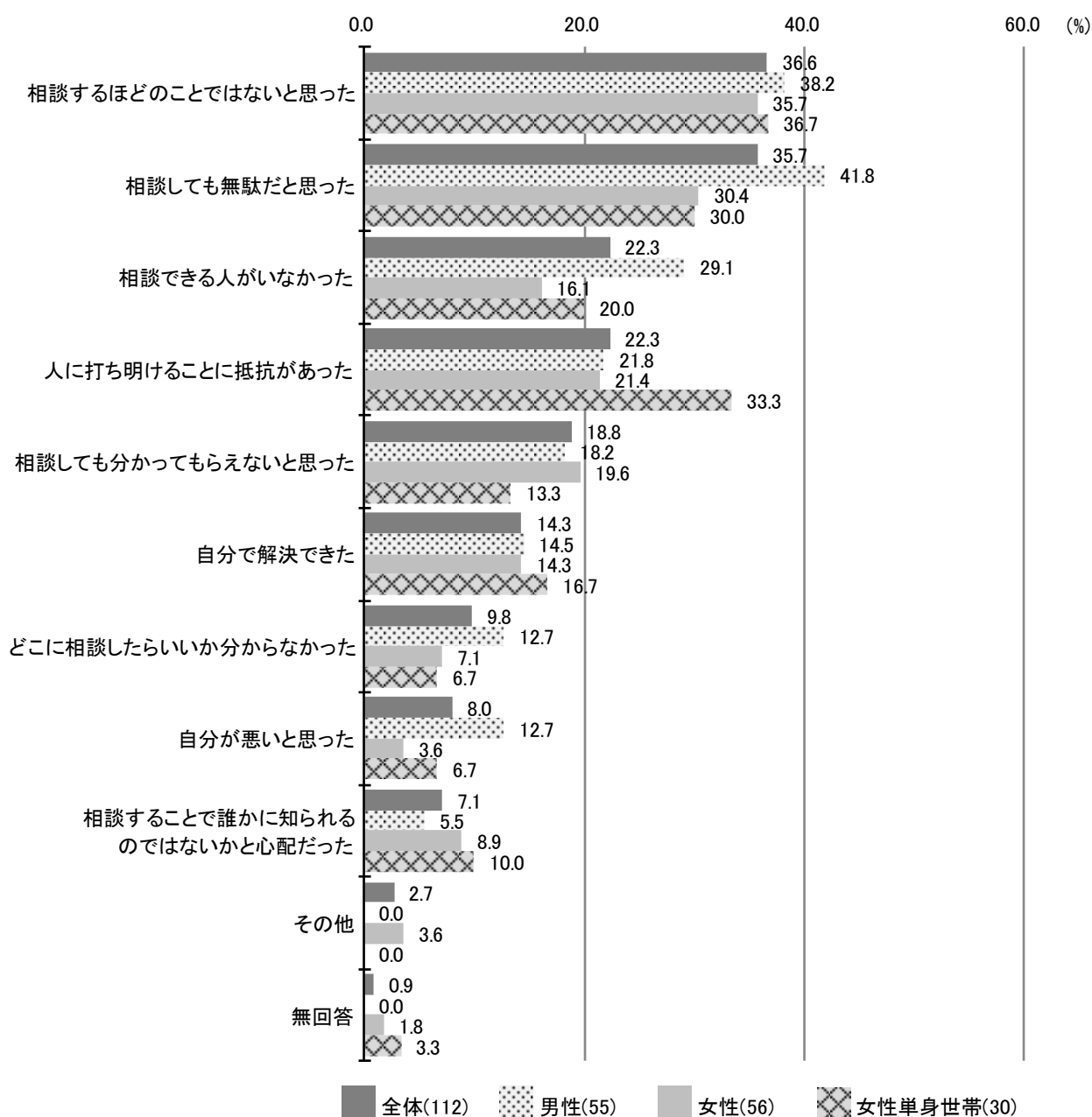
○ 全体・性別の傾向

「相談するほどのことではないと思った」(36.6%)又は「相談しても無駄だと思った」(35.7%)が多くなっている。その他、「相談できる人がいなかった」(22.3%)、「人に打ち明けることに抵抗があった」(22.3%)、「相談しても分かってもらえないと思った」(18.8%)が2割となっている。

性別で見ると、「相談しても無駄だと思った」と「相談できる人がいなかった」は男性の方が女性より 10 ポイント以上高くなっている。

なお、女性単身世帯では、「人に打ち明けることに抵抗があった」が33.3%と多くっており、女性全体より 10 ポイント以上高い。

図 XIV－ 3 相談しなかった(できなかった)理由(性別)



○ 年齢別の傾向

どの年齢でも、「相談するほどのことではない」「相談しても無駄だと思った」「相談できる人がいなかった」「人に打ち明けることに抵抗があった」がそれぞれ20%～40%程度となっている。

10代、50代では、「相談してもわかってもらえないと思った」が20%程度となっている。

表 XIV-7 相談しなかった（できなかった）理由（年齢別）

	全 体	で 相 談 す る ほ ど の こ と	思 相 談 し て も 無 駄 だ と	か 相 談 で き る 人 が い な	に 人 に 打 ち 明 け る こ と	も 相 談 し て も 分 か つ て	自 分 で 解 決 で き た	い ど こ に 相 談 し た ら い	自 分 が 悪 い と 思 っ た	い か と 心 配 だ つ た は 誰 な	に 知 ら れ る こ と で 誰 な	そ の 他	無 回 答
全 体	112 100.0	41 36.6	40 35.7	25 22.3	25 22.3	21 18.8	16 14.3	11 9.8	9 8.0	8 7.1	3 2.7	1 0.9	
10～30代	31 100.0	13 41.9	12 38.7	8 25.8	6 19.4	7 22.6	5 16.1	5 16.1	5 16.1	2 6.5	1 3.2	—	
40代	23 100.0	8 34.8	7 30.4	6 26.1	7 30.4	2 8.7	—	2 8.7	1 4.3	2 8.7	1 4.3	—	
50代	28 100.0	11 39.3	13 46.4	7 25.0	6 21.4	7 25.0	4 14.3	3 10.7	2 7.1	4 14.3	1 3.6	—	
60歳以上	30 100.0	9 30.0	8 26.7	4 13.3	6 20.0	5 16.7	7 23.3	1 3.3	1 3.3	—	—	1 3.3	

【参考】

表 XIV-8 相談しなかった（できなかった）理由（母子世帯）

全 体	で 相 談 す る ほ ど の こ と	思 相 談 し て も 無 駄 だ と	か 相 談 で き る 人 が い な	に 人 に 打 ち 明 け る こ と	も 相 談 し て も 分 か つ て	自 分 で 解 決 で き た	い ど こ に 相 談 し た ら い	自 分 が 悪 い と 思 っ た	い か と 心 配 だ つ た は 誰 な か	に 知 ら れ る こ と で 誰 な か	そ の 他
1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-

問 37 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス

今後、生活の悩みや困りごとなどがあった時に、利用したいサービスはありますか。

【3つまで○】

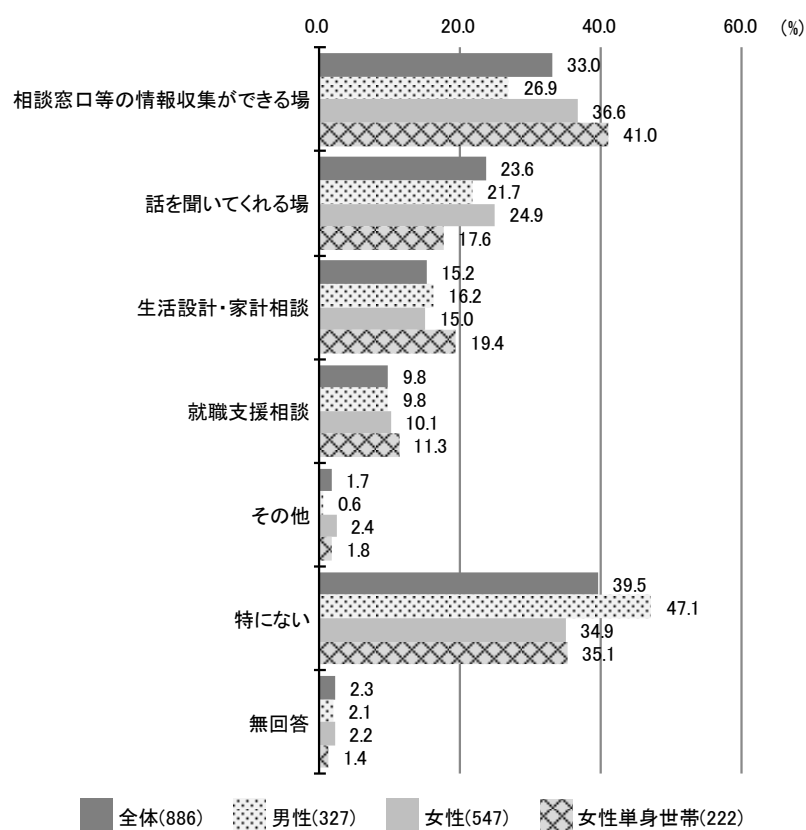
○ 全体・性別の傾向

利用したいサービスは、「相談窓口等の情報収集ができる場」33.0%、「話を聞いてくれる場」23.6%となっている。

また、「相談窓口等の情報収集ができる場」は女性で 36.6%と男性(26.9%)より約 10 ポイント高い。

「特にない」は全体で 39.5%、性別で見ると、男性では 47.1%となっており、女性(34.9%)より 10 ポイント以上高くなっている。

図 XIV-4 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「相談窓口等の情報収集ができる場」「話を聞いてくれる場」は男女共にどの年齢でも20%程度となっている。

「特にない」は、どの年齢でも割合が多くなっている。

表 XIV－9 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス（性・年齢別）

		全 体	が 相 談 窓 口 等 の 情 報 収 集 可 能 な 場	話 を 聞 い て く れ る 場	生 活 設 計 ・ 家 計 相 談	就 職 支 援 相 談	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		886 100.0	292 33.0	209 23.6	135 15.2	87 9.8	15 1.7	350 39.5	20 2.3
男 性	合 計	327 100.0	88 26.9	71 21.7	53 16.2	32 9.8	2 0.6	154 47.1	7 2.1
	10・20代	38 100.0	2 5.3	5 13.2	5 13.2	4 10.5	－ －	25 65.8	－ －
	30代	44 100.0	10 22.7	10 22.7	6 13.6	4 9.1	－ －	24 54.5	－ －
	40代	63 100.0	14 22.2	16 25.4	8 12.7	6 9.5	－ －	33 52.4	－ －
	50代	67 100.0	23 34.3	14 20.9	13 19.4	12 17.9	1 1.5	29 43.3	1 1.5
	60代	41 100.0	15 36.6	8 19.5	10 24.4	3 7.3	1 2.4	11 26.8	1 2.4
	70歳以上	72 100.0	23 31.9	17 23.6	11 15.3	3 4.2	－ －	32 44.4	4 5.6
	合 計	547 100.0	200 36.6	136 24.9	82 15.0	55 10.1	13 2.4	191 34.9	12 2.2
女 性	10・20代	53 100.0	10 18.9	8 15.1	9 17.0	3 5.7	1 1.9	29 54.7	2 3.8
	30代	79 100.0	24 30.4	24 30.4	13 16.5	7 8.9	－ －	35 44.3	1 1.3
	40代	102 100.0	32 31.4	26 25.5	14 13.7	11 10.8	3 2.9	38 37.3	1 1.0
	50代	109 100.0	47 43.1	23 21.1	20 18.3	16 14.7	3 2.8	29 26.6	1 0.9
	60代	91 100.0	43 47.3	28 30.8	14 15.4	15 16.5	5 5.5	20 22.0	1 1.1
	70歳以上	110 100.0	43 39.1	25 22.7	11 10.0	2 1.8	1 0.9	39 35.5	6 5.5

表 XIV-10 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス
(女性単身世帯、年齢別)

	全 体	集 相 談 窓 口 等 の 情 報 収 集	話 を 聞 い て く れ る 場	生 活 設 計 ・ 家 計 相 談	就 職 支 援 相 談	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	886 100.0	292 33.0	209 23.6	135 15.2	87 9.8	15 1.7	350 39.5	20 2.3
女性単身 世帯合計	222 100.0	91 41.0	39 17.6	43 19.4	25 11.3	4 1.8	78 35.1	3 1.4
10・20代	32 100.0	7 21.9	6 18.8	6 18.8	2 6.3	— —	15 46.9	1 3.1
30代	25 100.0	9 36.0	7 28.0	3 12.0	1 4.0	— —	11 44.0	— —
40代	34 100.0	13 38.2	6 17.6	8 23.5	3 8.8	— —	14 41.2	— —
50代	45 100.0	24 53.3	3 6.7	14 31.1	9 20.0	1 2.2	10 22.2	— —
60代	34 100.0	17 50.0	9 26.5	7 20.6	9 26.5	3 8.8	8 23.5	— —
70歳以上	50 100.0	21 42.0	7 14.0	5 10.0	1 2.0	— —	19 38.0	2 4.0

【参考】

表 XIV-11 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス (母子世帯)

全 体	集 相 談 窓 口 等 の 情 報 収 集	話 を 聞 い て く れ る 場	生 活 設 計 ・ 家 計 相 談	就 職 支 援 相 談	そ の 他	特 に な い
12 100.0	4 33.3	2 16.7	2 16.7	2 16.7	1 8.3	4 33.3

XV. 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて

問 38 男女平等センターの利用状況

文京区には、男女平等参画推進のための拠点施設として「文京区男女平等センター（施設愛称：エガリテ）」（所在地：文京区本郷四丁目、現在休館中、2026（令和8）年6月リニューアルオープン予定）があります。あなたは、文京区男女平等センターを利用したことがありますか。

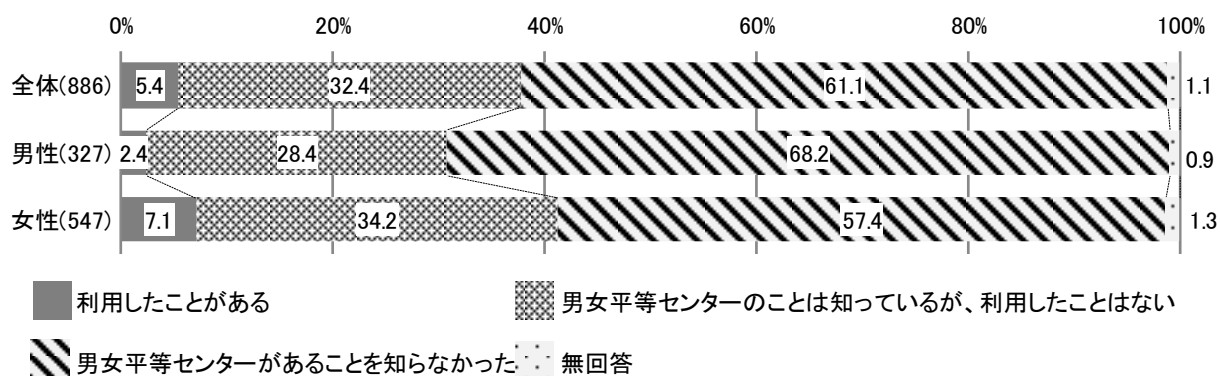
【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

男女平等センターを「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」人の合計は女性では4割（41.3%）、男性では3割（30.8%）となっている。

「利用したことがある」人は女性では7.1%であり、男性では2.4%となっている。

図 XV-1 男女平等センターの利用状況（性別）

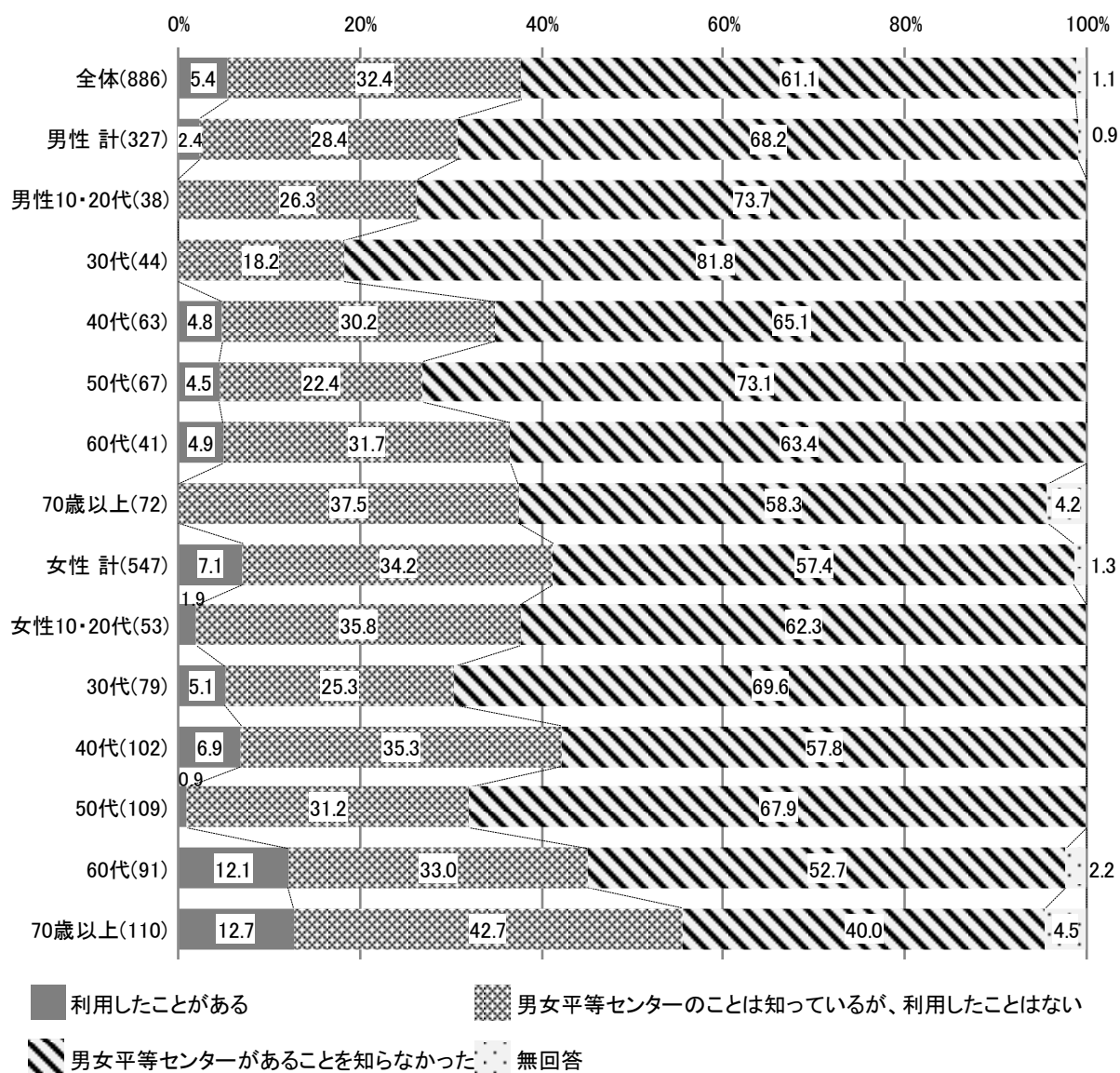


○ 性・年齢別の傾向

男女平等センターを「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」人の合計は女性の60歳以上では5割前後と高く、また、「利用したことがある」人も約1割と高くなっている。

一方、男性の40歳未満と70歳以上では利用者がいなかった。

図 XV-2 男女平等センターの利用状況（性・年齢別）



問 39 男女平等参画社会の実現のために区が力を入れるべきこと

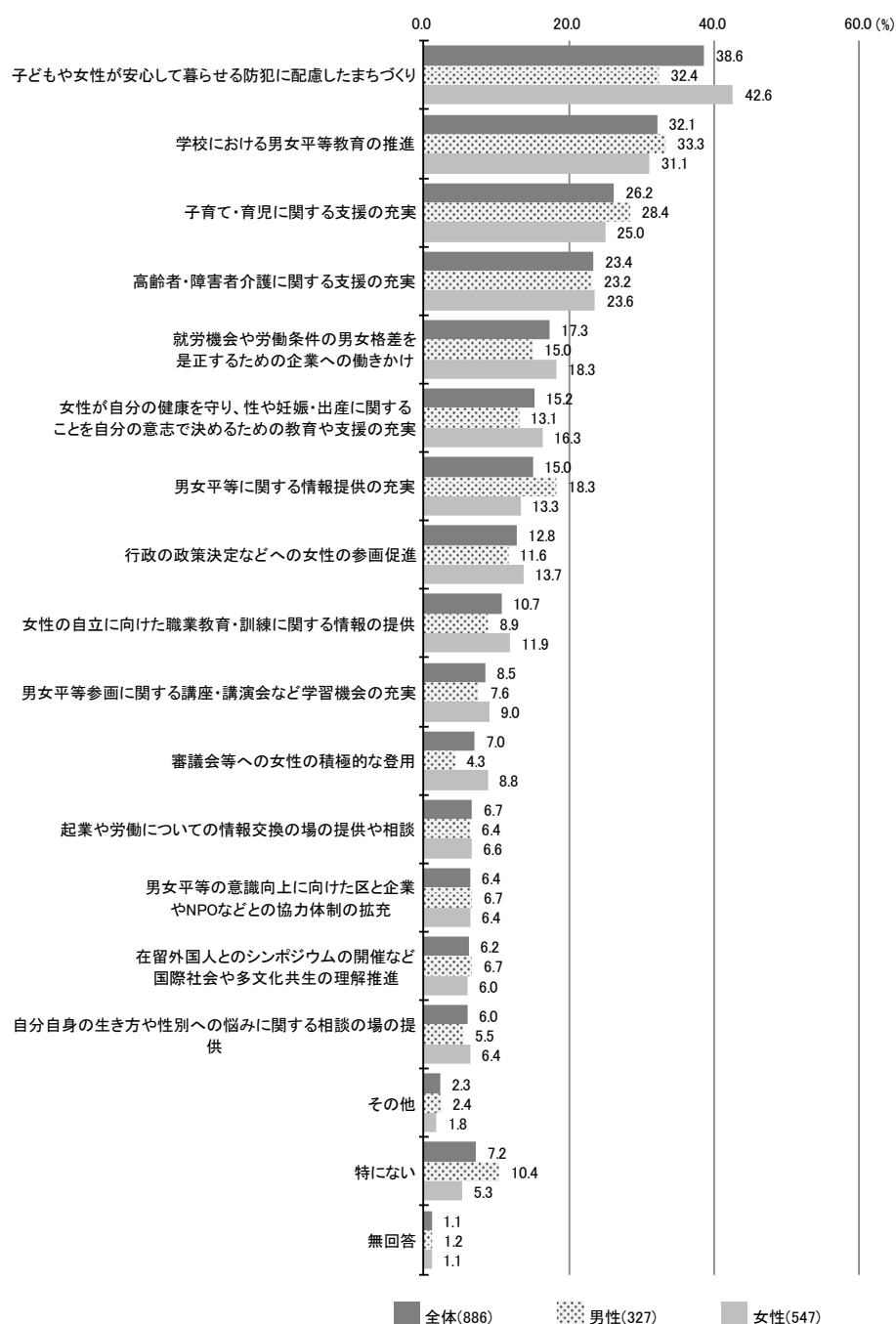
あなたは、男女平等参画社会を実現していくために、今後、文京区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」が38.6%で最も多く、次いで、「学校における男女平等教育の推進」(32.1%)、「子育て・育児に関する支援の充実」(26.2%)、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」(23.4%)となっている。

性別で見ると、「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」は女性では42.6%であり、男性(32.4%)を10.2ポイント上回っている。

図 XV-3 男女平等参画社会の実現のために区が力を入れるべきこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「子育て・育児に関する支援の充実」は、男性の30～40代と女性の50歳未満で高く、女性の10・20代では45.3%となっている。

「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」は、男女共に60歳以上で3割以上と高くなっている。

「女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関することを自分の意志で決めるための教育や支援の充実」は、女性の30代で29.1%と高くなっている。

「特にない」は、男性の30代では20.5%となっており、他の世代より10ポイント以上高くなっている。

表 XV-1 男女平等参画社会の実現のために区が力を入れるべきこと（性・年齢別）

		子どもや女性が安心して暮らせる防犯	学校における男女平等教育の推進	子育て・育児に関する支援の充実	高齢者・障害者介護に関する支援の充実	就労機会や労働条件の男女格差を是正するための企業への働きかけ	女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関することを自分の意志で決めるための教育や支援の充実	男女平等に関する情報提供の充実	行政の政策決定などへの女性の参画促進	女性の自立に向けた職業教育・訓練に関する情報の提供	男女平等参画に関する講座・講演会など学習機会の充実	審議会等への女性の積極的な登用	起業や労働についての情報交換の場の提供や相談	男女平等の意識向上に向けた区と企業やNPOなどの協力体制の拡充	推進、国際社会や多文化共生の理解	在留外国人とのシンポジウムの開催	自分自身の生き方や性別への悩みに関する相談の場の提供	その他	特にない	無回答
全 体		886 100.0	342 38.6	284 32.1	232 26.2	207 23.4	153 17.3	135 15.2	133 15.0	113 12.8	95 10.7	75 8.5	62 7.0	59 6.7	57 6.4	55 6.2	53 6.0	20 2.3	64 7.2	10 1.1
男 性	合 計	327 100.0	106 32.4	109 33.3	93 28.4	76 23.2	49 15.0	43 13.1	60 18.3	38 11.6	29 8.9	25 7.6	14 4.3	21 6.4	22 6.7	22 6.7	18 5.5	8 2.4	34 10.4	4 1.2
	10・20代	38 100.0	17 44.7	10 26.3	9 23.7	1 2.6	7 18.4	8 21.1	6 15.8	3 7.9	3 10.5	4 7.6	2 5.3	1 2.6	2 5.3	6 15.8	3 7.9	1 2.6	2 5.3	-
	30代	44 100.0	15 34.1	9 20.5	19 43.2	3 6.8	4 9.1	7 15.9	8 18.2	-	3 6.8	4 9.1	-	6 13.6	1 2.3	-	6 13.6	2 4.5	9 20.5	-
	40代	63 100.0	26 41.3	20 31.7	25 39.7	10 15.9	10 15.9	7 11.1	5 7.9	11 17.5	5 7.9	2 3.2	3 4.8	5 7.9	4 6.3	2 3.2	2 3.2	1 1.6	6 9.5	-
	50代	67 100.0	21 31.3	23 34.3	18 26.9	16 23.9	12 17.9	11 16.4	12 17.9	6 9.0	11 16.4	5 7.5	4 6.0	6 9.0	6 9.0	4 6.0	4 6.0	1 1.5	6 9.0	-
	60代	41 100.0	3 7.3	13 31.7	8 19.5	19 46.3	9 22.0	2 4.9	8 19.5	7 17.1	4 9.8	2 4.9	1 2.4	2 4.9	6 14.6	3 7.3	1 2.4	3 7.3	4 9.8	-
	70歳以上	72 100.0	22 30.6	34 47.2	13 18.1	27 37.5	7 9.7	8 11.1	20 27.8	11 15.3	3 4.2	8 11.1	4 5.6	1 1.4	3 4.2	7 9.7	2 2.8	-	7 9.7	4 5.6
	合 計	547 100.0	233 42.6	170 31.1	137 25.0	129 23.6	100 18.3	89 16.3	73 13.3	75 13.7	65 11.9	49 9.0	48 8.8	36 6.6	35 6.4	33 6.0	35 6.4	10 1.8	29 5.3	6 1.1
	10・20代	53 100.0	25 47.2	17 32.1	24 45.3	3 5.7	12 22.6	11 20.8	5 9.4	11 20.8	6 11.3	2 3.8	11 20.8	1 1.9	3 5.7	3 5.7	3 5.7	4 7.5	2 3.8	-
	30代	79 100.0	37 46.8	28 35.4	33 41.8	6 7.6	9 11.4	23 29.1	9 11.4	11 13.9	13 16.5	3 3.8	5 6.3	10 12.7	1 1.3	5 6.3	7 8.9	2 2.5	3 3.8	-
女 性	40代	102 100.0	48 47.1	36 35.3	39 38.2	10 9.8	16 15.7	17 16.7	11 10.8	6 5.9	12 11.8	7 6.9	9 8.8	8 7.8	1 1.0	7 6.9	5 4.9	1 1.0	6 5.9	-
	50代	109 100.0	39 35.8	31 28.4	17 15.6	28 25.7	21 19.3	15 13.8	15 13.8	16 14.7	14 12.8	14 12.8	7 6.4	11 10.1	11 10.1	6 5.5	10 9.2	2 1.8	9 8.3	-
	60代	91 100.0	35 38.5	30 33.0	12 13.2	32 35.2	22 24.2	7 7.7	18 19.8	14 15.4	11 12.1	7 7.7	9 9.9	6 6.6	10 11.0	6 6.6	8 8.8	1 1.1	4 4.4	1 1.1
	70歳以上	110 100.0	48 43.6	28 25.5	12 10.9	47 42.7	20 18.2	16 14.5	15 13.6	17 15.5	8 7.3	14 12.7	7 6.4	-	9 8.2	6 5.5	2 1.8	-	5 4.5	5 4.5